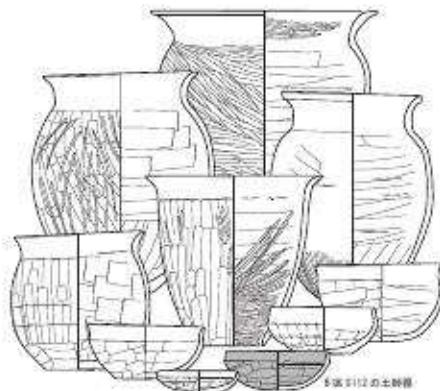


茨城県石岡市

# 中島遺跡

— 石岡地方斎場建設に伴う発掘調査 —



2011

石岡地方斎場組合  
石岡市教育委員会  
有限会社勾玉工房 Mogi



## 序

石岡市は、都心から北東へ約70km、茨城県のほぼ中央部に位置する人口約8万人の都市です。その約215平方キロメートルの市域には、392箇所もの「遺跡(埋蔵文化財包蔵地)」が存在しています。

これら埋蔵文化財は、われわれの祖先の生活を知る歴史的文化遺産であり、祖先が残した貴重な財産と言えます。しかしながら、工事や開発などにより一度破壊されてしまうと二度ともとに戻すことができないため、大切に保存しながら、後世へと伝えていく必要があります。石岡市としても、その意義や重要性を踏まえ、保護保存に努めているところです。

さて、本書で報告されます「中島遺跡」は、石岡市染谷に存在する遺跡です。このたび、石岡地方斎場の移転事業に伴い、はじめての本格的な発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代や古墳時代、奈良の竪穴住居跡や中世の堀跡などが発見され、多くの成果をあげることができました。

このような成果をまとめることができましたのも、調査にあたりご理解とご協力をいただいた皆様方や、ご指導・ご助言をいただきました皆様方のおかげであり、心から感謝申し上げます。

石岡市としても、今回の成果をもとに、より一層の文化財の保護・保存・活用に取り組んでいく所存でありますので、引き続いてのご指導・ご協力をお願い申し上げます。

本書が学術的な研究資料としてはもとより、石岡市の歴史に関する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として、広くご活用いただければ幸いです。

平成23年10月

石岡市教育委員会

教育長 石橋 凱

## 例　言

1. 本書は石岡市に所在する中島遺跡の発掘報告書である。
2. 調査は石岡地方斎場建設に伴い、石岡地方斎場組合の委託のもと、有限会社 勾玉工房 Mogi が行った。
3. 調査内容および調査組織は下記のとおりである。

所在地　茨城県石岡市染谷字中島 1749 番地

調査面積　約 6,260 m<sup>2</sup>

調査期間　発掘調査　平成 22 年 12 月 1 日～平成 23 年 4 月 11 日

整理調査　平成 23 年 5 月 6 日～平成 23 年 10 月 31 日

### 事務局・調査指導

石岡市教育委員会教育長	石橋　凱
教育部長	高野喜市郎
次長	上曾宗則
生涯学習課長	真家　忠
生涯学習課長補佐	吉川　隆
生涯学習課係長	安藤敏孝
生涯学習課係長	箕輪健一
生涯学習課主任	小杉山大輔
生涯学習課主幹	曾根俊雄

調査担当者　発掘　長谷川秀久・石山 啓（有限会社 勾玉工房 Mogi）

整理　大賀 健の指導のもと、石山・鈴木 徹（有限会社 勾玉工房 Mogi）

### 調査参加者

根本 滋 小林卓生 郡司 勇 米山秀昭 長谷川和男 海老原あさ子 一瀬英子 本田仁子  
中島かつ 丸山麻由美 今泉ふく 田中正治 塚本祐司 鈴木忠雄 小島裕一 七谷エキエ  
高野美智子 小玉明子 城戸佳七子 滝田一徳 鈴木利勝 森永典昭 柿崎 昇 沼田久男  
小島廣史 岡田 眞 箕輪 隆 小角みやこ 斎藤京子 大木幸子 宮本富夫 持田 清  
大野幸枝 吉田正子 藤田美代子 西出晶子 千葉静枝 小野 豊 露久保三郎 野村正子  
小堤静江 佐久間憲子 高柳悦子 榎戸洋子 金塚 嘘

4. 本書は曾根・大賀・長谷川・石山・鈴木が分担執筆した。編集は曾根の助言のもと、石山・鈴木・森優里絵が行った。
5. 執筆分担は下記の通り。  
第 1 章第 1 節 曾根、第 3 章第 1 節・第 5 章の一部 長谷川、第 6 章第 1 節 大賀、同第 2 節 鈴木、上記以外 石山
6. 遺構の写真撮影は長谷川・石山が、遺物の写真撮影は大越直樹が行った。
7. 遺物の基礎整理は須賀澤一憲・篠原美代子・石津弘子・小川美由紀が、遺物実測・観察表作成は

大賀さつきが、その他整理作業は岩崎美奈子・阿天坊弥生・饗庭紀子・根本時子が、デジタル編集は森優里絵・高橋歩美・大賀文香が行った。

8. 記録類および出土遺物は石岡市教育委員会が保管している。
9. 遺跡の航空写真撮影は株スカイサーベイに依頼した。
10. 発掘から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関よりご教示・ご協力を得た。記して謝意を表します。  
(敬省略)

川崎純徳・齋藤弘道・篠原 正・林田利之・茨城県教育庁文化課・芦田測量・南カワヒロ産業

## 凡 例

1. 本書に記してある座標値は世界測地系第IX系を用いている。全体図・遺構図の方位は座標北を示す。
2. 本文中の色調表現は『新版標準土色帖』2008年度版（農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。
3. 標高は東京湾の平均海拔を示している。
4. 掲載した図面は以下の縮尺で掲載した。

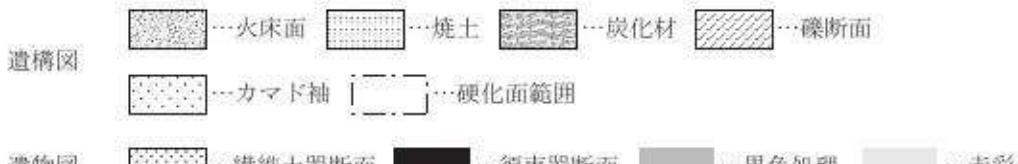
全体図 調査区全体図 1/500 A・B 区全体図 1/250

遺構図 住居跡 1/60 カマド・炉 1/30 土坑 1/40

遺物図 繩文・弥生土器 1/3 土師器・須恵器 1/4 土製品 1/3 (うち支脚・手捏 1/4, 丸玉 1/2)  
礫石器 1/3 剥片石器 1/2 鉄製品 1/2 鉄滓 1/3

なお、変則的な縮尺を用いた場合には、スケールをもってその倍率を表した。

5. 遺物写真は実測図の縮尺に合わせて掲載した。
6. 掲載図中のスクリーントーン及び記号は以下に示す通りである。



### 遺物出土状況図

○…土器 ★…土製品 □…石器・石製品 △…鉄製品 ●…未掲載遺物

7. 実測図・本文中に用いた略記号は以下を示す。
- SI: 住居跡 SD: 溝 SK: 土坑 SX: 集石遺構 P: ピット K: 扰乱
8. 遺物観察表の法量単位はcm、重量単位はgである。法量に付した( )は復元値、( )は残存値を示す。
9. 古墳時代以降の住居跡の記述では、便宜的に主軸方向を南北として行っている。
10. 本遺跡の略称はNZM-2010とした。遺物の注記もこれに従っている。

# 本文目次

序	第2節 B区の遺構と遺物	31
例言	第1項 住居跡	31
凡例	第2項 土坑	85
目次	1 I類(炉穴)	85
第1章 調査に至る経緯と調査の経過	2 II類(陷穴)	93
第1節 調査に至る経緯	3 III類(墓壙)	101
第2節 調査の経過	4 IV類(袋状土坑)	106
第2章 遺跡の位置と環境	5 その他の土坑	110
第1節 地理的環境	第3項 ピット	119
第2節 歴史的環境	第4項 集石遺構	119
第3章 調査の方法と標準堆積土層	第5項 溝	121
第1節 調査の方法	第3節 遺構外出土遺物	123
第2節 標準堆積土層	1 A区	123
第4章 試掘調査と遺物	2 B区	127
第5章 検出された遺構と遺物	第6章 まとめ	136
第1節 A区の遺構と遺物	第1節 縄文～弥生時代・古墳時代前期の 遺構と遺物について	136
第1項 住居跡	第2節 古墳時代中期～奈良時代の 遺構と遺物について	139
第2項 土坑	第3節 中・近世の遺構について	143
1 I類(炉穴)	参考引用文献	
2 II類(陷穴)	写真図版	
3 その他の土坑		
第3項 ピット		
第4項 溝	抄録	

# 挿図目次

第1図 遺跡周辺地図(1)	3	第14図 A区SI03	15
第2図 遺跡周辺地図(2)	3	第15図 A区SI03出土遺物	15
第3図 標準堆積土層	5	第16図 A区SI04	16
第4図 トレンチ出土遺物	6	第17図 A区SI04カマド	17
第5図 トレンチ配置図	8	第18図 A区SI04出土遺物(1)	17
第6図 調査区全体図	(折図1)	第19図 A区SI04出土遺物(2)	18
第7図 A区全体図	(折図2)	第20図 A区SI05出土遺物	19
第8図 土坑分類別の平面規模散布図	9	第21図 A区SI05	20
第9図 A区SI01	11	第22図 A区SI06	21
第10図 A区SI01カマド	12	第23図 A区SI07	21
第11図 A区SI01出土遺物	12	第24図 A区土坑I類(炉穴)	23
第12図 A区SI02	14	第25図 A区土坑I類(炉穴)出土遺物	23
第13図 A区SI02出土遺物	14	第26図 A区土坑II類(陷穴)	24

第 27 図 A 区その他の土坑 (1) .....	26
第 28 図 A 区その他の土坑 (2) .....	27
第 29 図 A 区その他の土坑出土遺物 .....	27
第 30 図 A 区ピット・出土遺物 .....	29
第 31 図 A 区 SD01 .....	30
第 32 図 B 区全体図 .....	(折図 3)
第 33 図 B 区 SI01 .....	32
第 34 図 B 区 SI01 カマド .....	33
第 35 図 B 区 SI01 出土遺物 .....	33
第 36 図 B 区 SI02 .....	35
第 37 図 B 区 SI02 炉 .....	36
第 38 図 B 区 SI02 出土遺物 .....	37
第 39 図 B 区 SI03 .....	38
第 40 図 B 区 SI03 出土遺物 .....	39
第 41 図 B 区 SI04 .....	41
第 42 図 B 区 SI37 .....	42
第 43 図 B 区 SI04・37 出土遺物 (1) .....	42
第 44 図 B 区 SI04・37 出土遺物 (2) .....	43
第 45 図 B 区 SI05 .....	45
第 46 図 B 区 SI05 カマド .....	46
第 47 図 B 区 SI05 出土遺物 .....	46
第 48 図 B 区 SI06 .....	47
第 49 図 B 区 SI06 出土遺物 .....	48
第 50 図 B 区 SI07 .....	49
第 51 図 B 区 SI07 出土遺物 .....	49
第 52 図 B 区 SI08 .....	49
第 53 図 B 区 SI08 出土遺物 .....	50
第 54 図 B 区 SI09 .....	50
第 55 図 B 区 SI10 .....	51
第 56 図 B 区 SI11 .....	51
第 57 図 B 区 SI11 出土遺物 .....	52
第 58 図 B 区 SI12 .....	53
第 59 図 B 区 SI12 カマド .....	54
第 60 図 B 区 SI12 遺物出土状況 .....	55
第 61 図 B 区 SI12 出土遺物 (1) .....	55
第 62 図 B 区 SI12 出土遺物 (2) .....	56
第 63 図 B 区 SI12 出土遺物 (3) .....	57
第 64 図 B 区 SI13 .....	58
第 65 図 B 区 SI14・33 .....	59
第 66 図 B 区 SI14 カマド .....	60
第 67 図 B 区 SI14 出土遺物 (1) .....	60
第 68 図 B 区 SI14 出土遺物 (2) .....	61
第 69 図 B 区 SI15 .....	63
第 70 図 B 区 SI15 カマド .....	63
第 71 図 B 区 SI15 出土遺物 .....	64
第 72 図 B 区 SI16 .....	65
第 73 図 B 区 SI16 出土遺物 .....	65
第 74 図 B 区 SI16 カマド .....	66
第 75 図 B 区 SI17 .....	67
第 76 図 B 区 SI18・19・20 .....	68
第 77 図 B 区 SI21 .....	69
第 78 図 B 区 SI22 .....	69
第 79 図 B 区 SI22 出土遺物 .....	70
第 80 図 B 区 SI23 .....	70
第 81 図 B 区 SI23 カマド .....	71
第 82 図 B 区 SI23 出土遺物 .....	72
第 83 図 B 区 SI24 .....	73
第 84 図 B 区 SI24 炉 .....	73
第 85 図 B 区 SI24 出土遺物 .....	73
第 86 図 B 区 SI25・26 .....	74
第 87 図 B 区 SI27 .....	75
第 88 図 B 区 SI27 炉 .....	75
第 89 図 B 区 SI27 出土遺物 .....	75
第 90 図 B 区 SI28 .....	76
第 91 図 B 区 SI28 出土遺物 .....	76
第 92 図 B 区 SI29 .....	77
第 93 図 B 区 SI29 カマド .....	78
第 94 図 B 区 SI29 出土遺物 .....	78
第 95 図 B 区 SI30 .....	79
第 96 図 B 区 SI30 出土遺物 .....	80
第 97 図 B 区 SI31・32 出土遺物 .....	80
第 98 図 B 区 SI31・32 .....	81
第 99 図 B 区 SI34・35 .....	82
第 100 図 B 区 SI34・35 出土遺物 .....	82
第 101 図 B 区 SI36 .....	83
第 102 図 B 区 SI38 .....	83
第 103 図 B 区 SI38 出土遺物 .....	83
第 104 図 B 区 SI39・40 .....	84
第 105 図 B 区土坑 I 類 (炉穴) (1) .....	88
第 106 図 B 区土坑 I 類 (炉穴) (2) .....	89
第 107 図 B 区土坑 I 類 (炉穴) (3) .....	90
第 108 図 B 区土坑 I 類 (炉穴) (4) .....	91
第 109 図 B 区土坑 I 類 (炉穴) (5) .....	92
第 110 図 B 区土坑 I 類 (炉穴) 出土遺物 .....	93
第 111 図 B 区土坑 II 類 (陷穴) (1) .....	95
第 112 図 B 区土坑 II 類 (陷穴) (2) .....	96

第 113 図	B 区土坑 II 類 (陥穴) (3)	97
第 114 図	B 区土坑 II 類 (陥穴) (4)	98
第 115 図	B 区土坑 II 類 (陥穴) (5)	99
第 116 図	B 区土坑 II 類 (陥穴) 出土遺物 (1)	99
第 117 図	B 区土坑 II 類 (陥穴) 出土遺物 (2)	100
第 118 図	B 区土坑 III 類 (1)	103
第 119 図	B 区土坑 III 類 (2)	104
第 120 図	B 区土坑 III 類 (3)	105
第 121 図	B 区土坑 III 類出土遺物	105
第 122 図	B 区土坑 IV 類 (1)	108
第 123 図	B 区土坑 IV 類 (2)	109
第 124 図	B 区土坑 IV 類 (3)	110
第 125 図	B 区土坑 IV 類出土遺物	110
第 126 図	B 区その他の土坑 (1)	113
第 127 図	B 区その他の土坑 (2)	114
第 128 図	B 区その他の土坑 (3)	115
第 129 図	B 区その他の土坑出土遺物 (1)	116
第 130 図	B 区その他の土坑出土遺物 (2)	117
第 131 図	B 区 P64・65	119
第 132 図	B 区ピット出土遺物	119
第 133 図	B 区 SX01	120
第 134 図	B 区 SX01 出土遺物	120
第 135 図	B 区 SD02 出土遺物	121
第 136 図	B 区 SD02	122
第 137 図	A 区遺構外出土遺物 (1)	123
第 138 図	A 区遺構外出土遺物 (2)	124
第 139 図	B 区遺構外出土遺物 (1)	127
第 140 図	B 区遺構外出土遺物 (2)	128
第 141 図	B 区遺構外出土遺物 (3)	129
第 142 図	B 区遺構外出土遺物 (4)	130
第 143 図	縄文時代土坑 I 類 (炉穴) 分布図	136
第 144 図	縄文時代土坑 II 類 (陥穴) 分布図	137
第 145 図	縄文時代住居跡・土坑 III 類 (墓壙) 分布図	138
第 146 図	古墳時代住居跡分布図	140
第 147 図	奈良時代住居跡・土坑 IV (袋状土坑) 分布図	142
第 148 図	中・近世溝分布図	143

## 表目次

第 1 表	トレンチ出土遺物観察表	7
第 2 表	トレンチ出土石器・石製品観察表	7
第 3 表	A 区 SI01 出土遺物観察表	13
第 4 表	A 区 SI02 出土遺物観察表	14
第 5 表	A 区 SI03 出土遺物観察表	15
第 6 表	A 区 SI04 出土遺物観察表	18
第 7 表	A 区 SI05 出土遺物観察表	19
第 8 表	A 区土坑 I 類出土遺物観察表	22
第 9 表	A 区その他の土坑出土遺物観察表	28
第 10 表	A 区ピット出土遺物観察表	29
第 11 表	B 区 SI01 出土遺物観察表	34
第 12 表	B 区 SI02 出土遺物観察表 (1)	37
第 13 表	B 区 SI02 出土遺物観察表 (2)	38
第 14 表	B 区 SI03 出土遺物観察表	39
第 15 表	B 区 SI04・37 出土遺物観察表 (1)	40
第 16 表	B 区 SI04・37 出土遺物観察表 (2)	43
第 17 表	B 区 SI04・37 出土遺物観察表 (3)	44
第 18 表	B 区 SI05 出土遺物観察表	46
第 19 表	B 区 SI06 出土遺物観察表	48
第 20 表	B 区 SI07 出土遺物観察表	49
第 21 表	B 区 SI08 出土遺物観察表	50
第 22 表	B 区 SI11 出土遺物観察表 (1)	52
第 23 表	B 区 SI11 出土遺物観察表 (2)	53
第 24 表	B 区 SI12 出土遺物観察表 (1)	54
第 25 表	B 区 SI12 出土遺物観察表 (2)	57
第 26 表	B 区 SI12 出土遺物観察表 (3)	58
第 27 表	B 区 SI14 出土遺物観察表	62
第 28 表	B 区 SI15 出土遺物観察表	64
第 29 表	B 区 SI16 出土遺物観察表	66
第 30 表	B 区 SI22 出土遺物観察表	70
第 31 表	B 区 SI23 出土遺物観察表	72
第 32 表	B 区 SI24 出土遺物観察表	74
第 33 表	B 区 SI27 出土遺物観察表	76
第 34 表	B 区 SI28 出土遺物観察表	77
第 35 表	B 区 SI29 出土遺物観察表	79
第 36 表	B 区 SI30 出土遺物観察表	80
第 37 表	B 区 SI31・32 出土遺物観察表	81
第 38 表	B 区 SI34・35 出土遺物観察表	83
第 39 表	B 区 SI38 出土遺物観察表	84
第 40 表	B 区土坑 I 類 (炉穴) 出土遺物観察表	93
第 41 表	B 区土坑 II 類 (陥穴) 出土遺物観察表 (1)	100

第42表 B区土坑II類(陥穴) 出土遺物観察表(2) ..... 101	第57表 A区遺構外出土古銭観察表 ..... 126
第43表 B区土坑III類出土遺物観察表 ..... 106	第58表 A区遺構外出土石器観察表 ..... 126
第44表 B区土坑IV類出土遺物観察表 ..... 110	第59表 B区遺構外出土縄文土器観察表(1) - 131
第45表 B区その他の土坑出土遺物観察表(1) - 117	第60表 B区遺構外出土縄文土器観察表(2) - 132
第46表 B区その他の土坑出土遺物観察表(2) - 118	第61表 B区遺構外出土縄文土器観察表(3) - 133
第47表 B区その他の土坑出土遺物観察表(3) - 119	第62表 B区遺構外出土縄文土器観察表(4) - 134
第48表 B区ピット出土遺物観察表 ..... 119	第63表 B区遺構外出土弥生土器観察表(1) - 134
第49表 B区SX01出土遺物観察表(1) ..... 120	第64表 B区遺構外出土弥生土器観察表(2) - 135
第50表 B区SX01出土遺物観察表(2) ..... 121	第65表 B区遺構外出土古代遺物観察表 ..... 135
第51表 B区SD02出土遺物観察表 ..... 121	第66表 B区遺構外出土石器観察表 ..... 135
第52表 A区遺構外出土縄文土器観察表(1) ..... 124	第67表 古墳時代中期~奈良時代の 住居跡属性表 ..... 140
第53表 A区遺構外出土縄文土器観察表(2) ..... 125	第68表 A区土坑ピット一覧表 ..... 144
第54表 A区遺構外出土縄文土器観察表(3) ..... 126	第69表 B区土坑ピット一覧表(1) ..... 144
第55表 A区遺構外出土弥生土器観察表 ..... 126	第70表 B区土坑ピット一覧表(2) ..... 145
第56表 A区遺構外出土古代遺物観察表 ..... 126	第71表 B区土坑ピット一覧表(3) ..... 146

## 写真目次

遺構図版1	2 A区SI04セクション 北東から 3 A区SI04セクション 南東から 4 A区SI04カマドセクション 東から 5 A区SI04セクションカマド 南東から
遺構図版2	遺構図版7 1 A区SI04 南東から 2 A区SI04 カマド断ち割り 西から 3 A区SI04 カマド断ち割り 南東から 4 A区SI04 遺物出土状況 南東から 5 A区SI05 南から
遺構図版3	遺構図版8 1 A区SI05 遺物出土状況 南から 2 A区SI05セクション 西から 3 A区SI05セクション 南から 4 A区SI06セクション 南東から 5 A区ピット群
遺構図版4	遺構図版9 1 A区SI06 南西から 2 A区SI07 南から
遺構図版5	遺構図版10 1 A区SK03セクション 南から 2 A区SK03 西から 3 A区SK28セクション 西から 4 A区SK28 西から
遺構図版6	
1 A区SI03 南から	

5 A区 SK29 セクション 南東から

6 A区 SK29 南から

7 A区 SK41 セクション 南西から

8 A区 SK41 北西から

遺構図版11

1 A区 SK38 セクション 西から

2 A区 SK38 南東から

3 A区 SK39 セクション 南東から

4 A区 SK39 北東から

5 A区 SK04 セクション 西から

6 A区 SK04 南から

7 A区 SK05 セクション 南東から

8 A区 SK05 南東から

遺構図版12

1 A区 SK18 セクション 南から

2 A区 SK18 南から

3 A区 SK21 西から

4 A区 P14 南から

5 A区 SK22 遺物出土状況 西から

6 A区 SK22 西から

7 A区 SK32 セクション 南西から

8 A区 SK32 西から

遺構図版13

1 A区 SK42 セクション 西から

2 A区 SK42 南東から

3 A区 SD01 セクションA 東から

4 A区 SD01 セクションC 西から

遺構図版14

1 A区 SD01 西側 東から

2 A区 SD01 東側 北東から

遺構図版15

1 B区 SI01 南東から

2 B区 SI01 セクション 南西から

3 B区 SI01 セクション 南東から

4 B区 SI01 貯蔵穴 北東から

5 B区 SI01 カマド 南東から

遺構図版16

1 B区 SI02 南東から

2 B区 SI02 セクション・遺物出土状況 南西から

3 B区 SI02 2号炉 東から

4 B区 SI02 4号炉 南西から

遺構図版17

1 B区 SI03 セクション 南東から

2 B区 SI03 遺物出土状況 南西から

3 B区 SI03 南東から

4 B区 SI04 セクション 南東から

5 B区 SI04 南東から

6 B区 SI04 カマドセクション 南東から

7 B区 SI04 カマド 南東から

遺構図版18

1 B区 SI05 南東から

2 B区 SI05 セクション 北から

3 B区 SI05 貯蔵穴セクション 北東から

4 B区 SI05 カマド 南東から

遺構図版19

1 B区 SI06 南西から

2 B区 SI06 セクション 東から

3 B区 SI07 北西から

4 B区 SI07 セクション 北西から

遺構図版20

1 B区 SI08 北西から

2 B区 SI09 南東から

3 B区 SI09・10 セクション 北西から

遺構図版21

1 B区 SI10 南西から

2 B区 SI11 南東から

遺構図版22

1 B区 SI12 セクション 南西から

2 B区 SI12 セクション 南東から

3 B区 SI12 遺物出土状況 南東から

4 B区 SI12 カマド 南東から

5 B区 SI12 南東から

遺構図版23

1 B区 SI13 南東から

2 B区 SI13 セクション 南東から

3 B区 SI14 セクション 南西から

4 B区 SI14・33 セクション 南東から

5 B区 SI14 カマド 南東から

遺構図版24

1 B区 SI14 遺物出土状況 南東から

2 B区 SI14・33 南東から

遺構図版25

1 B区 SI15 セクション 北西から

2 B区 SI15 セクション 南東から

3 B区 SI15 南東から

4 B区 SI15 カマド 南西から

5 B区SI16 カマド 南東から

遺構図版 26

1 B区SI16 セクション 南西から

2 B区SI16 セクション 南東から

3 B区SI16 南東から

4 B区SI16 カマド断ち割り 南東から

5 B区SI17 セクション 南東から

遺構図版 27

1 B区SI17・SK290 南東から

2 B区SI18 南西から

遺構図版 28

1 B区SI19 南東から

2 B区SI20 南西から

遺構図版 29

1 B区SI18～20 セクション 西から

2 B区SI20 セクション 南東から

3 B区SI21 南西から

4 B区SI21・22 セクション 南西から

5 B区SI22 炉 南東から

遺構図版 30

1 B区SI22 南東から

2 B区SI23 南東から

遺構図版 31

1 B区SI23 セクション 南西から

2 B区SI23 セクション 南東から

3 B区SI23 カマドセクション 南西から

4 B区SI23 カマドセクション 南東から

5 B区SI23 貯蔵穴 南東から

6 B区SI23 土製丸玉出土状況 南から

7 B区SI24～26 セクション 南西から

8 B区SI24 炉 南西から

遺構図版 32

1 B区SI24 南西から

2 B区SI25 南西から

遺構図版 33

1 B区SI26 南西から

2 B区SI26 セクション 北西から

3 B区SI26 セクション 南から

4 B区SI27 セクション 南から

5 B区SI28 セクション 南東から

遺構図版 34

1 B区SI27 南東から

2 B区SI28 南西から

遺構図版 35

1 B区SI29 南東から

2 B区SI29 セクション 南西から

3 B区SI29 セクション 南から

4 B区SI29 カマド 南東から

遺構図版 36

1 B区SI30 南東から

2 B区SI30 セクション 南東から

3 B区SI31・32 セクション 南東から

遺構図版 37

1 B区SI31 南東から

2 B区SI32 南東から

遺構図版 38

1 B区SI34 南東から

2 B区SI35 南東から

遺構図版 39

1 B区SI34・35 セクション 南東から

2 B区SI36 南東から

3 B区SI36 セクション 南東から

4 B区SI37 セクション 南西から

遺構図版 40

1 B区SI37 南から

2 B区SI38 北東から

3 B区SI38 セクション 南西から

4 B区SI39 南西から

5 B区SI40 南西から

遺構図版 41

1 B区SK02 セクション 西から

2 B区SK02 北から

3 B区SK09 セクション 西から

4 B区SK09 南西から

5 B区SK15 セクション 南西から

6 B区SK15 南東から

7 B区SK24 南東から

8 B区SK153 南西から

遺構図版 42

1 B区SK79 セクション 南東から

2 B区SK79 北東から

3 B区SK155 セクション 東から

4 B区SK155 西から

5 B区SK160 北から

6 B区SK160 南西から

7 B区SK171 南西から

- 8 B区 SK175 南から  
遺構図版 43
- 1 B区 SK221 セクション 北東から
  - 2 B区 SK221 南東から
  - 3 B区 SK222 セクション 南西から
  - 4 B区 SK222 南東から
  - 5 B区 SK223 セクション 南西から
  - 6 B区 SK223 南東から
  - 7 B区 SK234 セクション 北西から
  - 8 B区 SK234 南西から

- 遺構図版 44
- 1 B区 SK237 セクション 北西から
  - 2 B区 SK237 北西から
  - 3 B区 SK238 セクション 南西から
  - 4 B区 SK238 南東から
  - 5 B区 SK239 セクション 南から
  - 6 B区 SK239 南から
  - 7 B区 SK240 セクション 西から
  - 8 B区 SK240 南から

- 遺構図版 45
- 1 B区 SK253 セクション 南東から
  - 2 B区 SK253 西から
  - 3 B区 SK256 南東から
  - 4 B区 SK251 セクション 南東から
  - 5 B区 SK62 セクション 南東から
  - 6 B区 SK62 南西から
  - 7 B区 SK77 南西から
  - 8 B区 SK98 セクション 北西から

- 遺構図版 46
- 1 B区 SK135 セクション 南西から
  - 2 B区 SK135 南東から
  - 3 B区 SK149 セクション 北東から
  - 4 B区 SK149 南西から
  - 5 B区 SK194 セクション 北東から
  - 6 B区 SK194 南から
  - 7 B区 SK219 セクション 北西から
  - 8 B区 SK219 南西から

- 遺構図版 47
- 1 B区 SK230 セクション 南東から
  - 2 B区 SK230 南東から
  - 3 B区 SK252 セクション 南東から
  - 4 B区 SK252 南から
  - 5 B区 SK05 セクション 南西から

- 6 B区 SK05 南東から
- 7 B区 SK68 セクション 南西から
- 8 B区 SK68 南西から

- 遺構図版 48
- 1 B区 SK66 セクション 南西から
  - 2 B区 SK66 遺物出土状況 南東から
  - 3 B区 SK66 石匙出土状態 南から
  - 4 B区 SK86 セクション 南東から
  - 5 B区 SK99 セクション 南西から
  - 6 B区 SK99 南から
  - 7 B区 SK100 セクション 南西から
  - 8 B区 SK100 南から

- 遺構図版 49
- 1 B区 SK101 セクション 西から
  - 2 B区 SK101 南から
  - 3 B区 SK118 セクション 南西から
  - 4 B区 SK118 西から
  - 5 B区 SK241 南東から
  - 6 B区 SK290 セクション 南西から
  - 7 B区 SK267 セクション 南西から
  - 8 B区 SK267 南から

- 遺構図版 50
- 1 B区 SK287 セクション 南東から
  - 2 B区 SK287 遺物出土状況 北から
  - 3 B区 SK291 セクション 南西から
  - 4 B区 SK291 南から
  - 5 B区 SK63 セクション 北西から
  - 6 B区 SK63 南東から
  - 7 B区 SK90 セクション 西から
  - 8 B区 SK90 南から

- 遺構図版 51
- 1 B区 SK91 セクション 西から
  - 2 B区 SK91 南から
  - 3 B区 SK104 セクション 南東から
  - 4 B区 SK104 南東から
  - 5 B区 SK108 セクション 南東から
  - 6 B区 SK108 南東から
  - 7 B区 SK143 セクション 南東から
  - 8 B区 SK143 南から

- 遺構図版 52
- 1 B区 SK157 セクション 南西から
  - 2 B区 SK157 南東から
  - 3 B区 SK165 セクション 南西から

- 4 B 区 SK165 南西から  
 5 B 区 SK174 セクション 南西から  
 6 B 区 SK174 南東から  
 7 B 区 SK280 北東から  
 8 B 区 SK281 南西から

遺構図版 53

- 1 B 区 SK06 セクション 北から  
 2 B 区 SK06 南東から  
 3 B 区 SK39 セクション 北西から  
 4 B 区 SK39 西から  
 5 B 区 SK59 セクション 南西から  
 6 B 区 SK59 南東から  
 7 B 区 SK65 南西から  
 8 B 区 SK65 南から

遺構図版 54

- 1 B 区 SK88 セクション 北東から  
 2 B 区 SK96 セクション 南西から  
 3 B 区 SK97 セクション 南西から  
 4 B 区 SK97 南東から  
 5 B 区 SK110 南東から  
 6 B 区 SK117 南から  
 7 B 区 SK146 南西から  
 8 B 区 SK208 西から

遺構図版 55

- 1 B 区 SK167 セクション 東から  
 2 B 区 SK167 南から  
 3 B 区 SK203 セクション 北西から  
 4 B 区 SK203 南西から  
 5 B 区 SK217 セクション 南西から  
 6 B 区 SK217 遺物出土状況 南西から  
 7 B 区 SK231 セクション 南西から  
 8 B 区 SK231 南西から

遺構図版 56

- 1 B 区 SK235 セクション 南西から  
 2 B 区 SK235 北西から  
 3 B 区 SK244 セクション 西から  
 4 B 区 SK244 南から  
 5 B 区 SK246 セクション 南から  
 6 B 区 SK246 西から  
 7 B 区 P64 西から  
 8 B 区 P65 南西から

遺構図版 57

- 1 B 区 SX01 東から

- 2 B 区 SX01 セクション 南東から

- 3 B 区 SD02 全景  
 4 B 区 SD02 セクション A  
 5 B 区 SD02 セクション B  
 6 B 区 SD02 セクション H

遺構図版 58

- 1 A 区調査前状況 南東から  
 2 B 区調査前状況 南西から  
 3 表土除去 南から  
 4 器材搬入  
 5 調査風景 南西から  
 6 調査風景 東から  
 7 空中写真撮影  
 8 器材搬出

遺物図版 1

- トレンチ出土遺物  
 SI01 出土遺物  
 遺物図版 2  
 SI01 出土遺物  
 SI02 出土遺物  
 SI03 出土遺物  
 SI04 出土遺物  
 SI05 出土遺物  
 SK04 出土遺物

- SK05 出土遺物  
 SK18 出土遺物  
 SK21 出土遺物  
 SK41 出土遺物

- 遺物図版 3  
 SK22 出土遺物  
 SK32 出土遺物  
 SK42 出土遺物

- P14 出土遺物  
 P33 出土遺物  
 SI01 出土遺物  
 SI02 出土遺物  
 遺物図版 4  
 SI03 出土遺物  
 SI04・37 出土遺物  
 SI05 出土遺物

- 遺物図版 5  
 SI06 出土遺物  
 SI07 出土遺物

SI08 出土遺物	SK96 出土遺物
SI11 出土遺物	SK110 出土遺物
SI12 出土遺物	SK117 出土遺物
遺物図版 6	SK143 出土遺物
SI12 出土遺物	SK146 出土遺物
遺物図版 7	SK167 出土遺物
SI12 出土遺物	SK203 出土遺物
SI14 出土遺物	SK208 出土遺物
遺物図版 8	SK217 出土遺物
SI14 出土遺物	SK231 出土遺物
SI15 出土遺物	SK235 出土遺物
SI16 出土遺物	SK244 出土遺物
SI22 出土遺物	SK246 出土遺物
SI23 出土遺物	SX01 出土遺物
遺物図版 9	遺物図版 12
SI23 出土遺物	P64 出土遺物
SI24 出土遺物	P65 出土遺物
SI27 出土遺物	SD02 出土遺物
SI28 出土遺物	A 区遺構外掲載遺物
SI29 出土遺物	遺物図版 13
SI30 出土遺物	B 区遺構外掲載遺物
遺物図版 10	遺物図版 14
SI31・32 出土遺物	B 区遺構外掲載遺物
SI34・35 出土遺物	遺物図版 15
SI38 出土遺物	B 区遺構外掲載遺物
SK66 出土遺物	
SK77 出土遺物	
SK98 出土遺物	
SK149 出土遺物	
SK160 出土遺物	
SK194 出土遺物	
SK219 出土遺物	
SK230 出土遺物	
SK237 出土遺物	
SK241 出土遺物	
SK252 出土遺物	
SK256 出土遺物	
SK287 出土遺物	
遺物図版 11	
SK06 出土遺物	
SK39 出土遺物	
SK59 出土遺物	
SK88 出土遺物	

## 第1章 調査に至る経緯と調査の経過

### 第1節 調査に至る経緯

平成20年2月22日、石岡地方斎場組合（以下、事業者）より斎場移転建設に伴い「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」照会文書が石岡市教育委員会に提出された。照会地には、周知の埋蔵文化財包蔵地である中島土塁が存在することから、市教育委員会は平成21年3月から6月にかけて断続的に試掘調査を実施した。その結果、竪穴住居跡7軒（縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代）や土坑43基が確認され、開発区域のほぼ全域において遺跡の存在が確認された。一方で「中島土塁」とされていたものは土塁ではなく、後世の耕作によるものと判明した。この結果を受け、「中島土塁」から「中島遺跡」への埋蔵文化財包蔵地カードの更新を茨城県教育委員会に依頼した。

その後、事業者が平成21年7月23日付で県教育委員会に「埋蔵文化財発掘の通知」を提出し、平成21年9月11日付で県教育委員会から、1. 建物建設部分及び調整池掘削部分については工事着手前に発掘調査を実施するように、2. 放流管埋設部分、駐車場および私道建設部分については工事にあたって石岡市教育委員会が立ち会うように通知があった。

これらを受け、建物建設部分および調整池掘削部分（計6,260m<sup>2</sup>）について、有限会社 勾玉工房 Mogi に委託し、発掘調査を実施することとなった。

### 第2節 調査の経過

発掘調査	整理調査
平成22年	平成23年
12月13日 重機・発掘機材の搬入を行う。	5月 6日 遺物の水洗い、注記にとりかかり、順次接合を行う。
15日 調査補助員進入路・駐車場の整備を行う。	5月13日 遺物の接合選別を行い、遺物台帳を作成する。
16日 重機によりA区の表土除去を開始する。	6月 1日 遺物実測を開始する。並行してデジタルトレースにとりかかる。
平成23年	6月 8日 教育委員会小杉山氏、勾玉工房 Mogi 編集所に来訪。報告書掲載遺物、報告書編集の確認を行う。
1月 6日 表土除去が完了したA区西側、B区南部より順次、遺構のプラン確認をし、遺構の調査を開始する。	6月21日 全体測量図の修正を開始する。
11日 住居跡よりベルトを設置し、覆土の削除を行う。	7月20日 遺構図版のデジタルトレースを開始する。並行して遺構原稿の執筆を行う。
2月 8日 A区西側の調査を終了し、教育委員会立ち会いのもと終了確認を行う。	8月26日 報告書初稿版組を行う。
24日 「そめや、生き生きクラブ」来訪。石岡市教育委員会・勾玉工房 Mogi 合同で説明会を行う。	9月15日 校正を行う。
3月12日 東日本大震災発生のため、調査を中断する。	10月31日 報告書編集を完了する。教育委員会へ報告書を納品する。
24日 調査を再開する。	
4月 6日 航空写真的撮影を行う。	
11日 A区東側・B区の調査を終了し、教育委員会立ち会いのもと終了確認を行い、了承を得る。	
機材の搬出、休憩所の撤去を行う。	
13日 重機による埋め戻し作業を行う。	

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

石岡市は茨城県のほぼ中央、霞ヶ浦の北端に位置する。市域東部は常総台地上（標高約24～26m）にあり、特にこの部分を石岡台地と呼ぶ。石岡台地の南には、石岡市と笠間市の境に位置する吾国山に源を発する恋瀬川が流れ、支流と一緒に伴う沖積低地が台地に樹枝状に入り込む。

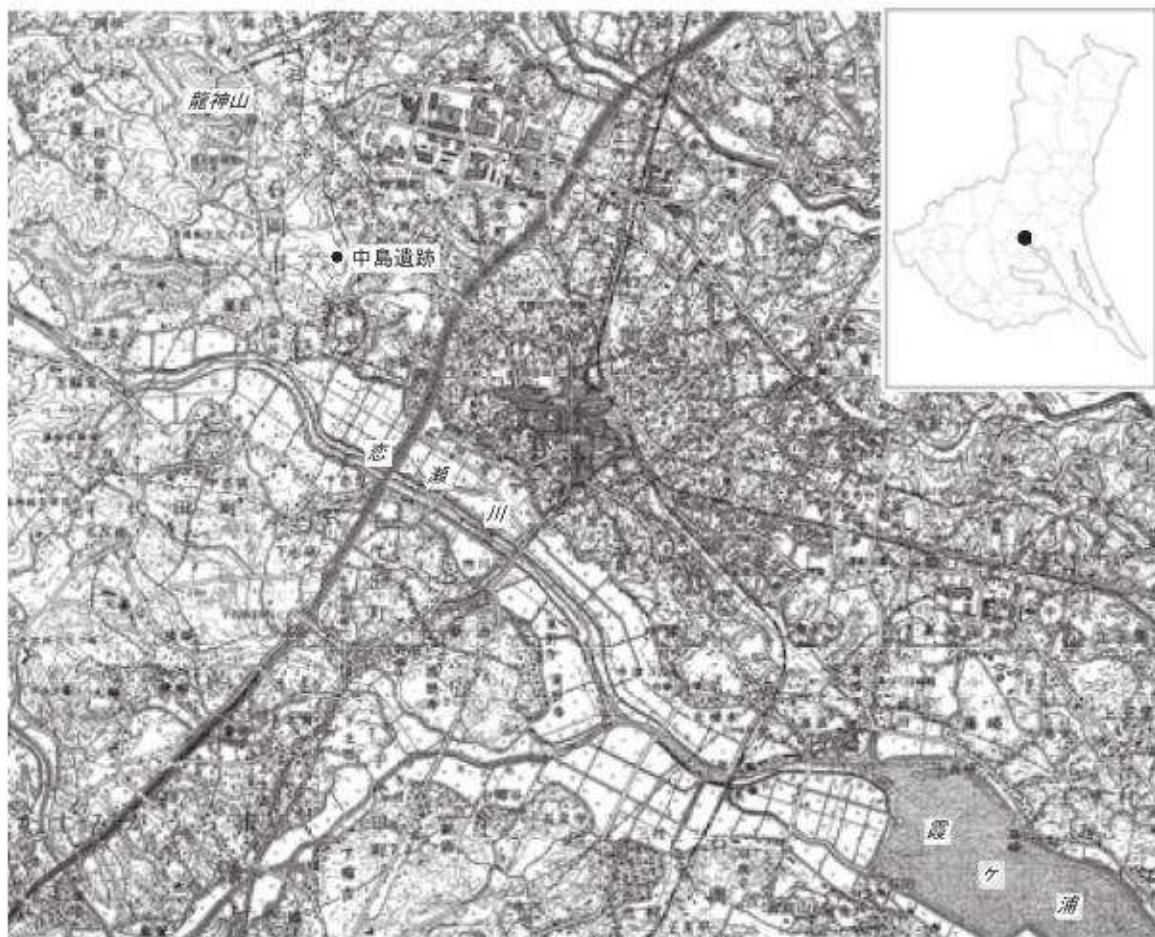
中島遺跡は石岡台地に連なる標高約24～26mの南方に張り出した舌状台地上に所在する。北西には、平坦な石岡台地を経て龍神山（標高196m）があり、調査区から北西方向に望むことができる。調査区の東方は東西を台地に挟まれた幅100mほどの谷地状の沖積低地であり、現在は水田として利用されている。低地には用水路が流れ、染谷地区を縦断し恋瀬川と合流する。本遺跡から恋瀬川へは南に約1.1kmを測る。本遺跡は石岡駅から北西へ約3.3kmの郊外にあたり、染谷地区の北部である。東へ約1kmの地点では国道355号線が南北に通る。中島遺跡は、調査以前は山林であり、近代には分割して所有され、一部は畠地などに利用されていた。

### 第2節 歴史的環境

市域には、旧石器時代から近世に至るまでの約392か所にも及ぶ遺跡が存在する。本遺跡が位置する舌状台地は東西を谷地に囲まれ、谷地を隔てた西側の台地上には41基の古墳が確認される染谷古墳群（第2図〔以下同じ〕12）、東側の台地上には奈良末期から平安時代前期の工房跡が多数検出された鹿の子遺跡（10）など広く周知された大規模な遺跡が所在する。中島遺跡（1）の近隣には、縄文時代から平安時代に至るまでの時期の遺跡が密集して存在する。本節では近接する遺跡の分布とそれらの所属する時期を述べて当該地域の歴史的環境をまとめる。

中島遺跡の近接地域の遺跡では、縄文時代早期から後期を通しての遺物が確認されるが、早期では、波付岩遺跡（4）・台新地遺跡（6）・二子塚遺跡（5）・高根遺跡（11）のみである。このうち高根遺跡は貝塚を伴い、茅山期の遺物が検出された。茅山期は霞ヶ浦が海進により染谷まで進み、当該地域は早期には漁労を生活基盤としていたことが想定される。前期では、岬遺跡・波付岩遺跡で遺物が確認され、台地のやや奥側に生活圏が広がったことが言える。中期に関しては、岬遺跡（3）・宮平遺跡（2）・波付岩遺跡で住居跡が確認されている。宮平遺跡では後期の住居跡も確認されており、中期から後期にかけての居住がうかがえる。また、後期には谷地の西側に遺跡が集中する傾向がみられる。近隣で弥生時代の遺物が検出された遺跡は岬遺跡・波付岩遺跡・台新地遺跡・並木遺跡（7）・鹿の子遺跡である。古墳・奈良・平安時代の土師器が検出される遺跡は多く、二子塚遺跡では古墳時代前期からの遺物が確認された。前述した染谷古墳群には、古墳時代末期の様式である石棺系石室を持つ方墳が存在し、当該地域は墓域が混在しながらも古墳時代を通しての居住域であったことが言える。

奈良時代末になると、官営工房が鹿の子遺跡で営まれた。それに伴い、近隣地域は古墳時代に引き続き、居住域として利用され、並木遺跡・高根遺跡・こもしり遺跡（9）では鹿の子遺跡の官営工房の時期と一致する奈良時代末から平安時代初頭の遺物が採集されている。中島遺跡から南東に約300mの地点では、白銀古墳群（13）と鹿の子遺跡が重複する。1990年（平成2年）の調査（安藤・松田1991）では、古墳周溝のほか、古墳時代前期・8世紀後半から9世紀初頭の住居跡と溝状遺構が確認された。うち5軒の住居跡は火床部を持つが、砥石は確認されておらず、精練のみが行われた工房の可能性がある。また、鹿の子遺跡北側に隣接する岩谷遺跡（8）・こもしり遺跡は鉄滓の散布地であり、鹿の子遺跡の鍛冶工房との関連が指摘される。



第1図 遺跡周辺地図(1)  
(S=1/75000・国土地理院5万分の1地形図「石岡」「玉造」「土浦」「真壁」を合成・縮小・加筆)



第2図 遺跡周辺地図(2)  
(S=1/25000・国土地理院2万5000分の1地形図「石岡」「柿岡」に加筆)

## 第3章 調査の方法と標準堆積土層

### 第1節 調査の方法

調査区は、南東方向に延びる舌状台地のほぼ中央部に位置する。調整池となる台地上南東側の 1,460 m<sup>2</sup> とその北西部に位置する建物建設部分の 4,800 m<sup>2</sup> の 2か所に分かれており、それぞれ A 区・B 区とした。

表土除去は石岡市教育委員会の行った試掘結果に基づき、遺構確認面となるソフトローム漸移層上面までバックホー (0.4 m<sup>3</sup>) とクローラーダンプ (0.4 m<sup>3</sup>) を用いて除去した。その後、人力により鍤鎌を用いて遺構検出作業を行った。確認された遺構は平板実測により遺構確認図 (1/100) を作図し、遺構番号を A・B 区とも調査順に番号を付した。遺構の種類別表記は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の記号表記に準じた。

グリッドの設定は世界測地系IX係を用いて、調査区全体に 10m 方眼となるよう杭を打設した。基準点 (A0 杭) を X=23060、Y=37230 に設定した。

A・B 区とも同一方眼となるよう西からアルファベットを、北から算用数字を付し 10m グリッドの北西角の番号を付してグリッド番号とした。調査区全体を網羅するグリッドでは、調査区北西角が A0 グリッド、南東角が M19 グリッドとなる。

遺構の精査は土層観察用ベルトを設定し、移植鍤を用いて掘り下げを行った。

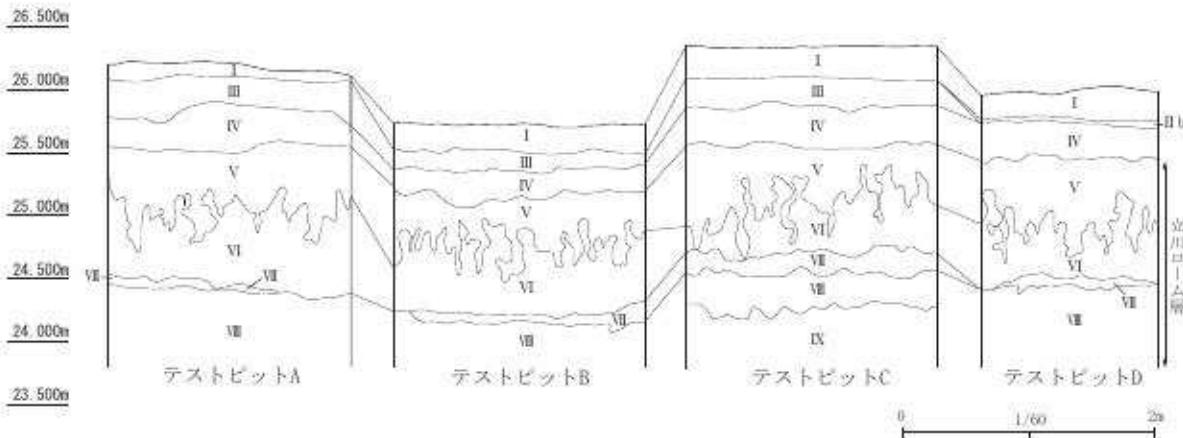
記録は遺構平面図及び全体測量図を平板実測にて作図し、状況に応じて遺り方実測にて補足した。遺物の出土状況はレベル及び平板を用い、3 次元位置の記録をした後取り上げ、遺物基本台帳に記録した。平面図及び土層断面図・エレベーション図の縮尺は 20 分の 1 を基本とし、必要に応じて 10 分の 1 で作図した。遺物出土状況図・炉跡・カマド微細図及び土層断面図の縮尺は 10 分の 1 で作図した。

写真による記録は基本写真台帳を作成し、35 mm の白黒及びカラースライド、700 万画素のデジタルカメラを用いて撮影した。全景写真及び遠景写真はラジコンヘリコプターによる航空撮影を行い、6 × 6 in. 版カラーネガ及びデジタルカメラを用いた。

出土遺物はそれぞれ遺構別に遺物収納箱に収納し、番号を付して遺物台帳を作成した。

### 第2節 標準堆積土層

第 I 層は腐葉土層である。第 II a・II b 層はしまりがある盛土であり、A 区でのみ確認された。この層の上面は硬化面であり、A 区のほぼ全域で確認された。第 III 層は黒褐色土である。A 区 SD01 の埋没後の堆積土であるので、中世以降の土層と考えられる。第 IV 層は暗褐色土のソフトローム漸移層である。第 V 層は褐色土のソフトローム層であり、上面が本調査の遺構確認面となる。第 VI 層はハードローム層である。第 VII 層は鹿沼軽石層であり、黄褐色土ブロックを極多量含む。第 VIII・IX 層はしまりの強い褐色土である。



- I 10YR 3/4 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック  $\phi$  1～5 mm多量。しまり弱い、やや粘性あり。  
 II a 10YR 3/4 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック  $\phi$  1～10 mm極多量。暗褐色土ブロック  $\phi$  3～10 mm多量。しまりあり、やや粘性あり。  
 II b 10YR 3/4 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック  $\phi$  1～3 mm多量。暗褐色土ブロック  $\phi$  3～10 mm多量。しまりあり、やや粘性あり。  
 III 10YR 2/3 黒褐色 ローム粒子・ロームブロック  $\phi$  1～3 mm多量、暗褐色土ブロック  $\phi$  3～10 mm多量。しまりあり、やや粘性あり。  
 IV 10YR 3/4 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック  $\phi$  1～5 mm多量、暗褐色土ブロック  $\phi$  5～20 mm多量。ややしまりあり、やや粘性あり。  
 V 10YR 4/6 褐色 ローム粒子・ロームブロック  $\phi$  1～20 mm多量。しまりあり、やや粘性あり。  
 VI 10YR 4/6 褐色 ローム粒子・ロームブロック  $\phi$  1～2 mm多量、黄褐色土粒子微量。しまり強い。やや粘性あり。  
 VII 10YR 4/6 褐色 黄褐色土粒子・ブロック極多量。しまり強い、やや粘性あり。  
 VIII 10YR 4/6 褐色 黄褐色土粒子微量、黒褐色土粒子・ブロック微量。しまり強い。やや粘性あり。  
 IX 10YR 4/6 褐色 灰白色粒子微量。しまり強い、やや粘性あり。

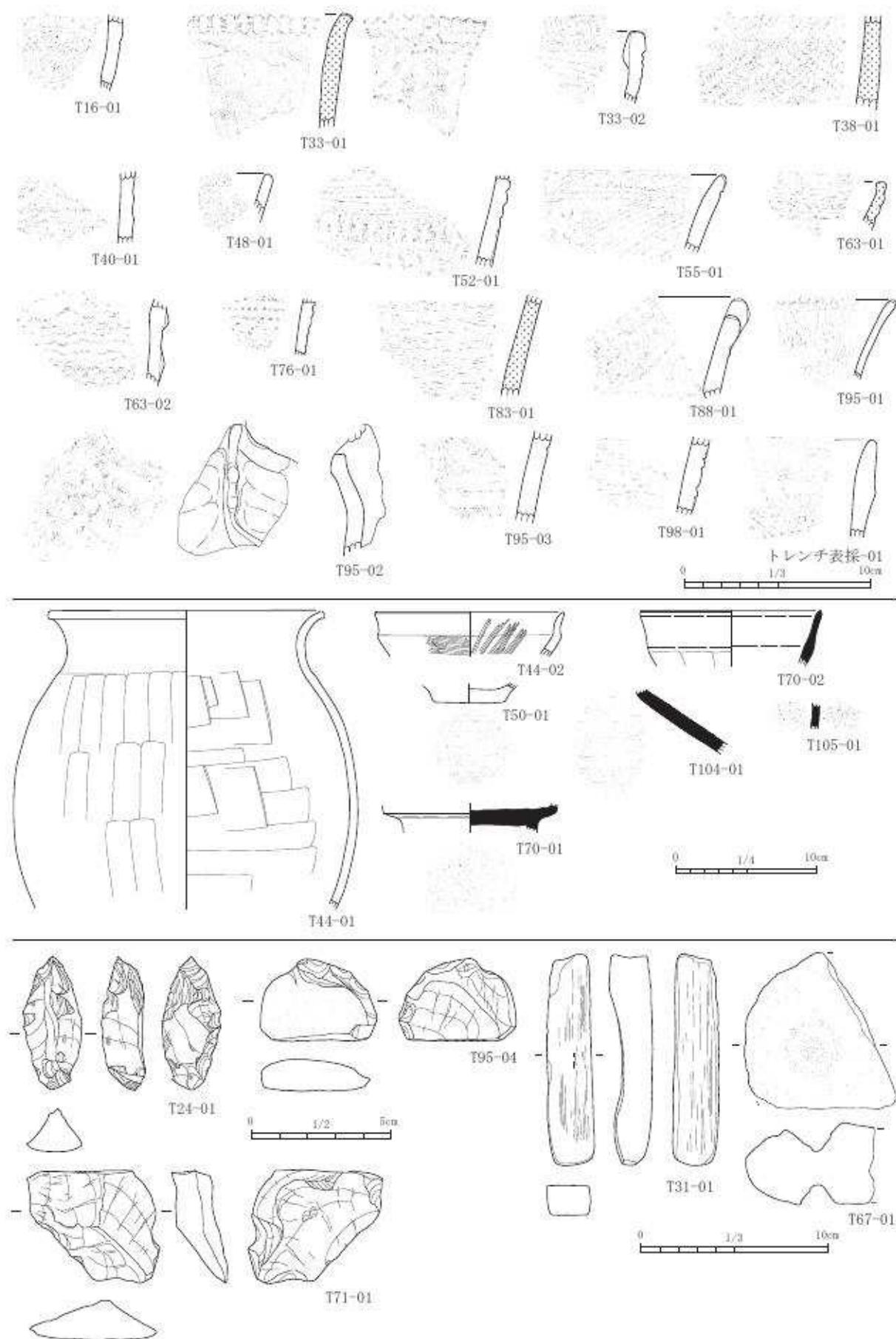
第3図 標準堆積土層

## 第4章 試掘調査と遺物

試掘調査は開発区域内にトレントを任意に105か所設定して行われた。駐車場等を含めた開発区域全体が試掘調査の対象となっている。本調査の範囲ではT53・57・58で住居跡が確認され、範囲外ではT55・102で縄文時代の住居跡、T78・81・88で奈良・平安時代の住居跡が確認された。このうちT81では住居跡に伴うカマドが確認された。本調査の範囲外については盛土により保存されている。

遺物は遺物整理箱1箱(37リットル相当)が検出され、時期は縄文時代早期から平安時代に至るまでが確認された。本報告では30点を抽出して掲載する。

縄文土器はほぼ全域で検出され、古式土師器と思われる甕底部破片が本調査のB区南西部にあたるT50で検出された。T44ではカマド構築材の砂が付着した古墳時代後期の土師器甕01と同杯02が検出され、トレントの位置からB区SI12に帰属するものと推察される。調査区外である台地の基部では、T70・104から奈良～平安時代にかけての時期の須恵器が検出された。



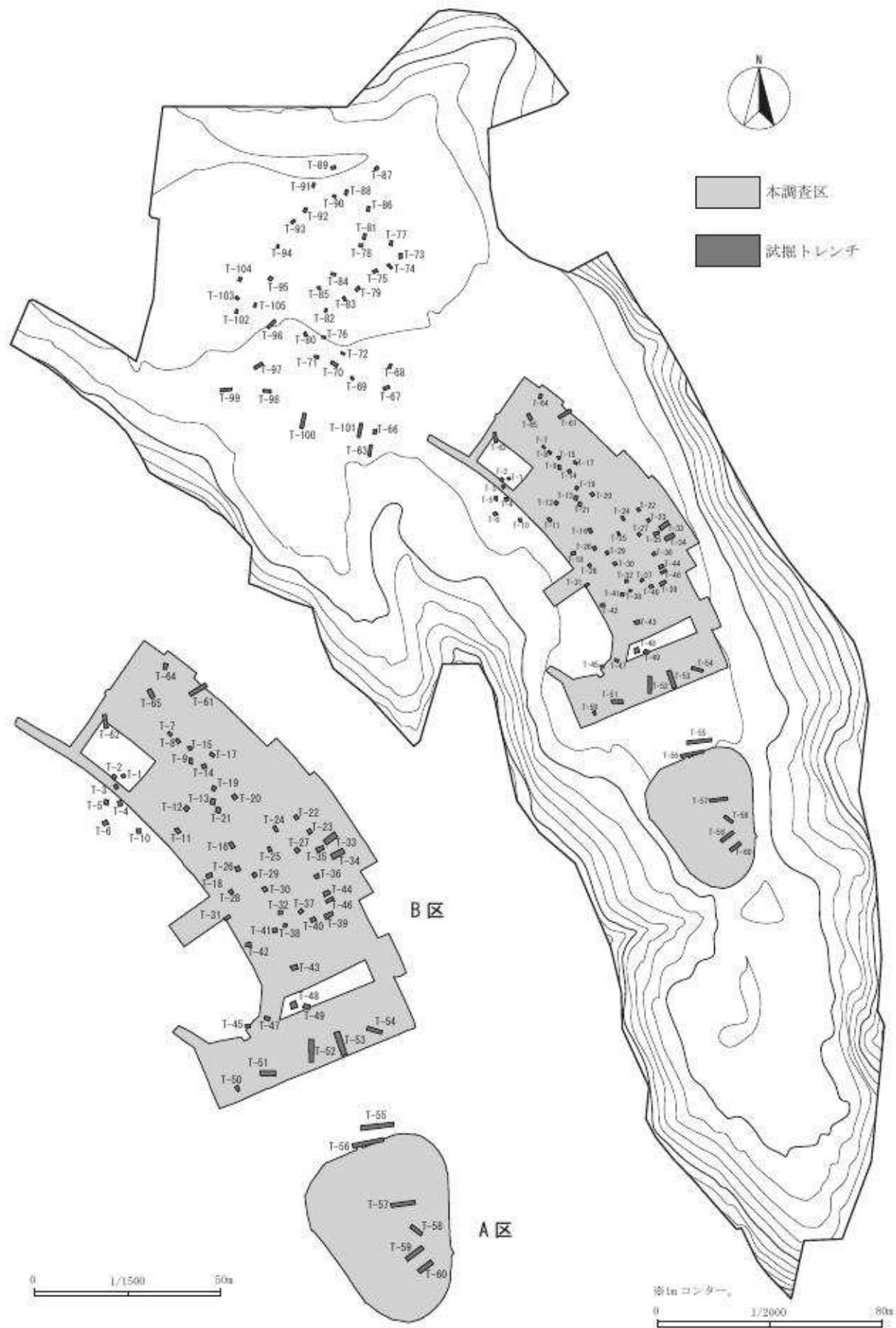
第4図 トレンチ出土遺物

第1表 トレンチ出土遺物観察表

件記	遺物番号	輪相	器種	口径	底径	高さ	裏形・実様・背形	里元	裡存	焼成	色調	動土	重量(g)	備考
T36	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	地文延・縄文、手字結繩文横走。	平小野式	輪部破片	良好	内外削 10987/3 にぶい黄橙	白色粒子少量、黒 挂微量	17.6	
T38	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	口縁部はやや外反外して崩く。口唇部に 子母白呂式	口縁部破 片	良好	内外削 10987/4 にぶい黄橙	鐵錫微量、白色粒 子・雲母や多い	49.7		
	02	陶文土器	深鉢	—	—	—	口縁部はやや平坦で、口縁部下に田の 庵文様が残る。以下は次順による西縁文 様が残される。	玉領ナ古 式	口縁部破 片	良好	内外削 10987/5 にぶい黄橙	白色粒子・雲母や 多い	18.4	
T38	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	單面鉢と田の斜掛構成。	黑淡式	輪部破片	良好	内外削 10987/3 にぶい黄橙	鐵錫多量、白色粒 子・雲母平牽多い、 又口子ア致量	61.6	
T40	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	頂による横方向の模様模様のナメ。	火炎場式	輪部破片	良好	内外削 10986/3 にぶい黄橙	白色粒子・雲母多 い	17.6	
T44	01	土師器	甕	19.4	—	(21.2)	胸筋は東倒き、口縁で「U」の字に内側 に口唇で横筋が2列折れしつまみ上げられ る。口縁は内外表面に轍ナゲ。胸部外側 はヘラケあり。内面はヘリナメ。	7.共通	口縁～胸 筋1/3	良好	内削 10987/4 にぶい黄橙	白色粒子・黑色粒 子平牽多い、雲母 少見	538.4	カマヨジ 付着、 S1K S1L2 掃除
	02	土師器	甕	19.4	—	(32.2)	底深は东底き、体部は窓から内側に横理 を有する。後口縁は外反底部に立つ。 口縁内側前部に横ナメ、体部外表面はモ ガキ。内面には弦文のミガキ。	6.世紀	口縁部破 片	良好	内削 10986/4 にぶい黄橙	白色粒子・雲母 - 白色斜状物質微量 にぶい黄橙	36.9	S1K S1L2 掃除
T48	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	口唇は内底折、外縁はヘリ斜り、内面は ナメ。	火炎場式	輪部破片	良好	内削 10987/2 皮剥 内削 10987/3 にぶい黄橙	白色粒子多 い	6.2	
T50	01	土製器	甕	—	—	(3.4)	内中円盤状に突出する。外面はモガキ。 内面はナメ。	古式土頭 器	器部	良好	内外削 10987/3 にぶい黄橙	白色粒子・雲母平 牽多い	54.9	
T52	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	胸筋は延びてアーチ底筋、口唇部には削み が施される。基部には平行沈縮による肋骨 文が残される。地文はない。	輪部式	輪部破片	良好	内削 2.5M2.6 明治期 外削 2.3M2.4 にぶい黄橙	白色粒子多 い、雲 母少見	50.9	
T56	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	口縁はやや直立底筋、口唇部には削みが 施される。基部には平行沈縮による肋骨 文が残される。地文はない。	浮島式	口縁部破 片	良好	内削 10985/3 外削 10985/2 にぶい黄橙	白色粒子多 い、黑 色粒子や多い、 雲母少見	41.3	
T63	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	口縁底に市販文がある柔変。	里丸式	輪部破片	良好	内外削 7. 口削 内削 10986/3 にぶい黄橙	鐵錫多量、白色粒 子・褐色粒子微量	9.6	
	02	陶文土器	深鉢	—	—	—	後筋に沿って有筋次筋が残される地文は 以前LR 錐文。	阿玉台四 式	輪部破片	良好	内外削 10986/3 にぶい黄橙	白色粒子・雲母多 い	27.8	
T70	02	須恵器	調理場	—	—	(2.0)	高台は直立するもの。身込は平底で体 部は直立している。口ヨリ肥脛、底部は 圓錐ナゲアリ。	深腹束 か扶杖	底部1/2	良好	内削 5M2.6 外削 5M2.7 にぶい黄橙	白色粒子・黑色粒 子・小穂や多い	132.9	
	02	須恵器	坪	(1.2.8)	—	(3.0)	直腹が2周もしくは3周の横筋模様による 連続斜突を施す。	深腹束 化粧	口縁～体 部の破片	良好	内削 5M7.2 外削 5M7.3 にぶい黄橙	暗灰色粒子・雲母 や多い	37.9	
T76	02	陶文土器	深鉢	—	—	—	集合化繩文地文とし、有筋浮線により幾 何学文様を構成。	十三子型 式	輪部破片	良好	内削 10987/3 にぶい黄橙 外削 7. 5M6/4 にぶい黄橙	白色粒子少見、雲 母微量	30.2	
T81	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	横筋状工具により、横方向の集合状線を 溝状に削る。	里丸式 植型式	輪部破片	良好	内外削 10986/4 にぶい黄橙	鐵錫混入、白色粒 子少見、雲母微量	38.7	
T88	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	波状口縁。口唇部には削みが施され、口 唇底以下には有筋文が施される。	五重脚E 式	口縁部破 片	良好	内外削 7. 5M6/4 にぶい黄橙	白色粒子多 い、雲 母少見	32.1	
T99	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	外反する口縁。口唇部には削みが施され、 基部には横筋状の具筋模様文が複数施 される。	深島目式	口縁部破 片	良好	内削 7. 5M6/4 にぶい黄 外削 10987/3 にぶい黄橙	白色粒子少見	38.1	
	02	陶文土器	深鉢	—	—	—	直筋口縁の底頂部の薄片。深筋部から腰 部が直下しして直角に傾斜する。斜筋上には 指紋による病斑が施される。	阿玉台三 式	口縁部破 片	良好	内外削 5M5/6 にぶい黄 外削 5M5/6 にぶい黄橙	白色粒子多 い、雲 母微量	38.6	
	03	陶文土器	深鉢	—	—	—	地文有筋LR 錐文。錐文の磨削済後文が 残す。	加賀野E 式	輪部破片	良好	内外削 5M6/6 にぶい黄 外削 5M6/6 にぶい黄橙	白色粒子多 い、黑色 粒子少見	38.2	
T98	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	複合の変形底形文。	浮島日式	輪部破片	良好	内削 5M1 にぶい黄 外削 10987/4 にぶい黄橙	白色粒子微量	21.3	
T104	01	須恵器	甕	—	—	—	穂かた内側する。外縁縁から平行印押、 内面凸底有。印押台使用。	新市窯B 式	輪部破片	良好	内削 5M1 にぶい黄 外削 5M1 にぶい黄	長石・石英等小穂、 雲母多い	61.1	
T105	01	須恵器	甕	—	—	—	穂かた内側する。外縁縁から平行印押、 内面凸底有。	新市窯C 式	輪部破片	良好	内削 5M1 にぶい黄 外削 5M1 にぶい黄	精足	6.3	
トレンチ 表記	01	陶文土器	深鉢	—	—	—	口縁底には幅広の氣文帶を有し、微隆 部にナメる。地文は単純な縦文。	加賀野E 式	輪部破片	良好	内削 10987/4 にぶい黄 外削 5M3/6 にぶい黄	白色粒子少見、雲 母微量	36.7	

第2表 トレンチ出土石器・石製品観察表

件記	遺物番号	輪相	器種	口径	底径	高さ	裏形・形状の特長	重車(g)	備考	
T54	01	石製品	尖頭器	4.8	2.5	1.55	輪自二枚巻を呈する。打及部分には粗粒削り残渣。スホール孔を呈するもので、右側から斜削りの後に背面が 右側縁に削り残渣を残すもので、作りは粗張。材質はチャート。		15.7	
T55	01	石製品	鍬形	11.6	2.4	2.35	直刃形。本末は優弧であったものであろうか。細く磨り減っているものの、削痕は被削痕となりっている。上 下両面に使用跡が認められるが上面は大きめに磨削してある。鍬柄石古判断され。材質は霞灰岩。		89.4	
T57	01	石製品	圓石	8.0	8.0	4.0	範形を呈するもので上面はやや圓形に削り、下 面は直角に削り直す。		100.4	
T71	01	石製品	圓片	—	—	—	基部側面を削りする斜長片。斜面側の2.5cmに打撲がありえられている。材質は墨色ガラス質安山岩。		26.2	
T95	04	石製品	半球石器	3.0	4.1	1.18	小形の円盤を分別した後側縁から打撲を加えている。打撲は忠厚で、ナタツブを起す。表面を表面全体に覆 している。二次的加工の途中で折れたために残された可能性がある。打撲の状況から側面少く石器を登場した可 能性がある。材質はガラス質無色安山岩。		18.0	



第5図 トレンチ配置図

## 第5章 検出された遺構と遺物

本調査では住居跡47軒、土坑279基、ピット119基、溝4条が確認された。本報告では住居跡は全てを掲載し、その他の遺構については抽出して掲載する。土坑については下記のとおり分類を行い、本章ではグループごとにまとめて取り上げ掲載する。また、形態に特徴を持つがグループ化されなかつたものについては個別に取り上げ掲載する。本章で取り上げなかつた遺構については規模と形態を土坑・ピット一覧表（第68～71表）に記載した。

### 土坑の分類

それぞれの土坑を観察・分析すると、類似した特徴を持つ土坑が存在し、複数のグループに分類される。グループ化した土坑の特徴・形態は以下の通りである。

#### 土坑Ⅰ類（炉穴）

火床面を持ち、火床面下のローム土は3～5cmの厚さで焼けている。梢円形ないし円形の平面形を呈する。炉穴と判断される。

#### 土坑Ⅱ類（陥穴）

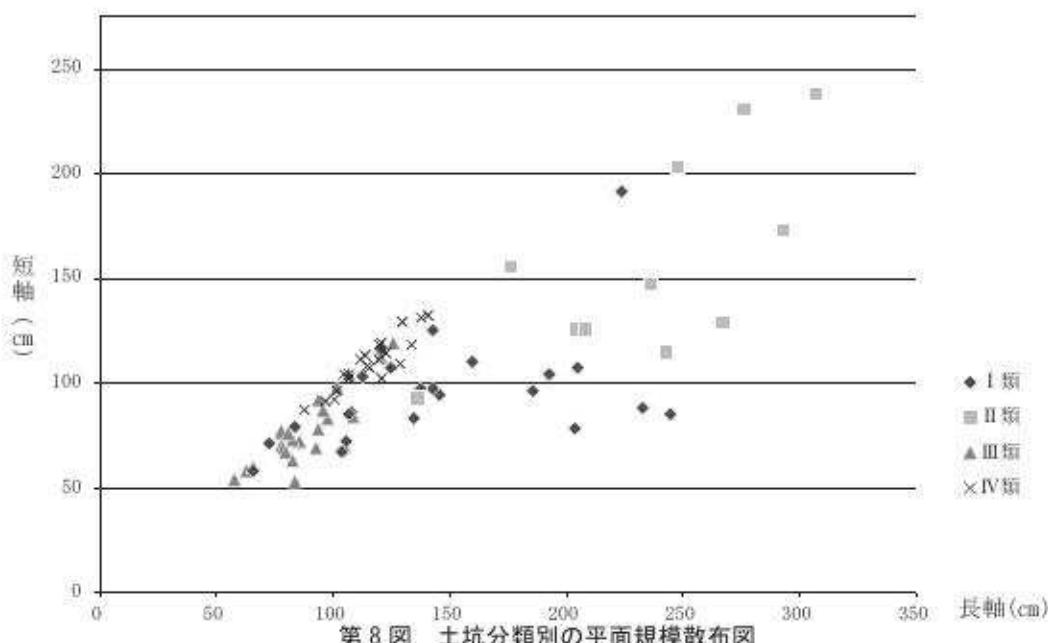
平面形が梢円形であり、逆台形の長軸断面形を持つ土坑。比較的確認面よりの掘り込みが深く、鹿沼輕石層に達する。形態から陥穴であると判断される。

#### 土坑Ⅲ類（墓壙）

平面形態が長軸60cmから100cmほどの円形ないし梢円形を呈し、覆土は人為堆積を示す。B区でのみ確認され、25基のうち残存状態の良い13基を抽出して掲載した。本グループに属する土坑には副葬品と見られる遺物を伴出するものがあり、形態的特徴から墓壙の可能性を指摘することができる。

#### 土坑Ⅳ類（袋状土坑）

平面形は円形を呈し、壁が内傾する袋状の断面形を持つ土坑。底部は皿状であり、覆土は黒褐色土を主体とする覆土に覆われる。B区でのみ確認され、28基のうち残存状態の良い11基を抽出して掲載した。



第8図 土坑分類別の平面規模散布図

## 第1節 A区の遺構と遺物

A区は開発区域南側の調査区である。南北約50m、東西約40mの規模であり、1,460 m<sup>2</sup>が調査された。本調査区では住居跡7軒、土坑34基、ピット29基、溝1条が確認された。

### 第1項 住居跡

#### S101 (第9・10・11図、第3表、遺構図版4、遺物図版1・2)

K17グリッドに位置する。主軸方向はN-36°-Wである。規模は南北長6.25m×東西5.96mであり、平面形はほぼ正方形を呈する。深さは確認面より58cmを測り、覆土は7層に分層され、自然堆積を示す。床は平坦であり、壁はほぼ垂直である。本住居跡には南北方向に幅280cmほどの範囲に擾乱が確認され、北側壁の中央から北西の隅付近までと、西側壁の中央から南西隅付近までが壊される。

付帯施設はカマド1基、貯蔵穴1基、柱穴6基、周溝、間仕切り溝等が確認された。

カマドは北側壁のほぼ中央部を22cm掘り込んで構築される。西側の袖と天井部は擾乱のため残存しない。右袖は細砂粒子を含む暗褐色土を積み重ねて構築され、床面から高さ約45cm、全長125cmが残存する。

貯蔵穴はカマドの右脇に隣接し、北側壁より南へ54cm、東側壁より西へ122cmの地点に位置する。長軸73cmの不整円形の平面形を呈し、深さは28cmを測り鍋底状の断面形である。P7は住居跡中央部より東側で確認された。南側側壁より216cm、東側壁より142cmの地点に位置し、長軸72cmの不整円形を呈する。深さは床より30cmを測り、底面は南側が高い。

柱穴は主柱穴が4基(P1～P4)と、掘方除去後に2基(P5・6)確認された。それぞれの規模はP1が最大幅35cm×深さ64cm、P2は最大幅28cm×深さ71cm、P3は最大幅37cm×深さ55cm、P4は最大幅51cm×深さ68cm、P5は最大幅43cm×深さ57cm、P6は最大幅52cm×深さ54cmである。このうちP5・P6はそれぞれP1・P2の南側に近接して検出され、覆土は暗褐色土である。

周溝はほぼ一巡して確認された。幅15cm×深さ8cmほどで、覆土はロームブロックを多く含む褐色土であり、微量ながら炭化物ブロックを含む。

間仕切り溝はP1・P2からそれぞれ東壁に走向する2条、P3から南壁・西壁に走向する2条、P4から北壁・西壁に走向する2条が確認された。

床面下には掘方(第8・9層)が存在し、しまりの強い褐色土である。P5・P6は貼り床に覆われていたため、本住居跡は拡張・建て替えが行われた可能性がある。

遺物は土師器を中心にして6884.1g出土した。掲載遺物は18点である。南東側の床面直上から下層(覆土第4層相当)に土師器甕・壺の完形～半完形品(01～13)が多量に出土し、須恵器甕の口縁部破片(18)はカマド東側の上層(第2層上部付近)で検出された。

A区 S101内 P1～4 セクション  
1-a 10YR 4/3 C ぶい黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm少量、暗褐色土ブロックφ1～3mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
1-b 10YR 4/3 C ぶい黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm少量、灰化物ブロックφ1～2mm微量、暗褐色土ブロックφ1～2mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。

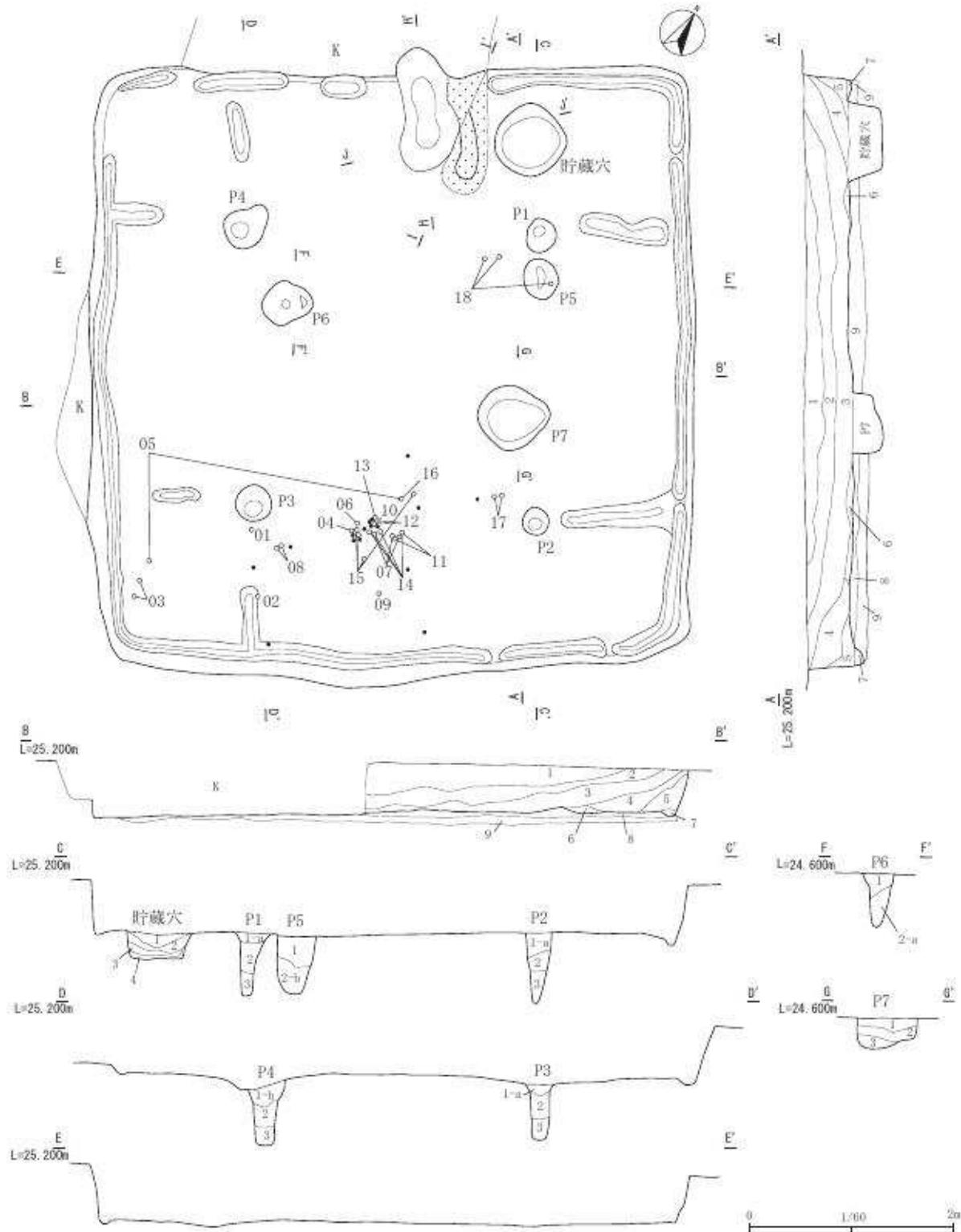
2-a 10YR 4/4 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ3～15mm少量、暗褐色土ブロックφ1～3mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
2-b 10YR 4/4 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ2～5mm少量、ややしまりあり、やや粘性あり。

A区 S101内 P6 セクション  
1-a 10YR 3/1 稼褐色 ローム粒子・ブロックφ10～15mm極多量、粗土ブロックφ1～2mm微量、灰化物ブロックφ1～2mm微量、暗褐色土ブロックφ3～5mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
2-a 10YR 3/4 稼褐色 ローム粒子・ブロックφ5～10mm多量、黒褐色土ブロックφ3～5mm極多量、しまり弱い、粘性弱い。  
2-b 10YR 3/4 稼褐色 ローム粒子・ブロックφ3～15mm中量、黒褐色土ブロックφ3～6mm極多量、しまり弱い、粘性弱い。

A区 S101内 P7 セクション  
1-a 10YR 3/1 稼褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm中量、銀褐色土ブロックφ2～5mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。

2-a 10YR 3/1 稼褐色 ローム粒子・ブロックφ1～10mm中量、暗褐色土ブロックφ3～5mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。

3-a 10YR 4/8 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm極多量、暗褐色土ブロックφ3～4mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。



## A区 SI01 セクション

1 10KR 2/2 黒褐色 ロームブロックφ1~3mm 多量。塊土ブロックφ1~3mm 稀少量、褐色土ブロッ

クφ3~5mm 中量。ややしりあり、やや粘性あり。

2 10KR 3/4 嫩褐色 ロームブロックφ1~3mm 中量、褐色土ブロックφ3~7mm 中量、褐褐色土ブロッ

クφ3~5mm 少量。ややしりあり、やや粘性あり。

3 10KR 2/3 黑褐色 ロームブロックφ2~5mm 中量、褐色土ブロックφ3~7mm 少量。褐褐色土ブロッ

クφ3~5mm 少量。ややしりあり、やや粘性あり。

4 10KR 3/4 嫩褐色 ロームブロックφ1~2mm 少量、褐色土ブロックφ3~4mm 少量、褐褐色土ブロッ

クφ3~6mm 中量。ややしりあり。やや粘性あり。

5 10KR 3/4 嫩褐色 ロームブロックφ2~5mm 中量、褐色土ブロックφ3~5mm 中量、褐褐色土ブロッ

クφ2~4mm 中量。しり弱い。粘性弱い。

6 10KR 3/4 嫩褐色 ロームブロックφ2~5mm 中量、炭化物ブロックφ1~2mm 稀少量、褐色土ブロッ

クφ2~4mm 少量。褐褐色土ブロックφ3~4mm 少量。

7 10KR 4/4 黑褐色 ロームブロックφ5~10mm 多量、炭化物ブロックφ1~2mm 稀少量。しり強い、

やや粘性あり。

## A区 SI01 内 貯藏穴 セクション

8 10KR 4/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 多量、褐褐色土ブロックφ2~4mm 中量。ややしりあり、やや粘性あり。

9 10KR 4/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ3~5mm 多量、褐褐色土ブロックφ2~5mm 中量。しり強い、

粘性あり。

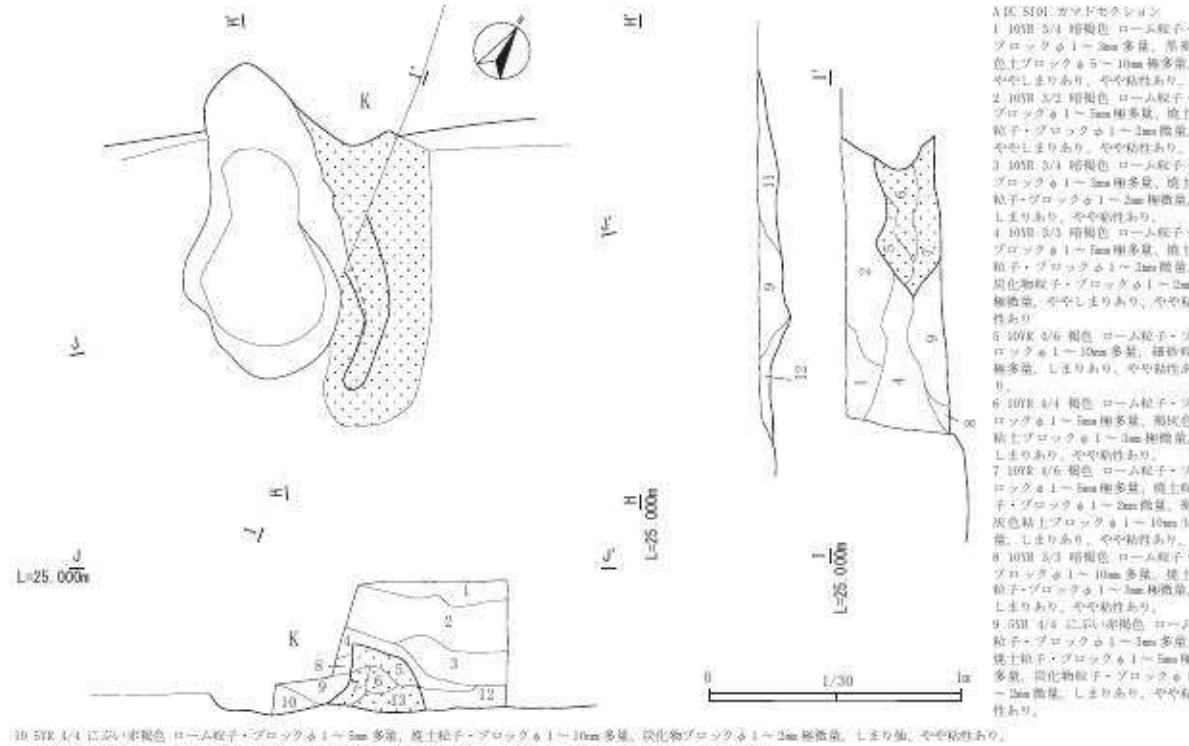
10 10KR 4/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 多量、褐褐色土ブロックφ3~5mm 中量。ややしりあり、やや粘性あり。

11 10KR 4/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 多量、褐褐色土ブロックφ3~5mm 中量。ややしりあり、やや粘性あり。

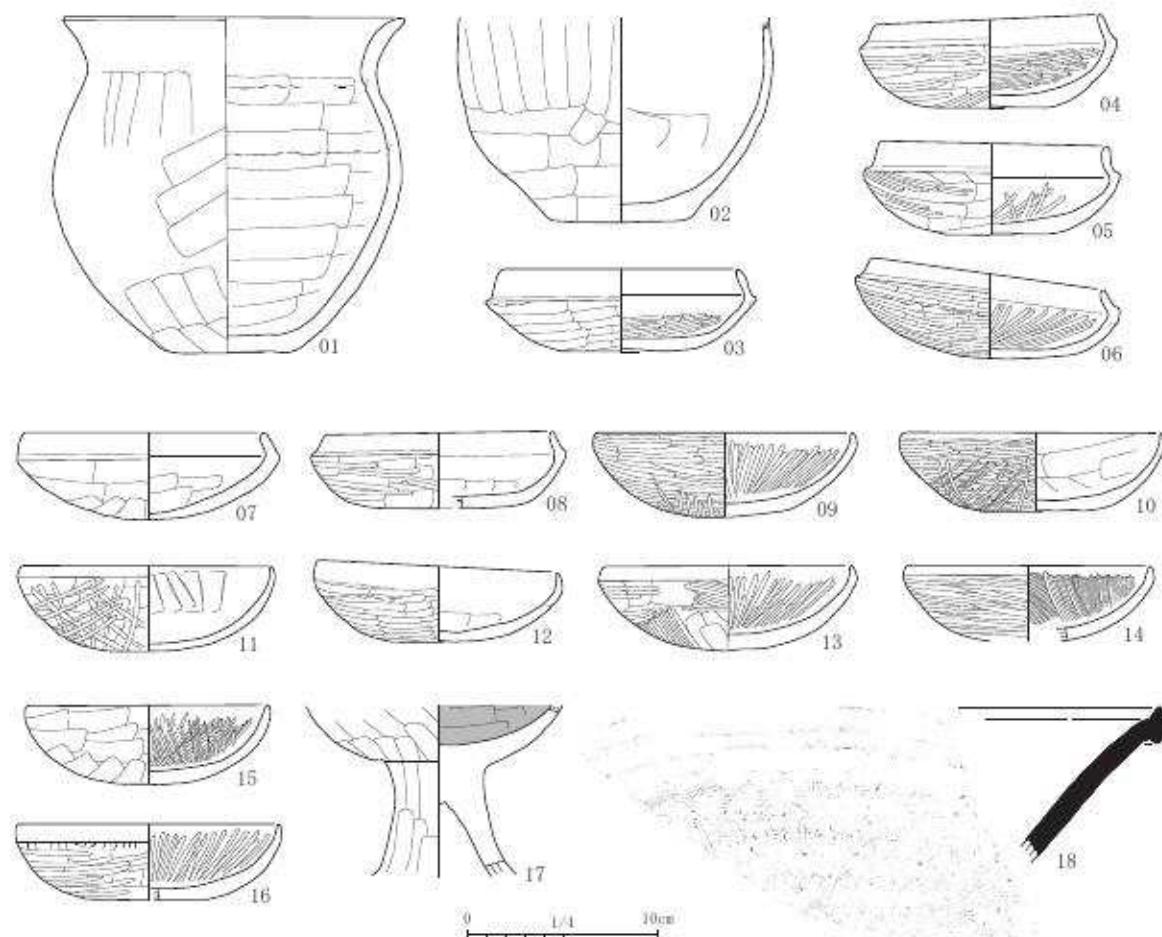
12 10KR 4/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 多量、褐褐色土ブロックφ3~5mm 中量。ややしりあり、やや粘性あり。

13 10KR 4/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 多量、褐褐色土ブロックφ3~5mm 中量。ややしりあり、やや粘性あり。

第9図 A区 SI01



第10図 A区 SI01 カマド



第11図 A区 SI01 出土遺物

第3表 A区 SI01 出土遺物観察表

遺物番号	形質	種類	埋地	口径	底径	製造	残存	特徴の要旨	軸部の特徴	構成	色調	胎土	重量(g)	備考
01 N017	土師器	甕	17.9	6.8	12.8	輪郭1/3 欠損	底部は僅かに上底無味の半透、肩部の張りは弱く最も強度を中筋に有した後口縁は底やかに「ぐ」の字に外反する。	口縁は内外両面共に横ナギ。輪郭はモガキが二回施されており上程にナギが觀察される。下端はヘラケズリ。内面はナギ。上筋にヘラナギが施されている。	良好 二次焼成 あり	内面 103H7/4にぶ い痕跡 外側 53B6/6 横	長石・石英等 小礫多い。火 コリ亞微量	957.7		
02 N039	土師器	甕	—	7.6	10.8	輪郭1/2 欠損	底部は平底で僅かに円盤状に突出している。輪郭部下端で内筋を立張痕跡的に立つ。	外筋部はヘラカケズリ後ミガキ。輪郭はヘラケズリ。内面剥落。	良好 二次焼成 あり	内外青 53H5/6明灰透 通	白色粒子・小 ~中礫やや多 い。蓋田少量	430.4		
03 N042 + N043	土師器	甕	12.4	6.0	6.35	13H2底部 欠損	直部は僅かに半底、身辺で緩やかに内凹し上辺に明顯な棱を有した後端に内縮する。	口縁は内外両面共に横ナギ。外部外筋はヘラによる粗いガキ。内面も直部にモガキが施されている。	良好	内外青 7.5H7/3黄褐	スコリアや少 多い。黑色粒 子少量	224.6		
04 N027	土師器	甕	11.9	6.2	4.7	13H2底部 欠損	直部は僅かに半底、身辺で緩やかに内凹し上辺に明顯な棱を有した後端に内縮する。	口縁は内外両面共に横ナギ。基部外筋はヘラケズリ後粗いガキ。内面は横にナギが施されている。	良好 二次焼成 あり	内面 7.5H7/3黄褐 外側 53B6/6 横	ベーリア・黑 色粒子やや多 い。白色粒子 微量	277.2		
05 N014 + N011	土師器	甕	12.1	5.8	4.8	13H2底部 欠損	底部は僅かに半底、身辺で緩やかに内凹し上辺に明顯な棱を有した後端に内縮する。	口縁は内外両面共に横ナギ。外部外筋はヘラケズリ後粗いガキ。内面はナギが施されている。	良好	内面 53H7/6 外側 53B6/6 横	スコリア・黑 色粒子・蓋母 やや多い。白 色粒子・角閃 石微量	233.9		
06 N029	土師器	甕	12.3	6.3	4.3	完形	直部は丸底。身辺で緩やかに内凹し上辺に明顯な棱を有した後端に内縮する。	口縁は内外両面共に横ナギ。外部外筋はヘラケズリ。内面はナギ。内面様式のモガキが施されている。	良好	内外青 7.5H7/3黄褐	スコリア・黑 色粒子・蓋母 やや多い。白 色粒子・角閃 石微量	228.2		
07 N010 + N016 + N045 + 下 唇	土師器	甕	12.7	6.8	4.8	13H2底部 欠損	直部は丸底。身辺で緩やかに内凹し上辺に明显的棱を有した後端に内縮する。	口縁は内外両面共に横ナギ。外部外筋はヘラケズリ。内面はナギ。	良好 二次焼成 あり	内面 53H7/6 外側 53B6/6 明灰透 通	蓋田多量。ス コリア・小礫 やや多い。	236.0		
08 N031 - 30	土師器	甕	12.0	6.0	4.9	口縁～底 部1/2	直部は僅かに半底。身辺で緩やかに内凹し上辺に明显的棱を有した後端に内縮する。	口縁は内外両面共に横ナギ。外部外筋はヘラケズリ後粗いガキ。内面は僅かにナギが施されている。	良好	内外青 7.5H6/4にぶ い横	スコリア・黑 色粒子・蓋母 やや多い。白 色粒子微量	127.6		
09 N038	土師器	甕	13.6	8.8	4.3	完形	直部は丸底。身辺で緩やかに内凹し口縁は斜く立ち。	直部外筋は横方向向いてガキ。内面は底文状のモガキ。	良好	内面 103H7/4にぶ い黄褐 外側 103H6/6明黃 褐	蓋母・白色粒 子微量	241.1		
10 N032	土師器	甕	13.0	8.5	4.15	13H2底部 欠損	直部は僅かに半底。身辺で緩やかに内凹し口縁は斜く立ち。	口縁は内外両面に斜く横ナギ。外部外筋はモガキ。内面はナギ。	良好	内面 53H7/6 にぶい水銀 外側 53B6/6 明赤	スコリア・黑 色やや多い。白 色射出物質微量	211.3		
11 N011 + N044	土師器	甕	13.2	8.8	4.8	13H2底部 欠損	直部は僅かに半底。身辺で緩やかに内凹し口縁は斜く内縮する。	口縁は内外両面共に横ナギ。外部外筋はヘラケズリ後粗いガキ。内面はヘラナギ。	良好	内外青 7.5H6/4にぶ い横	白色粒子・黑 色射出物質。ス コリア微量	203.9		
12 N030 + N12	土師器	甕	12.6	8.9	3.6	2/3	直部は僅かに半底。身辺で緩やかに内凹し口縁は内縮する。	口縁は内外両面共に斜く横ナギ。外部外筋はモガキ。内面底筋付近はナギ。	良好	内面 53H7/4 にぶい横 外側 53B6/6 明黄褐	黑色粒子・蓋母・スコリア 少量。白色粒 子微量	172.8		
13 N031	土師器	甕	13.0	8.8	4.45	1/2	直部は丸底。身辺で緩やかに内凹し口縁は斜く内縮する。	口縁は内外両面に斜く横ナギ。外部外筋はヘラケズリ後粗いガキ。内面底筋付近はナギ。	良好	内面 53H7/4 にぶい横 外側 53B6/6 明黄褐	黑色粒子・蓋母・スコリア 少量。白色粒 子微量	162.9		
14 N011 + N016 + N017 + N033 + 下 唇	土師器	甕	12.9	—	4.0	2/3	直部は丸底。身辺で緩やかに内凹し口縁は斜く立ち。	口縁は内外両面共に斜く横ナギ。外部外筋はモガキ。内面は丁寧なモガキ。	良好	内面 7.5H6/6横 外側 103H7/4にぶ い黄褐	黑色粒子・蓋母・スコリア 少量。白色粒 子微量	88.0		
15 N013 + N015 + N024 + N028 + 下 唇	土師器	甕	12.8	8.8	4.3	2/3	直部は丸底。身辺で緩やかに内凹し口縁に来る。	口縁は内外両面共に斜く横ナギ。外部外筋はヘラケズリ。内面はヘラナギ。	良好	内面 103H6/4にぶ い黄褐 外側 7.5H6/4にぶ い横	白色粒子・蓋母・スコリア 少量。	76.0		
16 N011 + 下 唇	土師器	甕	(12.8)	6.45	4.9	1/4	直部は僅かに半底。身辺で緩やかに内凹し口縁は斜く立ち。	口縁は内外両面共に斜く横ナギ。外部外筋はヘラケズリ後粗いガキ。内面は底文状のモガキ。	良好	内外青 53B6/6横	スコリアや少 多い。黑色粒 子少量。白色粒 子・蓋母微量	88.2		
17 N04 + N05	土師器	高井	—	—	6.00	口縁・底 部欠損	直部は緩やかに内凹し。脚柱はラッパ状に斜くもの形。	外筋ヘラケズリ。内面はナギ。外筋ヘラケズリ。内面はナギ。	良好 二次焼成 あり	内面 7.5H2/1黑 外側 7.5H6/3にぶ い褐	白色粒子・蓋 母やや多い。 白色	276.7	上場内高里 色處理	
18 N01 + N02 + N03	泡忠器	大甕	—	—	OK 35	口縁部缺 片	大きさ開く窓の縁部の資料。口縁は折返した縁とまみ上げられ断面山型落状となりシヤープである。	脚柱使用。外筋部充満部分には3本一単位の脚柱設置並びに4單柱端。	良好 堅脆	内面 53H7/0 オリーブ 外側 2.5H4/1黄灰	白色粒子や 多い。鍾分の 焼き出し多い	326.3	6.社紀 海邑系々	

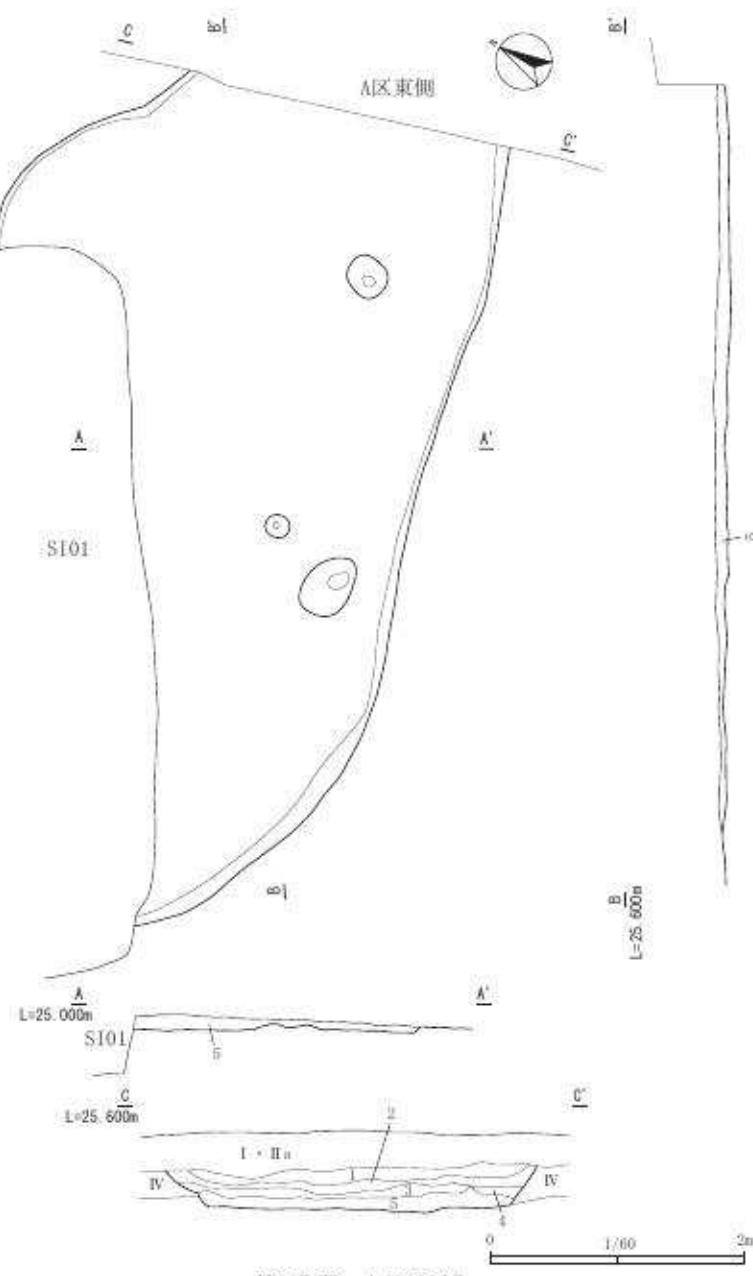
SI02 (第12・13図、第4表、

遺構図版5、遺物図版2)

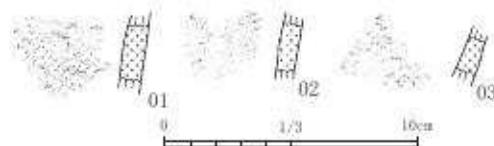
K17グリッドに位置する。SI01に北西側を切られ、残存深度も浅いため平面形は不明瞭である。残存する規模は最大径76mを測る。深さは表土直下から床まで35cmを測る。覆土は5層に分層され自然堆積を示す。最下層である第5層はしまりがあり、ロームブロックを多く含む。南側壁付近では柱穴が確認されたが、本住居跡に付帯するものであるかは不明である。

遺物は、土器447.7gと加工痕のある黒曜石剥片1点(2.6g)が出士した。掲載遺物は3点である。

- A16 SI02 セクション  
 1. 10YR 3/4 砂褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2cm多量、用機色土ブロックφ1~4cm中量、少々しまりあり、やや粘性あり。  
 2. 10YR 4/3 17.62 黄褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3cm少量、黄褐色土ブロックφ1~2cm多量、少々しまりあり、やや粘性あり。  
 3. 10YR 4/3 に赤い黄褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2cm少量、炭化物ブロックφ1~2cm極微量、暗褐色土ブロックφ5~4cm微量、少々しまりあり、やや粘性あり。  
 4. 10YR 4/4 褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3cm中量、炭化物ブロックφ1~2cm微量、暗褐色土ブロックφ2~1cm多量、少々しまりあり、やや粘性あり。  
 5. 10YR 4/4 褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5cm多量、暗褐色土ブロックφ1~2cm少量、しまりあり、やや粘性あり。



第12図 A区 SI02



第13図 A区 SI02 出土遺物

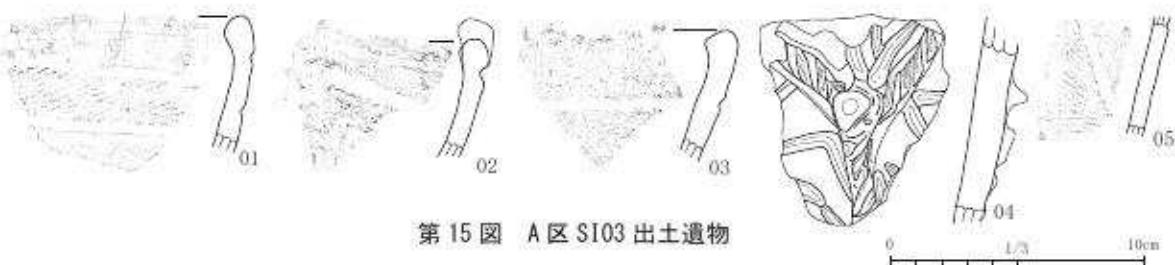
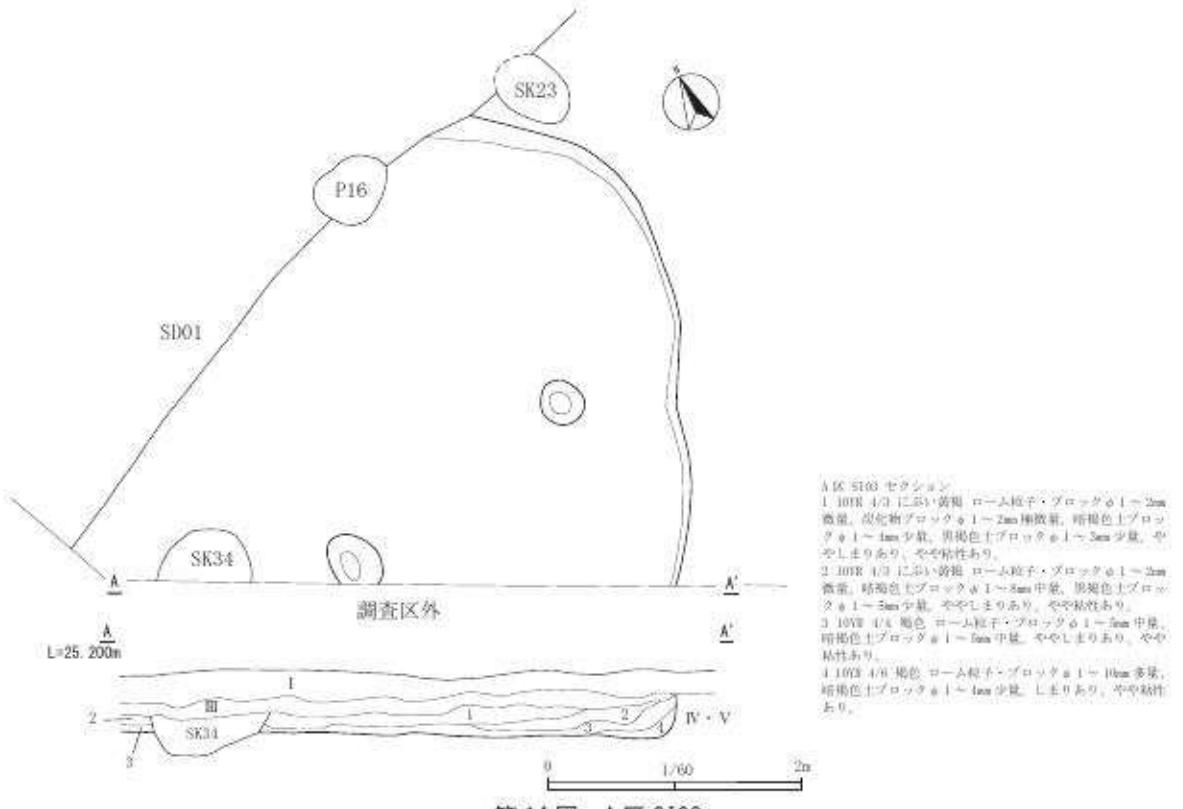
第4表 A区 SI02 出土遺物観察表

遺物番号	形状	輪郭	表面	口徑	底径	高さ	断面・文様・焼成	形式	残存	焼成	色調	質土	重量(g)	備考
01	一括	圓筒土器	深鉢	—	—	—	単筋・縦・横文	直張式	縦下平筋 縦片	良好	内面 T.5E35/4C.35V・無 外面 T.5E34/1C.35V・無	鐵錫微紫、白色粘子・瓷母少量	31.6	
02	一括	圓筒土器	深鉢	—	—	—	単筋・縦文	直張式	縦下平筋 縦片	良好	内面 T.5E35/1C.35V・無 外面 T.5E34/1C.35V・無	鐵錫微紫、白色粘子・瓷母少量	8.3	
03	一括	圓筒土器	深鉢	—	—	—	単筋・縦・横文	直張式	縦下平筋 縦片	良好	内面 T.5E35/1C.35V・無 外面 T.5E34/1C.35V・無	鐵錫微紫、白色粘子・瓷母少量	8.1	

## SI03 (第14・15図、第5表、遺構図版5・6、遺物図版2)

K18・19グリッドに位置する。SK34、P16、SD01に切られる。本住居跡の南西は調査区外であり、北西はSD01に切られるため規模は不明である。調査区境界の壁とSD01の接点より本住居跡の壁までは5.20mを測る。深さは確認面より21cmを測り、接する調査区境界の壁面では33cmの掘り込みが確認された。覆土は4層に分層され自然堆積を示す。付帯施設は柱穴2基が確認された。

遺物は縄文土器を中心に402.7g出土した。掲載遺物は5点である。



第5表 A区 SI03 出土遺物観察表

遺物番号	目記	種類	断面	口径	底径	厚さ	表面	裏表・立様・施形	空式	現存	施成	色調	蓋土	重量(g)	備考
01	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁に内側に丸く突出する。口縁には内側に溝を有する。口縁は内側に突出する。	神名寺式	口縫288 片	良好	内面 T.5386/4に赤い模様 外面 T.5386/1相状	白色粒子・淡青色 量	37.1	SD22と M-1個 共々	
02	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁は内側に寄り、太い脚縁に上 り支修を有した後、太い脚縁 脚縁が削かれれる。	秋名寺式	口縫288 片	良好	内外面 T.5386/4に赤い模	白色粒子多い	34.1	SD22と M-1個 共々	
03	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁は内側に寄り、口縁部に張り 付けるれた突起部分は剥落して いる。器底には口縁底に 脚支修を有した後、太い脚縁 脚縁が削かれれる。	神名寺式	口縫288 片	不良	内面 T.5386/2灰黄褐色 外面 T.5386/4に赤い模様	白色粒子や多い 少々、青母少量	32.7		
04	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	刻みを有する器底が丁寧に貼 り付けられ、器底には太い脚縁 脚縁による支脚が留かれれる。	神名寺式・網目 1式	網目縫288 片	良好	内面 T.5386/4に赤い模 外面 T.5386/4に赤い模	白色粒子多い。青 色アリあり	39.0		
05	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	内側に丁寧に貼り付けられた内部に 車輪によって区画された内部に車輪 が留められる。	神名寺式	網目縫288 片	良好	内面 T.5386/4に赤い模 外面 T.5386/4に赤い模	青母や多い。白 色粒子微量	37.1		

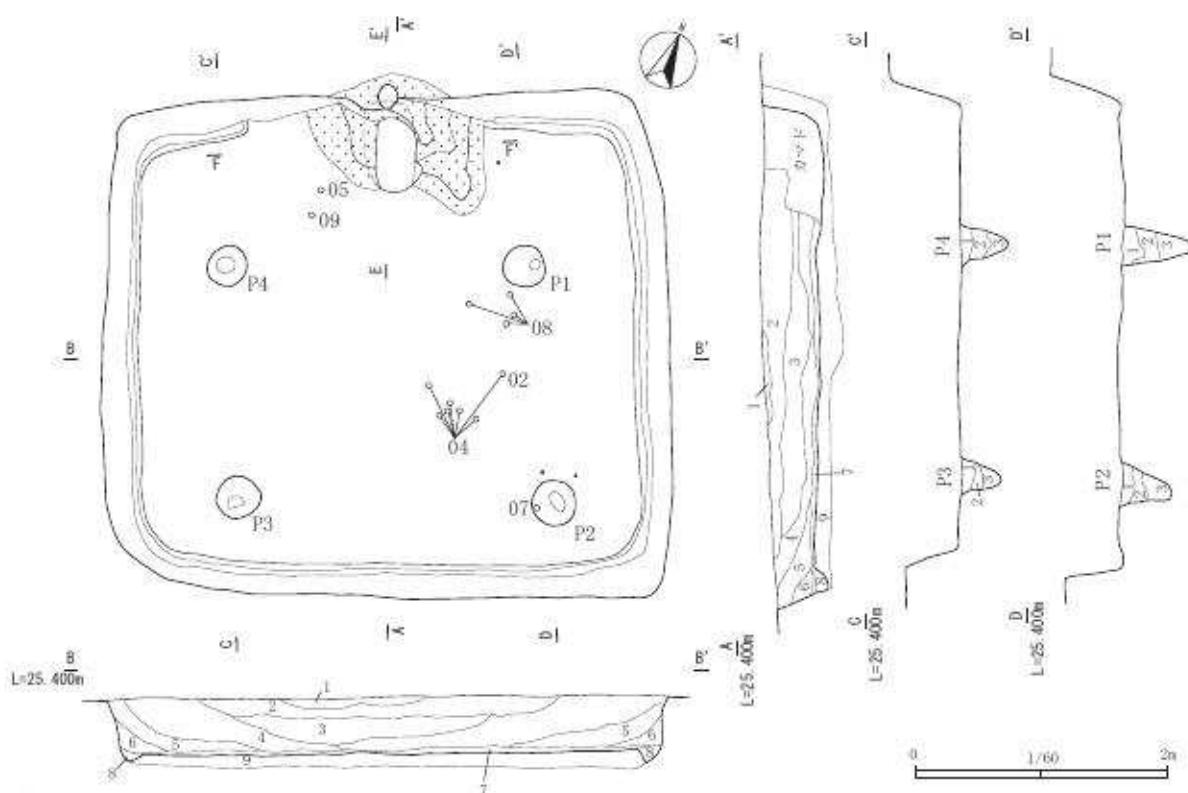
## SI04 (第16～19図、第6表、遺構図版6・7、遺物図版2)

K14グリッドに位置する。主軸方向はN-27°-Wである。規模は南北4.03m×東西4.53mであり、やや東西方向に長い長方形を呈する。深さは確認面より58cmを測り、覆土は8層に分層され、自然堆積を示す。第9層は掘方であり、壁直下にあたる第6・8層と掘方直上である第7層からは炭化物ブロックが検出された。

付帯施設はカマド1基、柱穴4基、周溝が確認された。

カマドは北側壁のほぼ中央部を36cm掘り込んで構築される。左袖は擾乱されているが、天井部が僅かに残存し、確認面下の煙道が完存する。煙道の上昇角度は約80°である。袖部は主に細砂粒子を極多量含む黄褐色土を積み上げて構築され、しまりがある。右袖の規模は床面からの高さ35cm×基部の幅46cm×奥行き93cmを測る。火袋は最大幅52cmであり、底部に火床面は確認されなかった。

柱穴は主柱穴が4基(P1～P4)確認された。それぞれの規模はP1が最大幅34cm×深さ67cm、P2は最



A-K SI04 セクション

- 1 L0K 3/1 砂褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm少量、焼土ブロックφ1～2mm微量、粘土質性あり、やや粘性あり。
- 2 L0K 4/3 江戸い黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm少量、崩壊土ブロックφ1～10mm多量、ややじまりあり、やや粘性あり。
- 3 L0K 2/2 男褐色 ロームブロックφ1～2mm少量、焼土ブロックφ1～10mm多量、ややじまりあり、やや粘性あり。
- 4 L0K 4/1 に江戸い黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～10mm中量、炭化物ブロックφ1～3mm微量、崩壊土ブロックφ1～5mm中量、崩壊土ブロックφ1～6mm少量、じまりない、粘性なし。
- 5 L0K 4/4 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～15mm中量、崩壊土ブロックφ1～6mm少量、じまりない、粘性なし。
- 6 L0K 4/4 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～15mm多量、炭化物ブロックφ1～2mm微量、崩壊土ブロックφ1～10mm少量、じまりない、粘性なし。
- 7 L0K 4/6 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～15mm多量、炭化物ブロックφ1～2mm微量、崩壊土ブロックφ1～6mm少量、じまりあり、粘性あり。
- 8 L0K 4/6 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～20mm中量、炭化物ブロックφ1～2mm微量、崩壊土ブロックφ1～10mm微量、じまりあり、やや粘性あり。
- 9 L0K 4/6 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～20mm多量、焼土ブロックφ1～2mm微量、崩壊土ブロックφ1～5mm微量、じまりあり、粘性あり。

A-K SI04内 P1～4 セクション

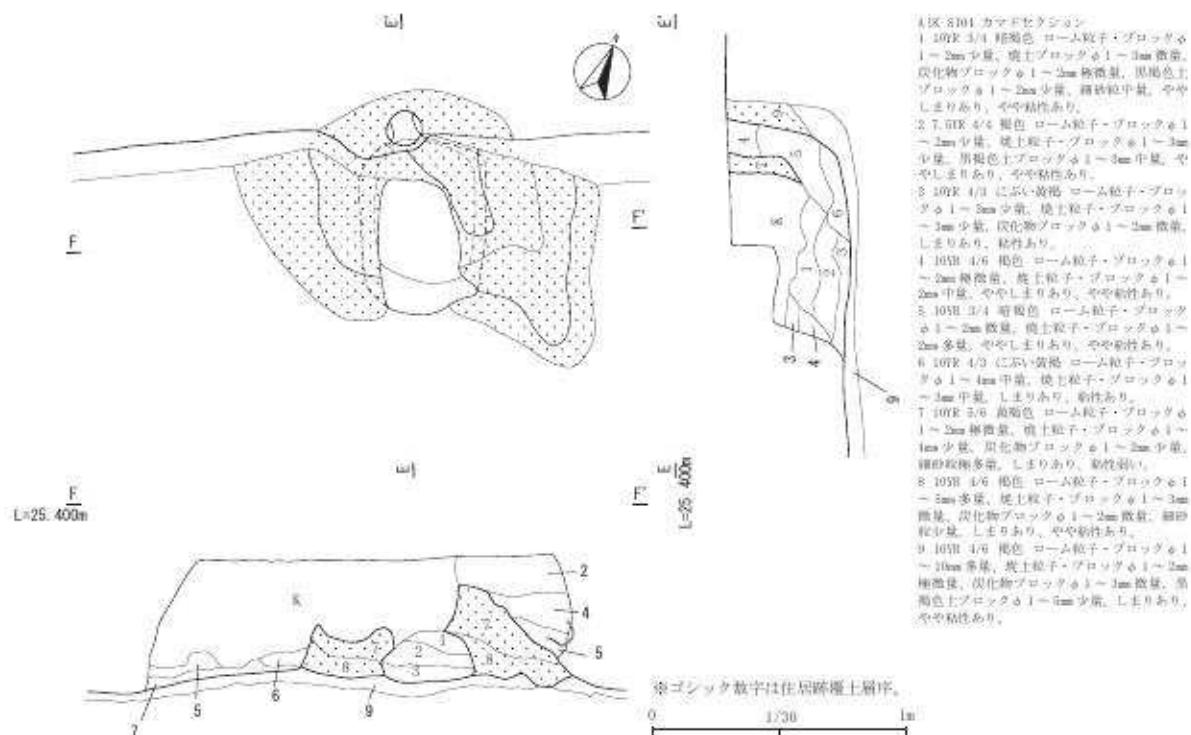
- 1 L0K 4/3 に江戸い黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm中量、炭化物ブロックφ1～2mm微量、ややじまりあり、やや粘性あり。
- 2 L0K 4/6 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～10mm多量、ややじまりあり、やや粘性あり。
- 3 L0K 4/6 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1～20mm極多量、じまりあり、粘性あり。

第16図 A区 SI04

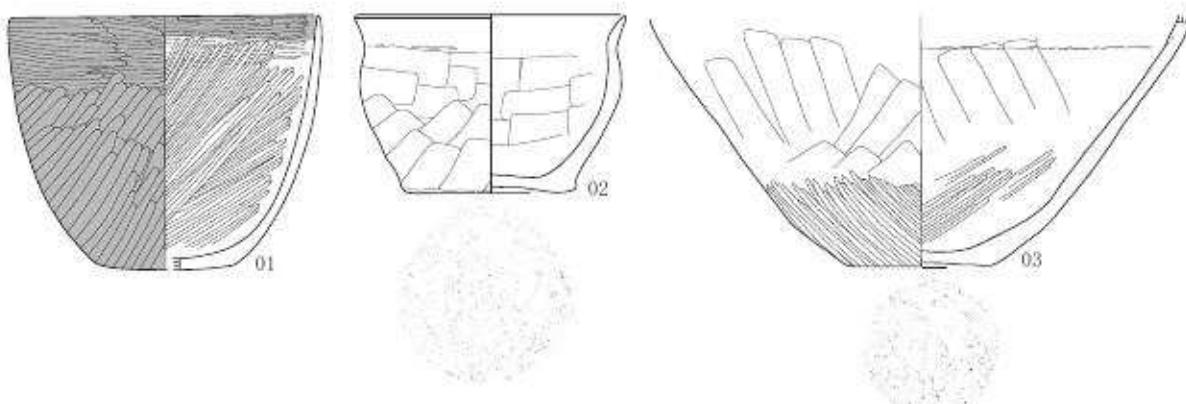
大幅39cm×深さ45cm、P3は最大幅38cm×深さ33cm、P4は最大幅34cm×深さ39cmである。P1・2から東側の壁までは約90cm、P3・4から西側の壁までの位置は約80cmであり、ほぼ一定であるが、P1・4から北側の壁までは約120cm、P2・3から南側の壁までは約60cmであり、柱穴はカマドの袖部を避けるようやや南側に設置される。

周溝はカマド部以外の壁面直下を全周し、規模は幅12cm×深さ10cmを測る。覆土は炭化物ブロックを極微量含み、しまりのある褐色土である。

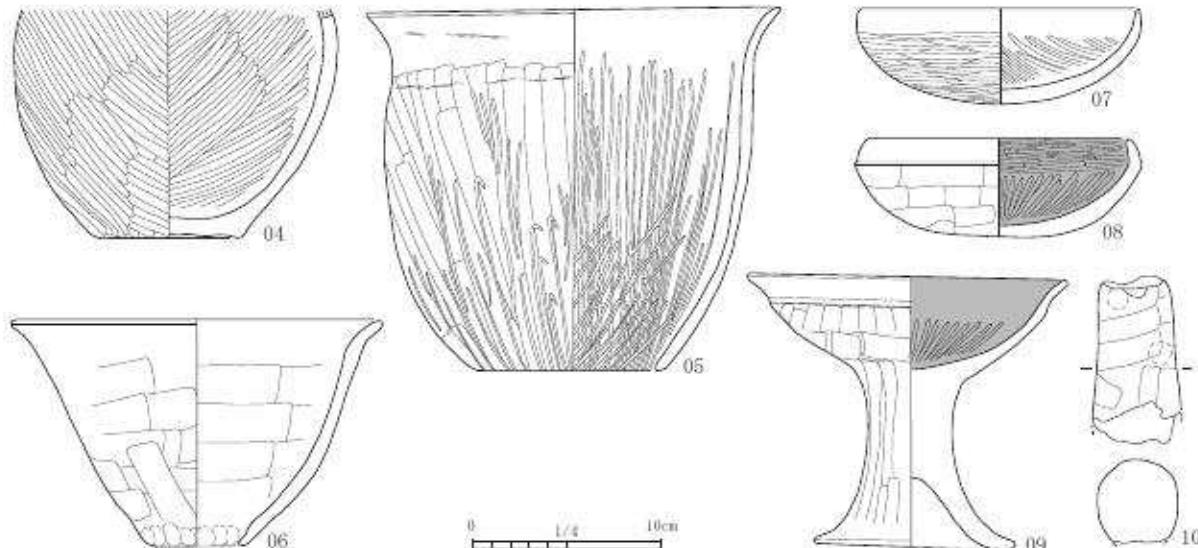
遺物は土師器を中心にして11163.3g出土した。掲載遺物は10点である。完形の壺(07)は床面直上で検出された。覆土第3層下部では甕(02・04)と完形の壺(08)を始めとして、多量の破片が出土している。カマド南側の床面上からはほぼ完形の甕(05)と完形の高壺(09)が検出され、カマドの攪乱土からはほぼ完形の鉢(01)と半完形の甕(06)、土製支脚(10)が出土している。



第17図 A区 SI04 カマド



第18図 A区 SI04 出土遺物 (1)



第19図 A区SI04出土遺物(2)

第6表 A区SI04出土遺物観察表

遺物番号	目記	種類	基盤	口径	底径	高さ	残存	器形の特徴	整形の特徴	施成	色調	粘土	想定年	備考
01	11C-1 柱・カク ラン	土鍋等	甕	16.2	7.2	13.4	胴一部 底欠損	底部は平底。下端で緩やかに内溝した後直線的に開く。	内外底共にミガキ。	良好	内面 7.5BS6/4にぶ い掛 外底 10BS1/1底	白色粒子少 量、スコリア・ 灰母・白色斜 状物質微量	637.6	外底全周お よび内底の 内縁部に黒 色の施石物 あり
02	N011	土鍋等	小形甕	14.1	9.0	9.1	胴部3/4 欠損	直縁はやや上げ底加厚の平 底。底部で縁やかに内溝した後口縁は多角する。	手標記。口縁と内外面共に横 ナギ。体胫外側は手・指による 擦痕。内面はナマ整形。	良好 二次焼成 あり	内面 7.5BS6/4にぶ い掛 外側 5BS5/1 にぶ・少欠	白色粒子・ 黒 色やや多い 白色斜状物 質・スコリア・ 微量	328.6	底部本層部
03	カクラン	土鍋等	甕	—	7.0	13.2	胴部下生 1/4	直縁はやや上げ底加厚。下端で 内溝した後直線的に開く。周 辺底あり。	外面はナマ底はミガキ。内 面は剥落が著しいがナギ及び 下端にミガキが観察される。	不良 二次焼成 あり	内面 10BS5/1にぶ い掛 外底 10ER1/1にぶ い掛	白色粒子多 い。黒母少量	480.3	
04	N011+N 0085+N 0084+N 0083+N 0086+N 0099+N N0101	土鍋等	甕	—	7.7	12.0	胴部1/2 欠損	直縁はやや上げ底加厚。胴部は 縁やかに内溝する。	内外底共にミガキ。	良好	内面 7.5BS6/4にぶ い掛	長石・石英等 小颗粒や多 い。黒母・ス コリア少量	480.3	
05	N011+カ クラン	土鍋等	甕	21.8	9.1	19.0	口縁一側 部1/4欠損	単孔式。下端で内溝した後直 線的に立ち。口縁で緩やかに 外及する。	口縁は内外両面に横ナギ。胴 部外直は底方向へのハケヅリ 等部分的なミガキ。内面はミ ガキ。	良好	内面 7.5BS6/4にぶ い掛 外底 7.5BS5/4にぶ い掛	白色粒子・ 黒 色・スコリア・ 黑色粒子少量	818.1	
06	カクラン	土鍋等	甕	(19.4)	8.8	12.0	口縁一側 部上半 1/2欠損	单孔式。胴部は底から内洗し 大きく開き。口縁は縁やかに 外及する。	口縫内外両面に横ナギ。胴部 内外底共にナギ。底部は指痕 による底窓が施されている。	不良 二次焼成 あり	内面 10R1/2底黄 色 外底 10BS5/1にぶ い掛	白色粒子多 い。深緑少量	480.0	
07	N007	土鍋等	甕	14.7	丸底	5.05	完形	底部は丸底。底部と身込で縁 やかに内溝し口縁は縁やか。	口縫内外両面共に横ナギ。体胫 はミガキ。	良好	内面 7.5BS6/4にぶ い掛	小颗粒多 い。ス コリアや多 い。黒母少量	365.2	
08	N001+N 0085+N 0084+N 0083+N 0010-1 N01-2	土鍋等	甕	13.2	丸底	5.15	完形	底部は平底張り丸底。上位 に明瞭な梗を有した後内折す る。腹壁である。	外側口縫及び脚部は内外両面 に横ナギ。外側12体脚・脚柱 にかけてハケヅリ。内面体 部は暗文状のミガキ。	良好	内面 10R3/1 男根 外底 10BS5/4にぶ い掛	白色粒子・ス コリアや多 い。黒母少量 白色斜状物質 微量	390.0	内底黒色地 理
09	N012	土鍋等	甕	16.8	10.0	13.3	完形	上縁は縁やかに内溝して開き 上位に強い棱を有した後内折す る。脚柱はほぼ中実で脚部 にかけてラッパ状に開く。	上端口縫及び脚部は内外両面 に横ナギ。外側12体脚・脚柱 にかけてハケヅリ。内面体 部は暗文状のミガキ。	良好	内面 5BS6/6 相 外底 7.5BS5/4にぶ い掛	長石・石英等 小颗粒・ス コリア多 い。白色 粒子・黒色粒 子や多い 黒母微量	701.2	内底黒色地 理
10	カクラン	土製品	丸底	縦 8.9	硝 6.7	厚さ 4.4	脚部欠損	断面円形を呈す。		不良	外底 10BS5/4にぶ い掛	白色粒子・強 度目立つ	166.4	

## SI05 (第20・21図、第7表、遺構図版7・8、遺物図版2)

L14・15グリッドに位置する。主軸方向はN-3°-Wである。規模は南北3.78m×東西4.72mであり、東西方向に長い長方形を呈する。深さは確認面より75cmを測り、覆土は7層に分層される。

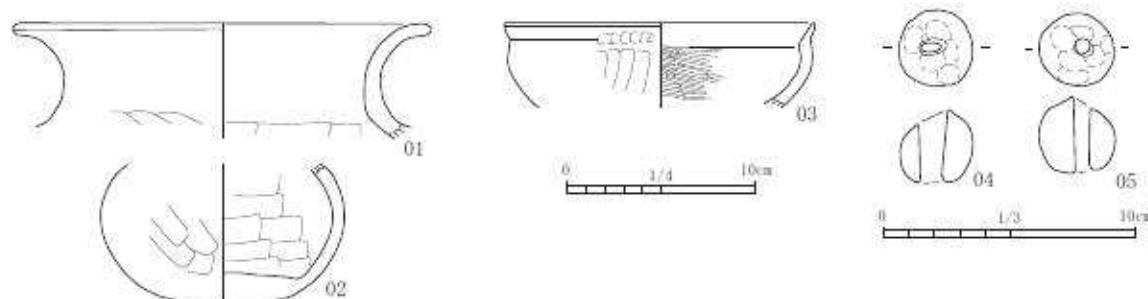
付帯施設は柱穴2基、貯蔵穴1基、周溝が確認された。

柱穴2基は東西に並び、それぞれの南北の壁までの距離は約160cmである。P1の規模は最大幅30cm×深さ69cm、P2は最大幅36cm×深さ57cmを測る。

貯蔵穴は南東隅の壁直下で検出された。長軸78cmの楕円形の平面形であり、深さは床より31cmを測り、断面形はボウル状である。

周溝は北側中央部の3mほどの範囲を除いてほぼ全周し、規模は幅13cm×深さ13cmを測る。覆土は8層に分層され、最下層である第8層は掘方である。直上の第6層には焼土ブロック・炭化物が散在し、区別が明瞭である。覆土下層からは、粒径の大きい焼土ブロックが検出され、床および壁面では被熱範囲と炭化物が確認された。炭化物は棒状の形状を留めており、南東隅では壁に沿った状態で検出された。構築材であると推定される。以上、本遺構は覆土の状態と床の焼土・炭化物の検出状況から焼失・人為堆積住居跡であると判断される。

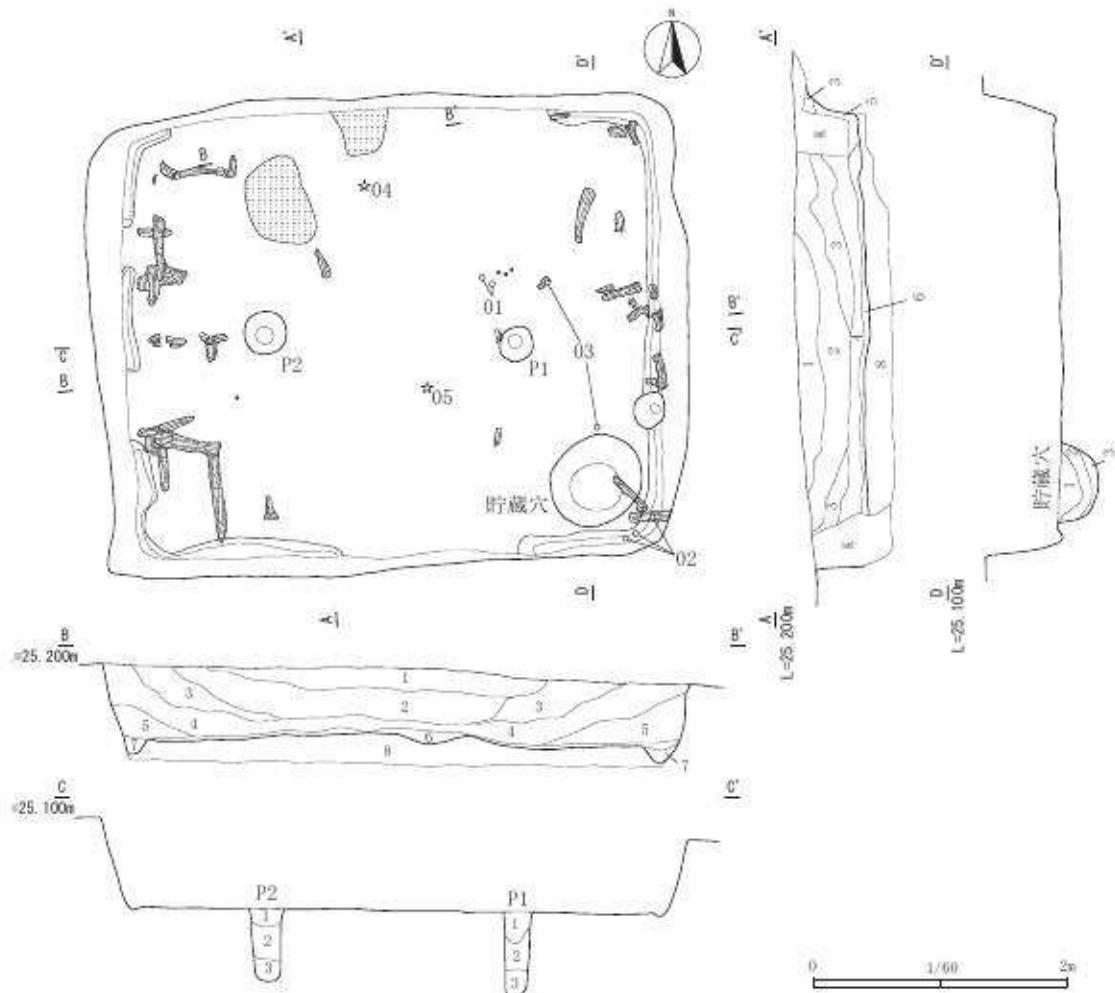
遺物は土師器を中心に5544.3g出土した。掲載遺物は5点である。土玉(04・05)は覆土第2・3層から出土した。土師器破片も同層を中心に散在する。壺(02)は南東隅付近で出土した。



第20図 A区 SI05 出土遺物

第7表 A区 SI05 出土遺物観察表

遺物番号	江記	種類	特徴	口径	底径	高さ	裏面	裏面の特徴	裏面の特徴	施成	色調	胎土	重畠(g)	備考
02 N02- N06-1 壺	土師器	壺	21.5	—	6.12	口縁部のみ 内縁は「C」の字状に外反する。	口縁内外共に焼ナア。胸筋 外面ベクタメリ。内面ナア堅 田。	良好 二次焼成 あり	内外面 10016/4にぶ い黄褐	灰白・石英等 小礫多量。青 母やや多い。	212.1			
02 N01- N01-1 N01- N01-6	土師器	壺	—	4.0	3.3	底一側部 半	胸筋は変形した跡状を呈する。 底筋は渦巻である。	胸筋外側ハリタタギ。内面ナ ア堅田。	良好 二次焼成 あり	10016/4にぶ い黄褐 外面 7.51015/4にぶ い黄褐	長石・石英等 小礫・雲母多 い。	301.5		
03 N012+ N013	土師器	壺	16.2	—	6.12	口縁一側 部破片	体部は平や強く内湾する。口 縁は内面に棱を有した後、僅 かに丸味を帯び外折する。	口縁内外共に焼ナア。体部 内外共にナガ堅田。外底口 縁直下の指捺圧痕が確認され る。	良好 二次焼成 あり	内外面 7.51016/4にぶ い黄褐	白色粒子・粗 色粒子・雲母 少量	34.4		
04 N01	土製品	土玉	—	2.9	1.1	1.1	光素	ほぼ球形。孔は偏在する。	手・指による整形。	良好	内外面 10017/4にぶ い黄褐	黒色粒子やモ ロイ。	21.7	
05 N07	土製品	土玉	—	2.9	0.9	0.9	光素	ほぼ球形。孔は偏在する。	手・指による整形。	良好	内外面 10017/4にぶ い黄褐	表面微細	23.0	



## A区 SI05 セクション

1. 10R 4/5 黒褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 少量、焼土ブロックφ1~2mm 多量。暗褐色土ブロックφ1~15mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。

2. 10R 4/5 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 中量、焼土ブロックφ1~3mm 多量。炭化物ブロックφ1~2mm 多量。暗褐色土ブロックφ1~10mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。

3. 10R 4/5 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 中量、焼土ブロックφ1~2mm 多量。暗褐色土ブロックφ1~5mm 中量。ややしまりあり。やや粘性あり。

4. 10R 4/2 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 中量、暗褐色土ブロックφ1~3mm 程度。炭化物ブロックφ1~5mm 少量。暗褐色土ブロックφ1~10mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。

5. 10R 4/3 にぶい黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 中量、焼土ブロックφ1~2mm 多量。炭化物ブロックφ1~15mm 多量。暗褐色土ブロックφ1~15mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。

6. 10R 4/4 黄色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm 多量。暗褐色土ブロックφ1~5mm 少量。しまりあり。粘性あり。

7. 10R 4/5 黄色 ローム粒子・ブロックφ1~15mm 少量、焼土ブロックφ1~2mm 多量。炭化物ブロックφ1~10mm 少量。暗褐色土ブロックφ1~3mm 少量。しまりあり。粘性あり。

8. 10R 4/5 残土 ローム粒子・ブロックφ1~20mm 中量、焼土ブロックφ1~2mm 多量。炭化物ブロックφ1~2mm 多量。暗褐色土ブロックφ1~3mm 中量。しまりあり。粘性あり。

## A区 SI05 内 貯藏穴 セクション

1. 10R 4/3 にぶい黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm 中量、焼土ブロックφ1~5mm 少量。炭化物ブロックφ1~20mm 多量。暗褐色土ブロックφ1~10mm 中量。しまりない。粘性弱い。

2. 10R 4/4 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~15mm 少量。炭化物ブロックφ1~20mm 少量。暗褐色土ブロックφ1~10mm 多量。しまり弱い。粘性弱い。

3. 10R 4/3 にぶい黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 少量、炭化物ブロックφ1~2mm 多量。暗褐色土ブロックφ1~3mm 中量。ややしまりあり。やや粘性あり。

4. 10R 4/2 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量。炭化物ブロックφ1~3mm 少量。暗褐色土ブロックφ1~1mm 中量。しまり弱い。粘性弱い。

5. 10R 4/3 にぶい黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 中量。しまり弱い。粘性弱い。

6. 10R 4/4 にぶい黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。

7. 10R 4/5 残土 ローム粒子・ブロックφ1~20mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。

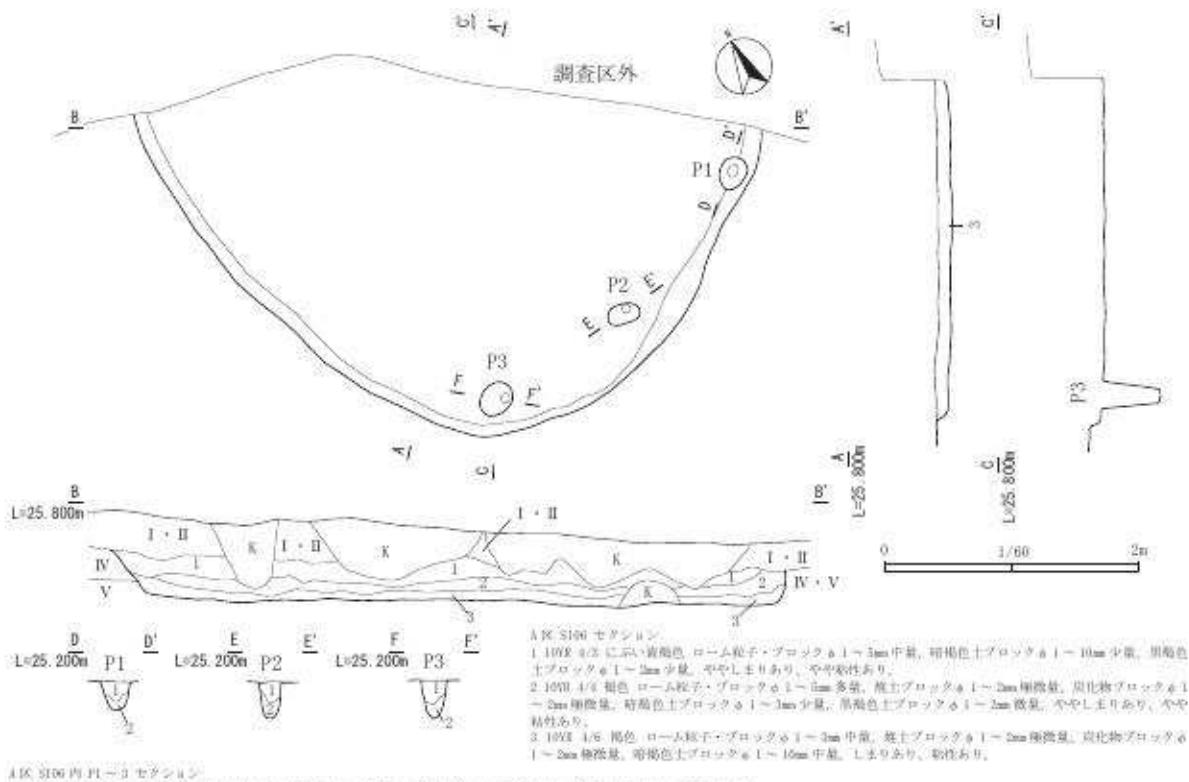
8. 10R 4/5 残土 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。

第21図 A区 SI05

## SI06 (第22図、遺構図版8・9)

L14グリッドに位置する。規模は北側が調査区外であるため不明であるが、最大径は4.96mが確認された。深さは確認面より9cmを測り、接する調査区壁面からは表土直下より36cmの掘り込みが確認される。覆土は3層に分層され自然堆積を示す。

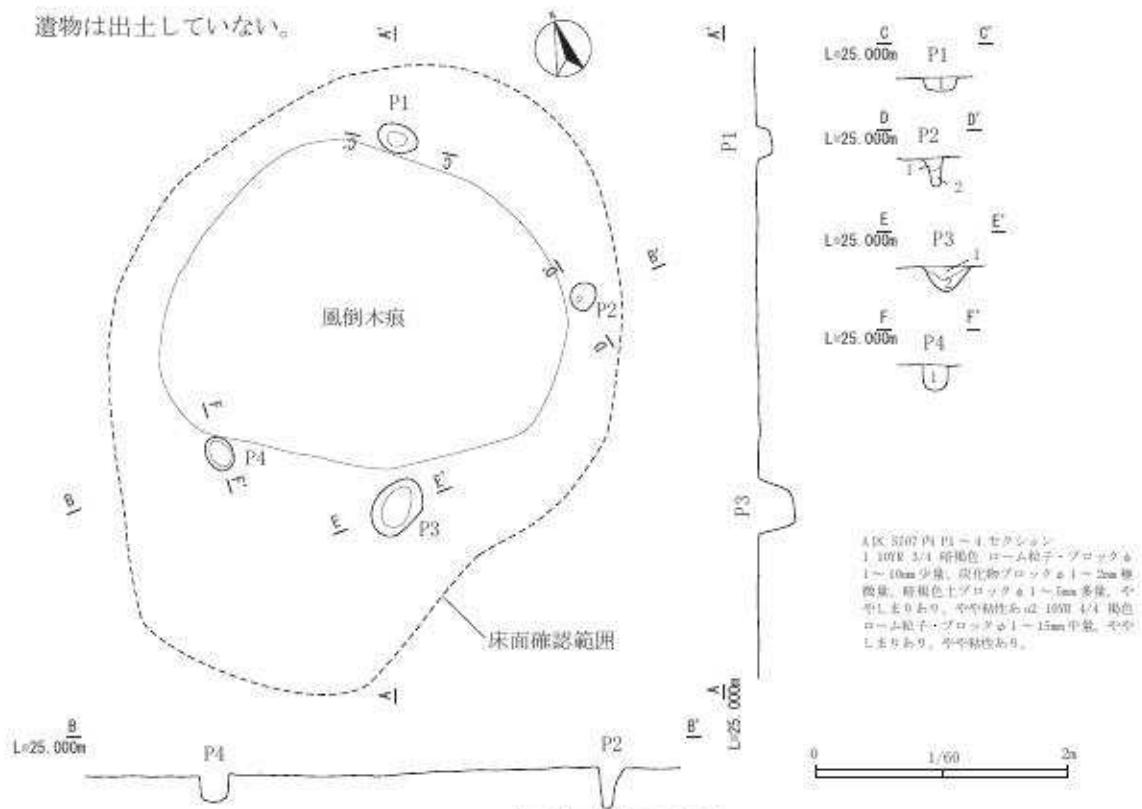
付帯施設は柱穴3基が確認された。P1の規模は最大幅27cm×深さ24cm、P2は最大幅27cm×深さ30cm、P3は最大幅29cm×深さ31cmを測る。それぞれ褐色土の覆土で、南側の壁付近に約1mの間隔で設置される。遺物は蝶が4816.0g出土した。掲載遺物はない。



第22図 A区 SI06

## SI07 (第23図、遺構図版9)

L16・17グリッドに位置する。床と柱穴のみが残存するため規模は不明瞭である。風倒木痕と重複し、この上に硬化面が確認されたため、風倒木痕を切って本住居跡が構築されたと判断される。確認された床の規模は長軸 5.15m × 短軸 4.00m を測る。柱穴は 4 基確認された。P1 の規模は最大幅 33 cm × 深さ 11 cm、P2 は最大幅 24 cm × 深さ 25 cm、P3 は最大幅 51 cm × 深さ 20 cm、P4 は最大幅 29 cm × 深さ 21 cm を測る。



第23図 A区 SI07

## 第2項 土坑

A区では34基が確認された。うちI類(炉穴)は3基、II類(陥穴)は2基検出された。

## 1 I類(炉穴)

## SK03(第24図、遺構図版10)

116グリッドにおいて検出された。規模は長軸124cm、短軸112cm、深さは最深部で確認面より17cmを測り、不整円形の平面形、浅い皿状の断面形を呈する。火床面は中央部にあり、東側が擾乱で壊されるため全容は不明である。規模は長軸48cmの範囲が残存する。覆土は2層に分層され、焼土ブロックを多く含む。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は土師器が14.6g出土した。掲載遺物はない。

## SK28・29(第24図、遺構図版10)

J17グリッドにおいて検出された。重複する屋外炉であり、SK28がSK29を切って構築される。

SK28 主軸方向はN-1°-Wである。規模は長軸255cm、短軸93cm、深さは最深部で確認面より45cmを測り、長楕円形の平面形を呈する。底部は南側の床がテラス状に高くなり、最深部との比高は約32cmである。火床面は北西側の壁付近で確認された、長軸38cmほどの僅かな範囲が残存する。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、やや粒径の大きい焼土ブロックを含む。最下層である炉3層は火床面の直上であり、しまりが弱い。

遺物は検出されなかった。

SK29 規模は最大径で107cmが確認された。深さは最深部で確認面より73cmを測る。北側の壁はほぼ垂直であり、南西側の壁は外傾する。覆土は5層に分層され、中層から下層は暗褐色土である。上層と下層は焼土ブロックを含み、下層はしまりがない。堆積状況は自然堆積とみられる。

本土坑からは火床面は確認されなかつたが、重複するSK28と覆土の状況が類似し、炉穴(SK28)の旧使用面である可能性があるため掲載した。

遺物は礫を中心に79.0g出土した。掲載遺物はない。

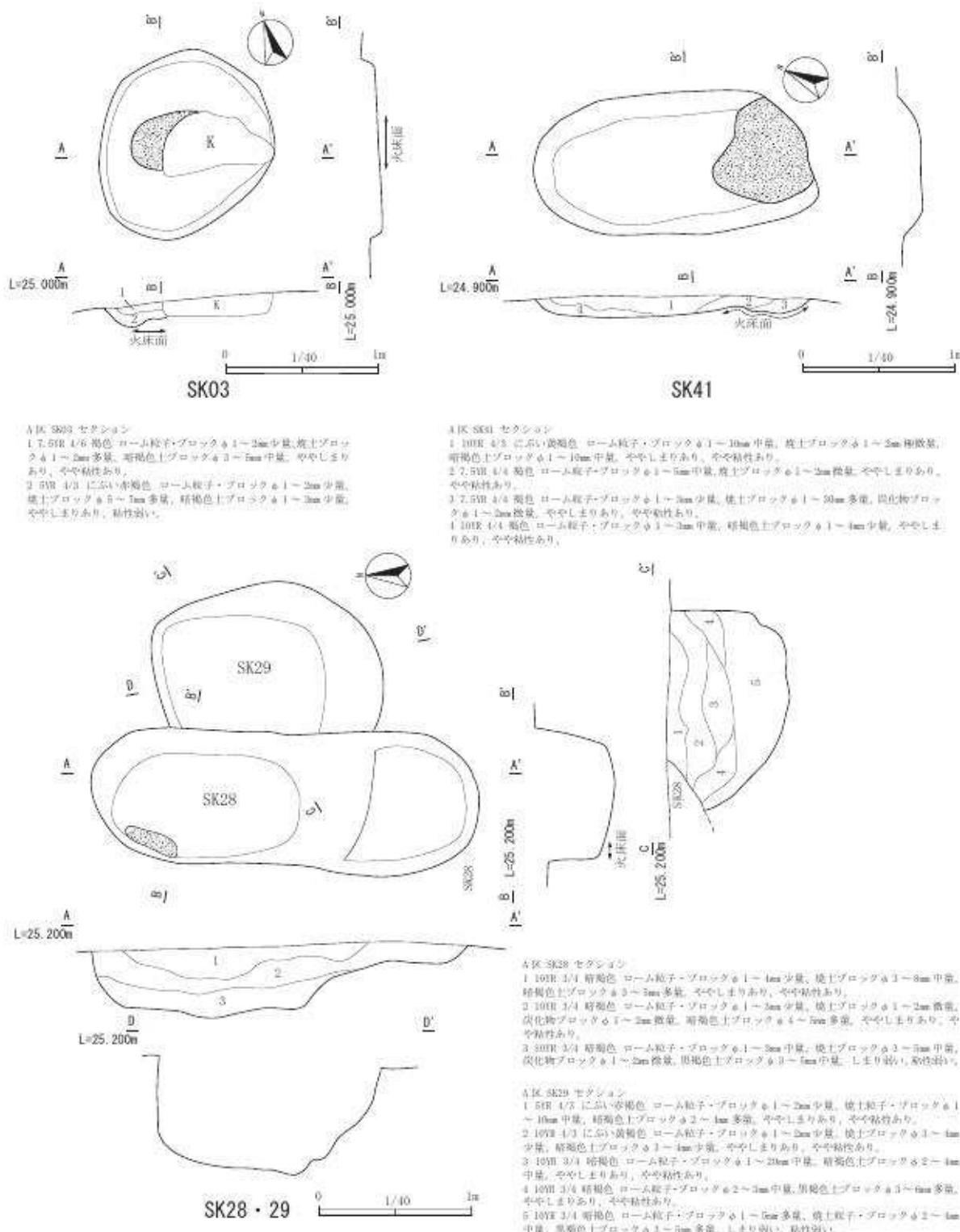
## SK41(第24・25図、第8表、遺構図版10、遺物図版2)

L18グリッドにおいて検出された。主軸方向はS-25°-Eである。規模は長軸181cm、短軸95cm、深さは最深部で確認面より13cmを測り、楕円形の平面形を呈する。底部はほぼ平坦であるが、火床面が位置する南側では凹凸がある。火床面は長軸68cmの規模が確認され、南側の壁と壁から67cmの範囲に広がる。覆土は4層に分層される。火床面に接する第3層からは粒径の大きい焼土ブロックが多量検出された。堆積状況は自然堆積を示す。

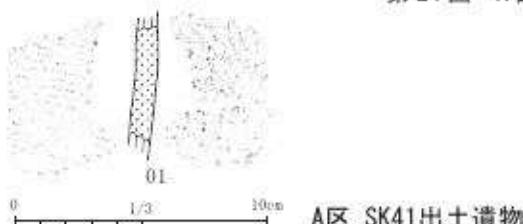
遺物は縄文土器を中心に55.0g出土した。掲載遺物は1点である。

第8表 A区土坑I類出土遺物観察表

遺構名	遺物番号	井記	種類	厚さ	口径	底径	高さ	跡形・文様・型式	型式	残存	焼成	色調	粘土	重量(g)	備考
SK03	01	一柄	縄文土器	厚壁	—	—	—	外周斜方内の各底面・内面は剥落。	伝表平山式	剥落破片	良好	内面：101kg/6個 外側：7.5kg/4個 裏面：7.5kg/4個 に近い範	鐵錆多量、白色和子・淡青少量	25.4	



第24図 A区土坑I類（炉穴）



第25図 A区土坑I類（炉穴）出土遺物

## 2 II類(陥穴)

## SK38(第26図、遺構図版11)

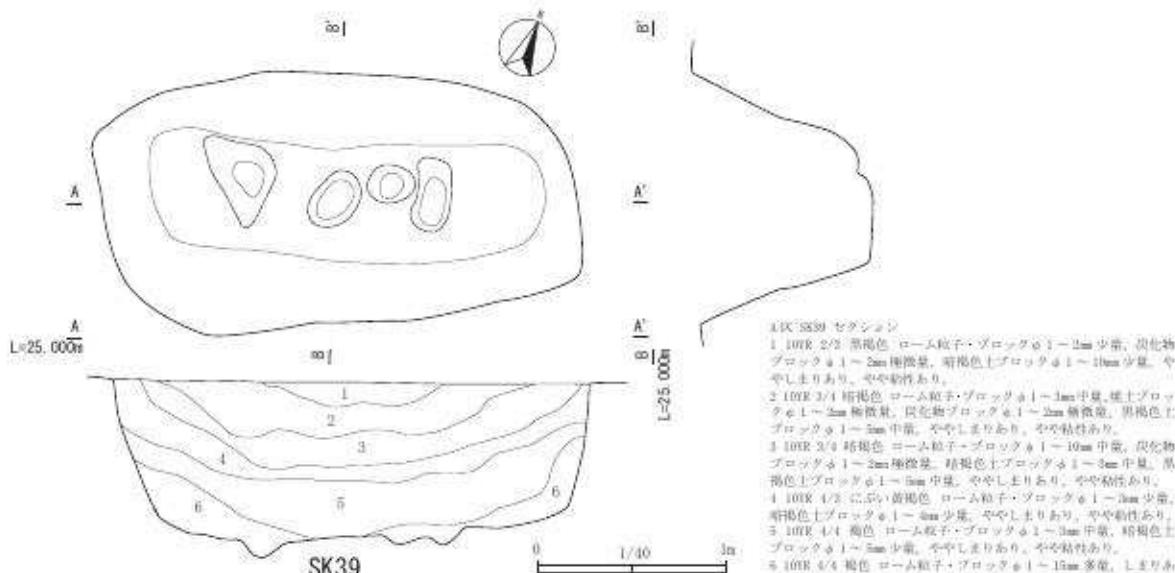
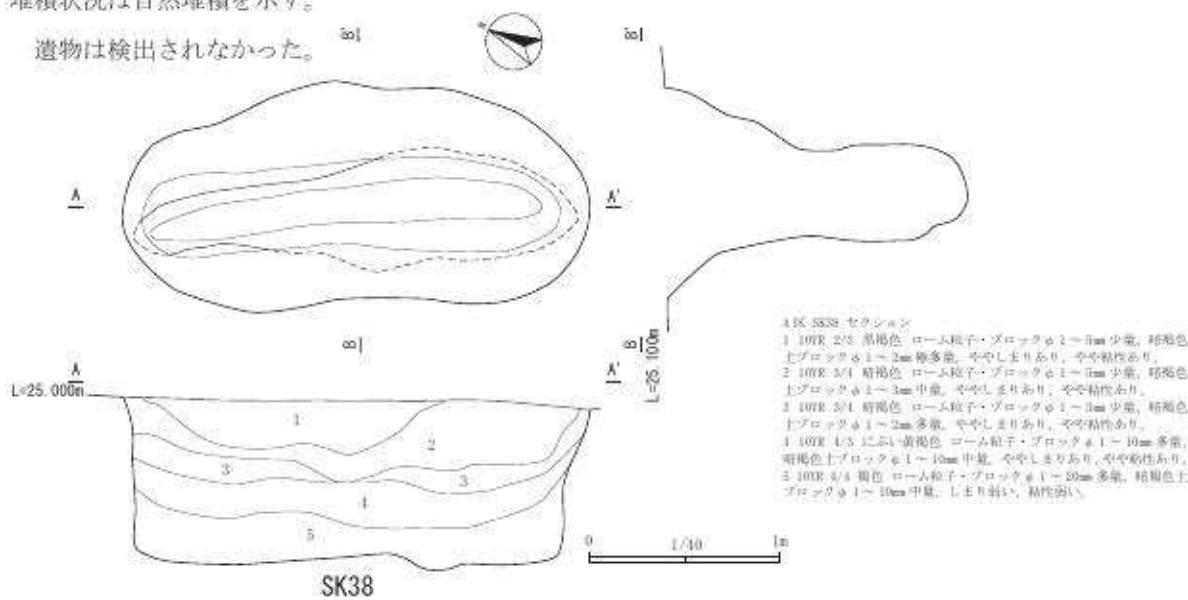
K15グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸247cm、短軸112cmを測り、確認面は楕円形、下部は溝状を呈する。深さは最深部で161cmを測り、長軸の断面形は箱形、短軸の断面形はY字状である。覆土は5層に分層される。下層は粒径の大きいロームブロックを多量含み、最下層である第6層はしまりのない褐色土である。堆積状況は自然堆積を示している。

遺物は土師器を中心に167.7g出土した。掲載遺物はない。

## SK39(第26図、遺構図版11)

L15グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-67°-Eである。長軸255cm、短軸133cmの不整楕円形を呈し、確認面よりの深さは94cmを測る。壁は約70°の傾斜で外傾し、逆台形の断面形である。底部は長軸209cm、隅丸長方形を呈し、深さ10cmほどのピットが4基確認された。覆土は6層に分層される。上層には微量の炭化物ブロックが含まれ、最下層である第6層では粒径の大きいロームブロックが多量含まれる。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は検出されなかった。



第26図 A区土坑II類(陥穴)

### 3 その他の土坑

#### SK04 (第27・29図、第9表、遺構図版11、遺物図版2)

K15グリッドにおいて検出された。長軸150cm、短軸129cmの不整楕円形を呈する。深さは最深部で確認面より57cmを測る。底部は南側が段状に高くなっている。最深部との比高は20cmほどである。覆土は上層が暗褐色土、中層から下層が褐色土であり計5層に分層される。堆積状況は自然堆積とみられる。

遺物は縄文土器と流れ込みと思われる土師器の計183.9g出土した。掲載遺物は1点である。

#### SK05 (第27・29図、第9表、遺構図版11、遺物図版2)

K15グリッドにおいて検出された。長軸109cm、短軸93cmの不整楕円形を呈する。深さは確認面より40cmを測り、底部は平坦であるが、わずかに傾斜し北東側がやや高い。覆土は4層に分層され、主に暗褐色土であり、第3層のみが褐色土である。堆積状況は自然堆積とみられる。

遺物は縄文土器を主体に39.3g検出された。掲載遺物は1点である。

#### SK18 (第27・29図、第9表、遺構図版12、遺物図版2)

K18グリッドにおいて検出された。規模は長軸101cm、短軸96cmを測り、不整円形を呈する。深さは確認面より36cmを測り、断面形は擂鉢状である。覆土はしまりのある暗褐色土である。

遺物は縄文土器が77.8g出土した。掲載遺物は2点である。

#### SK21 (第27・29図、第9表、遺構図版12、遺物図版2)

K18グリッドにおいて検出された。規模は長軸68cm、短軸54cmを測り、不整楕円形を呈する。深さは確認面より28cmを測る。覆土は2層に分層され、下層はしまりの弱い褐色土である。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は縄文土器が25.1g出土した。掲載遺物は1点である。

#### SK22 (第27・29図、第9表、遺構図版12、遺物図版3)

K18グリッドにおいて検出された。SK33と重複し、本土坑がこれを切って構築される。規模は長軸113cm、短軸96cmを測り、楕円形を呈する。深さは確認面より43cmを測る。底部は平坦であり、壁は約80°で外傾する。覆土の状況は凍結により上層までしか確認できなかった。第1層はにぶい黄褐色土、第2・3層は暗褐色土であり、第2層はしまりが弱い。

遺物は縄文土器を中心に792.6g出土した。掲載遺物は3点である。

#### SK32 (第27・29図、第9表、遺構図版12、遺物図版3)

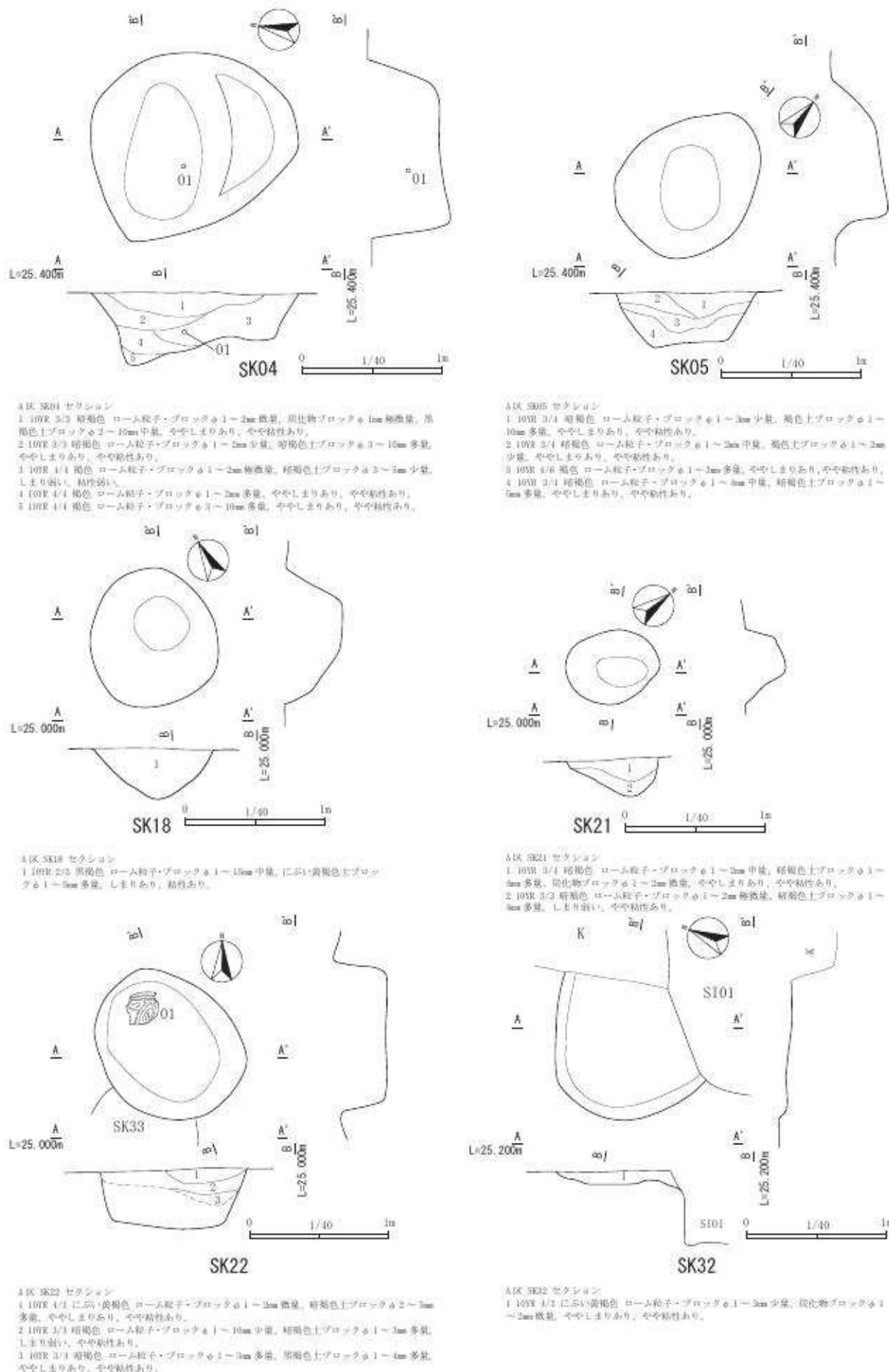
K17グリッドにおいて検出された。東側がSI01と攪乱に切られるため規模は不明である。最大径は127cmまでが確認された。浅い皿状の断面形が想定され、覆土は炭化物を微量含むにぶい黄褐色土である。

遺物は縄文土器が53.3g出土した。掲載遺物は2点である。

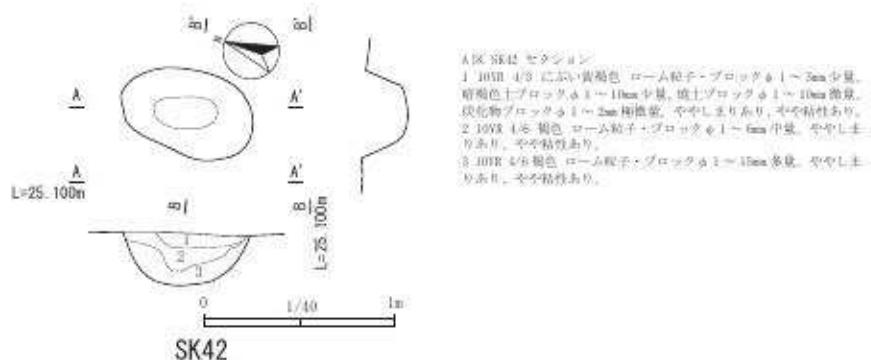
#### SK42 (第28・29図、第9表、遺構図版13、遺物図版3)

K16グリッドにおいて検出された。規模は長軸73cm、短軸43cmを測り、不整楕円形を呈する。深さは確認面より27cmを測る。U字状の断面形である。覆土は3層に分層され、上層からはやや粒径の大きい焼土ブロックと、炭化物ブロックが検出された。堆積状況は自然堆積を示す。

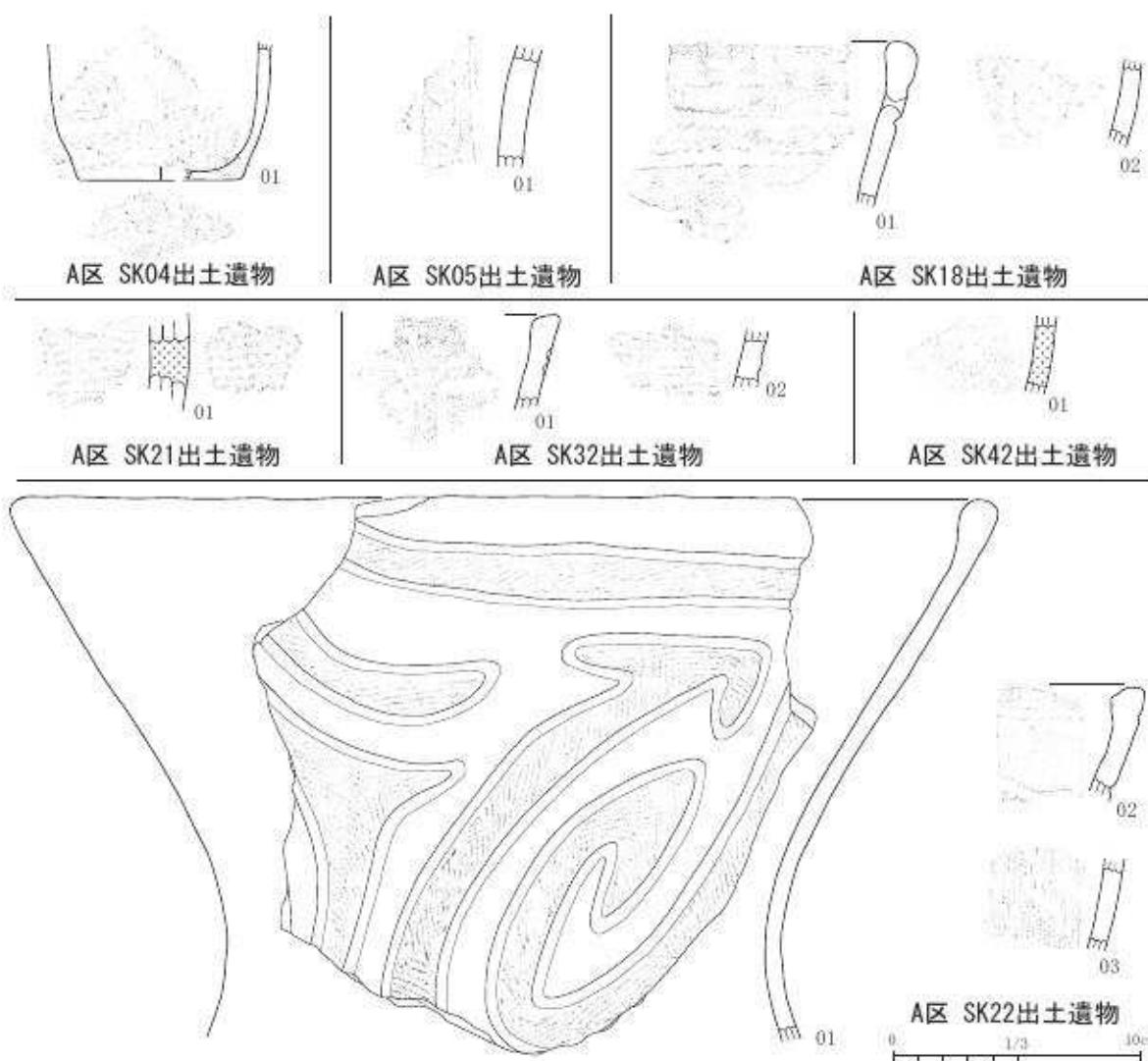
遺物は縄文土器を中心に19.3g出土した。掲載遺物は1点である。



第27図 A区その他の土坑 (1)



第28図 A区その他の土坑(2)



第29図 A区その他の土坑出土遺物

第9表 A区その他の土坑出土遺物観察表

遺物名	遺物番号	性別	種類	基準	口径	底径	高さ	跡形・文様・質感	型式	現存	地成	色調	覆土	重量(g)	備考
SM03	01	M02	縄文土器	筒状	—	(6.5)	(5.5)	小形の深鉢。底面は平底で側面はやや内湾気味に立つ。小形の深鉢にしては意外な底部が広く、ややコック形を呈する。口縁部は次掘している。周辺には柱縄文様が描かれ柱縄附は磨り削られて磨かれており、地文は単面LR縄文。	称名寺式	側面中位 一端削	良好	内面 3Y85/6 外面 3Y85/6 剥 離	白色粒子や 多い、黑色粒子・異 物少量	44.3	
SM05	01	—	縄文土器	筒状	—	—	—	外皮する側面破片。底面により区画が設けられ内面に單面LR縄文が施されている。	称名寺式	側面破片	良好	内面 3Y85/6 外面 3Y85/6 に付いた剥 離	白色粒子・ 多い、黑色粒子・異 物・スコリ ア少量	21.9	
SK18	01	—	縄文土器	筒状	—	—	(5.5)	口縁は内湾気味に立つ。口唇直下に太い 走縫により区画が設けられ内面に單面 LR縄文が施されている。以下は次順に上る 区画帯が見えるが詳細は不明。縄縫目が 押出される。	称名寺式	口縁部破 片	良好	内面 3Y85/6 壁 外面 3Y85/6 壁	白色粒子・ 多い、黑色粒子・ 異物少量	83.9	SK22と 同一個 体
	02	—	縄文土器	筒状	—	—	(3.4)	太い走縫による区画文様が複数の内部に 單面LR縄文が施されている。	称名寺式	側面破片	良好	内面 3Y85/6 内面 3Y85/6 壁	白色粒子・ 多い、黑色粒子・ 異物少量	13.9	SK22と 同一個 体
SK22	01	—	縄文土器	筒状	—	—	—	内外共に横方向の条痕文。	庄義茅山 式	側面破片	良好	P001 10Y85/1 に付 いた黄椎 内面 3Y85/6 壁 に付いた	織縫跡 白色粒子・ 多い、黑色粒子・ 異物少量	25.4	
SK22	01	M01	縄文土器	筒状	35.2	—	(22.8)	瓢形を呈する大型の口縁部破片。口唇部 に付いた剥離が見受けられ内面に單面 LR縄文が施されている。剥離部には土字の文様 が入力されてもうようにならかれており、剥離部により区画された 文様部の中心に单面LRの文様が施されている。	称名寺式	口縁部大 破片	良好	内面 7.53H 6.8 壁 外面 3Y85/6 壁 離	白色粒子・ 多い、黑色粒子・ 異物少量	622.2	
	02	—	縄文土器	筒状	—	—	(4.6)	太い走縫により抽象的な官能が施かれて いる。内面には单面LR縄文が施されている。 無文部分は磨かれていてもいる。	称名寺式	側面破片	良好	P001 7.53H 5.5 壁 外面 3Y85/1 壁 離	白色粒子や 多い、黑色粒子・ 異物少量	28.8	
	03	—	縄文土器	筒状	—	—	—	薄手の土崩て、複合平行走縫により横方 向の条縫状の文様が施かれる。	称名寺式	側面破片	良好	内面 3Y85/6 壁 外面 3M85/6 剥 離	白色粒子・ 多い、黑色粒子・ 異物少量	36.6	
SK32	01	—	縄文土器	筒状	—	—	(3.9)	粗状口縫。太い走縫による幾何学的な文 様が施かれる。	称名寺式	口縫部破 片	良好	内面 7.53H 4.4 壁 離	長い・石英 等の小礫多 い、異物微 量	21.3	
	02	—	縄文土器	筒状	—	—	(2.6)	平行走縫による文様が施されるが基部は 様かに変形抵触文が施されている。	浮島式	側面破片	良好	内面 3Y85/6 内面 3M85/6 剥 離	白色粒子や 多い、黑色粒子・ 異物少量	17.2	
SK32	03	—	縄文土器	筒状	—	—	—	付加条第1種LR縄文。	伊武式	側面破片	良好	内面 10Y85/1 壁 外面 3Y85/6 剥 離	織縫多量、 白色粒子・ 異物微量	13.7	

## 第3項 ピット

## P14 (第30図、第10表、遺構図版12、遺物図版3)

K18 グリッドにおいて検出された。P13に北側を削平される。規模は長軸49cm、短軸34cmを測り、梢円形を呈する。深さは確認面より11cmを測る。覆土はロームブロックを多量含む暗褐色土である。

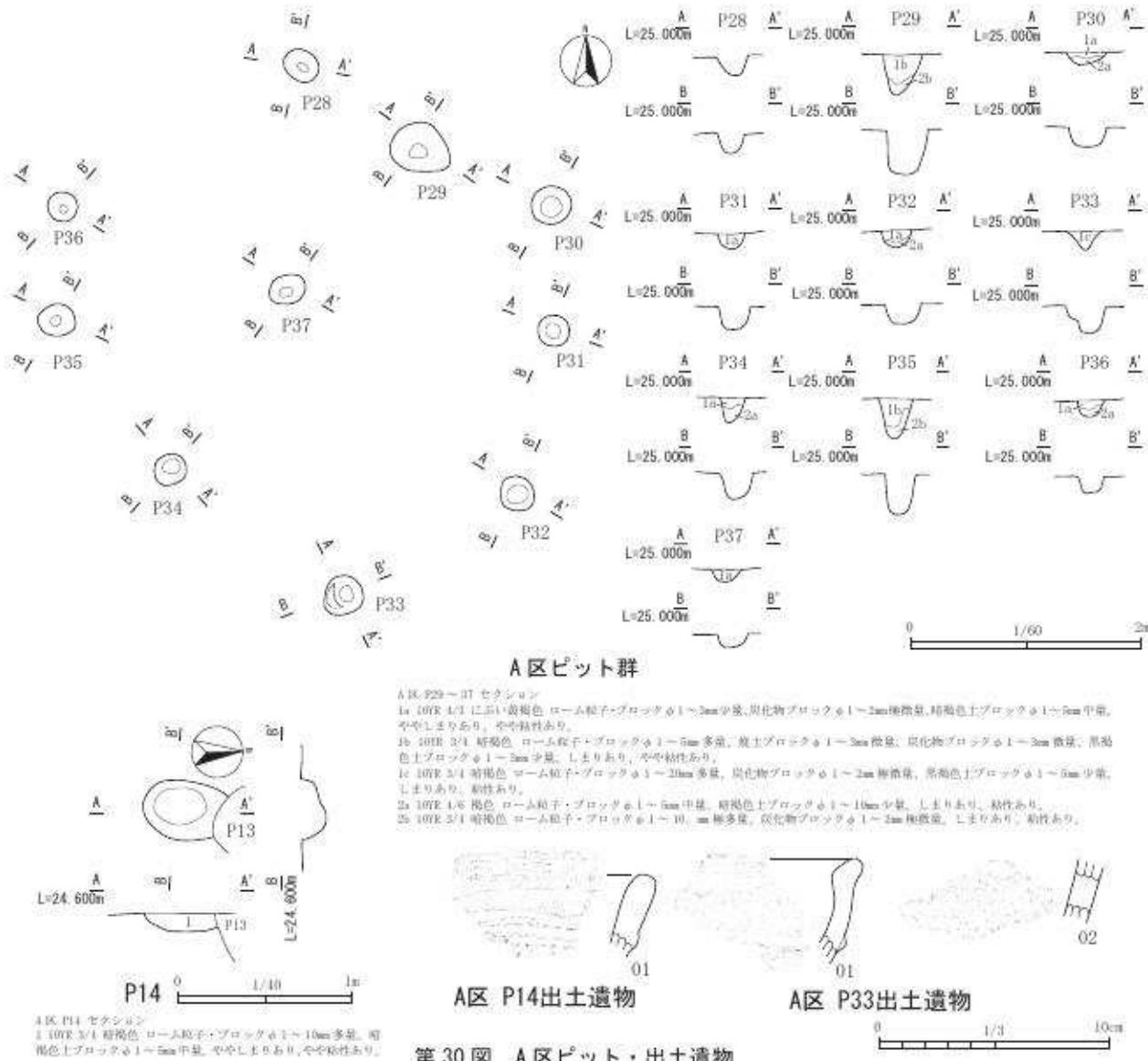
遺物は縄文土器を中心に55.4g出土した。掲載遺物は1点である。

## ピット群 (P28～37) (第30図、第10表、遺構図版8、遺物図版3)

K18・L17・18・M17・18グリッドにおいて検出された。SI02・07と近接する。10基の柱穴が梢円形状に並び、1軒の住居跡に伴う柱列である可能性がある。柱列内に硬化面は確認されなかった。梢円形の柱列は長軸約4.93m、短軸3.94mの範囲に確認され、中央のP37以外の柱穴の間隔は100cmから190cmほどであり、P28からP36の間隔のみ2mを超える2.42mを測る。覆土は単層ないし2層であり、P33のみ他の柱穴との類似性のない覆土に覆われる。

また、北側にP38・39が近在するが、これらの柱穴とは覆土の状況が異なる。

それぞれの柱穴の規模はP28が最大幅32cm×深さ18cm、P29は最大幅53cm×深さ43cm、P30は最大幅34cm×深さ18cm、P31は最大幅47cm×深さ21cm、P32は最大幅32cm×深さ21cm、P33は最大幅36cm×深さ25cm、P34は最大幅31cm×深さ23cm、P35は最大幅33cm×深さ35cm、P36は最大幅27cm×深さ17cm、P37は最大幅33cm×深さ12cmである。



第30図 A区ピット・出土遺物

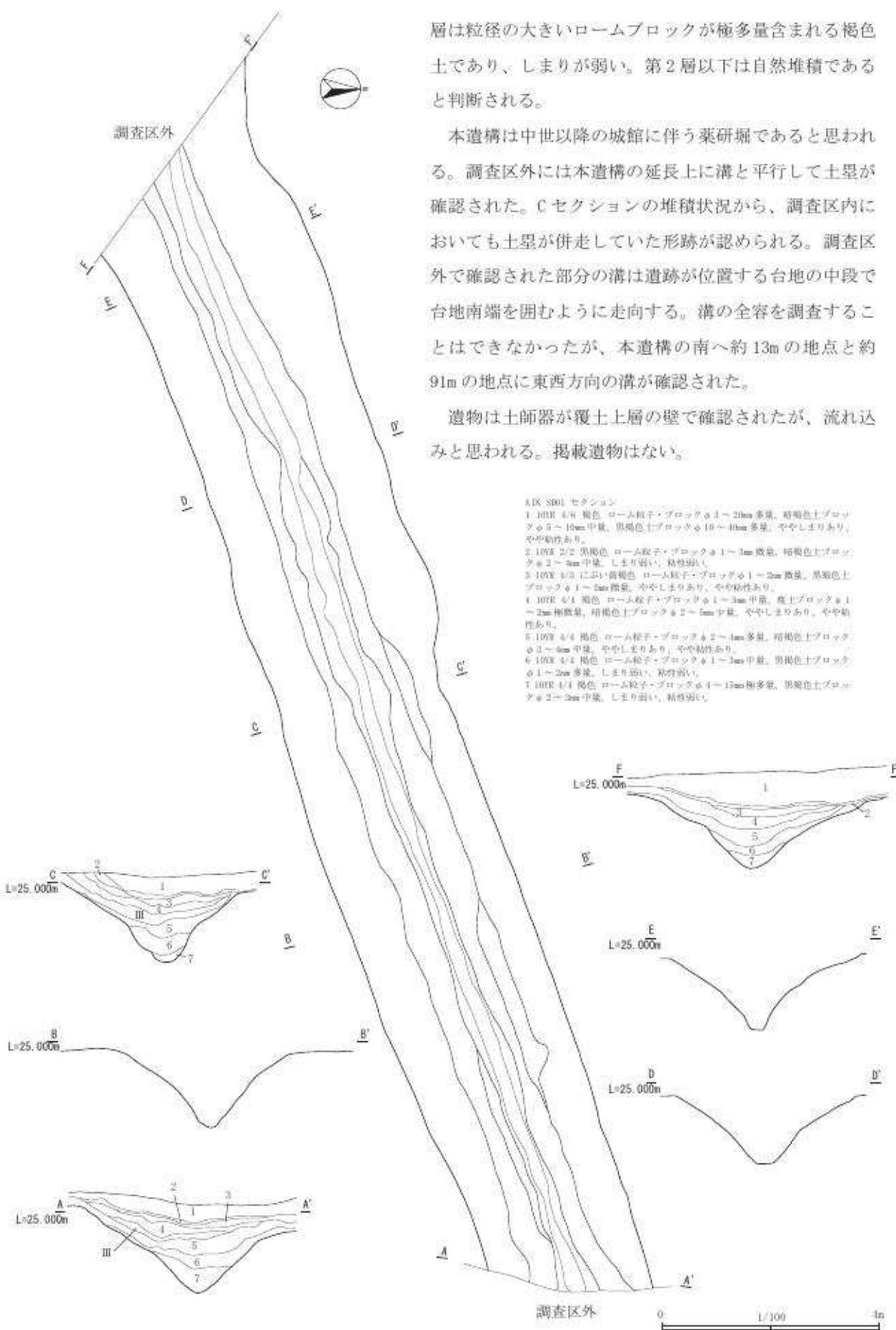
第10表 A区ピット出土遺物観察表

遺物番号	形状	種類	必須	口径	底径	高さ	断形・文様・模形	型式	保存	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
P14 01	一括	繩文土器	深井	—	—	—	菱形瓦形文施文。	浮島II式 内縁	良好	内側: 5YR5/6 外側: 5YR6/6 赤褐色	褐色粒子・ スコリア混 合胎土	22.4		
P33 01	一括	繩文土器	深井	—	—	—	輪廓三折沿の施部により窓状の区画。	阿玉台I 式 片	良好	内側面 7.5YR7/4に 高い緑	青灰色や 少多い、 黑色粒子や 少多い。	22.5		
	02	一括	繩文土器	深井	—	—	外面へラケスリ、内面ナマ。	矢先端式 網目破片	良好	内側面 5YR6/6明赤 緑	灰白・石英 等小礫多 い、黑色胎 土	21.1		

## 第4項 溝

SD01 (第31図、遺構図版13・14)

K・L・M17・18グリッドにおいて確認された。確認された規模は最大幅3.51m、長さ24.97mを測る。深さは最深部で確認面より149cmを測る。断面形はおおむねV字状であるが、底部の幅30cmほどの範囲は平坦であり、底部より上方へ40～50cmほど範囲の傾斜面はやや勾配が急である。覆土は8層に分層され、第6層の真上はIII層である。第2層の黒褐色土はしまりが弱く、第1層は粒径の大きいロームブロックを多量含む暗褐色土である。第1層は盛土であり、第2層は盛土がされた時点の腐葉土層である。最下層である第7



第31図 A区 SD01

## 第2節 B区の遺構と遺物

B区は開発区域北側の調査区である。南北約120m、東西約100mの規模であり、4,800 m<sup>2</sup>が調査された。本調査区では住居跡40軒、土坑245基、ピット90基、溝3条が確認された。

### 第1項 住居跡

#### SI01 (第33～35図、第11表、遺構図版15、遺物図版3)

K10・11グリッドに位置する。規模は南北5.0m×東西4.85mであり、平面形は主軸方向に幾分長い長方形を呈する。主軸方向はN-22°-Wとなる。深さは深い所で確認面から約48cmを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、残存状態は良好である。覆土は10層に分層され人為堆積を呈す。

付帯施設としてカマド及び貯蔵穴1基、柱穴6基、周溝、間仕切り溝が確認されている。

カマドは北側壁面中央部を30cm掘り込んで構築している。確認される規模は全長135cm、最大幅120cm、床面からの高さ24cmを測る。天井部は崩落しており、第4層及び第5層・第6層が構築材であったと考えられる。袖部は暗褐色細砂を極多量含む暗褐色土を積み上げて構築され、住居跡壁面よりほぼ直角に左右並走する。左袖は基部で最大幅50cm、奥行き79cm、右袖は最大で基部幅35cm、奥行き88cmを測る。火袋部の大きさは最大で幅55cmである。カマドの基礎部には裏込めは存在せず、火床部はローム土が焼土化している。残存する煙道の長さは約40cm、上昇角は45°であり、やや内湾する。

貯蔵穴は、カマドの右側、北壁より南へ約0.18m、東壁より西へ約0.35mに位置する。平面形は東西方向に長軸となるほぼ長方形を呈し、長軸93cm×短軸73cm×深さ46cmの鍋底状断面を呈す。覆土はロームブロックを含む暗褐色土で3層に分層された。

柱穴は主柱穴が4基、側柱穴1基、出入り口に伴うと思われるピット1基が検出されている。P1は、柱穴の中心で北壁より約1.2m、東壁より約1.2mを測り、P2は中心で南壁より約1.3m、東壁より約1.3mを測る。カマドを中心とする主軸方向線の西側にはほぼ対比する形でP3及びP4が存在する。P5はP4の側柱穴と思われ、柱穴の中心でP4の北西側約0.4m部に存在する。P6の中心は、住居跡の主軸方向の中心線よりやや東側の南壁より約0.7m部に位置する。規模はP1が最大幅35cm×深さ40cm、P2は最大幅56cm×深さ70cm、P3は最大幅48cm×深さ70cm、P4は最大幅32cm×深さ63cm、P5は最大幅32cm×深さ12cm、P6は最大幅45cm×深さ36cmを測る。それぞれ底部に硬化面が確認されている。堆積土中にP1及びP6には柱痕が確認される。P2・3・4の覆土は3層に、P1・6は6層に分層された。

周溝はカマド左側袖基部より西へ0.25m部からカマド右側袖基部より東へ1.17m部まで壁面直下を一巡する形で検出される。規模は最大で幅22cm×深さ12cmを測り、断面形はU字状である。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土である。矢板等の痕跡は認められていない。

間仕切り溝は、P1より東壁に向かって約0.1m部より東壁に向かって走向するものと、西壁より直角にP3に向かって走向する2条が検出されている。規模はP1の東側に存在するものが、長さ45cm×最大幅16cm×深さ4cm、P3の西側に存在するものが長さ73cm×最大幅18cm×深さ3cmを測る。断面形は概ねU字状である。覆土は周溝よりやや小さいロームブロックを多く含む暗褐色土である。

P6の西側部に南壁にほぼ並走する溝が確認されている。規模は長さ60cm×最大幅14cm×深さ6cmを測る。覆土は周溝よりやや小さいロームブロックを含む暗褐色土で、断面形はほぼU字状である。溝全面が硬化している。出入り口施設に伴うものと想定される。

床面はほぼ全面が硬化している。特にカマドの南側から住居跡中央部が顕著であり、約3cmと比較的厚い。

住居跡南東部及び西側中央部に被熱痕が認められ、床面直上から炭化材が検出されていることから、焼失及び焼却された住居跡と想定される。

床面下に掘方が存在する。やや大きめのロームブロックを中量含む暗褐色土を掘り進めると幾分の起伏がある掘方面が確認された。深さは床面より約0.1mを測る。床下より柱穴及び土坑は確認されていない。

遺物は土師器を中心にして12327.4g出土した。掲載遺物は15点である。出入口ピット(P6)の右脇ではほぼ完

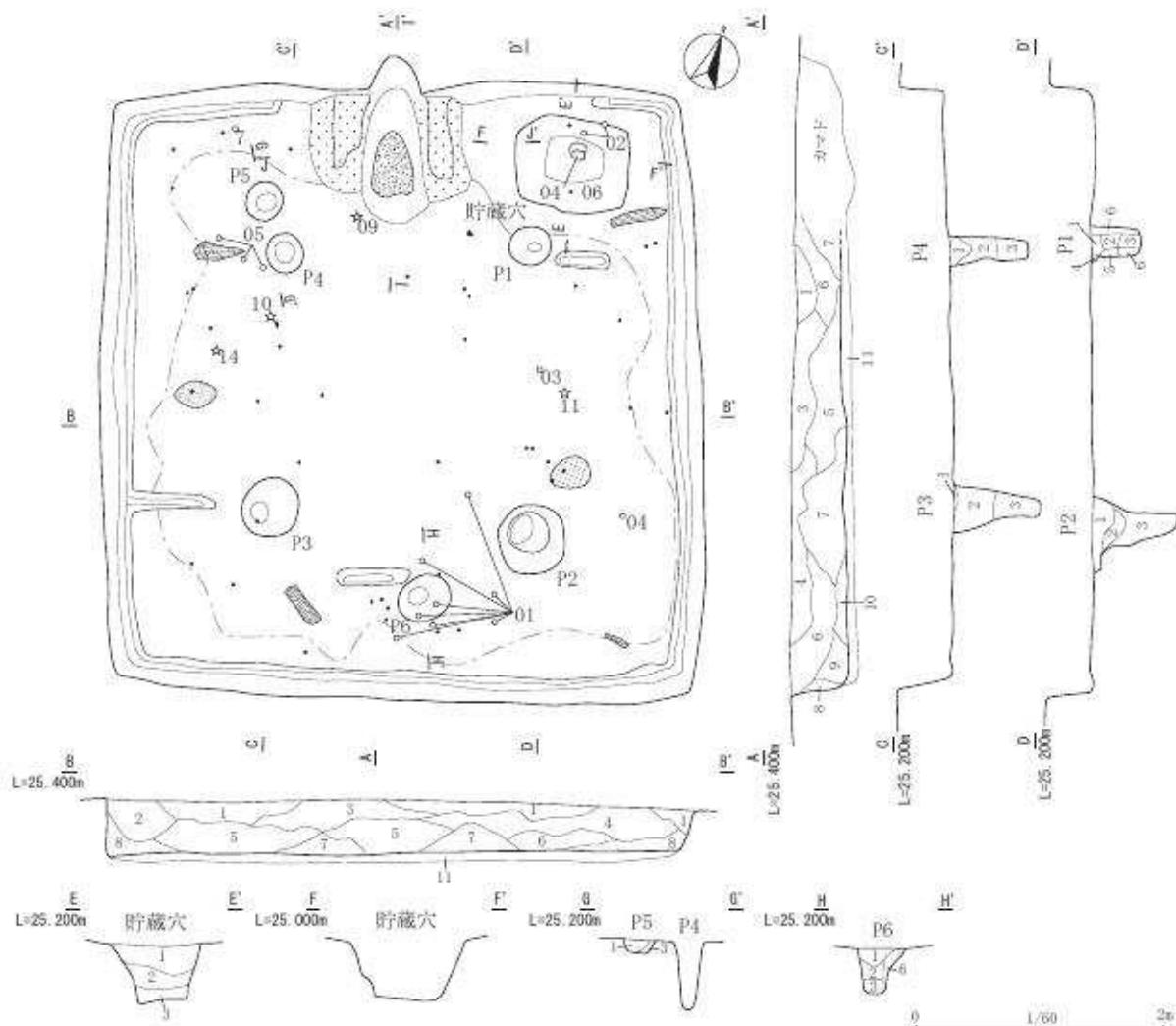


図 B区 SI01-セクション

1. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~2mm多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm少量、黒褐色土ブロックφ5~20mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
2. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~2mm多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm極微量、黒褐色土ブロックφ3~10mm極多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
3. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~5mm中量。黒褐色土ブロックφ10~20mm中量、ややしまりあり。やや粘性あり。
4. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~2mm極多量。黒褐色土ブロックφ3~10mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
5. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~2mm多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm極微量、黒褐色土ブロックφ10~20mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
6. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~2mm極多量。黒褐色土ブロックφ3~10mm極多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
7. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~5mm極多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm極微量、炭化物ブロックφ1~1mm極微量、黒褐色土ブロックφ3~10mm極多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
8. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~10mm極多量。黒褐色土ブロックφ10~20mm中量、ややしまりあり。やや粘性あり。
9. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~10mm極多量。黒褐色土ブロックφ3~10mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
10. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量。黒褐色土ブロックφ1~2mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
11. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~20mm多量。黒褐色土ブロックφ10~20mm中量。上土あり。やや粘性あり。

図 B区 SI01内 PL-6セクション

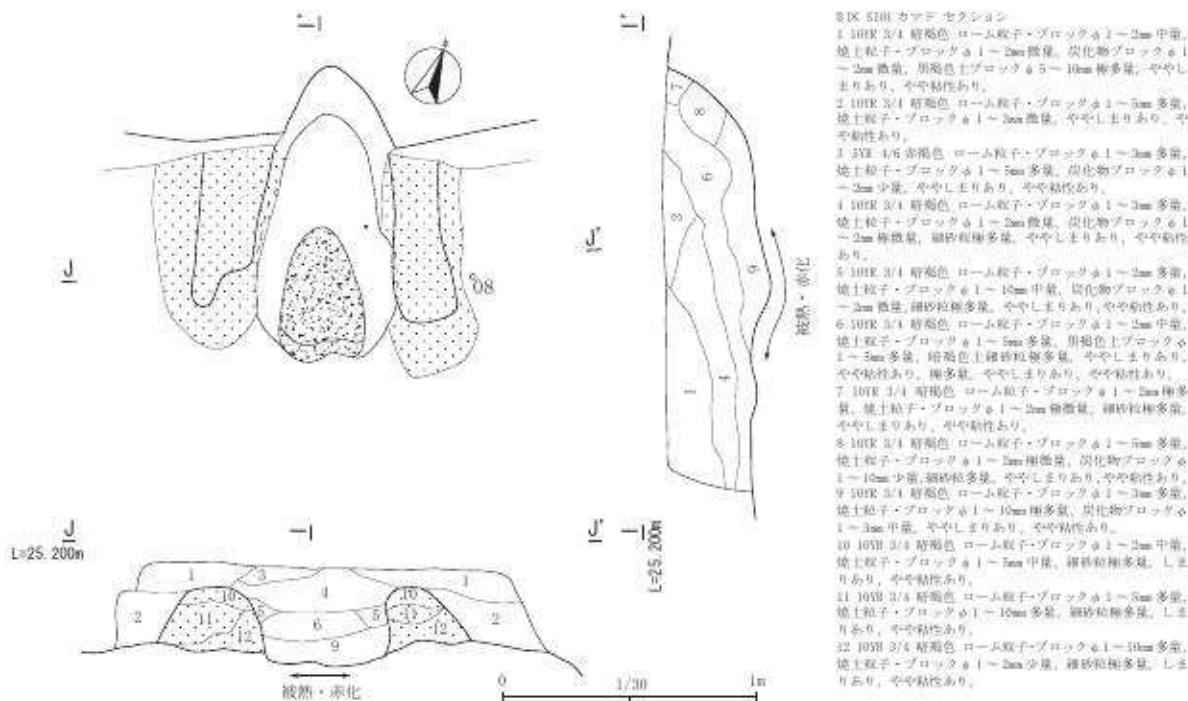
1. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量。炭化物ブロックφ1~3mm微量。ややしまりあり。やや粘性あり。
2. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~10mm極多量。炭化物ブロックφ1~3mm中量。ややしまりあり。やや粘性あり。
3. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~20mm多量。ややE0あり。やや粘性あり。
4. 10YR 4/6 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm多量。炭化物ブロックφ1~2mm極微量。しまり強い。やや粘性あり。
5. 10YR 4/6 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ1~30mm極多量。結晶化土ブロックφ10~20mm多量。しまり強い。やや粘性あり。
6. 10YR 4/6 黄褐色 ローム粒子・ブロックφ10~40mm極多量。黒褐色土ブロックφ10~20mm中量。しまりあり。やや粘性あり。

図 B区 SI01内 貯藏穴セクション

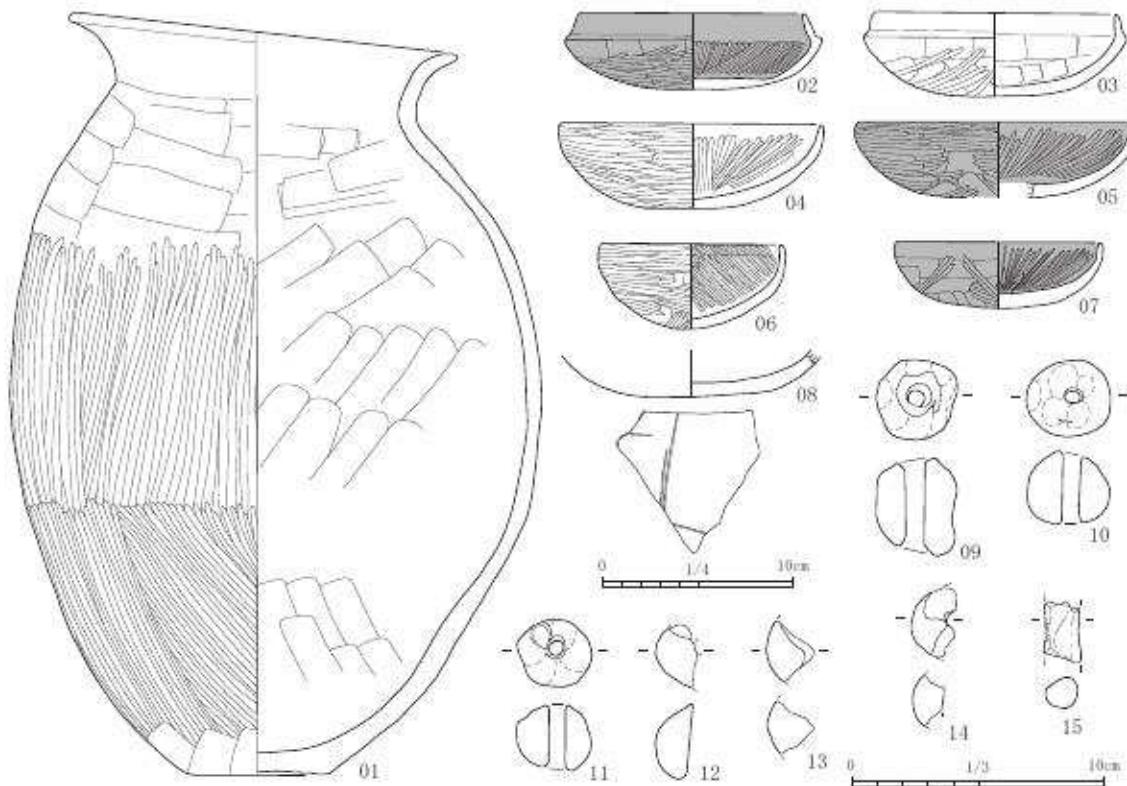
1. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量。燒土粒子・ブロックφ1~10mm極微量。炭化物ブロックφ1~2mm極微量。しまり強い。やや粘性あり。
2. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量。炭化物ブロックφ1~2mm微量。ややしまりあり。やや粘性あり。
3. 10YR 3/4 布褐土 ローム粒子・ブロックφ1~10mm極多量。炭化物ブロックφ1~10mm極微量。しまり強い。やや粘性あり。

第33図 B区 SI01

形の甕（01）がやや散乱した状態で出土し、貯蔵穴の底面では壺（04・06）が重なった状態で検出された。また、壺（02）が貯蔵穴埋没後の床面上付近で出土したほかは、土玉を含め土師器破片が覆土中に散在する。



第34図 B区 SI01 カマド



第35図 B区 SI01 出土遺物

第11表 B区SI01出土遺物観察表

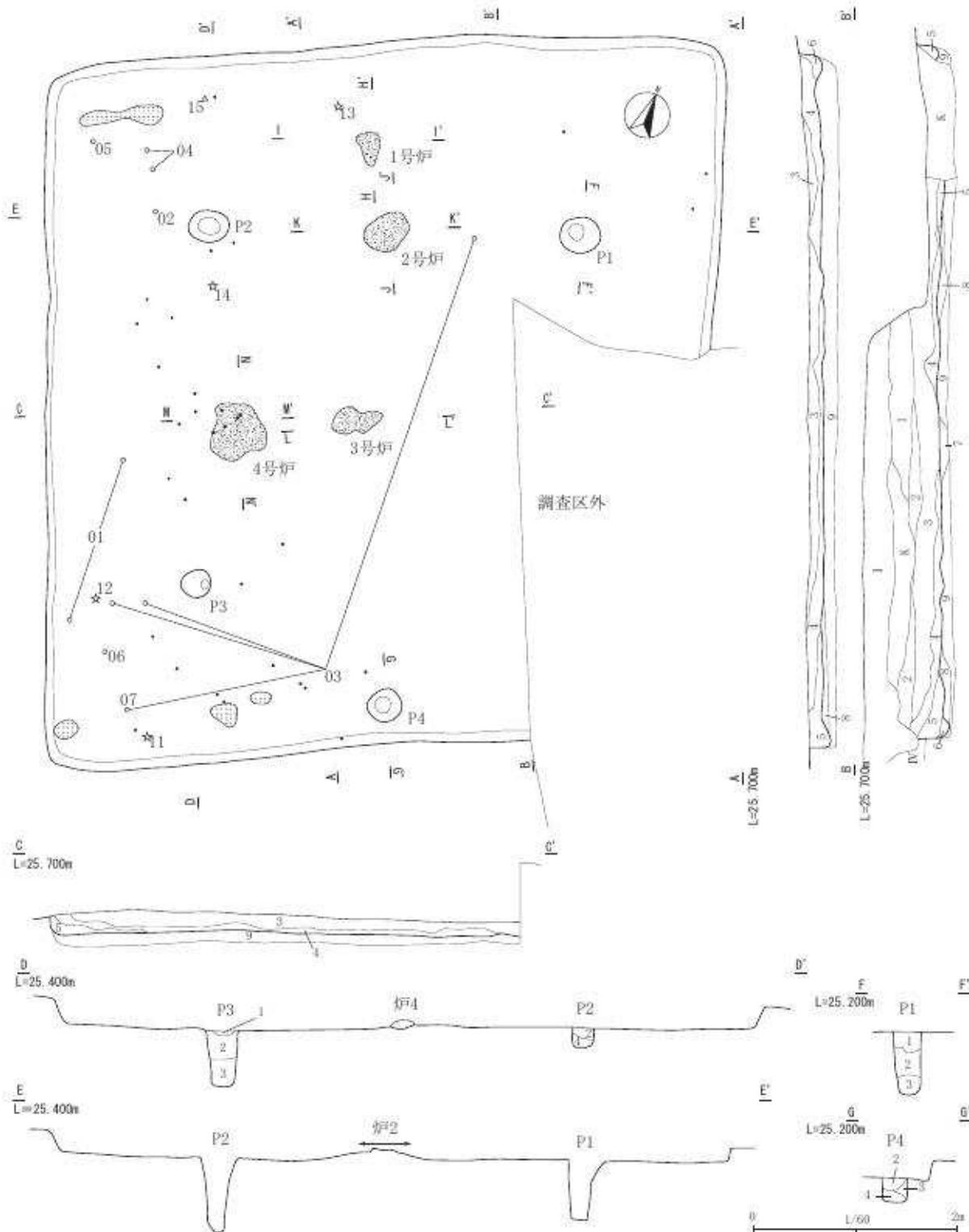
遺物番号	江記	種類	基種	口径	底径	器高	残存	器形の特徴	形状の特徴	底床	色調	動土	重量(g)	備考
01 N018+19+20+21+22+23+25+34+下層	土師器	甕	29.3	7.4	19.6	以降完形	底部は丸底、身込で縁やかに内湾し上位に明瞭な棱を有した後強く内傾する。	口縁は内外面共に横ナギ。脚部外側はミガキ。下端はヘラケズリ。上位及び底部はナガ。内面はナギ。上位にはヘラナギが施されている。	良好 二次焼成 あり	内窓 10W6/8 外窓 10W5/5 内窓・外窓	長石・石英等 や砂粒つぶ 含む少量	-3164.0		
02 N061+N062	土師器	甕	11.8	丸底	3.9	以降完形	底部は丸底。身込で縁やかに内湾し上位に明瞭な棱を有した後強く内傾する。	口縁は内外面共に横ナギ。体部外側はヘラケズリ後でサナギ。内面はサナギ。	良好	内窓 10W6/4 にみる黄褐色 外窓 10W6/2 内窓・外窓	白色粒子・藍 緑少量、スコ リア微量	354.2	内外面黒色 焼成	
03 N09+上層+下層	土師器	甕	12.7	丸底	4.4	1/21 次 推	底部は丸底。身込で縁やかに内湾し上位に明瞭な棱を有した後強く内傾する。	口縁は内外面共に横ナギ。脚部外側はヘラケズリ後でサナギ。内面はサナギ。	良好 二次焼成 あり	内窓 7.3W5/6時 外窓 10W6/4 内窓・外窓	炭粒多い。白 色粒子少額、ス コニア・黒 色粒子微量	81.1		
04 N062+撲 方	土師器	甕	13.9	丸底	4.3	1/22 完形	底部は丸底。身込で縁やかに内湾し口縁で直立底部になる。	体部外側は横ナギ。内面は横支状のミガキ。	良好	内窓 7.3W6/5推 外窓 7.3W5/4に みる	黄緑・白色粒 子・白色針狀物質 微量。黑色粒子・スコ リア微量	-126.4	部分の付着 多い。	
05 N098+N097+N098	土師器	甕	(14.0)	丸底	4.6	1/2	底部は丸底。身込で縁やかに内湾し口縁で直立底部になる。	体部外側はヘラケズリ後でサナギ。内面は暗焼成のミガキ。	良好	内窓 10W6/2 外窓 10W5/2 内窓	淡緑・白色粒 子少額、スコ ニア微量	86.4	内外面黒色 焼成	
06 N158-N161	土師器	甕	19.6	丸底	4.5	1/3	小形である。底部は丸底。外縁は内面に口縁に衝突する。	口縁は内外面共に横ナギ。脚部外側はヘラケズリ後でサナギ。内面は丁寧なミガキ。	良好 二次焼成 あり	内窓 10W6/4 にみる黄褐色 外窓 10W5/4 内窓・外窓	炭粒多い。白 色粒子少額、ス コニア微量	63.6		
07 N059	土師器	甕	(10.3)	丸底	3.5	1/4	底部は丸底。身込で縁やかに内湾した後直立する。小形で底く底面は錐型である。	口縁は内外面共に横ナギ。体部外側はヘラケズリ後多角的なミガキ。内面はヘラケズリ後強筋文状のミガキが施されている。	良好	内窓 10W5/2 外窓 10W6/3 内窓・外窓	青緑・白色粒 子やや多い。 スコニア微量	61.0	内外面黒色 焼成	
08 カマド内 N01	土師器	甕	—	丸底	2.8	底一休部 破片	底部は丸底。身込で縁やかに内湾する。	体部外側ヘラケズリ。内面ナギ。	良好	内窓 10W6/4に みる黄褐色	細砂多い。白 色粒子・黑色 粒子・雲母多 い。スコニア 微量	49.7	底部「H」カ メ	
09 N01E	土製品	土玉	縦 1.9	横	3.2	孔径 0.7	孔 穴	表面横円形を呈する。孔は中央に穿孔される。	手・指による範形。	良好	7.3W6/5推	白色粒子や 多い。雲母・ 黑色粒子少 量、白色針狀 物質微量	36.7	
10 N065	土製品	土玉	縦 2.8	横	3.4	孔径 0.7	完形	ほぼ球形。孔は中央に穿孔される。	手・指による範形。	良好	7.3W6/5時	白色粒子や 多い。雲母少 量	37.6	
11 N068	土製品	土玉	縦 3.6	横	2.95	孔径 0.9	完形	ほぼ球形。孔は偏在する。	手・指による範形。	良好	7.3W6/6推	黑色粒子・白 色粒子や 目立つ。白色 粒子・雲母少 量、白色針狀 物質微量	19.7	
12 下層	土製品	土玉	縦 3.9	横	1.6	厚さ —	1/4	底部が。	手・指による範形。	良好	10W6/6標	黑色粒子・白 色粒子微量	9.4	
13 中層	土製品	土玉	縦 3.1	横	1.9	孔径 —	1/7	底部が。	手・指による範形。	良好	10W6/6標	黑色粒子・白 色粒子・雲母 微量	7.2	
14 N061	土製品	土玉	縦 2.8	横	1.9	厚さ —	1/5	底部が。	手・指による範形。	良好	7.3W6/6時	黑色粒子・白 色粒子・白色 針狀物質微量	8.8	
15 中層	土製品	棒状	縦 (2.3)	横	1.5	厚さ 1.2	断片	横状を呈し、両端を折損する。断片はやや扁平な棒円形を呈する。	断片は溶かれる。	良好	7.3W7/5推	白色粒子・黑 色粒子やや多 い。雲母スコ ニア微量	6.5	

SI02 (第36～38図、第12・13表、遺構図版16、遺物図版3)

K9・10グリッドに位置する。南東部は調査区外である。規模は南北6.97m×東西6.64mであり、平面形は主軸方向がやや長い長方形を呈する。主軸方向はN-23°-Wである。深さは確認面より38cmを測る。調査区境界の壁面にはI層の直下に本住居跡の覆土が確認され、I層からの掘り込みは57cmを測る。残存部の壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は暗褐色土を基調とした6層に分層され、第7～9層は掘方である。第1・3・4・7・8層からは焼土ブロックが検出された。本住居の覆土は堆積状況から自然堆積と判断される。

付帯施設は炉、柱穴が確認されている。

炉跡は4基確認された。1号炉は北側壁より58cmの地点に位置する。東西の壁までの距離はほぼ均等である。炉の最大径は33cmを測る。2号炉は1号炉の南に近接し、北側壁より148cmの地点に位置する。最大径は44cmである。3号炉は西側壁より279cm、南側壁より305cmの地点に位置する。最大径は54cmである。



## B区 SI02 セグメント

- 1 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~2mm中量、礫上粒子・ブロック約1~2mm多量、不やしまりあり。やや粘性あり。
- 2 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 3 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、礫上粒子・ブロック約1~2mm少量、炭化物ブロック約1~2mm多量、不やしまりあり、やや粘性なし。
- 4 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、礫上粒子・ブロック約1~2mm少量、炭化物ブロック約1~2mm多量、不やしまりあり。やや粘性あり。
- 5 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、不やしまりあり。やや粘性あり。
- 6 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、炭化物ブロック約1~2mm少量、不やしまりあり。やや粘性あり。
- 7 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、礫上粒子・ブロック約1~2mm多量、炭化物ブロック約1~2mm少量、不やしまりあり。やや粘性あり。
- 8 L0YR 4/5 黄色 ローム粒子・ブロック約1~10mm多量、礫上粒子・ブロック約1~2mm少量、不やしまりあり。やや粘性あり。
- 9 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~20mm多量、結晶色上部ブロック約5~20mm少量、七土りあり。やや粘性あり。

## B区 SI02 内 P1~4 セグメント

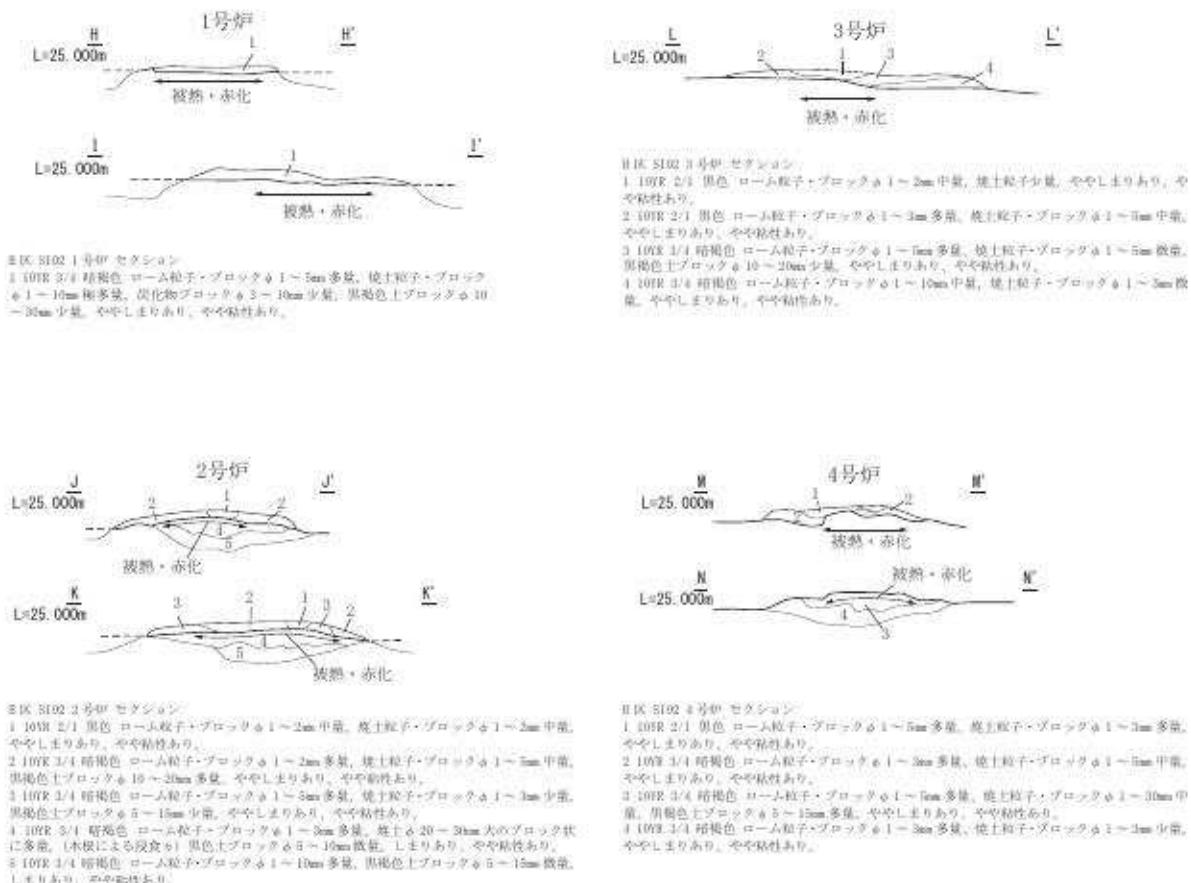
- 1 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~5mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
- 2 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~15mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
- 3 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~20mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。
- 4 L0YR 3/4 結晶色 ローム粒子・ブロック約1~30mm多量、しまりあり。やや粘性あり。

第36図 B区 SI02

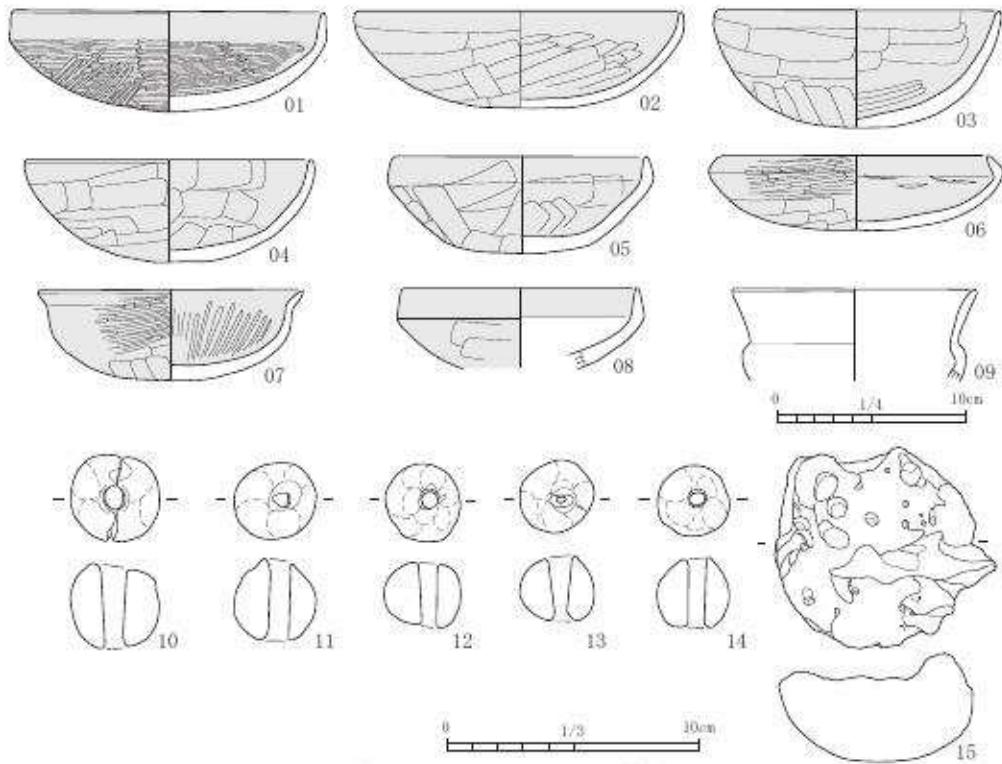
4号炉は3号炉の西側に隣接し、西側壁までは161cmを測る。北側壁に近い1・2号炉は東西の壁との距離が、3・4号炉は南北の壁との距離がほぼ均等である。4基のうち2・4号炉は火床面がしっかりと形成されている。

柱穴は主柱穴3基(P1～3)、出入り口に伴うと思われるピット1基(P4)が検出された。北東隅付近のP1と北西のP2、P2と南西のP3の間隔は約350cmであり、ほぼ正方形に配列された主柱列が想定される。P4は南側壁から20cmの地点で確認された。西側の壁までは316cmを測り、南北軸上に位置すると判断される。それぞれの規模はP1が最大幅40cm×深さ63cm、P2は最大幅42cm×深さ75cm、P3は最大幅28cm×深さ57cm、P4は最大幅34cm×深さ25cmを測る。柱穴の覆土は暗褐色土を主体とし、P4は粒径の大きいロームブロックを含み、しまりがある。

遺物は土師器、鉄滓を中心に7841.0g出土した。掲載遺物は15点である。住居跡の西側から多く検出され、炉跡が西側に偏在することと関連性があるだろうか。遺物はいずれも残存する深度が浅かつたため、床に近い高度で検出されている。覆土第3層下部を中心に土師器破片・土玉が散在するが、西と南の隅部付近にはほぼ完形の坏(01～07)がまとまる傾向にある。塊形滓は北西壁付近、覆土第4層出土である。また、鍛造剥片や羽口など、鍛治工房に関する、遺物は確認されていない。



第37図 B区 SI02炉



第38図 B区SI02出土遺物

第12表 B区SI02出土遺物観察表(1)

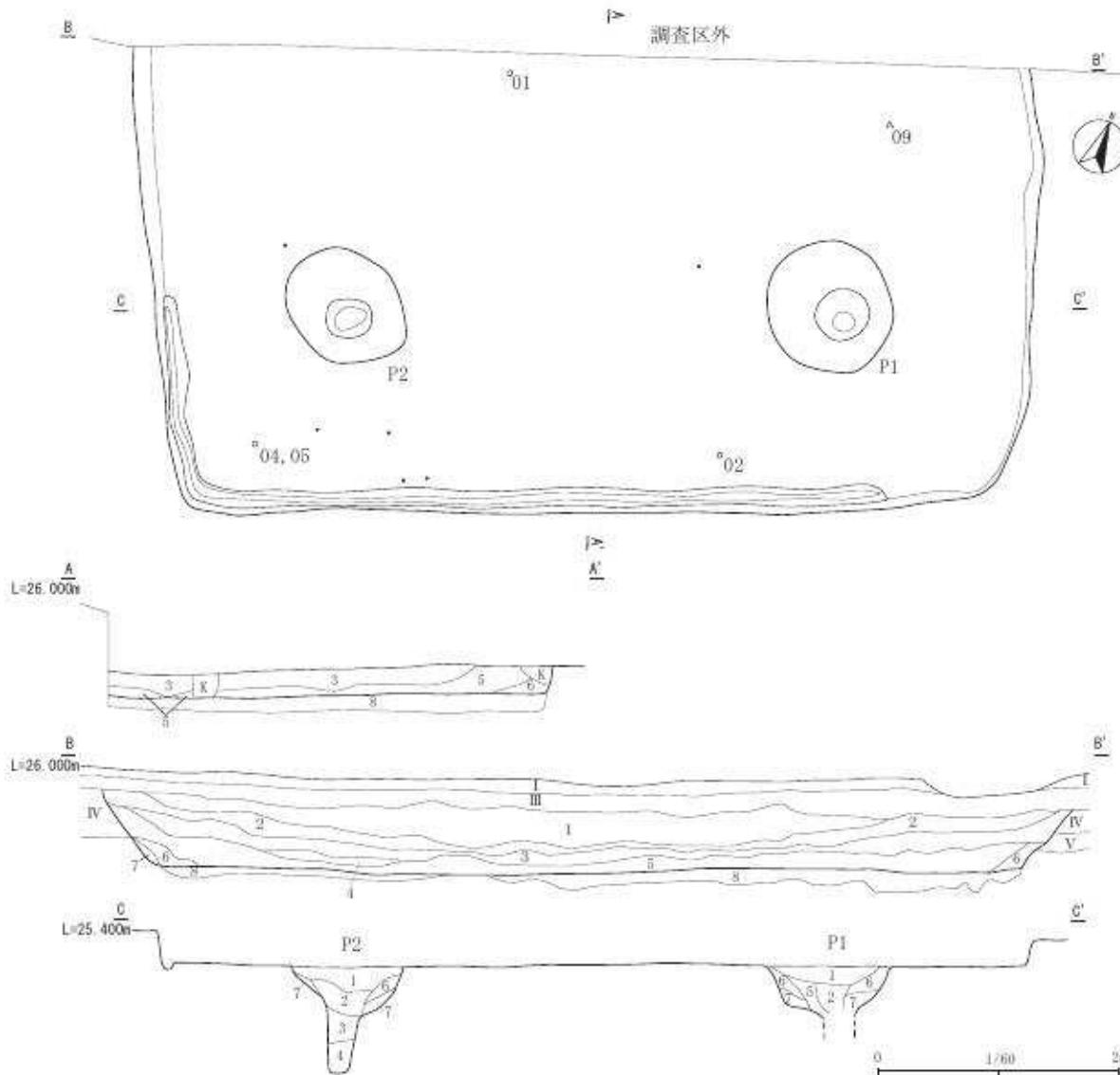
遺物番号	江記	種類	漆種	口徑	底径	高さ	保存	絶形の特徴	整形の特徴	成因	色調	胎土	重量(g)	備考
01 N011- N011+上 層・下層	土鍋器	灰	16.3	丸底	5.3	5.6		底部は丸底。身込で腰やかに内湾し、上辺に突起を有した複数口縁は直立する。口縁は剥落、やや大振りで底辺は滑潤。	口縁内外面共に横ナギ。体部内外共にミガキ。	良好	内面 2.5BS6/8赤褐色 外面 2.5BS6/6明るい黒	白色粒子やや多い、黒色粒子・雲母少量混入	314.1	内外直立形
02 N032+上 層	土鍋器	灰	17.0	丸底	5.1	口縁一部 欠損		底部は丸底。身込で腰やかに内湾し口縁に直立する。やや大振りである。	口縁内外面共に横ナギ。体部外面はヘラケズリ、内面はヘリナギ。	良好 二次焼成 あり	内面 2.5BS6/8赤褐色 外面 2.5BS6/6明るい黒	白色粒子・黑色粒子・雲母少 量、白色斜状物質微量混入	360.8	内外直立形
N010- N010+ N016+ N029+上 層・下 層	土鍋器	灰	14.8	丸底	5.2	5.6		底部は丸底。身込で腰やかに内湾し口縁に直立する。深さがある。	口縁は内外面共に横ナギ。体部外面はヘラケズリ、内面はナギ。下辺はミガキ。	良好	内面 2.5BS6/8赤褐色 外面 2.5BS6/6明るい黒	白色粒子・黑色粒子・雲母やや多い、白色斜状物質・スコリア微量混入	235.7	内外直立形
N033+ N034	土鍋器	灰	14.9	丸底	5.4	2/3		底部は丸底。身込で腰やかに内湾し口縁に直立する。	口縁は内外面共に横ナギ。基部外縁はヘラケズリ、内面はナギ。	良好	内外面 2.5BS6/8明るい黒	小擦・白色粒子・雲母少量、白色斜状物質微量混入	228.2	内外直立形
05 N035+上 層	土鍋器	灰	13.3	丸底	5.1	1/2		底部は半底気味の丸底。体部は直線的で腰やかで内傾する。	口縁は内外面共に横ナギ。基部外縁はヘラケズリで内傾する。	良好	内外面 2.5BS6/8明るい黒	白色粒子・雲母・黒色粒子少量、白色斜状物質微量混入	170.9	内外直立形
06 N032-土 鍋	土鍋器	灰	14.4	丸底	3.9	口縁欠損		底部は丸底。身込で腰やかに内湾した後口縁は強く内傾する。	口縁は内外面共に横ナギ。体部外縁はガラス状溶け付近へヘラケズリ、内面唇部部分ミガキ。体部はヘラナギが付いている。	良好 二次焼成 あり	内面 2.5BS6/8明るい黒 外面 2.5BS6/8暗	雲母・男性粒子やや多い、白色粒子少量、白色斜状物質微量混入	277.2	内外直立形
07 N010+下 層	土鍋器	灰	13.8	丸底	4.7	底一口縁 部1/4		底部は丸底。身込で腰やかに内湾し口縁で外傾する。	口縁は内外面共に横ナギ。体部外縁ミガキ後底辺付近へヘラケズリ。内面は研磨状のミガキ。	良好	内外面 2.5BS6/8明るい黒	白色粒子・黑色粒子多 い、雲母少量	87.6	内外直立形
08 上層・下 層	土鍋器	灰	12.3	-	-	4.15	口縁一部 部1/4	底部は丸底。身込は直線的で腰やかで内傾気味に立ち。	口縁は内外面共に横ナギ。体部外縁はヘラケズリ、内面はナギ。	良好 二次焼成 あり	内面 2.5BS6/8明るい黒 外面 2.5BS6/8暗	白色粒子やや多い、雲母少 量	27.3	外観及び内 側面焼成形
09 中層	土鍋器	灰	12.7	-	-	4.25	口縁部破 片	底部はやや張り、口縁は僅かに外反気味で傾く。	口縁は内外面共に横ナギ。脚部は剥落の為不明。	不良 二次焼成 あり	内面 10R1/2次焼 成 外面 2.5BS6/8明るい 黒	右英紀(小 穂)・白色粒 子・雲母微量 混入	26.2	
10 上層・下 層	土製品	土玉	3.4	楕円	3.6	3.6	ほぼ完形	ほぼ球形。孔は中央を貫通する。	手・指による整形。	良好 二次焼成 あり	10R8/4に近 い黄褐色	白色粒子やや 多い、黒色粒 子・雲母少量	38.3	
11 N08	土製品	土玉	3.2	楕円	3.3	3.8	孔径 0.8	ほぼ球形。孔は中央を貫通する。	手・指による整形。	良好	10R8/6相 当	白色粒子・雲 母微量	29.0	
12 N014	土製品	土玉	2.9	楕円	2.9	孔径 0.7	光澤	ほぼ球形。孔はやや偏在する。	手・指による整形。	良好	10R8/6相 当	10R8/6相 当精良	23.0	
13 N039	土製品	土玉	2.7	楕円	3.0	孔径 0.9	光澤	ほぼ球形。孔は中央を貫通する。	手・指による整形。	良好	7.5BS6/6相 当	白色粒子・雲 母微量	21.7	

第13表 B区SI02出土遺物観察表(2)

遺物番号	形質	種類	埋積	口径	底径	高さ	残存	特徴の特徴	特徴の特徴	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
14	N029	土製品	土玉	横 2.8	横 2.9	高 0.7	完形	ほぼ原形、孔は少く偏在する。	手・指による整形。	良好	10186.6g	白色粒子少量、黑色粒子、鐵斑微量	23.8	
15	N035	鉢	灰系陶	横 7.1	横 7.7	厚さ 3.2	焼形	端部を失する急傾斜底に着いた鉢と判断される。表面は一部剥がれを有す。					237.2	

## SI03(第39・40図、第14表、遺構図版17、遺物図版4)

I・J10グリッドに位置する。北側は調査区外であり、南北軸の規模は不明である。南北は3.87mを確認、東西は7.53mを計る。平面形は方形を呈すると判断される。主軸方向はN-22°-Wである。深さは確認面より43cmを測る。また、調査区境界壁面に接しているため、IV層を切りIII層の直下に77cmの掘り込みが確認された。壁は約50°で外傾し、覆土は上層が黒褐色土、中層・下層が暗褐色土で7層に分層される。第8層



B区 SI03 断面・セクション

1. 10X 2/2 黒褐色 ローム粒子・ブロック約1-2mm多量、暗褐色土ブロック約1-10mm多量。し土りあり。やや粘性あり。
2. 10X 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック約1-5mm多量。し土りあり。やや粘性あり。
3. 10X 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック約1-5mm多量。燒土ブロック約1-5mm微量。し土りあり。やや粘性あり。
4. 10X 3/1 砂褐色 ローム粒子・ブロック約1-3mm極多量。其褐色ブロック約5-10mm極多量。し土りあり。やや粘性あり。
5. 10X 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック約1-5mm極多量。黑褐色土ブロック約5-20mm極多量。し土りあり。やや粘性あり。
6. 10X 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック約1-5mm極多量。ややし土りあり。やや粘性あり。
7. 10X 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック約1-10mm極多量。し土りなし。やや粘性あり。
8. 10X 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック約1-20mm極多量。ややし土りあり。やや粘性あり。

第39図 B区 SI03

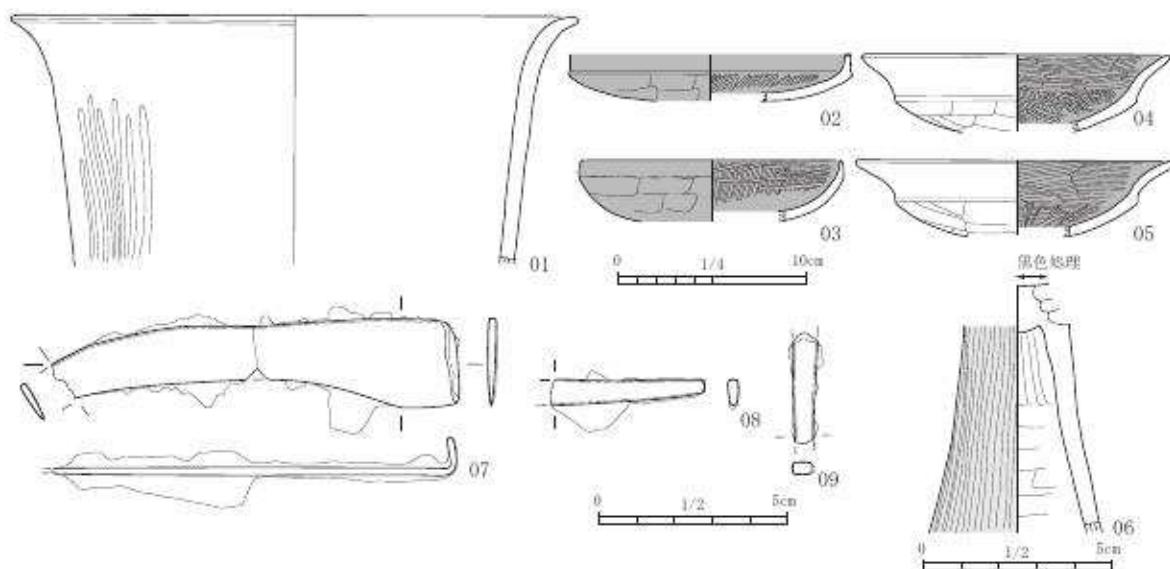
は掘方であり、炭化物ブロックを含む。堆積状況は自然堆積を示す。

付帯施設は柱穴、周溝が確認された。

柱穴は2基確認された。P1、P2ともに壁まで120cmほどの距離を測る。P1は最大幅113cm、P2は最大幅112cm×深さ87cmである。柱穴の覆土にはロームブロックが多く含まれる。

周溝は南西隅から南東の隅付近までの範囲で確認された。最大幅16cm×深さ8cmを測る。

遺物は土師器を中心とし7303.5g出土した。掲載遺物は9点である。鉄鎌が主柱穴P1で検出されたほか、覆土中から刀子と棒状鉄製品（鉄鎌茎あるいは箇被カ）が出土した。



第40図 B区 SI03 出土遺物

第14表 B区 SI03 出土遺物観察表

遺物番号	目記	種類	基盤	口径	底径	高さ	残存	断面の特徴	形状の特徴	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
01 N01	土師器	瓶	(30.0)	—	(13.1)	1/4	ハケツ形を呈するもの。腹壁上部は底盤的で口縁は外反する。	内外底共に剥落が著しいが、外面に撒かれたガサが確認される。	良好 二次焼成あり	内面 101R7/6 黄褐色 外面 101R7/7 に赤い斑塊	白色粒子・薄目や多い。	291.2		
02 N07	土師器	瓶	—	—	(2.5)	1/2	瓶詰は丸底カ。体部は緩やかではあるが直線的に開き、中径に明顯な棱を有した瓶口部は大きく外反する。	口縁は内外面部に稍ナギ。体部はヘクスリ、内面はミガキ。	良好	内外面 7.5W4/1 黄灰	白色粒子・少コラマ少量、質目やや多い。	52.1	内外面黑色處理	
03 中崩・下崩	土師器	瓶	(11.0)	—	3.5	1/2	瓶詰は丸底カ。体部は緩やかではあるが直線的に開き、口縁は直線気味に立つ。	口縁は内外面部に稍ナギ。体部はヘクスリ。	良好	内外面 101R7/5 黄褐色	白色粒子微細	15.8	内外面黑色處理	
04 N01・上崩・下崩・一柄	土師器	高杯	16.1	—	(4.1)	口縁～底 部 1/2欠損	上部は緩やかではあるが直線的に開き、中径に明顯な棱を有した瓶口部は大きく外反する。	外周口縁は横ナギ。体部はヘクスリ。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面 101R7/1 黒褐色 外面 101R7/6 に赤い斑塊	白色粒子・淡目少量	198.1	内部黑色處理	
05 N01・P1・上崩・下崩・一柄	土師器	高杯	(10.9)	—	(4.0)	1/2	上部は緩やかではあるが直線的に開き、中径に明显的な棱を有した瓶口部は大きく外反する。	外周口縁は横ナギ。体部はヘクスリ。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面 101R7/1 黑褐色 外面 101R6/3 に赤い斑塊	白色粒子・薄目少量	198.1	内部黑色處理	
06 上崩・中崩	土師器	高杯	—	—	(13.0)	1/2	直線的に開く。	外面はミガキ。内面はナゲ。	良好	内面 101R6/2 黄褐色 外面 101R6/6 黄褐色	白色粒子微細	136.6	外表面：杯部内外面黑色處理	
07 P1アツ	鉄製品	棒	鍔 (10.8)	幅 2.1	厚さ 0.2	万字先端	小形の鍔。先端部は欠損する。鋸跡は有刺波で僅に折り返しが見られる。背面は三角形を呈し刃部側					21.4		
08 上崩	鉄製品	刀子	鍔 (4.0)	幅 0.7	厚さ 0.3	米字破片	多面のみで、刃部は欠損する。閉路分不明。断面形は、下端のみや細くなる長楕円形。					3.5		
09 N09	鉄製品	不明	鍔 (2.8)	幅 0.8	厚さ 0.3	棒状の断片	鋸跡の裏手は危険部の可能性がある。					2.1		

## SI04・37 (第41～44図、第15～17表、遺構図版17・39・40、遺物図版4)

1・J11グリッドに位置する。重複する住居跡であり、SI37の拡張建て替えがSI04である。主軸方向はいずれもN-8°-Wである。

**SI04** 規模は長軸6.05m×短軸5.94mを測り、平面形は正方形を呈する。深さは確認面より26cmを測る。床はほぼ平坦であり、壁は約80°の傾斜で外傾する。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土であり、4層に分層される。第5層はしまりがあり、粒径の大きいロームブロックを含む掘方である。堆積状況は自然堆積を示す。

付帯施設はカマド、柱穴が確認された。

カマドは北側の壁の中央部を18cm掘り込んで構築される。天井部は残存せず、両袖の基部のみが確認された。規模は全長73cm、最大幅78cm、床面からの高さ18cmを測る。袖の構築材は第9～10層であると判断される。袖部は細砂粒を極多量含む暗褐色土を積み上げ構築される。住居跡壁面よりほぼ直角に並走し、左袖は基部で最大幅26cm、奥行き54cm、右袖は基部で最大幅47cm、奥行き56cmを測る。火袋部の大きさは最大で幅102cmである。

柱穴は主柱穴4基(P1～4)と出入り口に伴うと思われる柱穴1基(P5)が確認された。主柱穴はそれぞれ住居跡隅のほぼ対角線上に位置し、P1・4はSI37と共有する。主柱穴から住居跡隅までの距離は約180cmである。P5は南側の壁中央付近で確認された。南側壁より31cm、東側壁より237cmの地点に位置し、住居跡南北軸の中央からやや東に位置する。規模はP1が最大幅51cm×深さ18cm、P2は最大幅33cm×深さ34cm、P3は最大幅41cm×深さ32cm、P4は最大幅63cm×深さ40cm、P5は最大幅49cm×深さ26cmを測る。

遺物は土師器11927.3g、須恵器(坏小片)3.4g。土師器坏・鉢の完形品と破片が覆土第1層下部あるいは第2層上部を中心に、カマド左側にややまとまって検出された。掲載遺物は17点である。01の土師器甕は口縁部が北西隅、胴部から底部が北東隅付近で検出された。

**SI37** 規模は南北4.21m×東西4.07mを測り、平面形はほぼ正方形を呈する。深さは最深部で確認面より46cm、SI04の掘方より30cmを測る。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層される。ロームブロックを多く含み、最下層である第4層は掘方でありしまりがある。

付帯施設はカマド、柱穴が確認された。

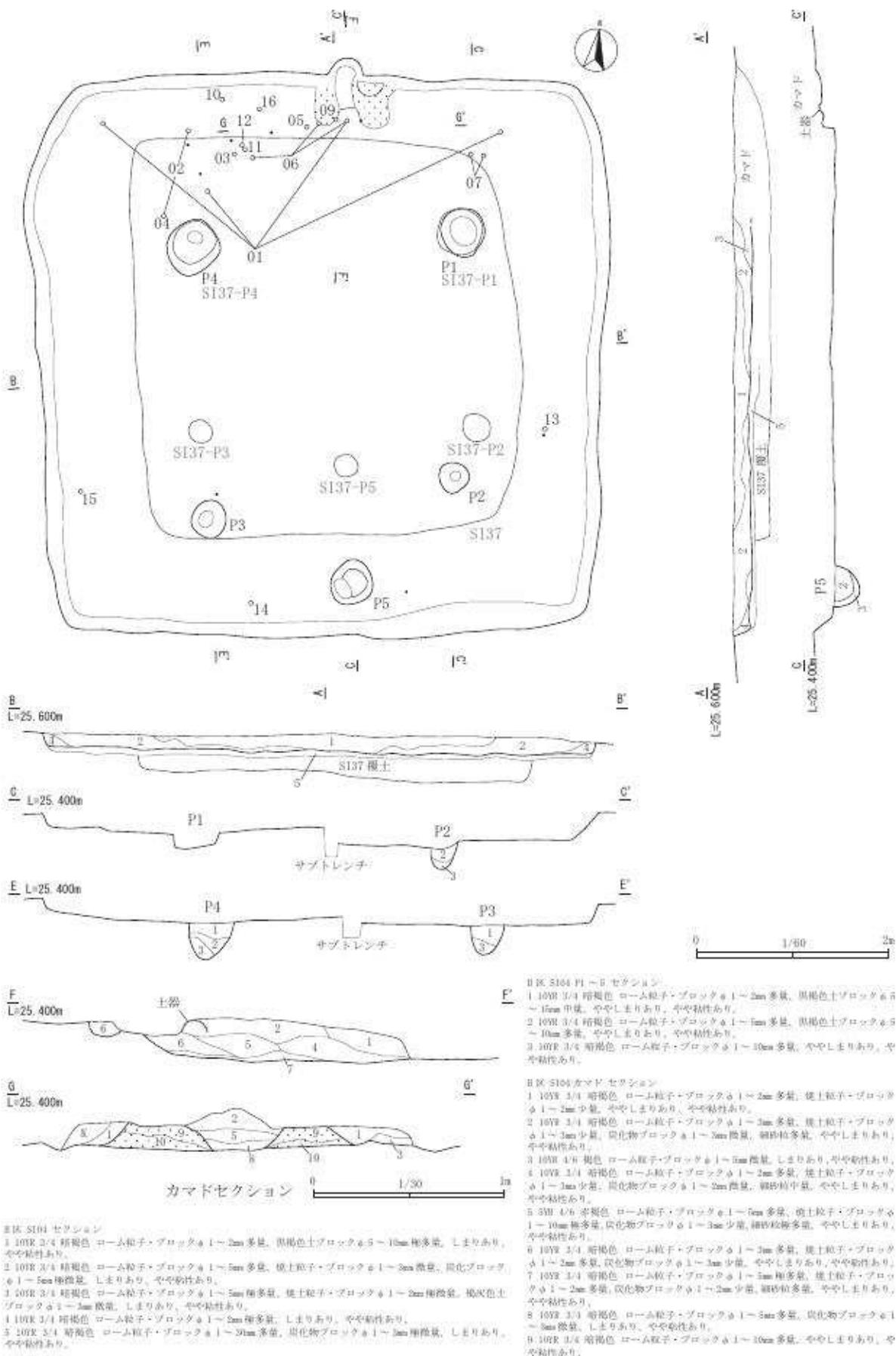
カマドは火床面と焼土がその痕跡として確認された。

柱穴は、主柱穴4基(P1～4)、出入り口に伴うと思われる柱穴1基(P5)が確認された。P1・4はSI04と共有する。P2・3と規模が異なり、SI04の構築の際にP1・4を更に掘り広げたことが窺える。P1・2は東側の壁に、P3・4は西側の壁に近接する。P5は南側の壁より58cm、東側の壁より161cmの地点に位置し、住居跡東西軸の中央からやや東に位置する。規模はP2が最大幅33cm×深さ24cm、P3は最大幅28cm×深さ37cm、P5は最大幅27cm×深さ26cmを測る。

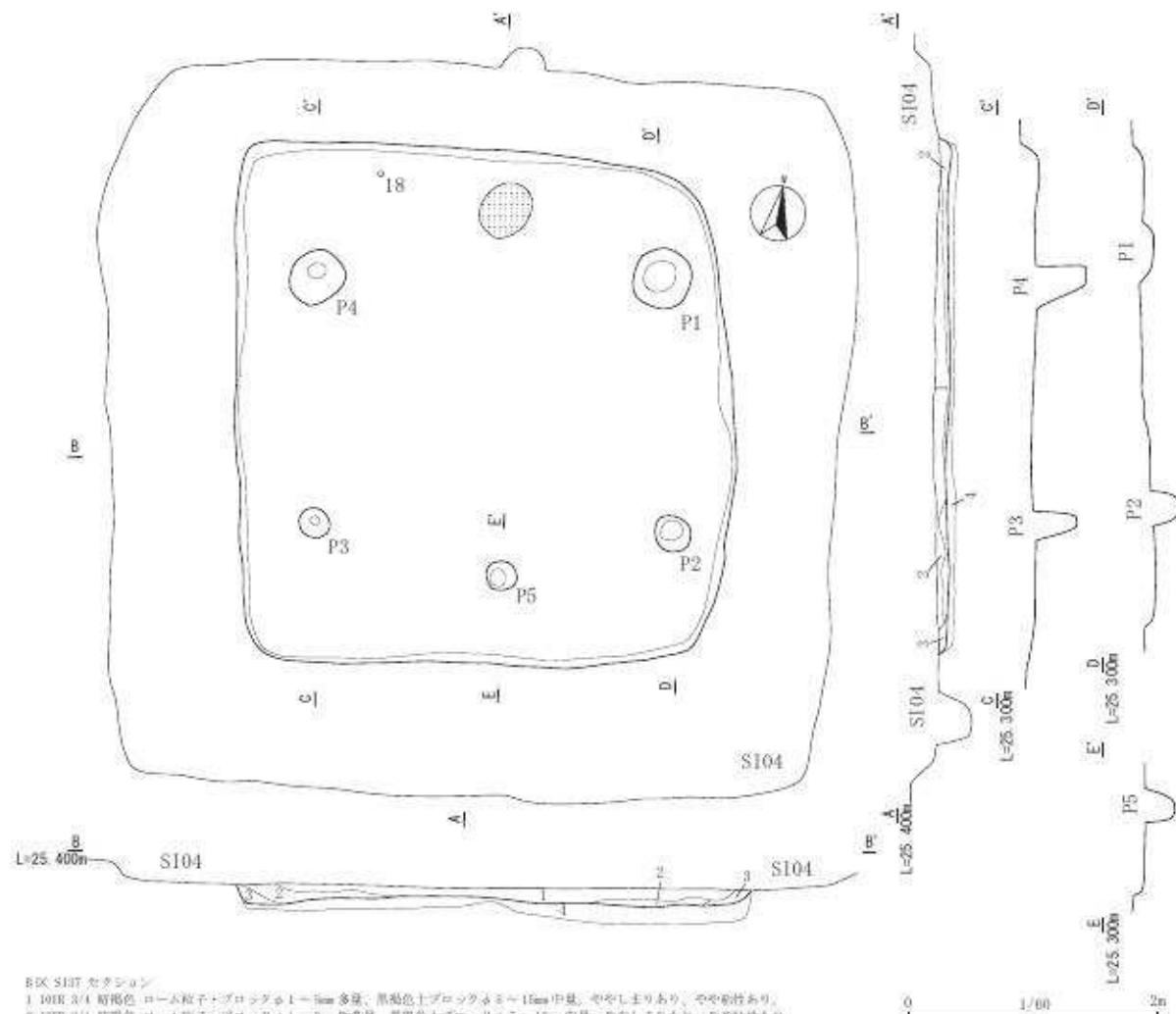
遺物は土師器の坏1点が出土した。掲載遺物は1点である。

第15表 B区 SI04・37 出土遺物観察表(1)

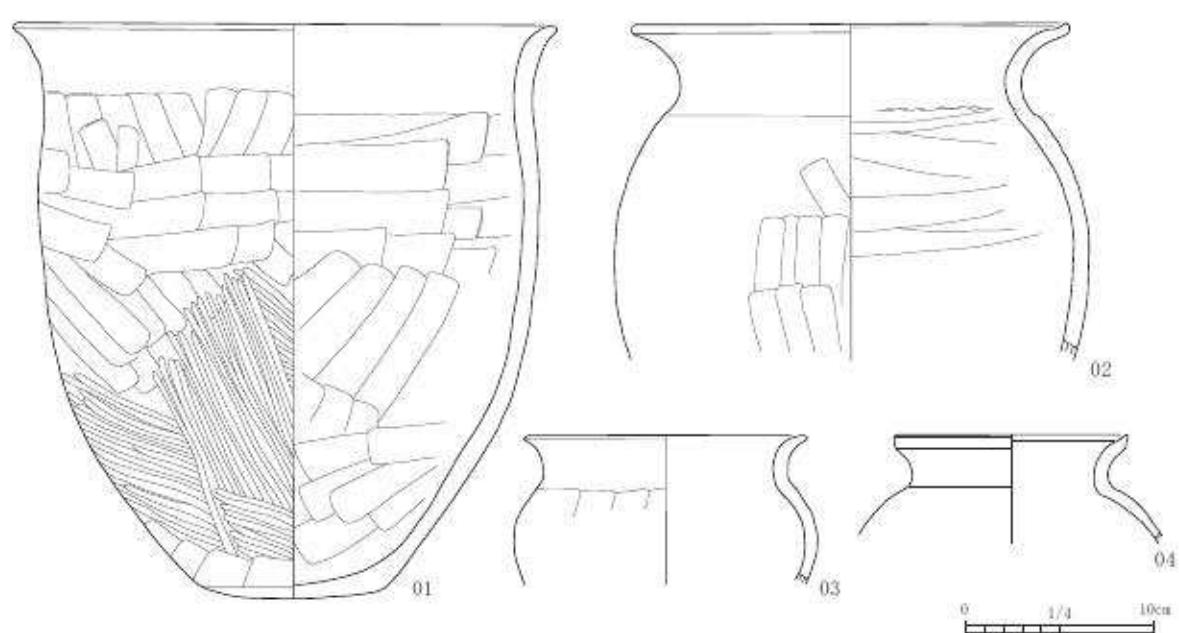
遺物番号	目記	種類	断面	口径	底径	製造	保存	器形の特徴	断面の特徴	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
01	N05・7・16・18・上層・下層	土師器	甕	28.9	9.3	39.2	5/2	断面はやや丸底気味の平底。胴部の幅は特に口縁で狭く、かに外反する。口縁は鋸歯。	口縁は内外面共に横ナギ。胴部外縁はへラケスリ後ナギ。下半ミガキ。下端部をへラケスリにより整えている。内底はへラナギ後ナギ。	良好 二次焼成あり	内面 10985/3 51.5 黄褐 外面 7.51085/4 11.5 黄	長石・石英・ 磁鉄・小礫多 い	2338.0	
02	N09・6・上層・下層・一筋	土師器	甕	(22.9)	—	(17.3)	口縁一筋 第1/8	胴部は断面を、口縁は「C」の字形に外反し口唇はつまみ上げられている。	口縁は内外面共に横ナギ。胴部外縁はへラケスリ。内底はナギ。	良好 二次焼成あり	内面 10986/4 51.5 黄褐 外面 7.51085/3 11.5 黄	白色粘土・紫 色・シリアル・ 石英等小礫を 含む	415.0	



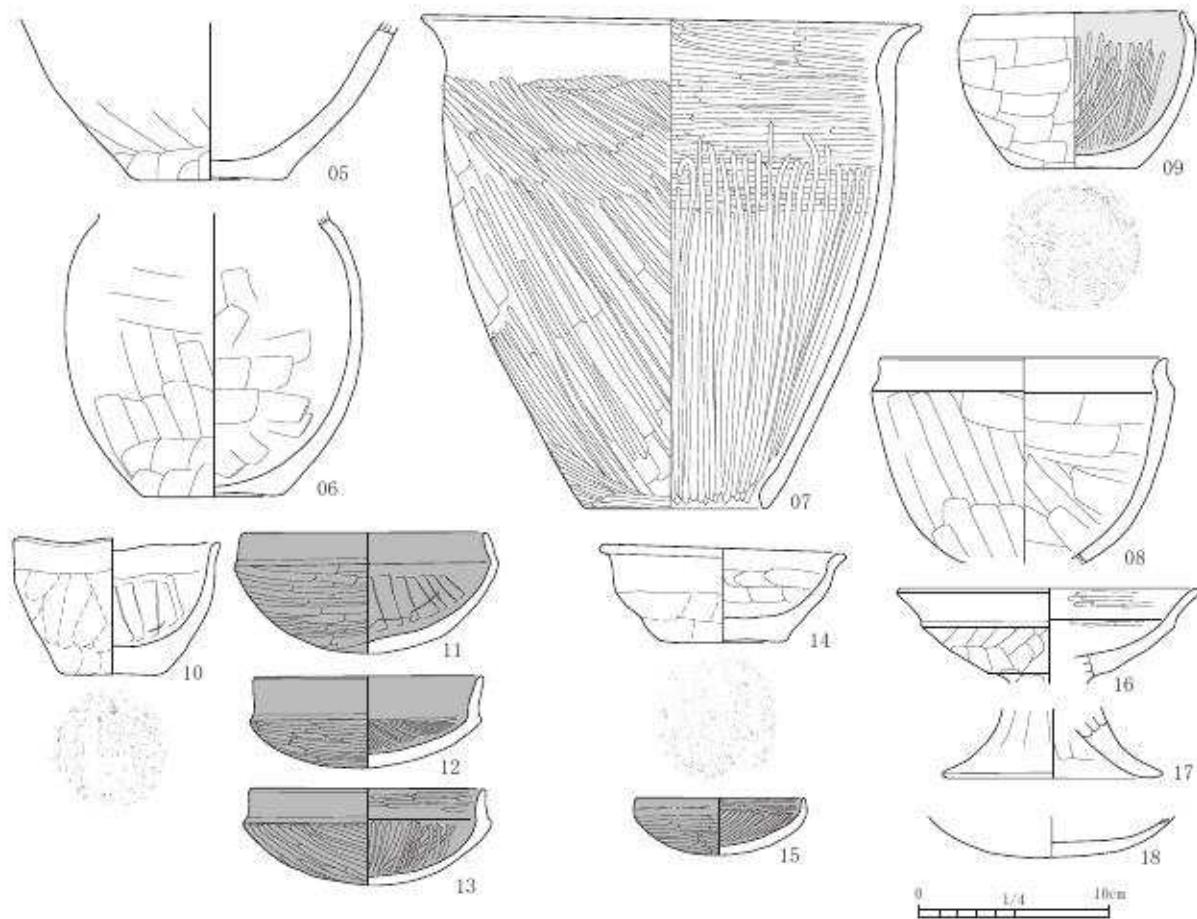
第41図 B区 SI104



第42図 B区 SI37



第43図 B区 SI37出土遺物 (1)



第44図 B区 SI04・37 出土遺物 (2)

第16表 B区 SI04・37 出土遺物観察表 (2)

遺物番号	性別	種類	縦幅	口径	底径	高さ	底部	断面	特徴の特徴	形状の特徴	焼成	色調	寸法	重量(g)	備考
01	N026-1 柄	土師器	小形壺	(11.5)	—	(3.9)	口縁部 1/2	側部は斜形か。肩部の張りは無い。口縁は「U」の字に外反し口唇はつまみ上げられている。	口縁は内外両面に横ナギ。側部外縁はヘラケズリ。内面はナギ。	良好 二次焼成 あり	内面 1.018±0.004 外縁 5.015±0.004 赤褐色	白色粒子・雲母や多い、スコリア微量	106.3		
01	N06-1 耳・一柄	土師器	小形壺	—	—	(3.7)	口縁部 1/2	側部は斜形か。肩部の張りは無い。口縁は「U」の字に外反し口唇はつまみ上げられている。	口縁は内外両面に横ナギ。側部外縁はヘラケズリ。内面はナギ。	良好	内面 1.018±0.004 外縁 7.505±0.004 赤褐色	白色粒子・雲母少量	77.2		
05	N025-1 底	土師器	壺	—	—	(7.0)	(8.4)	底部完形	底部はやや上り底気球の半球、側面下端で内凹した後後輪的に開く。	剥落が著しい点、外縁下端ヘラケズリと底部のナギのみが觀察される。	良好 二次焼成 あり	内面 1.018±0.004 外縁 7.018±0.004 赤褐色	白色粒子多い、雲母・黒色粒子少量、白色針状物質・スコリア微量、褐色含む	391.4	
06	N013-1 16・25-1 一柄	土師器	壺	—	—	7.1	(13.0)	肩1/4～ 底第4/5	肩部はやや上り底気球の半球、最大径を中位に有する胴部の張りは弱い。底部は僅かに埋まる。	底部に横かに横ナギ。側部外縁はヘラケズリ。内面はナギ。	良好	内面 7.518±0.004 外縁 7.518±0.004 赤褐色	白色粒子・スコリアや多い、雲母少量	386.2	
07	N017-1 23・土師 一柄	土師器	壺	—	—	25.7	脚上半 1/4欠損	単孔式。焼けに膨らみを持ちながら開き口縁で外反する。底部は開拓が施されている。	外縁口縁は横ナギ。側部はヘラケズリ接着ガタ。内面は上位横方舟のミガキ並飛散が多い。底部は開拓が施されている。	良好 二次焼成 あり	内面 7.518±0.004 外縁 7.518±0.004 赤褐色	小破多い。黒色粒子・白色粒子・雲母や多い、スコリア少量	2716.3		
08	土壙・子 唇	土師器	壺	(15.0)	—	(10.0)	口縁一部 1/5	体側は緩やかに内湾気球に立つ。口縁は弱い後輪を有した後後輪や突起外縁する。	口縁は内外両面に横ナギ。側部外縁はヘラケズリ。内面はナギ。	良好 二次焼成 あり	内面 1.018±0.004 外縁 5.015±0.004 赤褐色	白色粒子・雲母や多い、小破・スコリア少	121.9		
09	N01 カマ 手	土師器	壺	—	—	6.0	8.2	完形	底部は平底。底部は緩やかに内湾気球に立つ。口縁は弱い後輪を有した後後輪や突起外縁する。	口縁は内外両面に横ナギ。側部外縁はヘラケズリ。底部は多方向の半押出ヘラケズリ。内面は毛艶無。	良好 二次焼成 あり	内面 5.014±0.004 外縁 7.505±0.004 赤褐色	白色粒子多い、小破や多い、雲母・スコリア微量	366.9	内底青 彩、外面の赤色は剥落。
10	N011	土師器	手桶	10.5	5.0	7.1	完形	底部は平底。底部は緩やかに内湾気球に立ち口縁はやや外反する。	口縁は内外両面に横ナギ。側部外縁は半・拘による整削。底部は粗いヘラケズリ。内面はヘラケズリによる整削。	良好	内面 1.018±0.004 外縁 7.505±0.004 赤褐色	白色粒子や少 多い、小破・ 底田小葉	206.7		

第17表 B区SI04・37出土遺物観察表(3)

遺物番号	江記	種類	漆種	口径	底径	器高	堆存	絶縁の特徴	断形の特徴	成形	色調	寸上	重量(g)	備考
11 N013	土師器	坏		12.5	丸底	6.1	13E完形	底部は丸底、身込で底や少し内湾し口縁は上程に明瞭な後を有した底内傾する。	口縁は内外両方に横ナギ。体部外縁下端はヘタケナギ上半はミガキ。内面はヘタに上る整形。	良好	内面 7.5RS/4 に5H・褐 外縁 7.5RS/4 に5H・黄褐色	白色粒子・雲 母やや多い、 小砂・スコリ ア少見	291.6	内外面 色知り
12 N023	土師器	坏		11.9	丸底	4.8	口縁部 1/2欠損	底部は丸底、身込で底や少し内湾し、口縁は上程に明瞭な後を有した底内傾する。	口縁は内外両方に横ナギ。体部内外両面にミガキ。	良好	内面 7.5RS/4 に5H・褐 外縁 7.5RS/4 に5H・褐	白色粒子・雲 母やや多い、 小砂・スコリ ア少見	210.0	内外面 色知り
13 N019+上 層	土師器	坏		12.1	丸底	5.9	2/3	底部は丸底、身込で底や少し内湾し口縁は上程に明瞭な後を有した底内傾する。	外側口縁は横ナギ。体部はミガキ。内面口縁は横方向にてミガキ。体部は暗文状のミガキ。	良好	内面 8RS/4 に5H・褐 外縁 7.5RS/3 に5H・褐	白色粒子・小 砂やや多い、 雲母少量	130.8	内外面 色知り
14 N02	土師器	手標		12.5	6.5	5.9	完形	底部は平底。体部は身込で底や少し内湾し内側した後直線的に開き、口縁は「W」字字に傾く外側肥厚する。	口縁は内外両方に横ナギ。体部外縁は平・脚による笠形、底部木葉痕。内面はナテ。	良好	内面 7.5RS/4 に5H・褐 外縁 7.5RS/4 に5H・褐	白色粒子多い、 雲母・黑色粒子少量、 白色斑状物、 小・スコリア 微粒、糠合物	288.2	
15 N03	土師器	坏		8.8	丸底	3.9	13E完形	底部は丸底、身込で底や少し内湾し口縁が傾く立つ、小形である。	外側口縁は横ナギ。体部はミガキ、内面ミガキ。	良好	内面 7.5RS/4 に5H・褐 外縁 7.5RS/4 に5H・褐	白色粒子・小 砂やや多い、 スコリア・雲 母少見	86.6	内外面 色知り
16 N014・一 輪	土師器	高杯		15.6	—	5.6	上腹部 1/4	上部は緩やかではあるが直線的に開き、上程に明瞭な後を有した後口縁は外傾する。	外側口縁は横ナギ。体部はヘタケナギ、内面口縁及び体部は強烈にミガキが施されている。	良好	内面 10RS/4 に5H・褐 外縁 10RS/6・6肩 ア少見	白色粒子・小 砂・雲母やや 多い、スコリ ア少見	105.0	N-17.左 側一輪 件
17 上崩	土師器	高杯		—	10.4	3.4	瓶ほ光 形	瓶はラッパ状に開く。腹厚。	外腹へタケナギ、内面ミガキ。腹は内外両方に横ナギ。	良好	内面 10RS/4 に5H・黄褐色 外縁 10RS/4 に5H・黄褐色	白色粒子・小 砂・雲母やや 多い、スコリ ア少見	186.2	
18 N01	土師器	坏		—	丸底	4.2	底部完形	底部は丸底。体部下端で底や少し内湾する。	外腹へタケナギ。内面暗文状のミガキ。	良好	内面 7.5RS/4 に5H・褐 外縁 二次焼成 あり	雲母多い、 スコリア・白色 粒子やや多い	137.6	S137

## SI05(第45~47図、第18表、遺構図版18、遺物図版4)

G・H12グリッドに位置する。南側は調査区外であり、南北方向の規模は不明である。規模は南北5.53m×東西5.12mまでが確認され、平面形は主軸方向が長い長方形と判断される。主軸方向はN-33°-Wである。深さは確認面より32cmを測る。本住居跡は調査区境界壁面に接し、IV層を切りI層の直下から86cmの掘り込みが確認された。壁は外傾し、角度は不均等である。覆土は暗褐色土を基調とした10層に分層され、自然堆積を示す。第11~13層は掘方である。

付帯施設はカマド、貯蔵穴、柱穴、周溝が確認された。

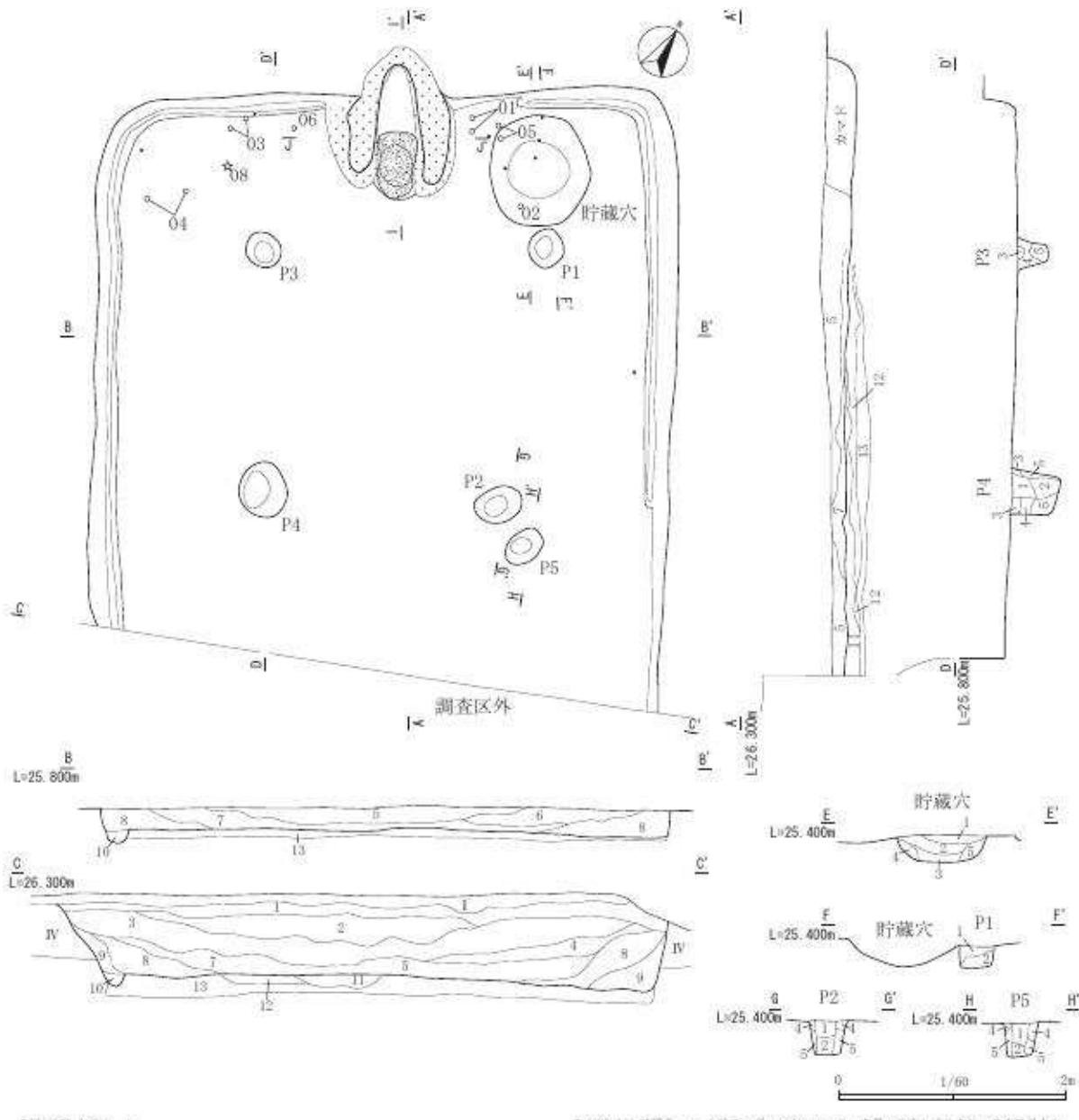
カマドは北壁中央部を45cm掘り込んで構築される。規模は全長136cm、最大幅113cm、床面からの高さ25cmを測る。天井部は崩落しており、第10~14層が構築材であると判断される。袖部は細砂粒を極多量含む暗褐色土を積み上げ構築される。住居跡壁面よりほぼ直角に並走し、左袖は基部で最大幅48cm、奥行き77cm、右袖は基部で最大幅37cm、奥行き85cmを測る。火袋部の大きさは最大で幅42cmである。カマドの基礎部には裏込めは存在せず、火床部はローム土が焼土化している。

貯蔵穴はカマドの西、北側壁より21cm、東側壁より76cmに位置する。規模は長軸102cm、短軸89cmを測り、平面形は梢円形を呈する。深さは床より25cm、断面形は浅い鍋底状である。

柱穴は5基確認された。それぞれの柱穴から壁までの距離は101cmから130cmである。P1は北東側隅付近、P3は北西側隅付近に位置する。P1・3から北側壁までは約120cmを測り、対となっている。P4はP3から主軸方向と並走して南東に170cmの距離を測る。P2・5は隣接し、P3の対角に位置する。また、南側のP2・4・5は覆土の状態と堆積状況が類似する。それぞれの規模はP1が最大幅35cm×深さ20cm、P2は最大幅43cm×深さcm、P3は最大幅33cm×深さ27cm、P4は最大幅49cm×深さ44cm、P5が最大幅38cm×深さ30cmを測る。

周溝は、西側は全ての壁の直下、東側は貯蔵穴北の壁から北東隅より南へ350cmの範囲で確認された。幅は約20cm、深さは約10cmであり、覆土は粒径の大きいロームブロックを多量含む。

遺物はカマドと貯蔵穴が位置する北側壁付近から多く検出された。遺物は土師器を中心に3611.6g出土した。掲載遺物は8点である。ほぼ完形の土師器坏(03・04・06・08)がカマド左側の覆土中から検出されている。



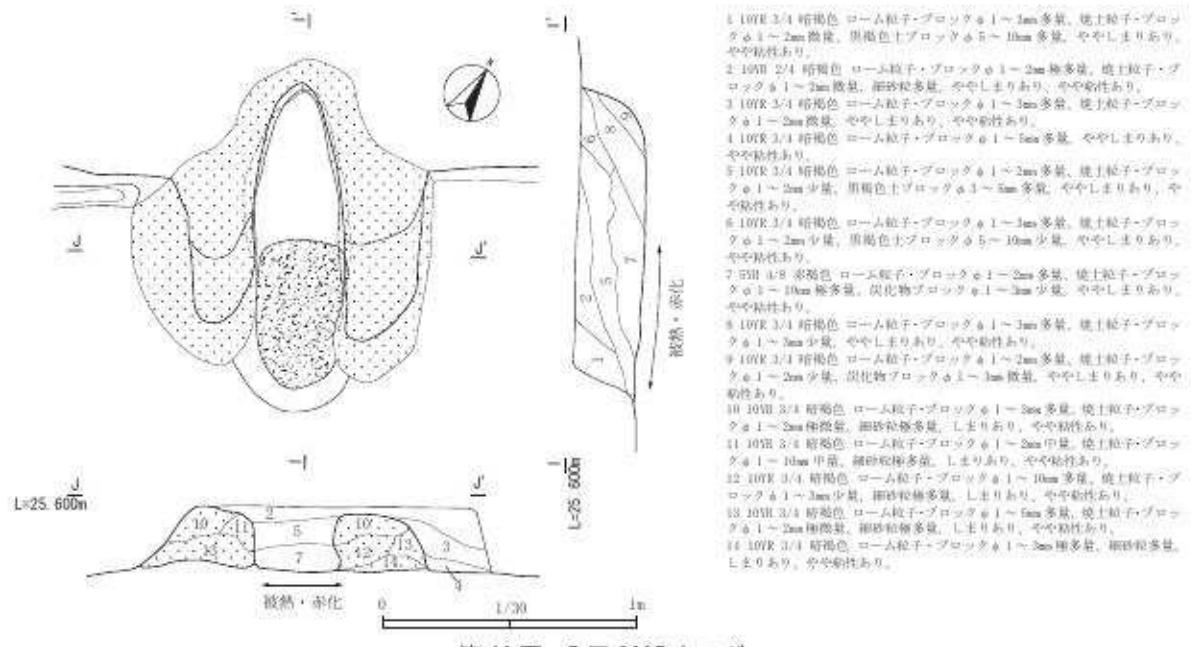
## ■ B区 SI05 内 貯蔵穴 セクション

- 1 10W 3/4 墓褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm多量、やや土よりあり、やや粘性あり。
- 2 10W 3/3 墓褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm中量、やや土よりあり、やや粘性あり。
- 3 10W 3/3 墓褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm多量、やや土よりあり、やや粘性あり。
- 4 10W 3/4 墓褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、やや土よりあり、やや粘性あり。
- 5 10W 3/4 墓褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、灰化物ブロックφ1~2mm少量、やや土よりあり、やや粘性あり。
- 6 10W 3/4 墓褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm多量、やや土よりあり、やや粘性あり。

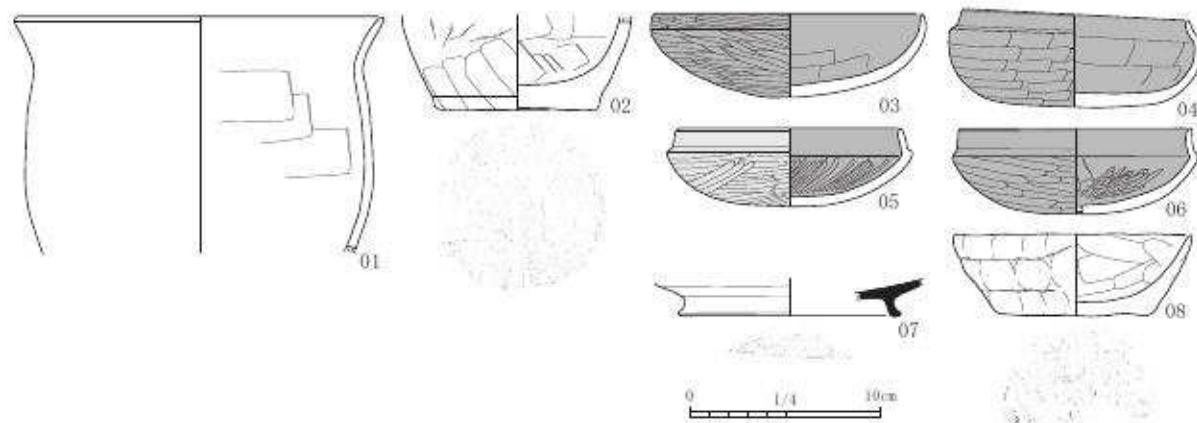
## ■ B区 SI05 内 P1~5 セクション

- 1 10W 3/6 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm多量、灰化物ブロックφ1~2mm微量、やや土よりあり、やや粘性あり。
- 2 10W 3/4 墓褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm多量、やや土よりあり、やや粘性あり。
- 3 10W 3/4 墓褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、黑褐色土ブロックφ5~10mm多量、しまりあり、やや粘性あり。
- 4 10W 3/4 墓褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、黑褐色土ブロックφ10~20mm中量、しまりあり、やや粘性あり。
- 5 10W 4/6 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm中量、やや土よりあり、やや粘性あり。
- 6 10W 4/6 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm少量、やや土よりあり、やや粘性あり。

第45図 B区 SI05



第46図 B区 SI05 カマド



第47図 B区 SI05 出土遺物

第18表 B区 SI05 出土遺物観察表

遺物番号	日記	種類	基種	口径	底径	高さ	残存	器形の特徴	断面の特徴	焼成	色調	粘土	重さ(g)	備考
01	N017・10	土鍋等	甕	(19.4)	—	(12.6)	口縁一輪 高1/3	側部の腰りは弱い。口縁で側部に「く」の字に外反する。	内外表面に剥落が著しいもの の内面に推かにヘラナギが楕円状される。	不良 二次焼成あり	内外青 1085/6 半	白色粒子多い、雲母少量	351.1	
02	市沢 N019	土鍋等	甕	—	8.8	(4.9)	底部のみ	底部は平底。側面下端で内湾する。	内外青共にナガ。	良好	内外青 7.5W8/7 淡黄	白色粒子、小 細・雲母や 多い	302.0	底部本焼成
03	N05・8- 下層	土鍋等	甕	14.2	丸底	4.4	未定形	直筋上丸底。底部は緩やかに内湾し口縁に至る。	外身は粗いミガキ。内面は口縁一輪近く板ナギ。底部付近はナギ。	良好	内外青 7.5W11 淡灰	白色粒子、雲 母・スコリア 少	174.7	内外青黒色 処理
04	N02・4	土鍋等	甕	12.8	丸底	4.8	3/4	底部は半球状突出の直筋。体部は内湾し上位に明瞭な腰を有した後口縁は窄まる様に傾き内縮する。	口縁は内外両面に横ナギ。体部外縁はヘラカヌリ。内面は横ナギ。	良好 二次焼成 あり	内外青 7.5W11 淡灰	白色粒子、淡 黄微量	182.7	内外青黒色 処理
05	N010・11	土鍋等	甕	12.0	丸底	4.1	1/2	底部は丸底。底部は緩やかに内湾し上位に明瞭な腰を有した後口縁は外反突出後に内縮する。	口縁は内外両面に横ナギ。底部外縁はミガキ。内面は断文燒成にて加工。	良好 二次焼成 あり	内 7.5W11 淡灰 外 1085/2 淡黄	雲母少量、白 色針状粒子微 量	126.0	外青赤彩 内青黒色 処理
06	N08-3	土鍋等	甕	112.40	丸底	(4.5)	1/2	底部は丸底。底部は緩やかに内湾し上位に明瞭な腰を有した後口縁は外反突出後に内縮する。	口縁は内外両面に横ナギ。底部外縁はミガキ。内面はヘラナギ後ミガキ。	良好 二次焼成 あり	内 10705/2 に並 い青 外 1085/2 淡黄	白色針状粒 子質、雲母少量	169.7	内外青黒色 処理
07	上層	婆忠翁 高台所	—	(11.6)	(3.6)	底面1/4	底面は「ハ」の字に付された腰部は弧張する。身辺は直筋的に開く。	口縁は整形。体部下端及び底面は斜面状。	整歛 内 7.5W11 淡灰 外 9cm	部分の噴き出 しや多い、 白色粒子少量	27.8	東海道		
08	N04	土製品	手作 (手形)	12.6	8.8	4.3	注目穴形	底面は平底。体部は緩やかに内湾した後直線的に開く。	外身は半一筋による整形。内面は半一筋形。底面は練らな形状の印象が觀察される。級目の可能性あり。	良好	内外青 10705/3 に並 い青	白色粒子、黑 色粒子、雲母・ スコリア少量	199.5	

## SI06 (第48・49図、第19表、遺構図版19、遺物図版5)

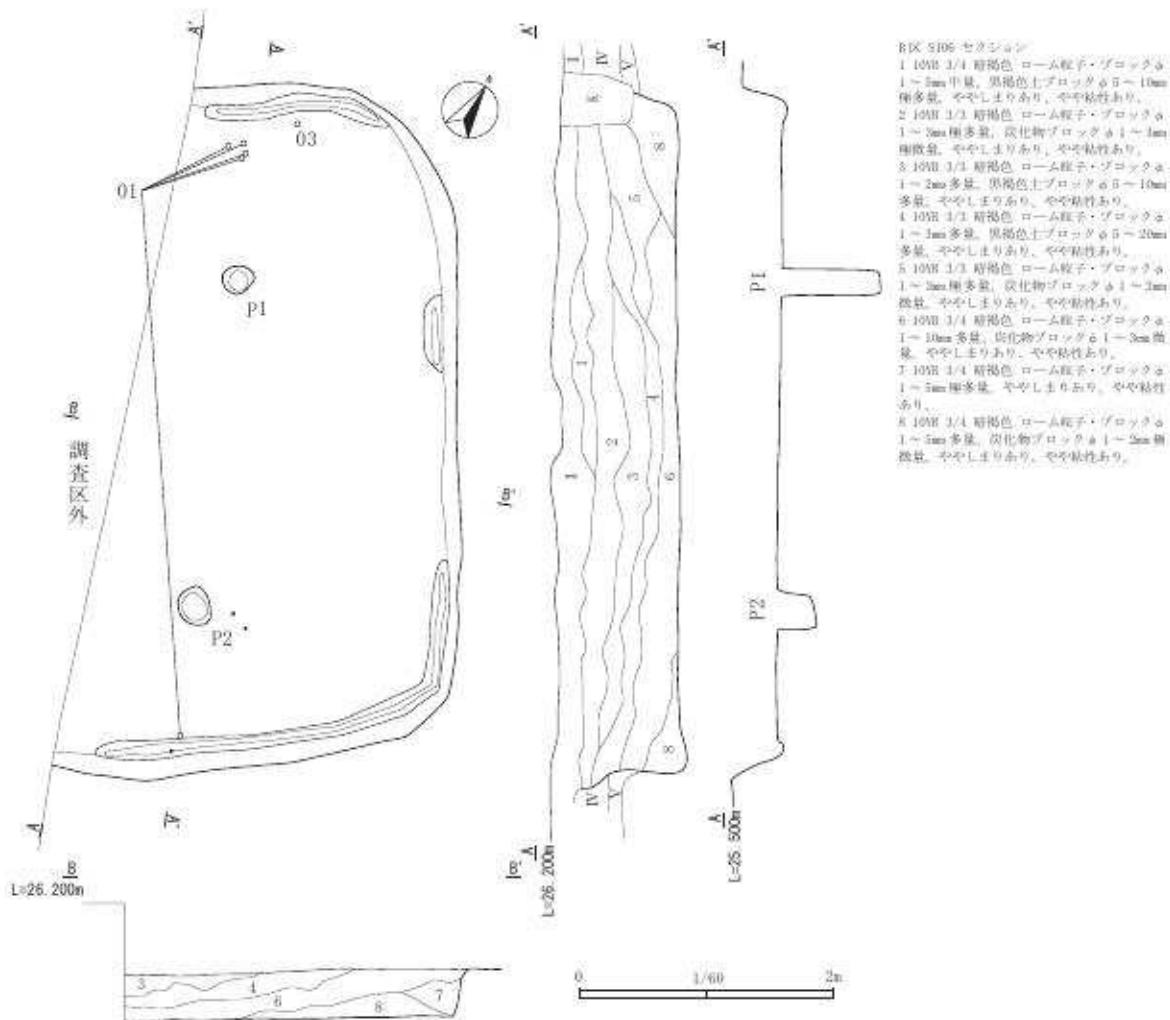
F・G12グリッドに位置する。西側は調査区外であり東西軸の規模は不明である。規模は南北が5.53m、東西の最大幅は2.97mを測る。平面形は隅丸の方形が想定される。主軸方向はN-34°-Wである。深さは確認面より35cmを測る。本住居跡は調査区境界壁面に接し、IV・V層を切りI層の直下に82cmの掘り込みが確認された。壁は均一ではないが約65°で外傾する。覆土は暗褐色土を基調として8層に分層され自然堆積を示す。下層からは微量ながら炭化物ブロックが検出された。

付帯施設は柱穴、周溝が確認された。

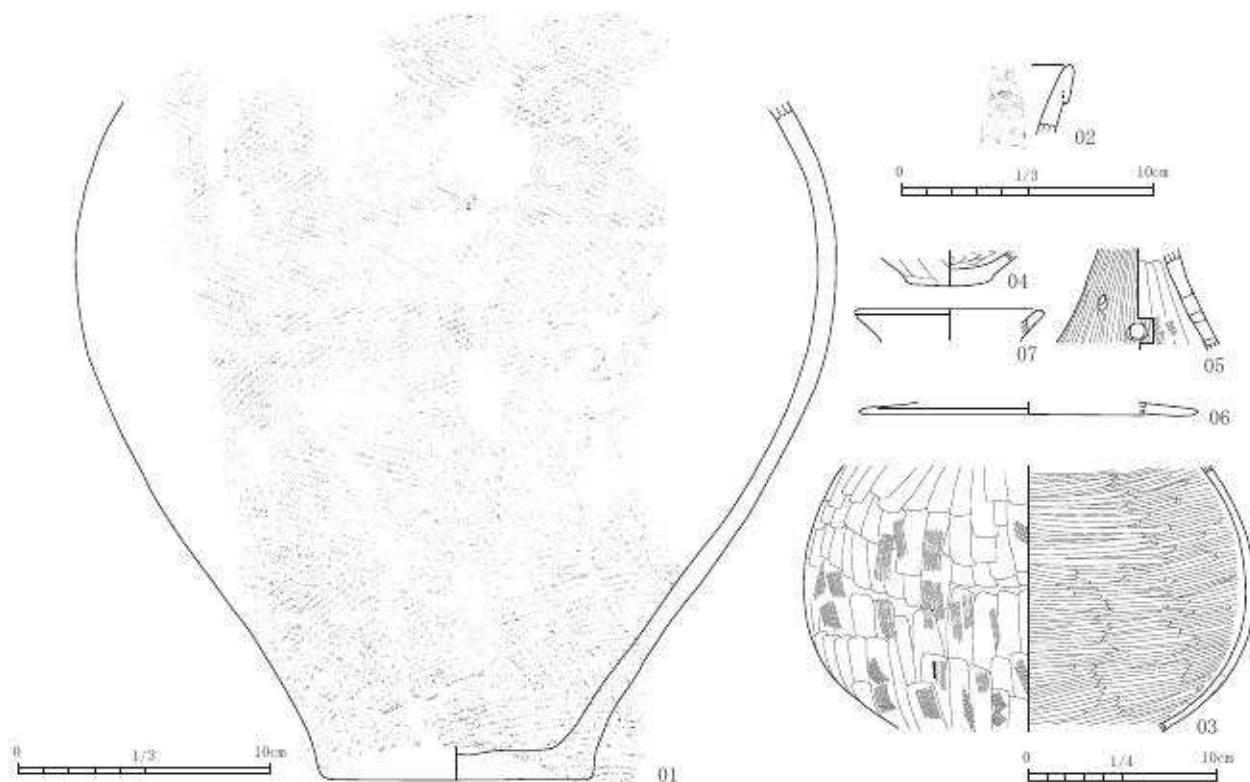
柱穴は2基確認された。P1は北側壁まで142cm、東側壁まで159cmの地点に位置する。最大幅26cm×深さ77cmを測る。P2は南側壁まで117cm、東側壁まで196cmの地点に位置する。最大幅32cm×深さ31cmを測る。

周溝は幅15cm、深さ4cmほどの規模で確認された。北側と南側から南東隅の壁直下を中心に周る。

遺物は土師器を中心にして1485.9g出土した。掲載遺物は7点である。第8層から、「縄文施文の壺」(01)と「ミガキ調整の土師器」(03～07)が検出されている。



第48図 B区 SI06



第49図 B区SI06出土遺物

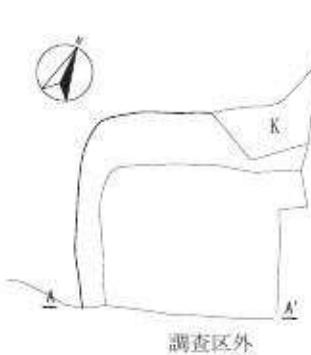
第19表 B区SI06出土遺物観察表

遺物番号	日記	種類	層位	口径	底径	高さ	残存	器形の特徴	断面の特徴	底底	色調	断土	重積(g)	備考
01	N01-2-3-7-9+主層・下解	土師器	甕	—	10.5	19.8	L/S	底部平底で板状に内側して立つ。脚部の最大径は中空上位に来る。	外底は付加柔弱口唇の構造が付いて構成して施文され、底部付近では、施文の施文が反逆して器底自体を呈する。	良好 二次焼成あり	内質 2.3M8.8枚 外質 2.3M7.8枚	灰石・右黄・ 雲母や多い 灰岩	150.4	衛生系の形状を有するが、古墳時代前後に平行する十三台式と判断される
02	下解	土師器	甕	—	—	2.8	口縁破片	直口口縁。	外底格子。内底はミガキ。	良好	内質 2.3M5.8枚 外質 2.3M7.6枚	黑色粒子・灰 色微量	5.2	衛生系の形状を有するが、古墳時代前後に平行する十三台式と判断される
03	N04-下解	土師器	甕	—	—	14.1	脚部大底 片	脚部は平や削れた斜形を呈するもの。	外底はヘラケズリ後剥離的に剥離した状態による擦痕。内底は丁寧なミガキ。	良好	内質 10M7.3に 1.黄壁 外質 2.3M7.2枚	白色粒子少 量・雲母・ コリア・白色 外被物質微量	218.1	
04	下解	土師器	甕	—	丸底	0.8	底部破片	小形で彫かれた丸底を有する。	脚部下端はヘラケズリ、底部はナメ。内底はヘラナメ。	良好	内質 7.0M7.4に 1.黄壁 外質 7.0M7.6枚	黑色粒子・白 色粒子・ コリア・雲母少 量	44.2	
05	下解	土師器	甕	—	—	6.6	脚部底端 片	直線的に削ぐ踏面破片。残存部分のみで楕球形にはね。孔は二段確認出来るが単位は不明。(上段は3印付)	内底はミガキ。内底はナメ。底端を状工具による擦痕。	良好 二次焼成 あり	内質 7.0M7.6枚 外質 7.0M8.6枚	灰石・右黄壁・ 黑色粒子・灰 色微量	28.2	
06	下解	土師器	甕	—	—	0.7	脚部底端 片	口縁水平に傾く。	内底表面に擦ナメ。	良好 二次焼成 あり	内質 7.0M7.6枚	石英粒・黑色 粒子・雲母少 量	13.7	
07	一統	土師器	漆付	0.7	—	0.8	口縁破片	直線的に削ぐ。	内底表面に擦ナメ。	良好 二次焼成 あり	内質 10M6.2灰質 瓦	白色粒子・黑 色粒子・灰 色少	3.4	

SI07 (第50～51図、第20表、遺構図版19、遺物図版5)

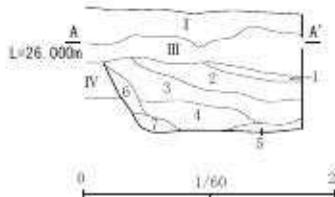
L11グリッドに位置する。北西の隅のみが確認され、他は調査区外であるため規模は不明である。平面形は方形と判断され、主軸方向は N-25°-W である。調査区境界の壁面からは本住居跡がIV層を切り、III層の直下に 65 cm の掘り込みを持つことが確認される。覆土は 7 層に分層され、自然堆積とみられる。なお、確認された規模は南北 160 cm、東西 178 cm である。

遺物は土師器が 102.6g 出土した。掲載遺物は 1 点である。

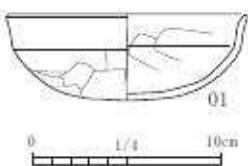


調査区外

B区 SI07 セクション  
 1. 10H. 3/4 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm多量、斑土粒子・ブロックφ1~2mm微量、ややしまりあり。やや粘性あり。  
 2. 10H. 2/3 黒褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。  
 3. 10H. 2/4 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、暗褐色土ブロックφ3~10mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。  
 4. 10H. 3/4 精視色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、炭化物ブロックφ1~2mm微量、暗褐色土ブロックφ5~10mm中量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
 5. 10H. 3/4 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~15mm多量、炭化物ブロックφ1~3mm微量、ややしまりあり。やや粘性あり。  
 6. 10H. 3/4 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm微量、斑土ブロックφ3~1mm微量、ややしまりあり。やや粘性あり。  
 7. 10H. 3/4 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm多量、炭化ブロックφ1~2mm微量、ややしまりあり。やや粘性あり。



第50図 B区 SI07



第51図 B区 SI07 出土遺物

第20表 B区 SI07 出土遺物観察表

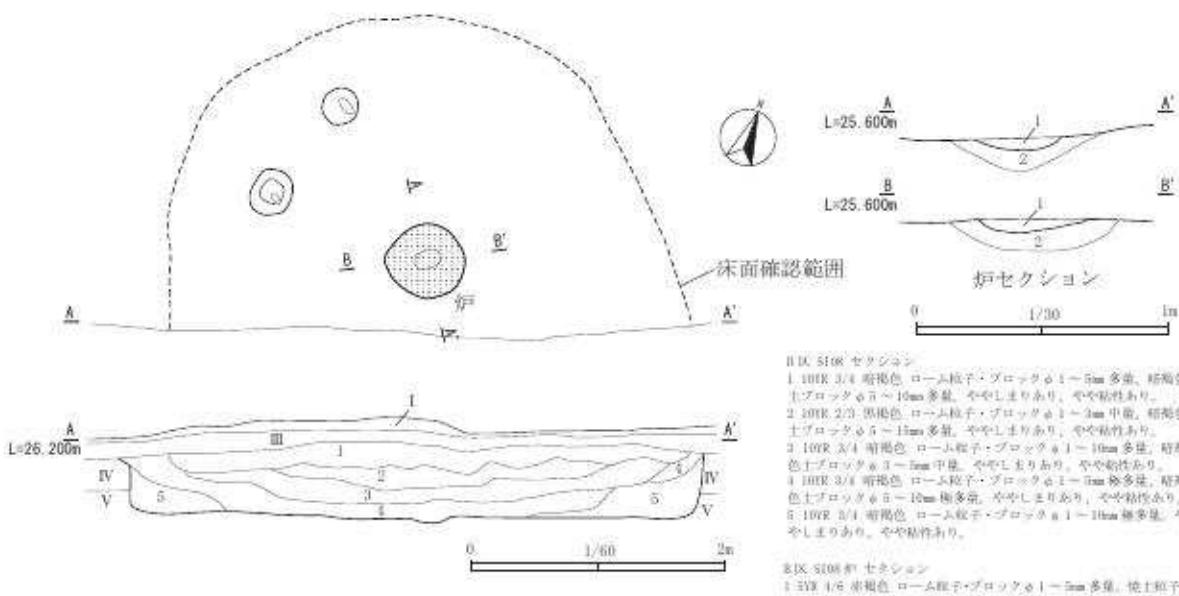
遺物番号	日記	種類	層種	口径	底径	深さ	被存	断面の特徴	整形の特徴	焼成	色調	敷土	重量(g)	備考
02	一様	土的跡	埋	(12.7)	丸底	1.3	体部3/4 火搗	直縁は丸底、体部は緩やかに内湾し上位に弱い棱を有した複合縁は外反底部に立つ。	外周縁は横ナデ。体部はへきケツリ。内側はナデ。底部は剥落。	良好 二次焼成 あり	内面 10H7/3 黄褐 外側 5H6/1 に高い板	白色粒子・黄 色や多い	10.8	

SI08 (第52・53図、第21表、遺構図版20、遺物図版5)

G12 グリッドに位置する。調査区内で堅穴を確認できず、床面のみを把握した。最大幅は 4.12m を測る。調査区境界の壁面に接し、本住居がIV・V 層を切り III 層の直下に 65 cm の掘り込みを持つことが確認される。覆土は暗褐色土を基調とした 5 層に分層され自然堆積を示す。このうち中層にあたる第 2 層のみが黒褐色土である。

付帯施設は炉跡 1 基が確認された。規模は長軸 63 cm、短軸 57 cm を測る。

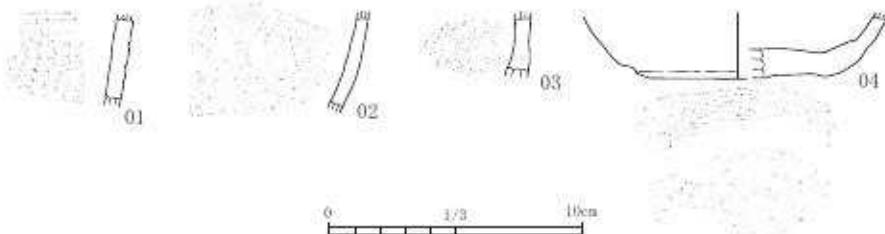
遺物は弥生土器を中心に 139.7g 出土した。掲載遺物は 4 点である。



第52図 B区 SI08

B区 SI08 セクション  
 1. 10H. 3/4 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。  
 2. 10H. 2/3 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm中量、暗褐色土ブロックφ5~10mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。  
 3. 10H. 2/4 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、暗褐色土ブロックφ3~5mm中量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
 4. 10H. 3/4 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~1mm微量、暗褐色土ブロックφ5~10mm多量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
 5. 10H. 3/4 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm微量、ややしまりあり。やや粘性あり。

B区 SI08 和セクション  
 1. 3H. 1/6 染褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、斑土粒子・ブロックφ1~10mm微量、ややしまりあり。やや粘性あり。  
 2. 10H. 2/1 斧削色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm多量、ややしまりあり。やや粘性あり。



第53図 B区SI08出土遺物

第21表 B区SI08出土遺物観察表

遺物番号	形質	所轄	基軸	口徑	底径	深さ	断面・文様・留形	型式	現存	焼成	色調	断土	重量(g)	備考
01	一底	南支土器	深鉢	—	—	—	直管状器に上る保溝の中には、筋部の内側を有する複数の縦溝を有する。	輪律式	輪律破片	良好	内外面 10R5/4 に赤い黄褐色 外側 10R4/2 に赤い黄褐色	白色粒子多い、白色吸水性強	13.6	
02	一底	衛生土器	浅	—	—	—	付加条第1種の施文。	上様古式	輪律破片	良好	内面 10R5/4 に赤い黄褐色 外側 10R4/2 に赤い黄褐色	黑色多い、白色吸水性強	20.4	
03	一底	衛生土器	深	—	—	—	付加条第1種の施文。	上様古式	輪律破片	良好	内外面 7.5W5/4 に赤い黄褐色	黑色多い	7.5	
04	一底	衛生土器	薄	—	(7.4)	(1.6)	底部は平底で、側面は緩やかに内側突起に立つ。側面は付加条第1種施文。	上様古式	底面 1/4	良好	内面 10R5/3 に赤い黄褐色 外側 10R7/3 に赤い黄褐色	白色粒子・黑色少 量	68.2	赤泥水漬 等

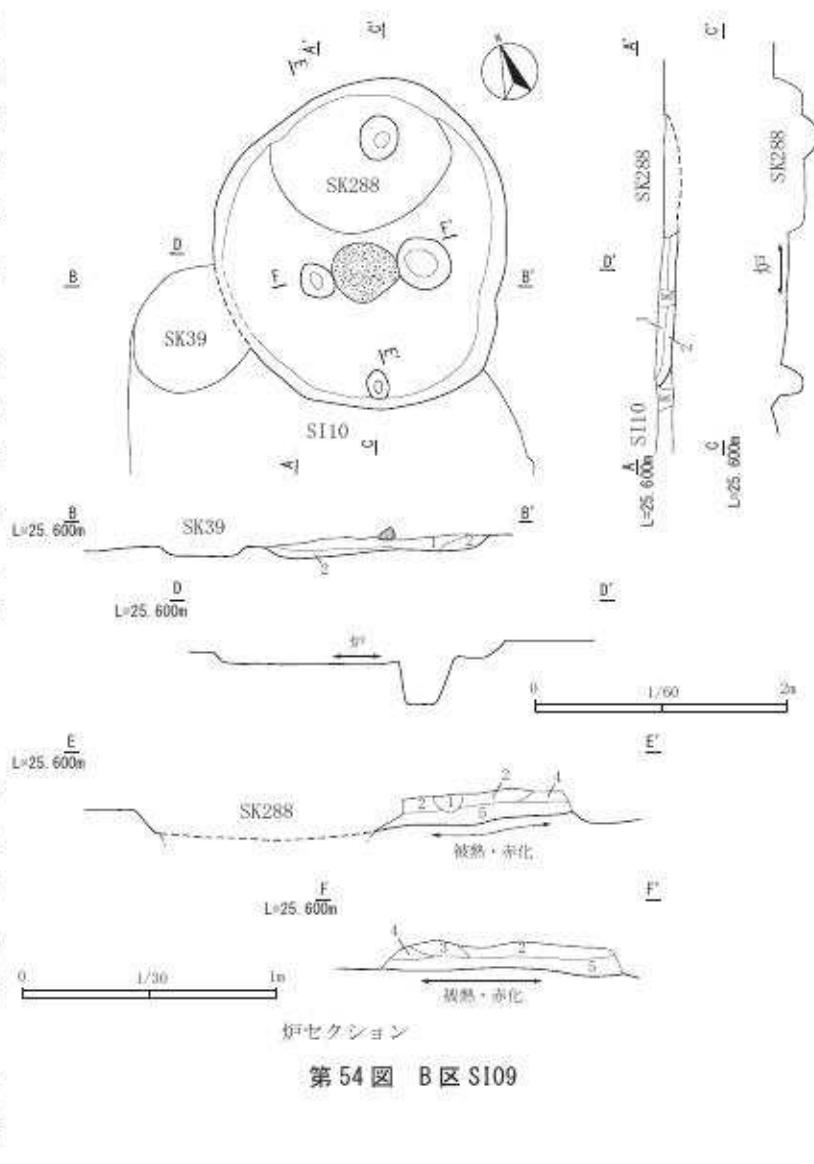
SI09 (第54図、遺構図版20)

G11 グリッドに位置する。

SI10 を切り、SK39・288 に切られる。長軸 2.63m、短軸 2.32m の楕円形を呈し、深さは確認面より 15 cm を測る。覆土は暗褐色土を基調とした 2 層に分層され、自然堆積を示す。

付帯施設は炉跡 1 基が確認された、規模は長軸 53 cm × 短軸 49 cm を測り、平面形は不整形である。火床面直上には暗褐色を基調とした 5 層の覆土があり、粒径の大きい焼土ブロックを含む。

遺物は検出されなかった。



第54図 B区SI09

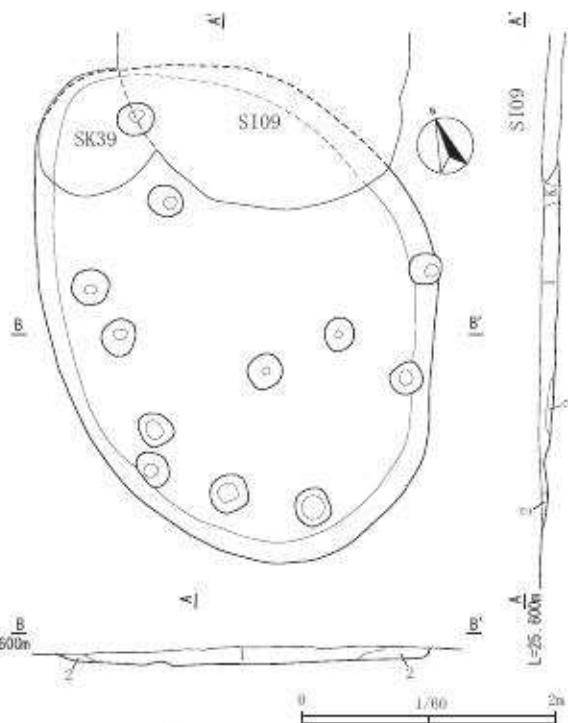
## SI10 (第55図、遺構図版20・21)

G11・12グリッドに位置する。北側の覆土上部をSI09・SK39に切られる。長軸4.27m×短軸3.12mを測り、楕円形を呈する。深さは確認面より14cmを測り、覆土は暗褐色土を基調として2層に分層される。住居跡壁直下にあたる第2層では焼土ブロックが極微量検出された。

付帯施設は柱穴が12基確認された。北東の壁付近以外に分布し、各柱穴の最大幅は30cmほどである。

遺物は検出されなかった。

B区 SI10 セクション  
1. 10M 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量、地上灰干・ブロックφ1~2mm 植物遺葉、ややしまりあり、やや粘性あり。  
2. 10M 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量、しまりあり、やや L=25.600m 粘性あり。



第55図 B区 SI10

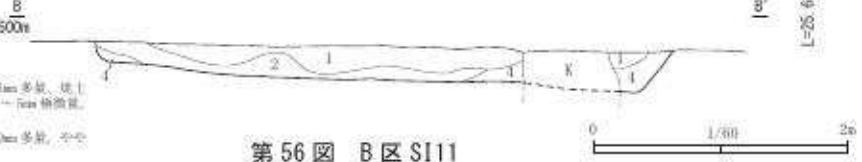
## SI11 (第56・57図、第22・23表、遺構図版21、遺物図版5)

J8・9グリッドに位置する。北西側の覆土上部をSK56・206に、南東側をSK55に切られる。規模は長軸5.77m×短軸4.69mを測り、楕円形を呈する。深さは確認面より35cmを測り、床は平坦であるが、南東側に向かいやや下方する。覆土は暗褐色土を基調とした4層に分層され、自然堆積を示す。第1・3層からは焼土ブロックと炭化物ブロックがそれぞれ検出された。

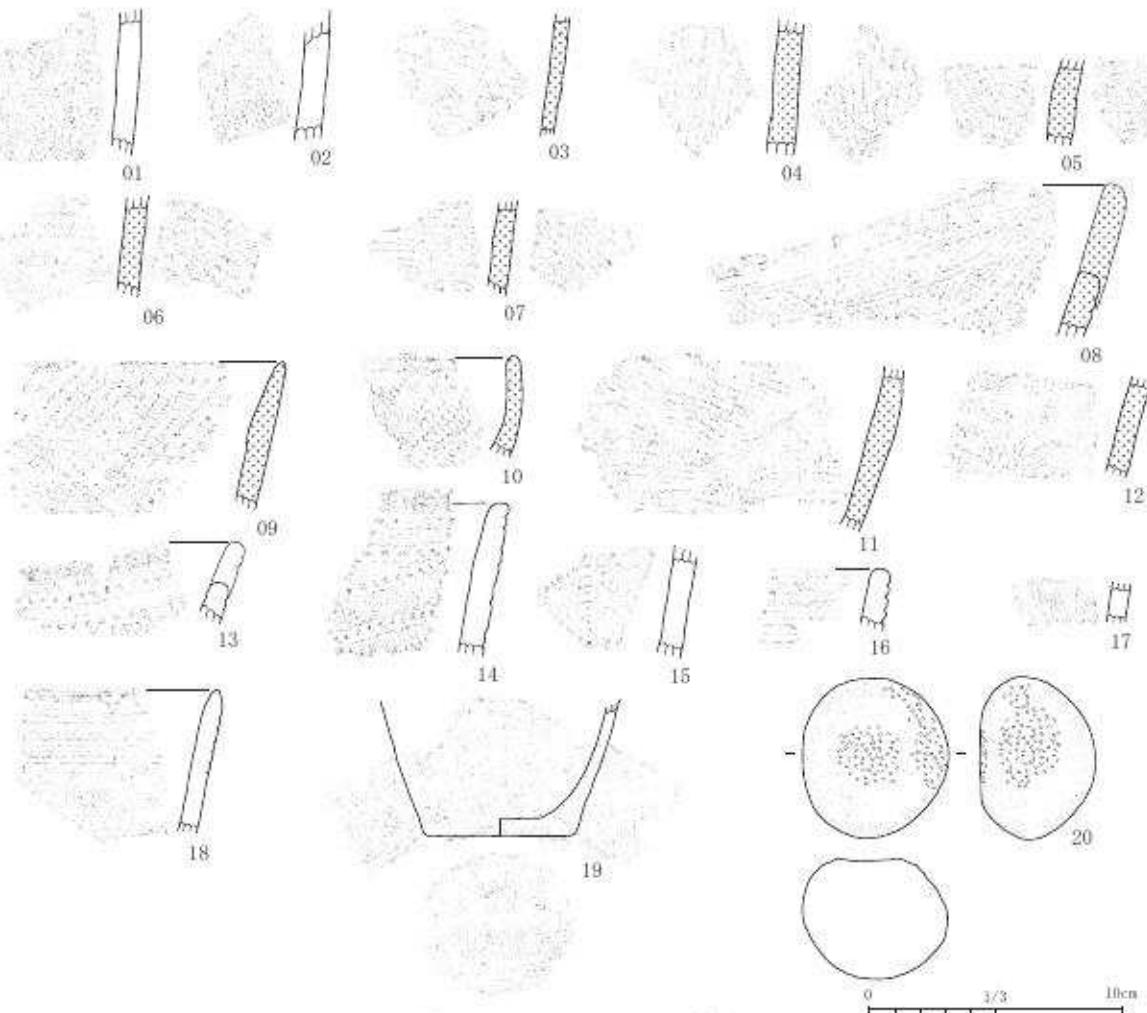
付帯施設は柱穴12基(P1~12)が確認された。P5は最大幅56cmを測り本住居においては最大の柱穴である。一方P9は最小の柱穴であり、最大幅は24cmを測る。P8の南東には炉が隣接しており、火床面はピット状に窪む。

遺物は縄文土器、石器を中心にして7411.4g出土した。掲載遺物は20点である。

B区 SI11 セクション  
1. 10M 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量、地上灰干・ブロックφ1~2mm 植物遺葉、ややしまりあり、やや粘性あり。  
2. 10M 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量、ややしまりあり、やや粘性あり。



第56図 B区 SI11



第57図 B区SI11出土遺物

第22表 B区SI11出土遺物観察表(1)

遺物番号	性質	輪郭	断面	D径	底径	断面	断面・裏様・帯形	型式	保存状態	焼成	色調	素上	重量(g)	備考
01	土層	陶文土器	深鉢	—	—	—	外面ヘクタオリ。内面ナガ。	天火場式	麻透破片	良好	内外面 10H7/4に赤い黄櫻	白色粒子多い。黒 母微量	33.4	
02	土層	陶文土器	深鉢	—	—	—	外面ヘクタオリ。内面ナガ。	天火場式	麻透破片	良好	内外面 10H7/4に赤い黄櫻	白色粒子多い。黒 母微量	33.4	
03	一筋	陶文土器	深鉢	—	—	—	外面深い渠底。内面著落。	庄義茅山 式々	麻透破片	良好	内面 10H7/4に赤い黄櫻 外面 7.5H6/6 横	微量鐵錆、白色粒 子多く。	37.1	
04	土層	陶文土器	深鉢	—	—	—	内外面縱方向の条痕。	庄義茅山 式々	麻透破片	良好	内面 10H7/4に赤い黄櫻 外面 7.5H6/6 横	微量鐵錆、黄色多 い、白色粒子少、黒 色粒子、スコリア 微量	27.6	
05	一筋	陶文土器	深鉢	—	—	—	外曲線。内面横方向の条痕。	庄義茅山 式々	麻透破片	良好	内外面 10H7/4に赤い黄櫻	微量鐵錆、白色粒 子多く。黒母少 量	36.3	
06	一筋	陶文土器	深鉢	—	—	—	内外横方向の条痕。	庄義茅山 式々	麻透破片	良好	内外面 7.5H6/6 横	微量鐵錆、白色粒 子多く。スコリア 微量	21.0	
07	土層	陶文土器	深鉢	—	—	—	内外条痕。内管測定あり。	勝ヶ鳥前 式	麻透破片	良好	内外面 10H7/4に赤い黄櫻	微量鐵錆、白色粒 子スコリア多く、 黒色粒不規則	35.1	
08	下層-一 筋	陶文土器	深鉢	—	—	—	夷狀口縁。口縁に平行して2 筋の進行凹溝がある。周実は 肩部LRと底部後傾然の2種類 の輪玉川引かれれる。	里波式	口縫部破 片	良好	内面 7.5H6/4に赤い黄櫻 外面 10H5/4に赤い黄櫻	鐵錆多量。白色粒 子、黒母少、ス コリア微量	74.0	
09	下層	陶文土器	深鉢	—	—	—	夷狀口縁・LRの間に上る柱 状突瘤を構成する。	里波式	口縫部破 片	やや不良	9H6 10H6/4に赤い黄櫻 9H6 10H5/6 黄櫻	鐵錆多量。白色粒 子多く多く	56.1	
10	土層	陶文土器	深鉢(口 縫波)	—	—	—	夷狀LR 製文。	里波式	口縫部破 片	良好	内外面 10H6/3に赤い黄櫻	鐵錆多量。白色粒 子スコリア微量	35.0	
11	下層	陶文土器	深鉢	—	—	—	夷狀LR 製文。	里波式	麻透破片	良好	内面 10H6/3に赤い黄櫻 外面 7.5H5/4に赤い黄櫻	鐵錆多量。白色粒 子、黒母少	73.8	
12	一筋	陶文土器	深鉢	—	—	—	夷狀口・ほの複文による柱 状突瘤を構成する。	里波式	麻透破片	良好	内面 10H6/4に赤い黄櫻 外面 7.5H5/4に赤い黄櫻	鐵錆多量。黒母多 い。白色粒子少、ス コリア微量	29.9	
13	上層-一 筋	陶文土器	深鉢	—	—	—	口縁に沿って2筋の抵抗文が 2列描かれる。鐵錆は含まない。	浮島1式 諸義1式	口縫部破 片	良好	内外面 10H7/4明面相	白色粒子少、ス コリア、黒母微量	18.5	
14	上層	陶文土器	深鉢	—	—	—	口縁に沿って2筋の抵抗文が 2列描かれる。鐵錆は含まない。 地文は拂衣文と推察した。	浮島1式	口縫部破 片	良好	内外面 7.5H7/4 深面相	白色粒子少、ス コリア、黒母微量	35.7	

第23表 B区SI11出土遺物観察表(2)

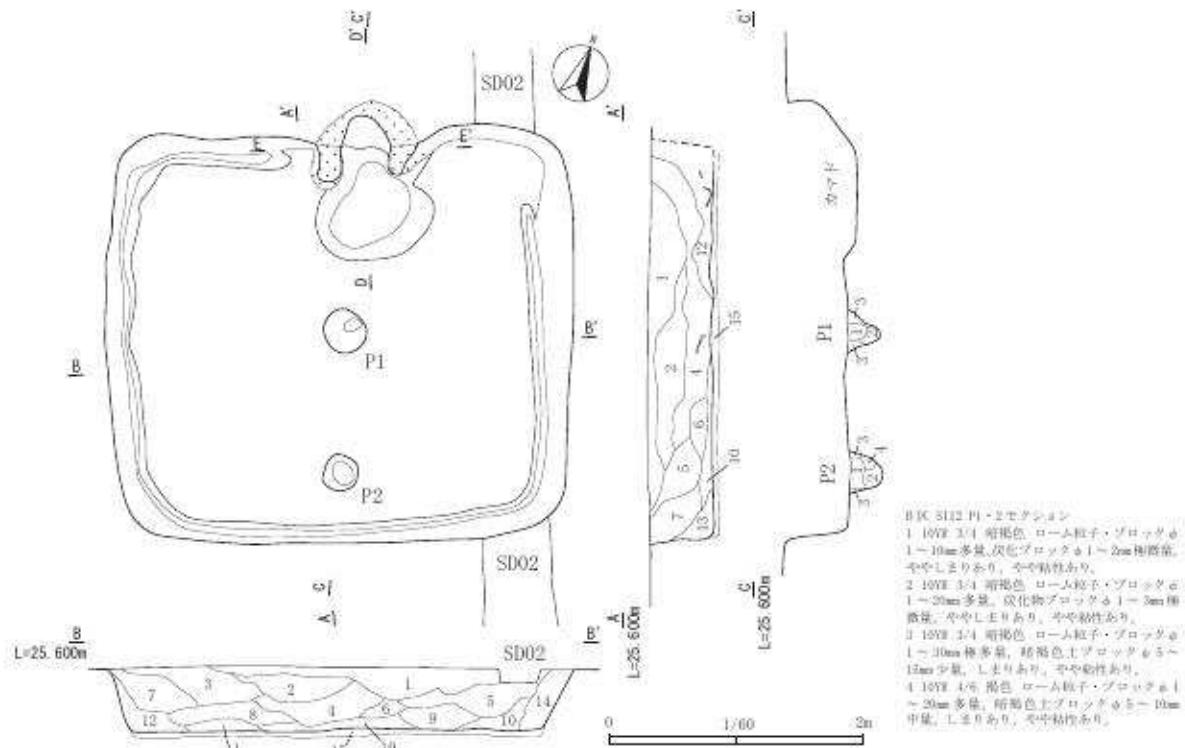
遺物番号	性質	相場	特徴	口径	底径	高さ	表面・裏面・常形	形状	現存	焼成	色調	重上	重量(g)	備考
15	一括	陶瓦上部	深鉢	—	—	—	円形文上に筋骨文が施される。地文は印字ではない。	外周19cm 深さ6cm	麻透破片	良好	内面 T.500/7/4にふく様 外面 T.500/11房縫	白色粒子・雲母少 量	20.4	
16	T解	陶瓦上部	深鉢	—	—	—	斜行沈痕が集合化する。	十三告使 式	口縁部破 片	良好	内外面 T.500/6様	白色粒子・雲母多 い	9.1	
17	下層	陶瓦上部	深鉢	—	—	—	地文文様の確認。	不規 則なX	陶器破片	良好	内外面 T.500/6様	白色粒子少 量、雲 母微量	6.2	
18	一括	陶瓦上部	深鉢	—	—	—	口縁は波状となる。口沿直下に斜行沈痕が造り縁の区切り線が施される。	加賀利日 式	口縁部破 片	良好	内外面 T.500/7/4にふく様	雲母多 い・白色 粒子・スコリア少 量	31.7	
19	NOT	陶瓦上部	深鉢	—	6.8	15.6	平底で薄手。内面は磨かれて、外側は無光。	加賀利日 式	陶器破片	良好	内面 T.500/6様 外面 T.500/4にふく様	白色粒子多い・雲 母アリ少 量	118.9	
20	一括	石製品	輪	無	7.45	5.2	厚さ 4.7	上面がやや扁平な球形の自然形を示すもので、上面お土手側面に斜行板が構成される。材質は砂岩。				231.4		

## SI12(第58~63図、第24~26表、遺構図版22、遺物図版5~7)

J7・8グリッドに位置する。北側にカマドがあり、主軸方向はN-21°-Wである。規模は南北3.50m×東西3.72mを測り、平面形は東西方向がやや長い長方形である。深さは確認面より57cmを測り、覆土は主に暗褐色土を基調とした14層に分層される。覆土の上層から下層にかけては黒褐色土ブロックが多く含み、ほぼ全層に焼土ブロック・炭化物ブロックが微量含まれる。覆土の状態と堆積状態から、本住居跡は焼失住居であり、覆土は人為的に埋めた状況と判断される。

付帯施設はカマド、柱穴、周溝が確認された。

カマドは北側壁中央よりやや東よりに位置する。壁面を22cm掘り込んで構築される。規模は全長67cm、



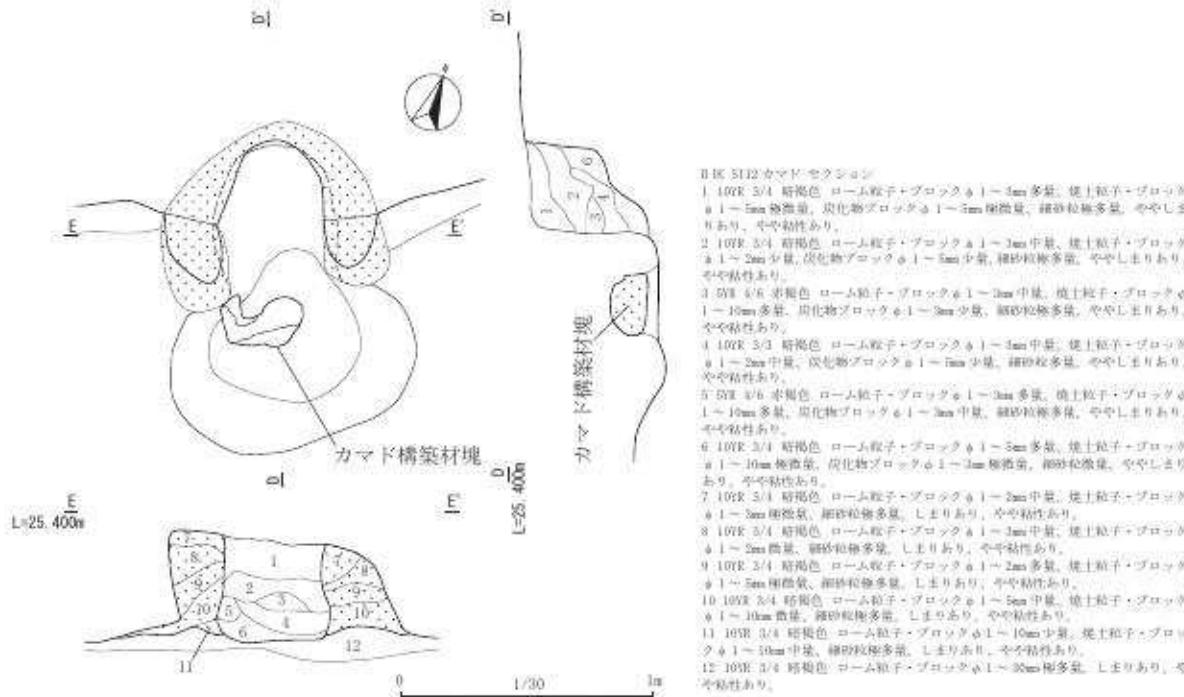
第58図 B区SI12

最大幅91cm、床面からの高さ43cmを測る。天井部は崩落しており、第7～11層が構築材であると判断される。焚き口手前で被熱赤化した構築材の塊が検出された。袖部は細砂粒を多量含む暗褐色土を積み上げ構築される。住居跡壁面よりほぼ直角に並走し、左袖は基部で最大幅23cm、奥行き41cm、右袖は基部で最大幅22cm、奥行き29cmを測る。火袋部の大きさは最大で幅52cmである。

柱穴は2基確認された。P1は住居跡のほぼ中央に位置する。規模は最大幅36cm×深さ29cmを測る。P2はP1の南、南側の壁中央より北へ42cmの地点に位置する。規模は最大幅30cm×深さ27cmを測る。いずれの柱穴も覆土は暗褐色土を基調とし、規模も類似する。

周溝は北東隅以外の壁直下を周り、幅は10～15cmほどである。

遺物は土器器を中心に20915.9gが床直上あるいは下層で出土した。掲載遺物は21点である。出土状況は、①甕01・02・04の床面に横転あるいは縦穴壁に寄り掛かっているもの、②甕03・05・06や支脚21のカマド周辺に散乱するもの、③甕12～16や壺17～20、甕07、傾11の、いわゆる三角堆積（第12～14層）の堆積とともに流れ込んだ状態のもの、④甕08・09・10の、やや浮いた状態で覆土第4層等に含まれるもの、

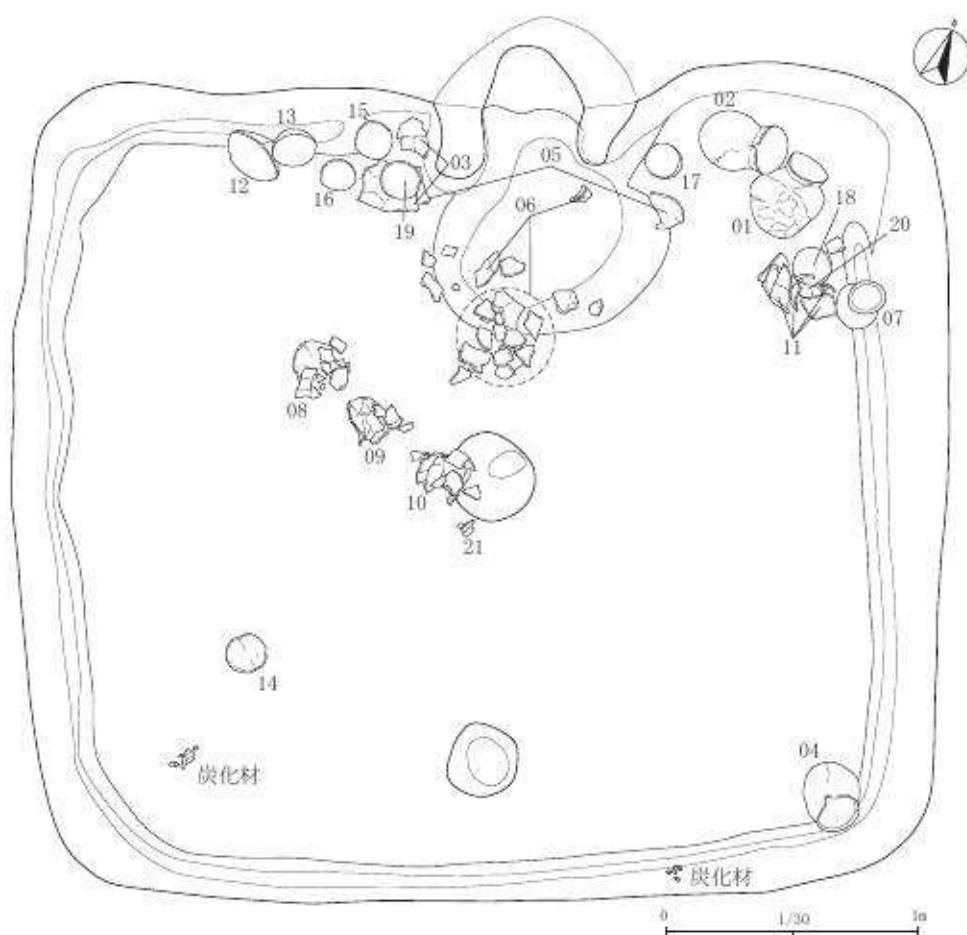


第59図 B区 SI12 カマド

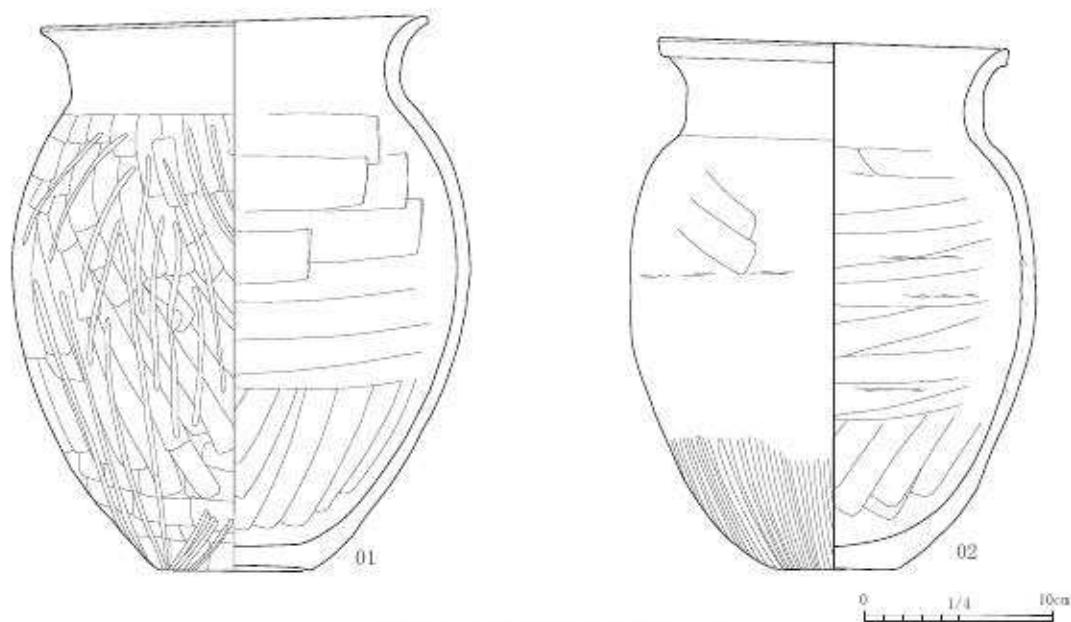
第24表 B区 SI12 出土遺物観察表(1)

遺物番号	状況	種類	特徴	D径	底径	厚さ	性質	断面の特徴	剖面の特徴	施成	色調	焼土	重量(g)	備考
01	N02	土器部	甕	20.2	8.0	29.9	脚部は上底底味の平底。胴部の張りは弱くややや長脚で脚大筋を中筋に有す。口縁は「E」の字に外反する。	口縁は内外両面に横ナギ。胴部外周はヘラケズリ後部分のなミガキ。底部は多量のヘラケズリ底ミガキ。内面土牛はヘラナギ。手牛はナギ。	良好 二次焼成 あり	内面 GIBA/2 外周 GIBA/4 内面 GIBA/4 内面 GIBA/2	長石・有英・ 空目多い	1431.6		
02	N02	土器部	甕	18.2	16.5	28.7	口縁一側 部 1/4欠損	底部は上底底味の平底。胴部の張りは弱くやや長脚で脚大筋を中筋に外反する。口縁は「E」の字に外反し口唇で削除した後つまみ上げが付加されている。	良好 二次焼成 あり	内面 GIB2/1 外周 GIB2/2 外周 GIB2/2 外周	長石・有英・ 空目多い	1651.6		
03	N018-32	土器部	甕	16.8	11.8	31.0	脚部1/4 底部欠損	胴部の張りは弱く最大径を中筋に有すやや長脚底味の甕。脚部前面で塑生り口縁は「E」の字に外反する。口縁は強く折返しが確認される。	良好 二次焼成 あり	内面 7.5BB/4に少 い模	小理・白色和 子やや多い。 空目少當。ス コリア・白色 針状物質微量	1114.8		
04	N026	土器部	甕	16.2	—	28.2	底跡欠損	口縁は瘤ナギ付加しているが木口底の仕面が内外両面に観察される。胴部外周はヘラケズリ上位にミガキが施されている。内面土牛はヘラナギ。手牛はナギが観察される。	良好	内面 GIB5/1 内面 GIB4/1 外周 GIB4/1 外周	白色和子・淡 青少當。白色 針状物質微量	1771.5		

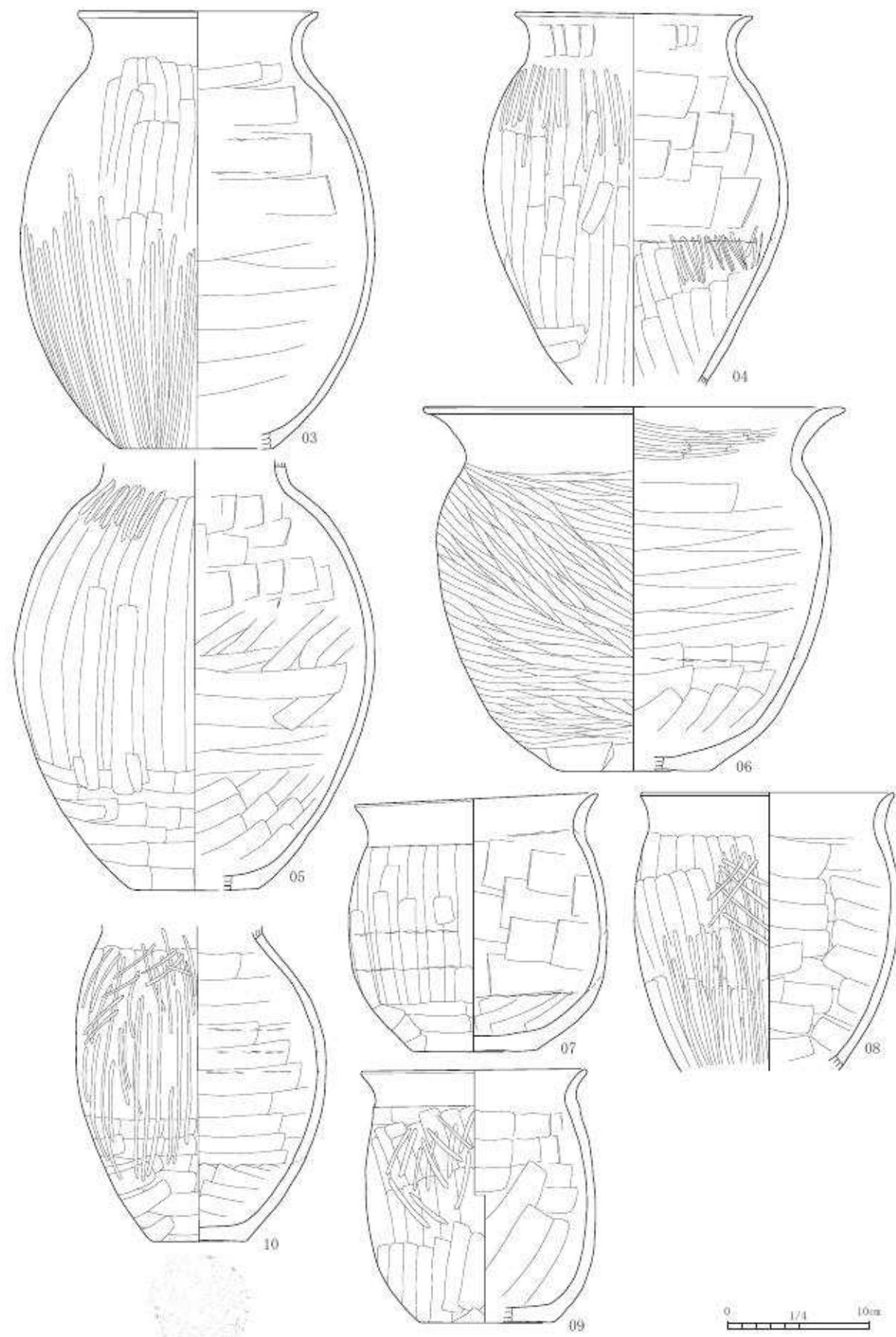
に分けられる。①からは住居内における甕の置き場、③からは鉢・壺類のカマド両脇、竪穴壁上の収納スペースが想定される。また、試掘調査T44出土の甕01と壺01は本住居に帰属すると思われる。



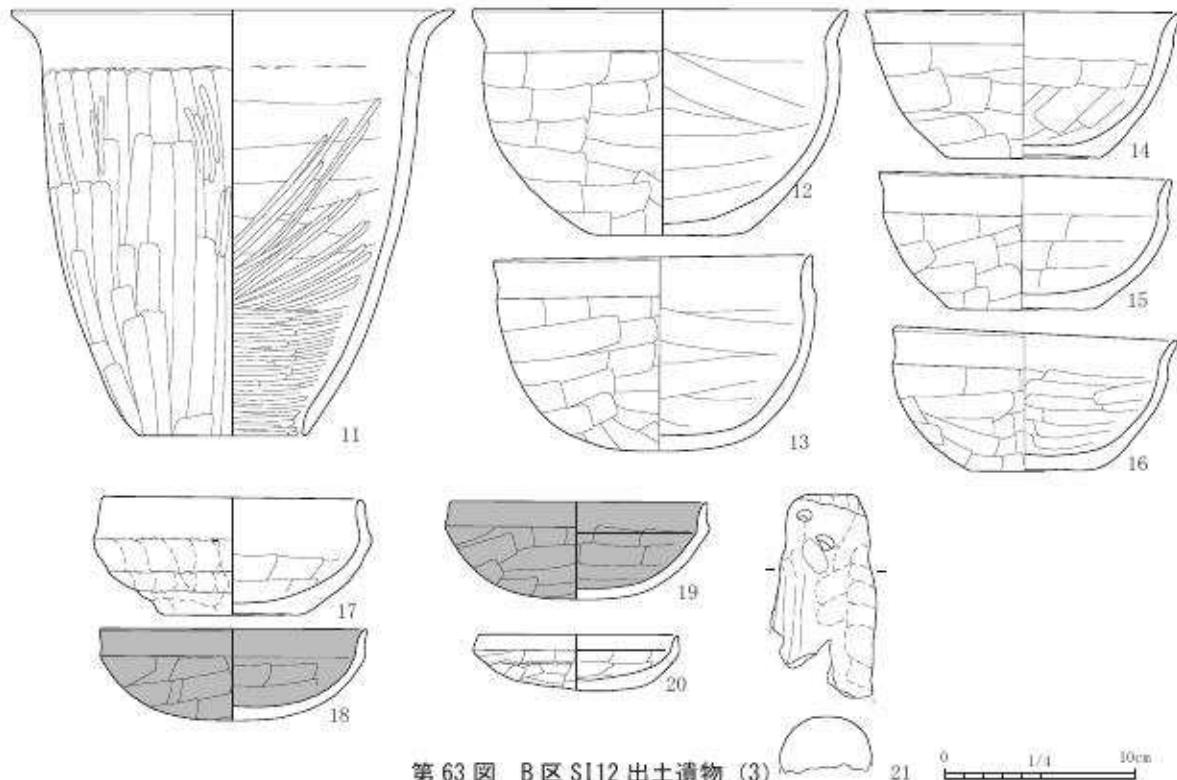
第60図 B区 SI12 遺物出土状況



第61図 B区 SI12 出土遺物 (1)



第62図 B区S112出土遺物(2)



第63図 B区 SI12 出土遺物(3)

第25表 B区 SI12 出土遺物観察表(2)

遺物番号	目次	種類	断面	口径	底径	高さ	残存	器物の特徴	形状の特徴	焼成	色調	粒度	重量(g)	備考
567 32-中層 下層		土師器	塊	—	19.0	35.4	1/2以上 残 底部欠損	底部は平底。側部は最大径を中位に有しやや長脚気味となる。	側部外周はヘリケタリ後上位にカギ。内面はナゲ形であるが上部へナガが観察される。底部は多方向のハクケタリ。	良好	内面 1035/2灰黄 外周 1035/4にぶ い黄褐	白色粒子・青 色少々。スコ リア微量	1293.4	
568 11-12 14-中層 下層		土師器	塊	(28.6)	(10.7)	(25.7)	1/2	底部は平底。側部は最大径を中位に有しやや球形を成す。口縁は「く」の字に屈曲し大きくなっている。底部は鉛灰である。	外周口縁1枚ナガ。側部は扭いてカギ。下端はナラケタリ。底部木尾根。内面口縁は「く」の字に外反する。側部は鉛灰である。	良好	内面 1035/4にぶ い黄褐	灰白・石灰・ 鐵斑や多い。 黑色粒子 少量	1124.7	鉛灰
569 506		土師器	塊	17.1	8.8	17.8	完形	底部は平底。側部は最大径を中位に有しやや球形を成す。口縁は「く」の字に外反する。側部は鉛灰である。	口縁は内外両方に横ナガ。側部外周はヘリケタリ。内面はナガ。底部付近はナガ。底部木尾根。内面口縁は「く」の字に外反する。	良好	内面 1035/4にぶ い黄褐	白色粒子・ス コニアや空洞 あり	1295.3	
570 5022		土師器	塊	17.8	—	19.7	側一底部 1/3欠損	側部の張りは弱く最大径を上位に有す。側部で草モリ口縁は緩やかに外反する。	口縁は内外両方に横ナガ。側部外周はヘリケタリ後上位に部分的なカギが観察される。内面はナガ。	良好	内外面 1.5V34/1 黄灰	白色粒子や多 い。黒斑少 量。白色斜状 物質・スコリ ア微量	879.0	
571 5023-2 中 層・下層		土師器	塊	15.8	10.0	17.9	口縁一底 部 3/3欠損	底部は平底。側部は下端で内側するものの極めて側扁な形状。側部で側方に帶状り口縁は「く」の字に外反する。	口縫口内外両方に横ナガ。側部外周はヘリケタリ後上半に部分的なカギが観察される。底部はヘリケタリ。内面はナガ。	良好	内面 1035/4にぶ い黄褐	小礫・白色粒 子や多い。 黒斑少 量	745.9	
572 5024		土師器	塊	—	6.7	22.3	口縁一側 部 上位欠損	底部は平底。側部の張りは弱くやや長脚気味。最大径を中位に有す。	側部に残存する側面には内外両方に横ナガが観察される。側部外周はナラケタリ。下半側方向へナラケタリ後側方にカギ。底部は木尾根→多方向のヘリケタリ→カギ→ヘリケタリ。内面はナガ。底部木尾根。内面はナガ。底部木尾根。内面はナガ。	良好 二次焼成 あり	内外面 1035/4にぶ い黄褐	小・中礫・白 色粒子や多 い。黒斑少 量	988.8	泥灰水 漬風・ ヘリケ タリ
573 504-8- 中層		土師器	塊	23.2	—	22.9	ほぼ完形	単孔式。側部はやや直線的に開き口縫で外反する。	口縁は内外両方に横ナガ。側部外周はヘリケタリ。内面はナガ後ミカギ。側部は直角的開口されている。	良好	内外面 1.5V34/1 黄褐	小礫・白色粒 子や多い。 黒斑少 量。白 色斜状物質 微量	1520.6	
574 5025		土師器	塊	19.6	8.2	11.9	体一底部 1/3欠損	底部は平底。体部は緩やかに内凹し、口縫は弱い傾きを有し外反する。	口縁は内外両方に横ナガ。側部外周はヘリケタリ。内面はナガ。底部はヘリケタリ。	良好	内面 1.5V34/3にぶ い黄褐 外周 1.5V34/4 黄褐	小礫・白色粒 子や多い。 黒斑少 量。ス コニア・白 色斜状物質 微量	644.6	
575 5026		土師器	塊	16.7	丸底	10.2	完形	底部は丸底。体部は下端で縦 脊部に内側した後立ち、山様 は弱い傾きを有し外反気味に直 立する。	口縫は内外両方に横ナガ。側 部外周はヘリケタリ。内面はナ ガ。底部はヘリケタリ。	良好	内面 1.5V34/8 横 外周 1.5V34/5 黄 褐	白色粒子・青 色・スコニア 微量	646.5	
576 5025'		土師器	塊	16.9	8.0	7.7	ほぼ完形	底部はやや上底突出の平底。 外周は下端で緩やかに内凹し。 口縫は弱い傾きを有し外反する。	口縫は内外両方に横ナガ。側 部外周はヘリケタリ。内面はナ ガ。底部は多方向の手折りヘリケタリ。	良好 二次焼成 あり	内面 1.5V34/6 黄 褐 外周 1.5V34/8 黄 褐	白色粒子・火 エリア・黒色 粒子・青斑 や多い	491.0	

第26表 B区SI12出土遺物観察表(3)

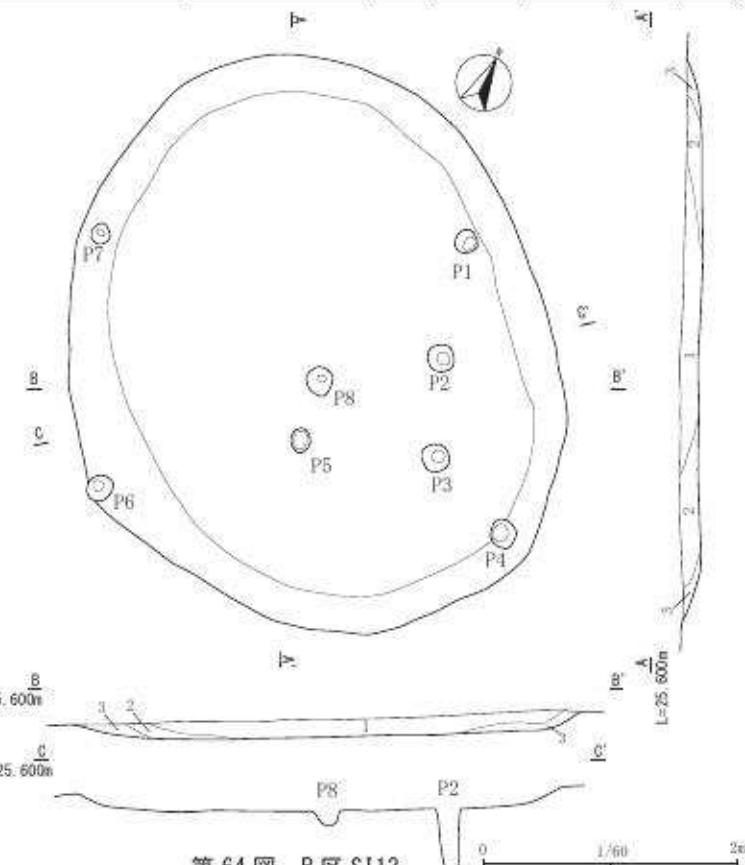
遺物番号	記号	種類	基準	口径	底径	高さ	堆存	断面の特徴	整形の特徴	地成	色調	粒度	重量(g)	備考
15	N016	土師器	焼	15.0	7.6	T.1	荒形	底盤は平底、体部は下縁で緩やかに内湾した後、口縁は鋭い棱を有し外反気味に立つ。	口縁は内外両方に棱ナギ、体部外面はヘラケズリ。内面はナギ。底盤は多方向の手持ちヘラケズリ。	良好 二次焼成あり	内面: 3VBS/8 外面: 2, 3VBS/8 明赤褐色	黄褐色・白色粒子多い、スコリア・白色粘物質微量	452.1	
16	N019	土師器	焼	14.9	6.0	T.2a	荒形	底盤は平底、体部は下縁で緩やかに内湾した後、口縁は鋭い棱を有し外反気味に立つ。	口縁は内外両方に棱ナギ、体部外面はヘラケズリ。内面はナギ。底盤は多方向の手持ちヘラケズリ棱部分の少々凹出。	良好 二次焼成あり	内面: 2, 3VBS/8 標	白色粒子・芸母子が多い、黒色粒子・火コリ亞微量	420.3	
17	N01	土師器	焼	13.6	7.4	K.1	口縁鋸 V字欠損	底盤は平底、体部は下縁で緩やかに内湾した後、口縁は鋭い棱を有し内傾する。	口縁は内外両方に棱ナギ、体部外面は手・指による整形。内面はナギ。底盤は指摺り痕を残す箇所なものである。輪積成あり。	良好	内面: 3VBS/8 明赤褐色 外面: 3VBS/8 明赤褐色	灰石・灰英等 小礫・芸母子が多い	305.8	赤田木 発現
18	N029	土師器	焼	14.0	9.0	A.8	口縁鋸 V字欠損	底盤は丸底、体部は下縁で緩やかに内湾し、口縁は鋭い棱を有し外反気味に立つ。	口縁は内外両方に棱ナギ、体部外面は手・指による整形。内面はナギ。	良好 二次焼成あり	内面: 2, 3VBS/8 明赤褐色 外面: 2, 3VBS/4 にぶい赤褐色	白色粒子や手が多い、黒色粒子・芸母子多く、スコリア微量	253.7	内外側 周色焼 付
19	N017	土師器	焼	13.4	8.0	K.1	口縁鋸形	底盤は丸底、体部は下縁で緩やかに内湾し、口縁は鋭い棱を有し外反気味に立つ。	口縁は内外両方に棱ナギ、体部外面はヘラケズリ。内面はナギ。	良好	内面: 2, 3VBS/2 明赤褐色 外面: 2, 3VBS/2 肉桂褐色	白色粒子や手が多い、火コリ亞・芸母微量	230.9	内外側 周色焼 付
20	N028	土師器	焼	10.4	6.0	K.1	口縁鋸形	底盤は丸底、体部は下縁で緩やかに内湾し、口縁は鋭い棱を有し鋭く立つ。小形で丸い。	口縁は内外両方に棱ナギ、体部外面はヘラケズリ。内面はナギ。輪積成あり。	良好	内面: 2, 3VBS/4 にぶい赤褐色	白色粒子多い、芸母子多く、スコリア微量	132.9	
21	N027	土製品	灰	10.8	9.0	K.6	—	壁上2・ 下端部欠損	手・指による整形。	精良	内面: 3VBS/4 にぶい赤褐色	白色粒子・芸母微量	161.9	

SI13(第64図、遺構図版23)

18グリッドに位置する。規模は長軸4.66m×短軸3.92mを測り、楕円形を呈する。深さは確認面より16cmを測り、床は平坦である。覆土は暗褐色土を基調とし3層に分層される。全層にロームブロックが多く含み、第1・2層には粒径の小さい焼土ブロックが含まれる。堆積状況は自然堆積を示す。

付帯施設は柱穴8基が確認された。P1・4・6・7は壁付近で確認された。規模は最大幅16~26cmである。

遺物は検出されなかった。



第64図 B区SI13

SI14・33(第65~68図、第27表、遺構図版23・24、遺物図版7・8)

68・9、H8・9グリッドに位置する。いずれも方形の住居跡である。SI33はSI14に東側と南側の壁の大部分を壊されている。

SI14 主軸方向はN-10°-Wである。規模は南北3.63m×東西3.54mであり、平面形は正方形を呈する。床はほぼ平坦であり、壁は垂直である。深さは確認面より123cmを測る。覆土は上層が黒褐色土、中・下層が暗褐色土を基調とし7層に分層される。全層にロームブロックが多く含み、掘方である第11層では粒径が大きい。覆土の堆積状況は自然堆積を示す。

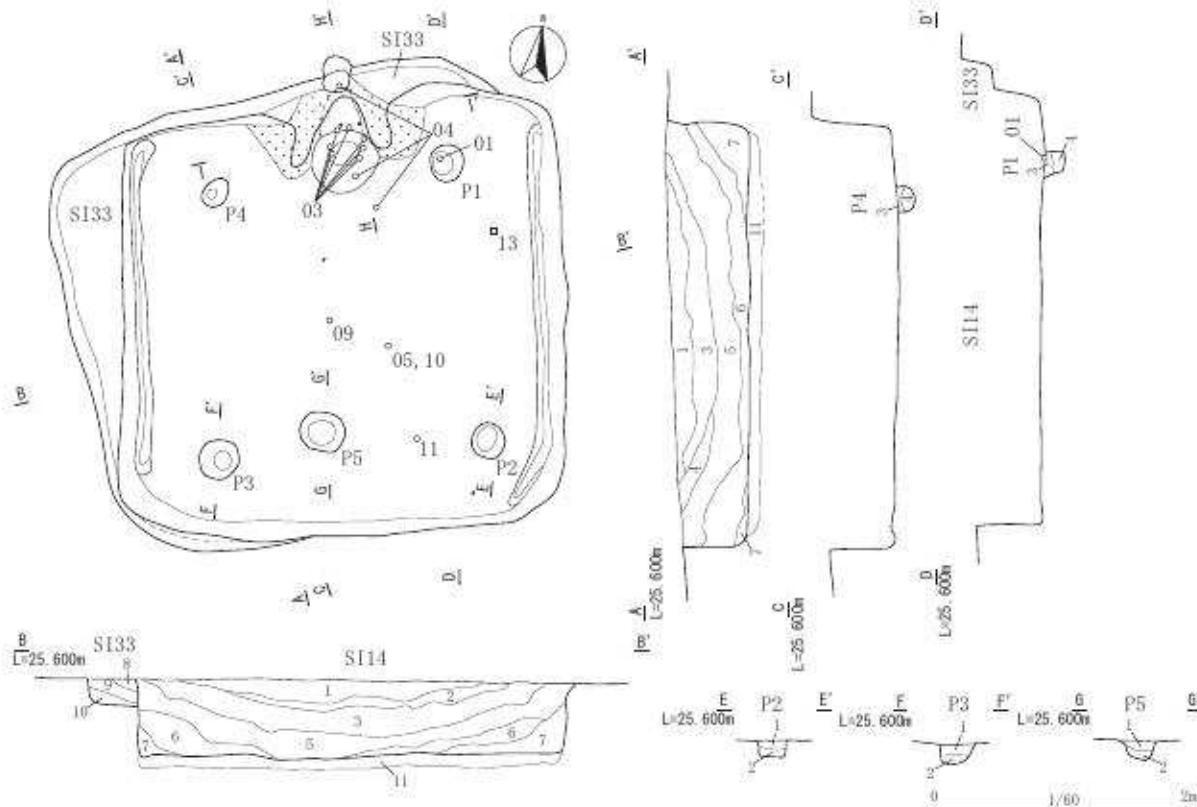
付帯施設はカマド、柱穴、周溝が確認された。

カマドは北側の壁のほぼ中央を37cm掘り込んで構築される。規模は全長111cm、最大幅142cm、床面からの高さ35cmを測る。天井部は崩落しており、第13～16層が構築材であると判断される。袖部は細砂粒を多量含む暗褐色土を積み上げ構築される。住居跡壁面よりほぼ直角に並走し、左袖は基部で最大幅59cm、奥行き55cm、右袖は基部で最大幅57cm、奥行き47cmを測る。火袋部の大きさは最大で幅46cmである。カマドの基礎部には裏込めは確認されなかった。

柱穴は主柱穴4基(P1～4)、出入り口に伴うと思われる1基(P5)が検出された。主柱穴はそれぞれの隅より対角へ55～75cmの地点に位置する。規模はP1が最大幅30cm×深さ16cm、P2は最大幅29cm×深さ14cm、P3は最大幅36cm×深さ17cm、P4は最大幅25cm×深さ16cmを測る。P5は南側壁より66cmの地点、南北軸よりやや西側に位置し、P2・3より内側に入る。規模は最大幅37cm×深さ27cmを測る。柱穴の覆土は住居跡北側のP1・2では褐色土であり、南側のP2・3・5では暗褐色土である。

周溝は東西の壁直下をほぼ網羅する範囲で確認された。幅は最大15cmである。

遺物は、土師器7533.8g、須恵器1049.1gを検出した。中央床面直上に須恵器壺の完形品(9)が正位で出土し、土師器甕(01)は主柱穴P1をふさぐように伏せた状態で検出された。カマド内では覆土中から土師器大甕の胴部破片(03・04)が出土しているが、意図的な状況は看取されない。須恵器盤(11)や砥石(13)は覆



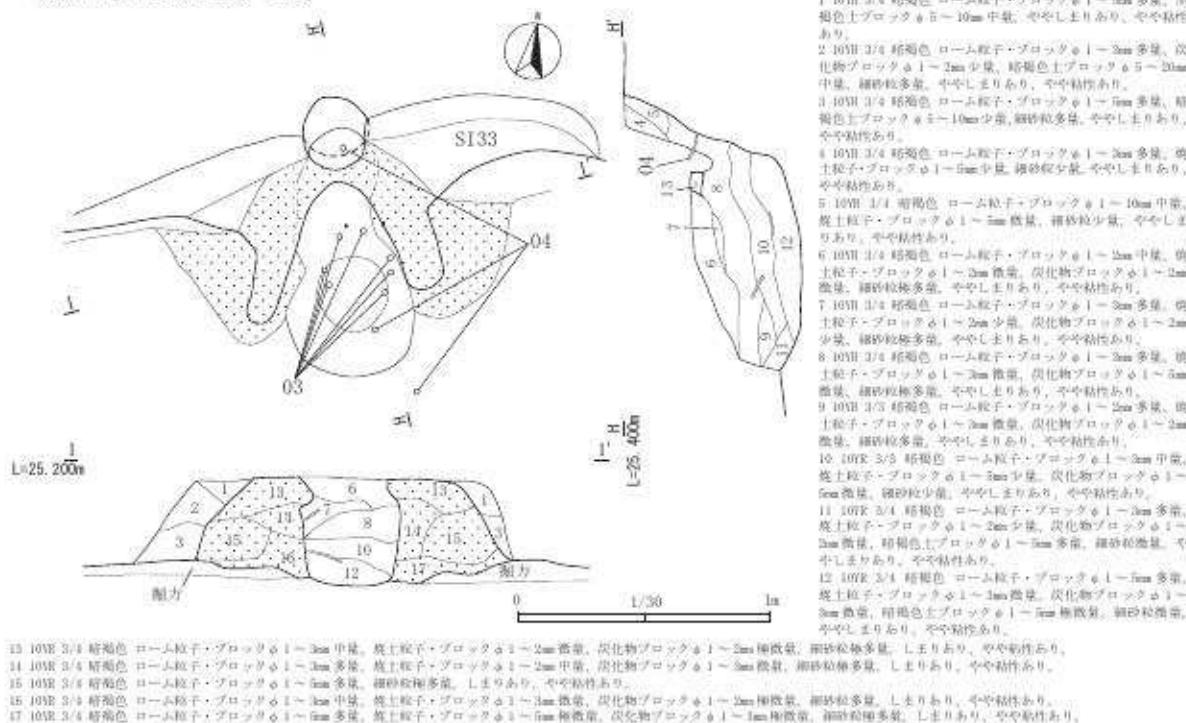
- B区 SI14-33 セクション
1. 10F 2/2 黒褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量、灰土粒子微量、ややじまりあり、やや粘性あり。
  2. 10F 3/3 黒褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm 多量、暗褐色土ブロックφ10～15mm 多量、ややじまりあり、やや粘性あり。
  3. 10F 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量、黒褐色土φ10～30mm 大のブロック状に複数個、半干し土よりあり、やや粘性あり。
  4. 10F 3/5 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm 多量、ややじまりあり、やや粘性あり。
  5. 10F 3/6 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm 多量、黒褐色土ブロックφ1～3mm 中量、ややじまりあり、やや粘性あり。
  6. 10F 3/7 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量、暗褐色土ブロックφ1～5mm 多量、ややじまりあり、やや粘性あり。
  7. 10F 3/8 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm 多量、黒褐色土ブロックφ1～5mm 少量、ややじまりあり、やや粘性あり。
  8. 10F 3/9 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm 多量、ややじまりあり、やや粘性あり。

第65図 B区 SI14-33

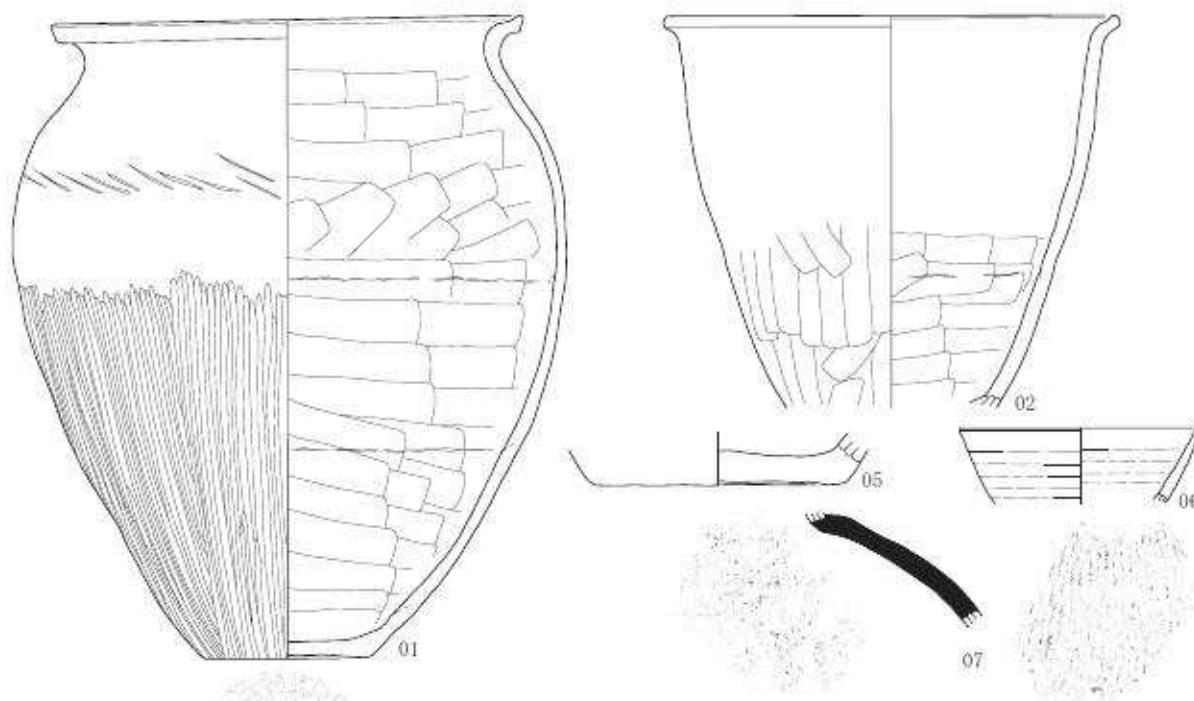
土下層の出土である。

**SI33** 主軸方向はN-23°-Wである。残存部の規模は南北3.53m×東西3.68mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。深さは確認面より22cmを測る。壁はやや外傾し、周溝は確認されなかった。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土であり、3層に分層される。自然堆積とみられる。

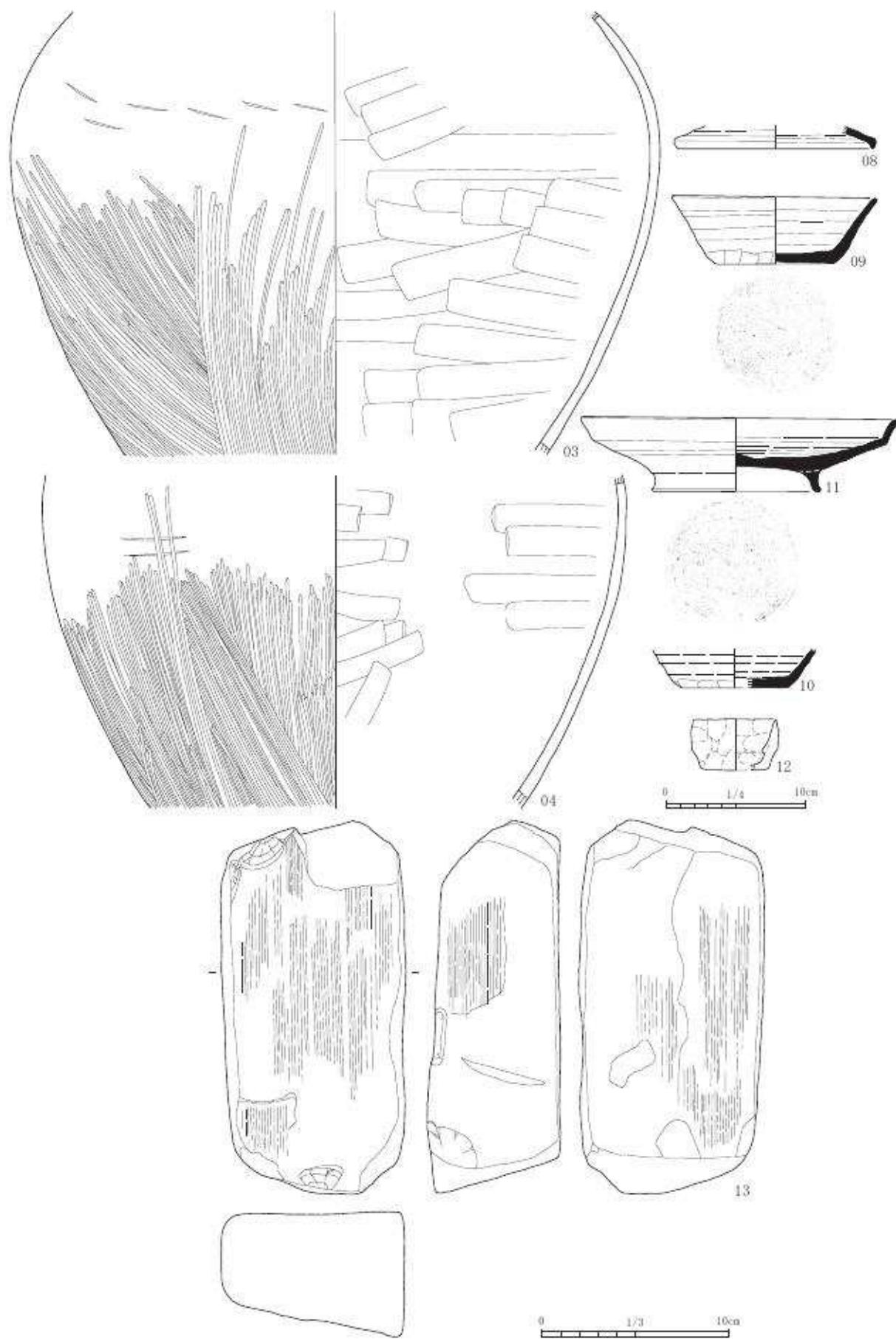
遺物は検出されなかった。



第66図 B区 SI14 カマド



第67図 B区 SI14 出土遺物 (1)



第68図 B区 SI14 出土遺物 (2)

第27表 B区SI14出土遺物観察表

遺物番号	形態	細部	特徴	口径	基径	厚扁	残存	断面の特徴	断面の特徴	底成	色調	胎土	量(g)	備考
01	N01	土師器	甕	24.5	8.7	32.8	18.0完形	底面は平らで土胚氣味の平底。側面は直線的に削ぎ、最大径は上位に有する。肩部の盛りは高く口縁は「U」の字に外反し口縁等で別離した後つまみ上げが確認される。	口縁は内外両面に横ナギ。側面外縁はナガ後下平はシガタ。上位には斜方向の木口状痕があり。底部木焼痕。内面はナガ。輪積痕あり。	良好 二次焼成 あり	内質 STB5/6 明芯板 外質 STB7/6 椎	長石・石英+ 雲母少量	3178.0	常緑壁 底部木焼痕
02	上層・中層・下層	土師器	甕	(20.6)	—	<20.0	口縁一部 底1/3	側面は直線的に削ぎ、口縁は「U」の字に外反し口縁等で別離した後つまみ上げが確認される。	口縁は内外両面に横ナギ。側面は平らで土胚に剥落。下牛外質はヘーケアリ。内面はナガ。	良好 二次焼成 あり	内質 STB6/6 椎 外質 STB4/4 江戸水桶	白色粒子多 い、少一牛脚、 雲母少量	837.7	
03	N05+N09+カマド+N08+N04+N06+N08+N09+カマド+柱+上層	土師器	甕	—	—	<21.0	側部方破片	大形の常緑壁裏の側部破片。側面は削る。	外質はナガ後ミガキ。上位には木口状痕が確認される。内面はナガ。	良好	内質 7.3W6/6椎 外質 STB4/6 赤土	長石・石英+ 雲母少量	1971.8	常緑壁裏
04	N01+N08+カマド+N010+カマド+中層・下層	土師器	甕	—	—	<21.0	側部大破片	大形の常緑壁裏の側部破片。側面は削る。	外質はナガ後ミガキ。上位には木口状痕が確認される。内面はヘーナダ。	良好	内質 10T6/6明黄 椎 外質 7.3W4/3に赤 い塊	長石・石英+ 雲母少量	644.9	常緑壁裏
05	N07	土師器	甕	—	(IX-2)	62.0	底部2/3	底面は平や土胚氣味の平底。下端は内削する。	外質洗削更換。側部下端はミガキ。内面はヘーナダ。	良好 二次焼成 あり	内質 7.3H4/1褐色 外質 7.3W7/6椎	白色粒子半 多い、少一牛 脚、雲母少量、 スコリア微量	211.7	常緑壁裏の 底部2/3 底部木焼痕
06	カマド	土師器	甕	12.6	—	4.8	口縁一部 底1/5	外質は直線的に削く。	ロクロ型形。	良好 二次焼成 あり	内質 7.3H7/6椎	白色粒子・渋 母・少一牛脚 多い	18.7	
07	下層	須恵器	甕	—	—	96.0	肩部破片	側面は削る。	側面右使用矢。外面平行叩き。内面は均具痕が確認される。	堅壁	内質 7.3H5/1灰 外質 7.3W7/1灰	部分の削き出 しやや多い、 白色粒子少量	123.9	東海津
08	中層	須恵器	甕	(14.0)	—	61.0	蓋部分	側面は鋭く削す。	ロクロ型形。	堅壁	内質 2.5H5/1黄 外質 2.5H6/1黄	白色粒子やや 多い、鉄分の 吸き出し。白 色粒子少量	7.7	東海津
09	N08	須恵器	甕	34.5	8.8	4.8	IIH2形	底面は平や土胚氣味の平底。身込で弱く削すした後体部は直線的に削く。	ロクロ型形。外質底面下端は手舟らヘーケアリ。底部は切削し、軽く切離し。	良好	内質 7.3H8/1灰白 外質 10H8/1灰白	雲母・黒色粒 子やや多い、 長石・石英等 小礫微量	215.3	新山田 大だきあ 6
10	N07	須恵器	甕	—	2.8	17.7	体一部 L/5	底面は平底。身込で弱く削すした後体部は直線的に削く。	ロクロ型形。外質底面下端と底部は手舟らヘーケアリ。	堅壁	内質 50H6/1灰	白色粒子やや 多い、小礫、 白色粒子少量	34.6	新山田
11	N06	須恵器	甕	022.0	11.9	5.2	注込式形	底台は「ハ」の字に付され、体部は身込で削かに内削した後大きく削す。口縁は削すび底部は削す。	ロクロ型形。外質底面下端及び底部は切削へテクスス。	良好	内質 7.3H6/1灰 外質 7.3G5/1灰	長石・石英等 の少一牛脚多 い、鉄分の吸 き出し少量、 雲母微量	574.8	新山田
12	中層	土製品	牛骨	16.0	(L.1)	6.0	口縁へ体 部1/5	底部は平底。身込で弱く削すした後体部は直線的に削く。	手・指による整形。折葱・底・輪積痕あり。	良好	内質 10W8/1に赤 い底	白色粒子・雲 母微量	15.3	
13	N05	石製品	硃石	鏡	20.0	横 立手	厚さ 7.2	長方形を呈する自然の隕石を用いている。小口側の使用は認められないが上手お土手側削は、使用のあとが観察される。材質は麻灰岩。				2307.0	火を受けた おり、表面 にはじけが 見える。	

SI15(第69~71図、第28表、遺構図版25、遺物図版8)

16 グリッドに位置する。西側にSD02が、中央部の上層から床下までにSK132が掘り込まれる。規模は南北3.88m×東西4.07mを測り、平面形は東西方向がやや長い長方形を呈する。カマドが東側の壁にあり、主軸方向はN-73°-Eとなる。深さは確認面より28cmを測る。床は平坦であり、壁はやや外傾する。覆土は第1層から第4層までが暗褐色土、掘方である第5層が褐色土を基調とする。下層にはやや粒径の大きい炭化物ブロックが含まれる。堆積状況は自然堆積とみられる。

付帯施設はカマド、柱穴、周溝が確認された。

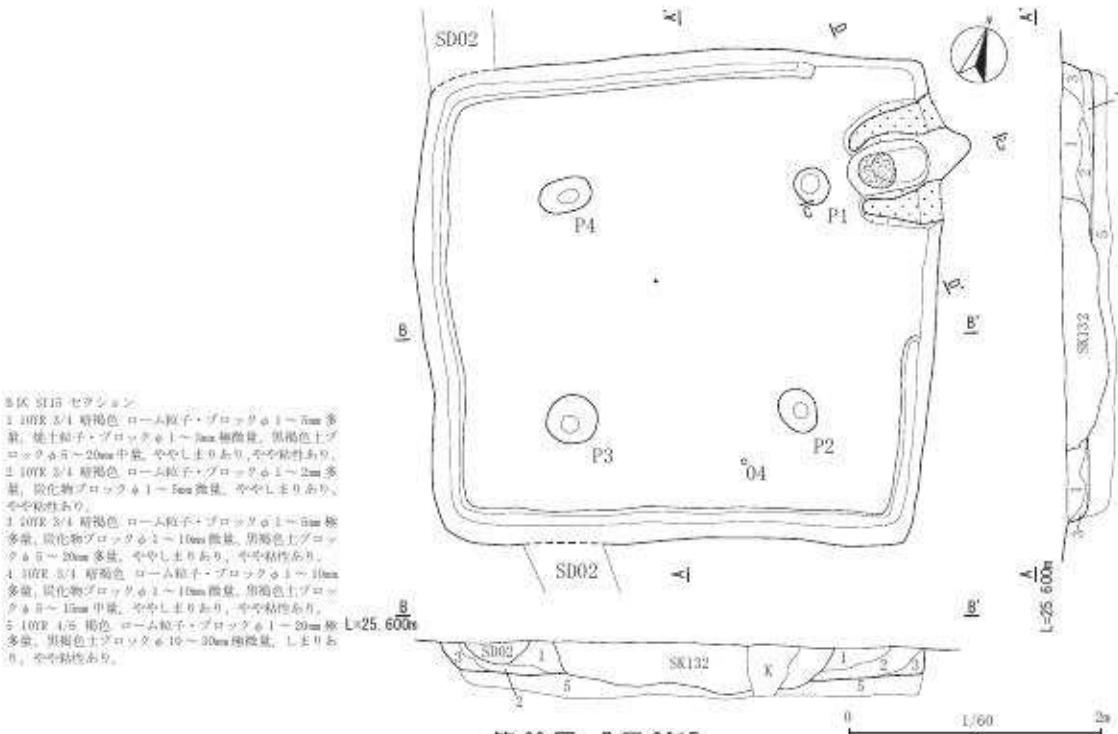
カマドは東側壁の北東隅付近で確認された。壁を56cm掘り込んで構築される。規模は全長99cm、最大幅104cm、床面からの高さ14cmを測る。天井部は崩落しており、第6~9層が構築材であると判断される。袖部は細砂粒を多量含む暗褐色土を積み上げ構築される。左袖は住居跡壁面からやや南側に走向し、基部で最大幅72cm、奥行き69cm、右袖は住居跡壁面とほぼ直角に走向し、基部で最大幅41cm、奥行き62cmを測

る。火袋部の大きさは最大で幅50cmである。火床部ではローム土の赤化が確認された。

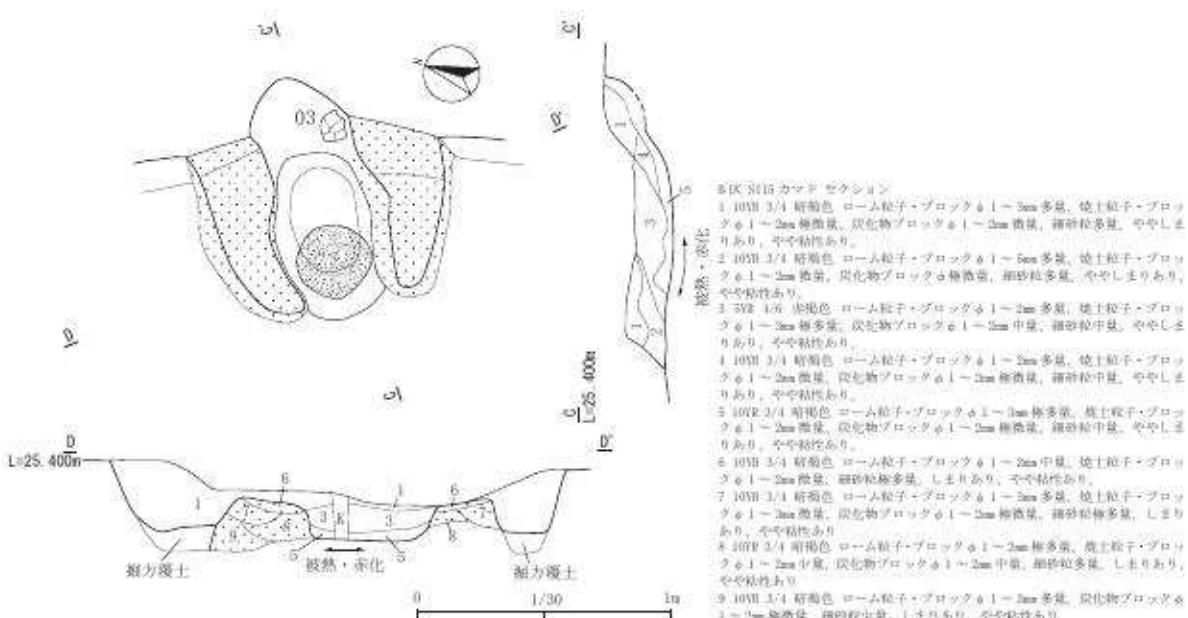
柱穴は主柱穴4基が確認された。それぞれ住居跡の隅より対角方向へ120cmほどの地点に位置し、規模は30~42cmである。

周溝はカマドの付近を除き壁直下を全周する。幅はほぼ一定であり12cmほどである。

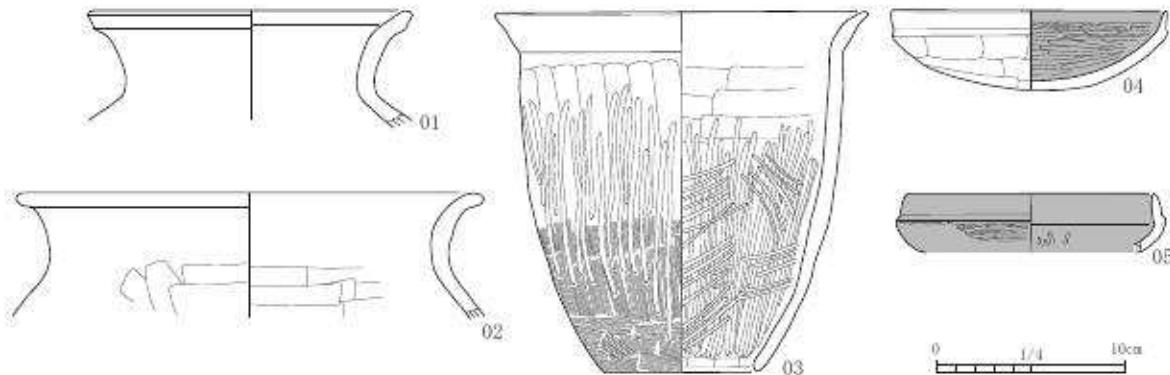
遺物は土師器を中心とし2041.5g出土した。掲載遺物は5点である。覆土第1層下部から壊の完形品(04)が検出され、カマド内の03は頬の口縁部から底部破片である。



第69図 B区 SI15



第70図 B区 SI15 カマド



第71図 B区SI15出土遺物

第28図 B表SI15出土遺物観察表

遺物番号	性別	種類	断面	口径	底径	高さ	保存状況	器形の特徴	断面の特徴	焼成	色調	覆土	重量(g)	備考
01	一様	土師器	裏	14.57	—	6.23	口縁部破片	口縁は「く」の字に外反し口部で剥落した後つまみ上げられる。	断面新落。横十アカ。	良好 二次焼成あり	内外青 7.5B6/4に赤い黄褐	長石・石英多量、黄母少量	89.6	
02	一様	土師器	裏	121.65	—	6.65	口縁部破片	口縁は「く」の字に外反し口部で矧く水平になり修理する。	口縁は内外両方に横十アカ。側面内外表面にナゲ。	良好	内外青 7.5B6/4に赤い黄褐	長石・石英や多量やや多い、黒色粒子、スコリア微量	109.5	
03	カマド N01・カマド一筋	土師器	裏	19.45	18.00	19.00	1/3	壺形式。胴部は下半で側方に内湾した後直線的に立ち、口縁はやや延びて外反する。	口縁内外両方に横ナゲ、側面外表面は上半ヘラケズリ。下半側面。その側面にガタが施されている。内面はナゲ強ミガタ。地盤はヘクに土色差北されている。	良好	内外青 5B-5/4に赤い黄褐	白色粒子・黑色粒子・黄母やや多い、中～大粒少量	274.5	
04	N01	土師器	地	14.4	丸底	3.2	13H完形	底盤は丸底。体部は腰や分に内湾した後、口縁で直線的側面を有し側方に外反する。	口縁は内外両方に横ナゲ。体部外表面はヘリカズリ。内面はこがき。	良好 二次焼成あり	内外青 7.5B6/4に赤い黄褐	黄母やや多い、石英・火コリ亞少量	221.9	内青黑色地
05	一様	土師器	裏	13.12	—	6.32	口縁部分	底盤は丸底。体部は腰や分に内湾した後、口縁で直線な側面を有し側方に内傾する。	口縁は内外両方に横ナゲ。体部は内外両面にミガキ。	良好	内外青 7.5B5/4に赤い黄褐	黄母・白色粒子微量	23.9	内外青黑色地

SI16(第72～74図、第29表、遺構図版25・26、遺物図版8)

H-I6グリッドに位置する。SK120が北側壁のほぼ中央に、SK63が住居跡中央よりやや東側に掘り込まれる。主軸方向はN-21°-Wである。規模は南北長5.04m×東西5.16mであり、平面形はやや東西方向に長い方形である。床は平坦であり、壁はやや外傾する。深さは確認面より48cmを測り、覆土は中層が黒褐色土、上・下層が暗褐色土を基調として6層に分層される。第7層はしまりがあり、掘方である。また、ほぼ全層に微量の炭化物ブロックと多量のロームブロックを含む。堆積状況は自然堆積を示す。

付帯施設はカマド、柱穴、周溝が確認された。

カマドは北側壁のほぼ中央を27cm掘り込んで構築される。規模は全長1.15m、最大幅1.22m、床面からの高さ23cmを測る。天井部は崩落しており、第14～17層が構築材であると判断される。袖部は細砂粒を多量含む暗褐色土を積み上げ構築される。左袖は住居跡壁面からほぼ直角に走向し、基部で最大幅26cm、奥行き83cm、右袖は住居跡壁面からやや内側に走向し、基部で最大幅65cm、奥行き80cmを測る。火袋部の大きさは最大で幅43cmである。

柱穴は主柱穴4基(P1～4)、出入り口に伴うと思われる1基(P5)が検出された。主柱穴はそれぞれ隅より対角へ130～150cmほどの地点に位置する。規模はP1が最大幅43cm×深さ56cm、P2は最大幅38cm×深さ54cm、P3は最大幅33cm×深さ69cm、P4は最大幅39cm×深さ40cmを測る。P5は南側壁より60cmの地点、東西軸のほぼ中央に位置し、規模は最大幅68cm×深さ39cmを測る。覆土は6層に分層され、上層にあたる第1・2・4層からは炭化物ブロックが検出された。

周溝は壁直下をほぼ全周して確認された。規模は幅12cm×深さ9cmほどである。

遺物は土師器を中心に4254.1g出土した。掲載遺物は6点である。覆土下層(第5層)からほぼ完形の粗

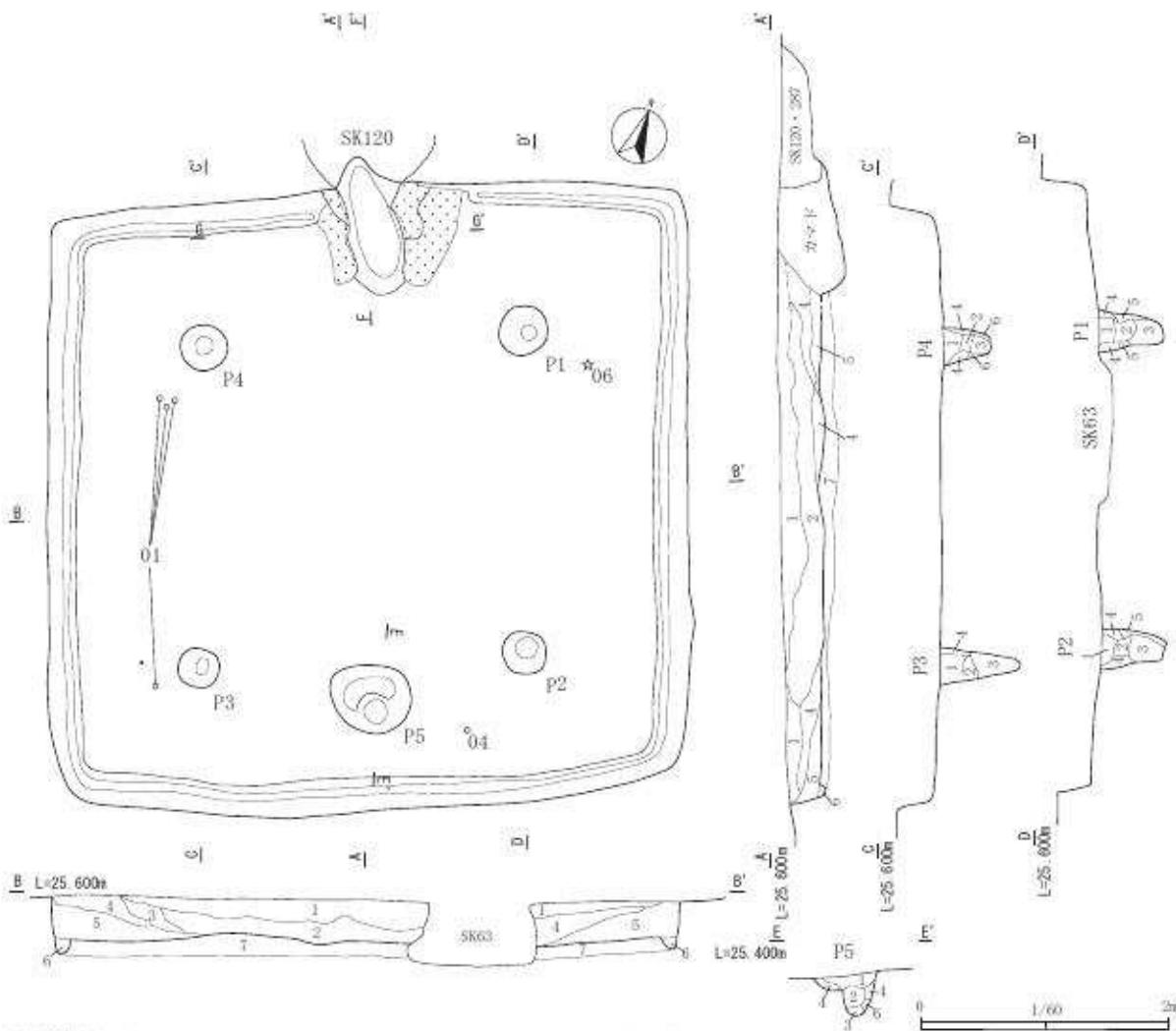
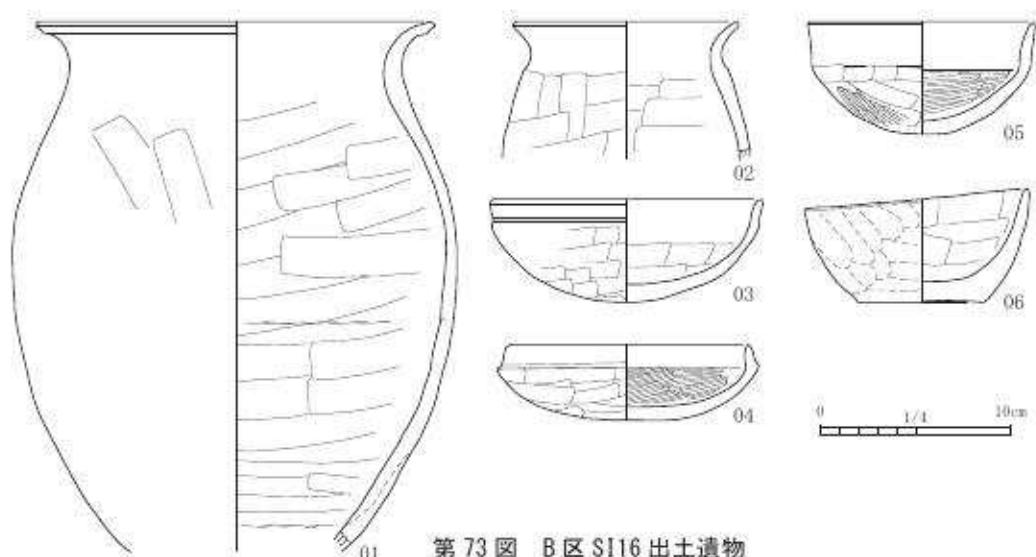


図72 B区 SI16 セクション

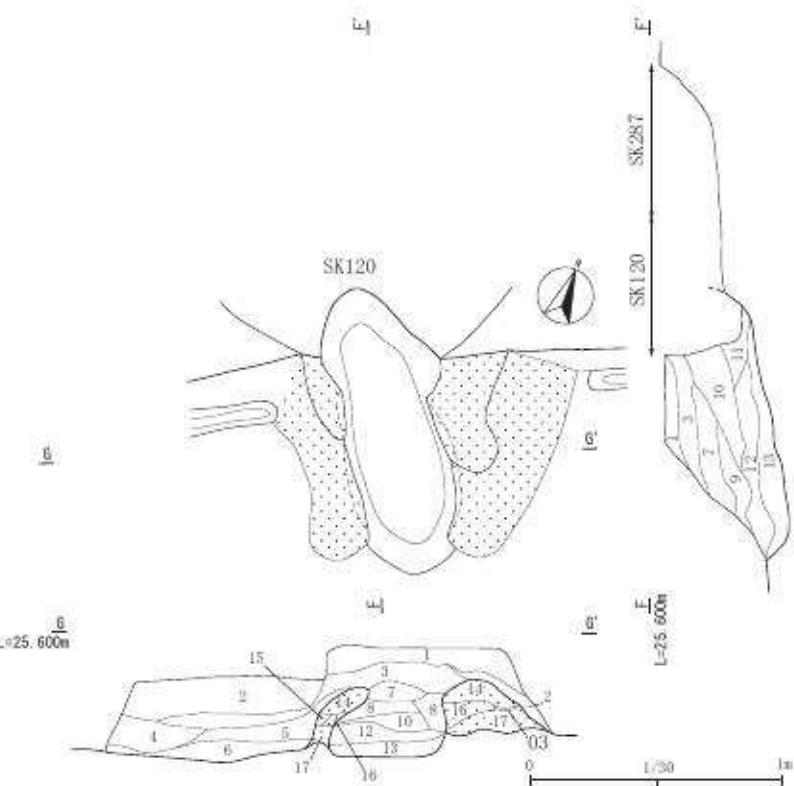
- 1 10Y 3/4 砂褐色 ローム粒子・ブロックφ 1~20mm 多量、炭化物ブロックφ 1~3mm 稀微量、黒褐色土ブロックφ 5~10mm 多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 2 10Y 3/4 男褐色 ローム粒子・ブロックφ 1~10mm 多量、炭化物ブロックφ 1~2mm 稀微量、暗褐色土ブロックφ 10~20mm 中量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 3 10Y 3/4 砂褐色 ローム粒子・ブロックφ 1~15mm 稀多量、所褐色土ブロックφ 5~10mm 中量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 4 10Y 3/4 砂褐色 ローム粒子・ブロックφ 1~10mm 多量、炭化物ブロックφ 1~2mm 稀微量、暗褐色土ブロックφ 5~10mm 少量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 5 10Y 3/4 砂褐色 ローム粒子・ブロックφ 1~15mm 稀多量、炭化物ブロックφ 1~2mm 稀微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 6 10Y 3/4 砂褐色 ローム粒子・ブロックφ 1~20mm 多量、暗褐色土ブロックφ 5~10mm 中量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 7 10Y 3/4 砂褐色 ローム粒子・ブロックφ 1~30mm 多量、土主らあ8、やや粘性あり。

第72図 B区 SI16



第73図 B区 SI16 出土遺物

製壺（06）が、上層（第1層）から壺（04）が出土した。01の甕は下層（第2層相当）出土の口縁部から胴下半部の大破片であるが、接合・復元できない。また、カマド右袖内に埋め込まれた状態で、完形に近い壺（03）が検出された。



## B区 SI16 カマドセクション

1. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、燒土粒子・ブロック約1~2mm中量、炭化物ブロック約1~3mm極微量、細砂粒極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
2. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、燒土粒子・ブロック約1~2mm極微量、炭化物ブロック約1~2mm極微量、細砂粒極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
3. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、燒土粒子・ブロック約1~3mm極微量、炭化物ブロック約1~2mm極微量、細砂粒極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
4. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~10mm多量、燒土粒子・ブロック約1~2mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
5. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~10mm中量、燒土粒子・ブロック約1~3mm微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
6. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~10mm多量、炭化物ブロック約1~3mm微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
7. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~2mm多量、燒土粒子少量、炭化物ブロック約1~2mm微量、細砂粒極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
8. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~2mm中量、燒土粒子・ブロック約1~2mm微量、細砂粒極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
9. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~2mm中量、燒土粒子・ブロック約1~3mm極微量、炭化物ブロック約1~2mm微量、細砂粒極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
10. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~2mm中量、燒土粒子・ブロック約1~3mm多量、炭化物ブロック約1~2mm微量、細砂粒極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
11. 5YR 4/4 二段・赤褐色 ローム粒子・ブロック約1~5mm多量、燒土粒子・ブロック約1~3mm少量、炭化物ブロック約1~3mm少量、細砂粒極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
12. 5YR 4/4 二段・赤褐色 ローム粒子・ブロック約1~5mm多量、燒土粒子・ブロック約1~3mm微量、炭化物ブロック約1~3mm微量、細砂粒極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
13. 5YR 4/6 志褐色 ローム粒子・ブロック約1~15mm多量、燒土粒子・ブロック約1~15mm多量、炭化物ブロック約1~2mm極微量、細砂粒中量、ややしまりあり、やや粘性あり。
14. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~10mm多量、燒土粒子・ブロック約1~10mm少量、炭化物ブロック約1~2mm微量、細砂粒中量、ややしまりあり、やや粘性あり。
15. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~3mm多量、燒土粒子・ブロック約1~3mm少量、細砂粒極多量、しまりあり、やや粘性あり。
16. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~2mm少量、燒土粒子・ブロック約1~3mm中量、細砂粒極多量、しまりあり、やや粘性あり。
17. 10R 3/4 姪褐色 ローム粒子・ブロック約1~3mm中量、燒土粒子・ブロック約1~3mm多量、細砂粒極多量、しまりあり、やや粘性あり。

第74図 B区 SI16 カマド

第29表 B区 SI16 出土遺物観察表

遺物番号	目記	種類	怎形	口径	底径	高さ	保存	縁形の特徴	腹形の特徴	底面の特徴	底面	色調	粘土	重量(g)	備考
N01・N02・N04・N05・N06・N07・N08・N09・N10	土鍋等	焼	(20.6)	—	27.8	口縁一部 底 上位1/2	口縁の縁 部は斜めで 最終形を半位に有する。口縁 は「U」の字に外反する。口 縁は小さく前進した後つまみ 上げられる。	口縁は内外両面に横ナギ。腹 部外表面は渦巻、内面はナギ、 輪積痕あり。	良好 二次焼成 あり	内面 10R6.4に近 い黄褐 外面 10R5.4に近 い黄褐	少~中量、白 色粒子や少 量、黄母少な い、スコリア 微量	1422.8			
N12	カリガ・ 上層	土鍋等	小形窯	(11.6)	—	4.5	口縁一部 上位1/4	口縁の縁 部は斜めで 最終形を半位に有する。	口縁は内外両面に横ナギ。腹 部外表面はヘラケズリ。内面は ナギ。	良好 二次焼成 あり	内外面 5YR5.4に近 い黒 外側 5YR5.4に近 い白	白色粒子や少 多い、黑色粒 子・黄母少な い、白色斜坡 物質微量	74.3		
N13	カマドブ タ・土鍋	焼	(14.2)	丸底	5.1	口縁部 1/4欠損	透脂は丸底。体部は底を中心 に内凹した後、口縁で明瞭な棱 を有し外反する。	透脂は外反。口縁は内外両面に 横ナギ。体部外表面はヘラケズリ。内面は ナギ。	良好 二次焼成 あり	内面 7.5YR5.4に近 い白	白色粒子や少 多い、黑色粒 子・スコリア 微量	197.5			
N14	N07・上 層	土鍋等	焼	12.6	丸底	4.9	口縁部 1/4欠損	透脂は半底充満の丸底。体部 は底を中心に内凹した後、口 縁で明瞭な棱を有し外反する。 口縁はさきがある。	口縁は内外両面に横ナギ。体 部外表面はヘラケズリ。内面は ナギ。	良好	内面 7.5YR6.4に近 い白 外側 10R5.4に近 い黄褐	白色粒子・小 量、黄母や少 多い	181.4		
N15	カマドブ タ	土鍋等	焼	(11.9)	丸底	5.9	口縁一部 底 上位1/4	透脂は丸底で深さがある。体 部は底を中心に内凹した後、口 縁で明瞭な棱を有し外反する。 口縁はさきがある。	口縁は内外両面に横ナギ。体 部外表面はヘラケズリ後ミガ キ。内面はナギ。	良好	内面 10R6.4に近 い黄褐 外側 10R5.4に近 い黄褐	白色粒子、淡 青色や多い、 黑色粒子少 量、白色斜坡 物質微量	88.8		
N16	N08	土製品	手作 (焼形)	11.8	丸底	4.6	口縁部 1/4欠損	透脂は僅かに上部充満の半 底。体部は底を中心に内凹し口 縁に沿る。	底部木痕痕。体部外表面は半 底による齊形。内面はナギ。	良好 二次焼成 あり	内面 7.0YR5.4に近 い白	白色粒子・淡 青色少ない、白 色斜坡物質 微量	263.1		

## SI17 (第75図、遺構図版26・27)

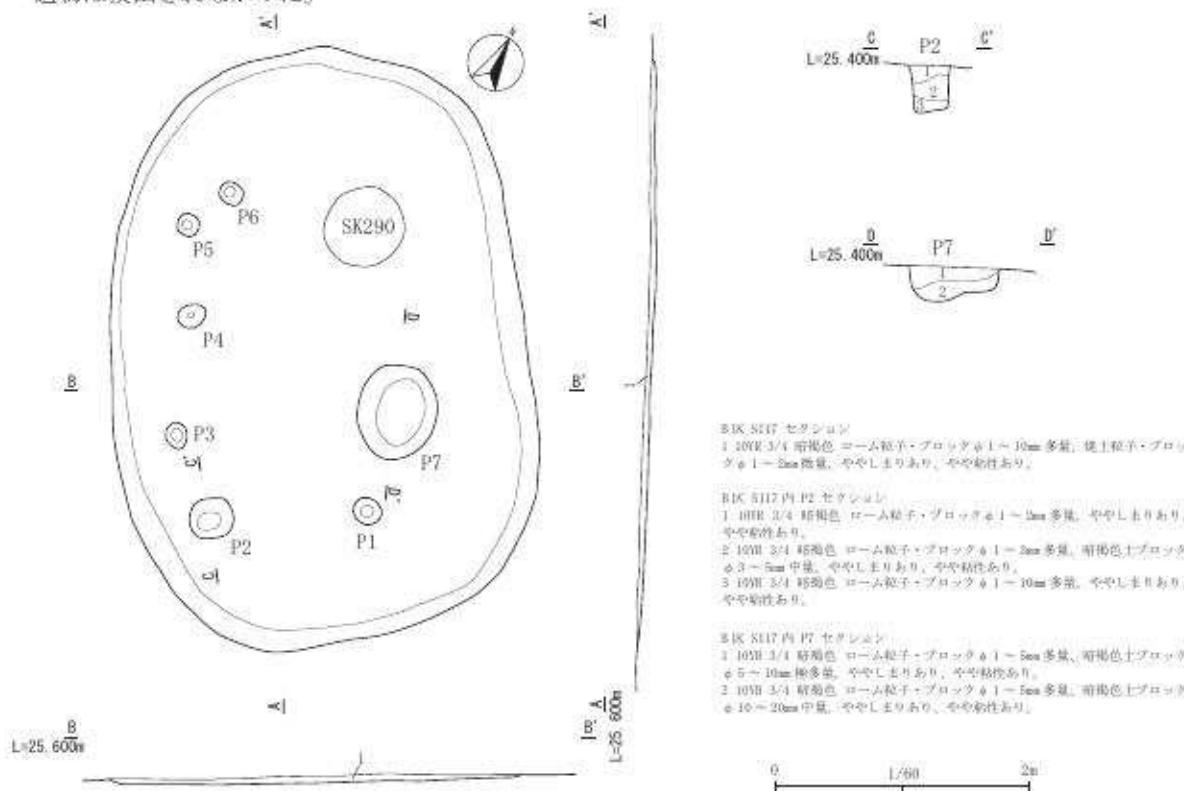
H9・10、I9・10グリッドに位置する。SK290と重複するが、残存する覆土が浅く切りあい関係は不明瞭である。規模は長軸4.85m×短軸3.27mを測り、楕円形を呈する。深さは極く浅く確認面より6cmを測り、床は平坦である。覆土は暗褐色土であり、焼土ブロックを微量含む。

付帯施設は柱穴を含むピット7基が確認された。

柱穴は壁より40～60cmほどの地点に多く位置し、南西側ではその傾向が顕著である。P2は本住居跡最大の柱穴であり規模は最大幅35cm×深さ38cmを測る。覆土はSK1と同様にロームブロックを多く含む暗褐色土である。

P7は住居跡中央部から東側で確認されたが、本住居に付帯しない可能性もある。規模は長軸76cm×短軸63cmを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは住居跡床より28cmを測る。覆土はロームブロックを多量含む暗褐色土である。

遺物は検出されなかった。



第75図 B区 SI17

## SI18・19・20 (第76図、遺構図版27～29)

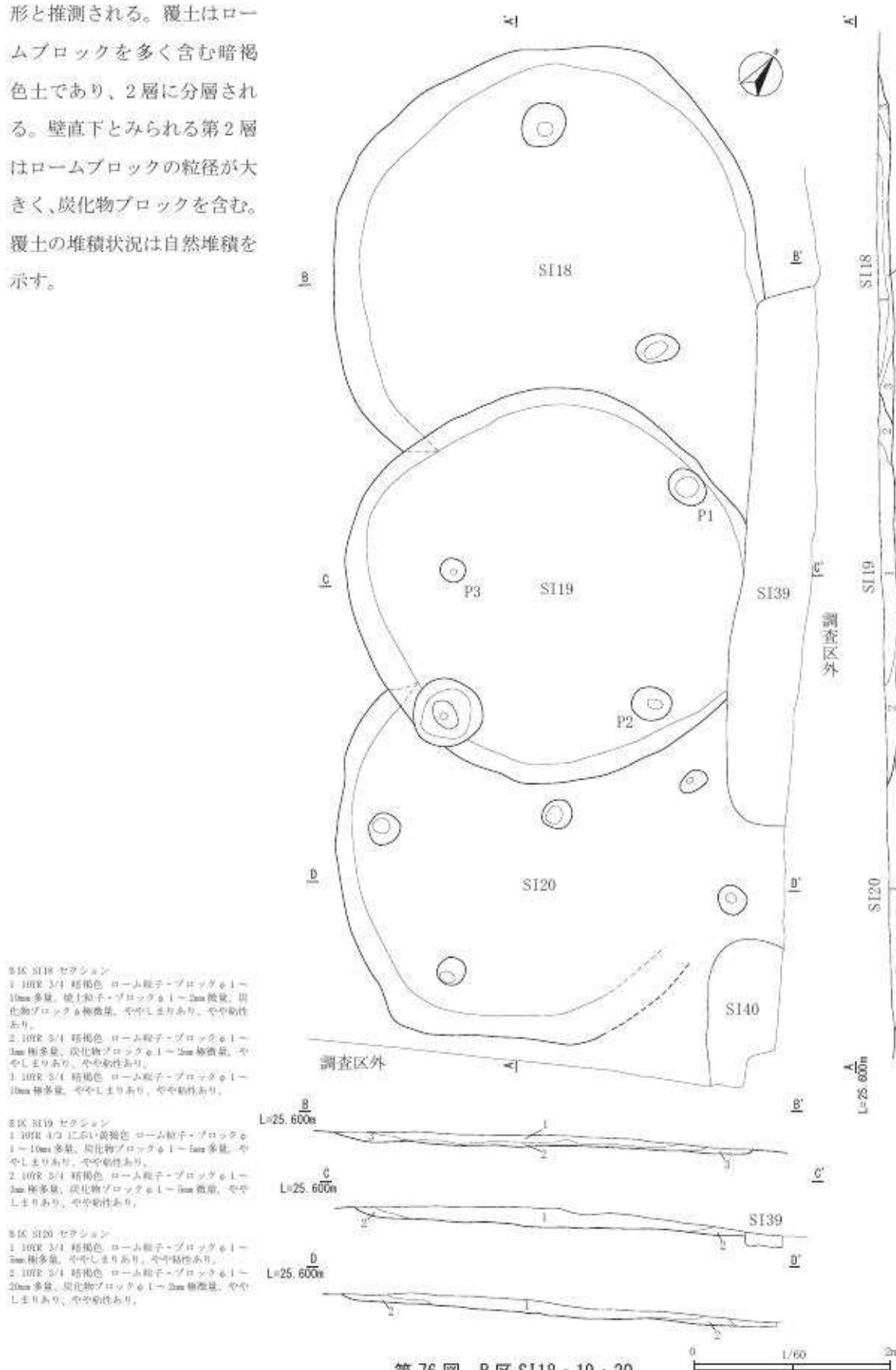
J・K6グリッドに位置する。SI39に東側を切られる。SI19がSI18・20を切って構築され、SI18とSI20は残存する平面プランから重複はない見られ、新旧関係についても不明である。なお、いずれの住居跡からも遺物は検出されていない。

SI18 規模は残存部の最大径で4.72mを測る。平面形は円形と推測される。深さは確認面より17cmを測る。覆土は暗褐色土を基調として3層に分層され、自然堆積を示す。

SI19 規模は残存部の最大径で4.03mを測り、円形を呈する。深さは確認面より16cmを測る。覆土は暗褐色土を基調として2層に分層され、自然堆積を示す。

SI20 規模は残存部の最大径で4.16mを測る。東側は壁が残存せず範囲は不明瞭であるが、平面形は円

形と推測される。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土であり、2層に分層される。壁直下とみられる第2層はロームブロックの粒径が大きく、炭化物ブロックを含む。覆土の堆積状況は自然堆積を示す。



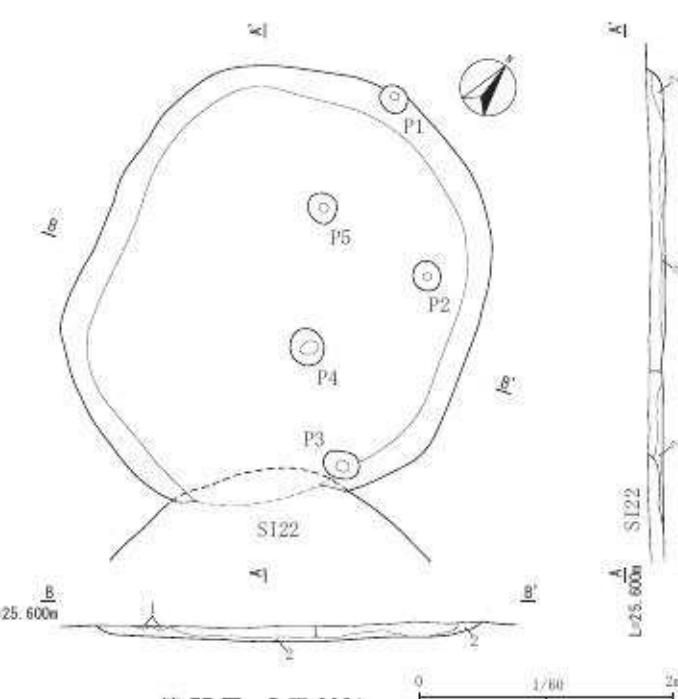
第76図 B区 SI18・19・20

## SI21 (第77図、遺構図版29)

J8・9グリッドに位置する。SI22に南東の壁を壊される。規模は長軸3.43m×短軸3.07mを測り、楕円形を呈する。深さは確認面より16cmを測る。床はほぼ平坦であり、残存深度は浅いが壁の立ち上がりが確認された。覆土は暗褐色土を基調とした2層に分層され、ロームブロックを多く含む。堆積状況は自然堆積を示す。

柱穴は住居跡東側に偏在して5基確認された。規模は最大幅25~30cmである。

遺物は検出されなかつた。

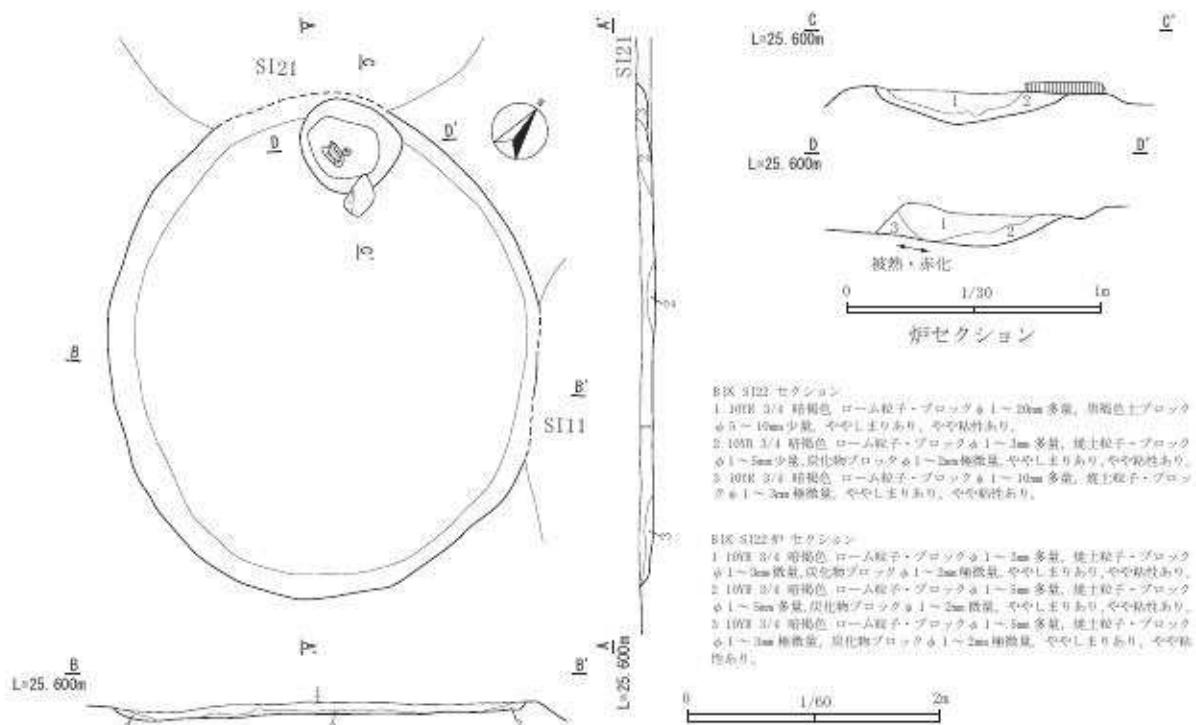


第77図 B区 SI21

## SI22 (第78・79図、第30表、遺構図版29・30、遺物図版8)

J9グリッドに位置する。SI11・21と重複し、本住居はSI11に切られ、SI21を切って構築される。規模は長軸4.03m×短軸3.43mを測り、楕円形を呈する。深さは確認面より14cmを測る。床はほぼ平坦である。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、ロームブロックを多量含む。下層には焼土ブロックが微量含まれる。堆積状況は自然堆積を示す。

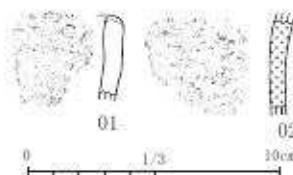
住居跡の北西壁付近からは炉が確認された。最大幅は82cmを測り、平面形は不整円形である。地山を掘つて構築され、住居跡床より31cmの掘方を持つ。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、下層にあた



第78図 B区 SI22

る第2層では焼土ブロックが多量検出された。また、覆土除去後にローム土の赤化も確認された。炉の南東覆土上には長さ32cm、厚さ4.5cmの扁平な石が平置きされていた。柱穴は確認されなかった。

遺物は縄文土器、石製品を中心に297.4g出土した。掲載遺物は2点である。



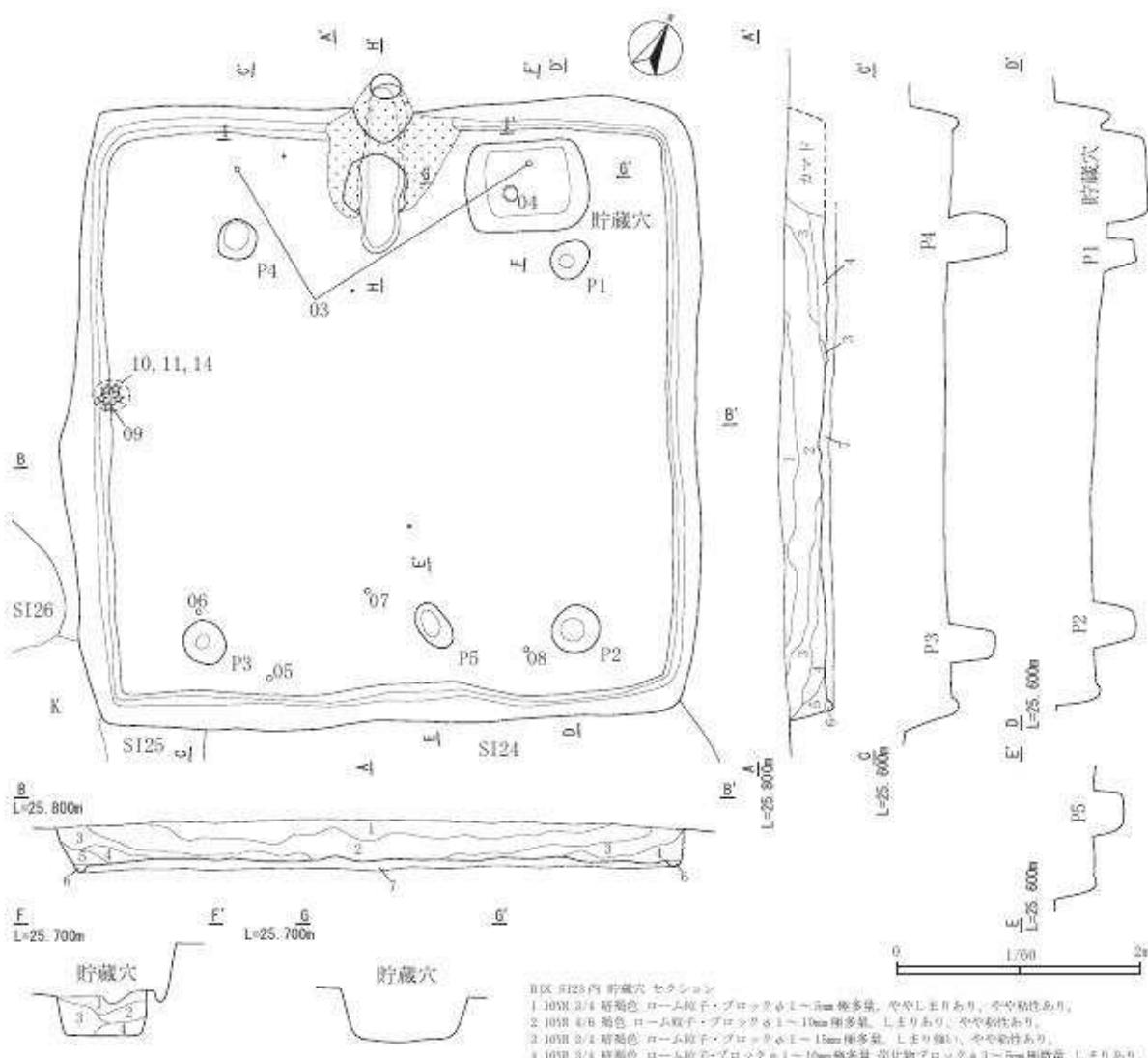
第79図 B区SI22出土遺物

第30表 B区SI22出土遺物観察表

遺物番号	性別	輪形	器種	直径	底形	表面	裏面・文様・常形	形状	残存	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
01	下解	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文を呈する把手部分の破片 であろうか。口唇部に焼け込み が施される。	阿玉古式	把手残分 破片	良好	内面 10.98g/4に赤い黄褐 斑微量	白色粒子少量、黄 斑微量	30.5	
02	上解	縄文土器	深鉢	—	—	—	甲斐B・萬文式。	馬頭式	側面破片	不良	内外面 10.85g/3に赤い黄褐 斑微量	鐵斑多量、白色粒 子微量	32.9	

SI23(第80~82図、第31表、遺構図版30・31、遺物図版8・9)

G・H4グリッドに位置する。SI24・25と重複し、本住居跡がこれらの住居跡を壊して構築される。規模は



B区 SI23 内貯蔵穴セクション  
 1. 10R 3/4 純褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 微多量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
 2. 10R 3/4 黒褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 多量、細砂粒多量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
 3. 10R 3/4 純褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 多量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
 4. 10R 3/4 純褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 多量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
 5. 10R 4/6 黑色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 中量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
 6. 10R 4/6 黑色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 少量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
 7. 10R 4/6 黑色 ローム粒子・ブロックφ1~30mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 中量、しまりあり、やや粘性あり。

B区 SI23 セクション

1. 10R 3/2 黒褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 微多量、ややしまりあり、やや粘性あり。

2. 10R 3/2 黒褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 多量、細砂粒多量、ややしまりあり、やや粘性あり。

3. 10R 3/4 純褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 多量、ややしまりあり、やや粘性あり。

4. 10R 3/4 純褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 多量、ややしまりあり、やや粘性あり。

5. 10R 4/6 黑色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 中量、ややしまりあり、やや粘性あり。

6. 10R 4/6 黑色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 少量、ややしまりあり、やや粘性あり。

7. 10R 4/6 黑色 ローム粒子・ブロックφ1~30mm 多量、粘化物ブロックφ5~10mm 中量、しまりあり、やや粘性あり。

第80図 B区SI23

南北 5.12m × 東西 5.08m であり、平面形は正方形を呈する。主軸方向は N-28°-W である。深さは確認面より 41 cm を測り、床はほぼ平坦、壁はやや外傾している。覆土は 6 層に分層され、最下層の第 7 層は掘方でしまりがある。第 1・2 層は黒褐色土、第 3・4 層は暗褐色土であり、第 1・2・4 層では炭化物ブロックが検出された。

付帯施設はカマド、貯蔵穴、柱穴、周溝が確認された。

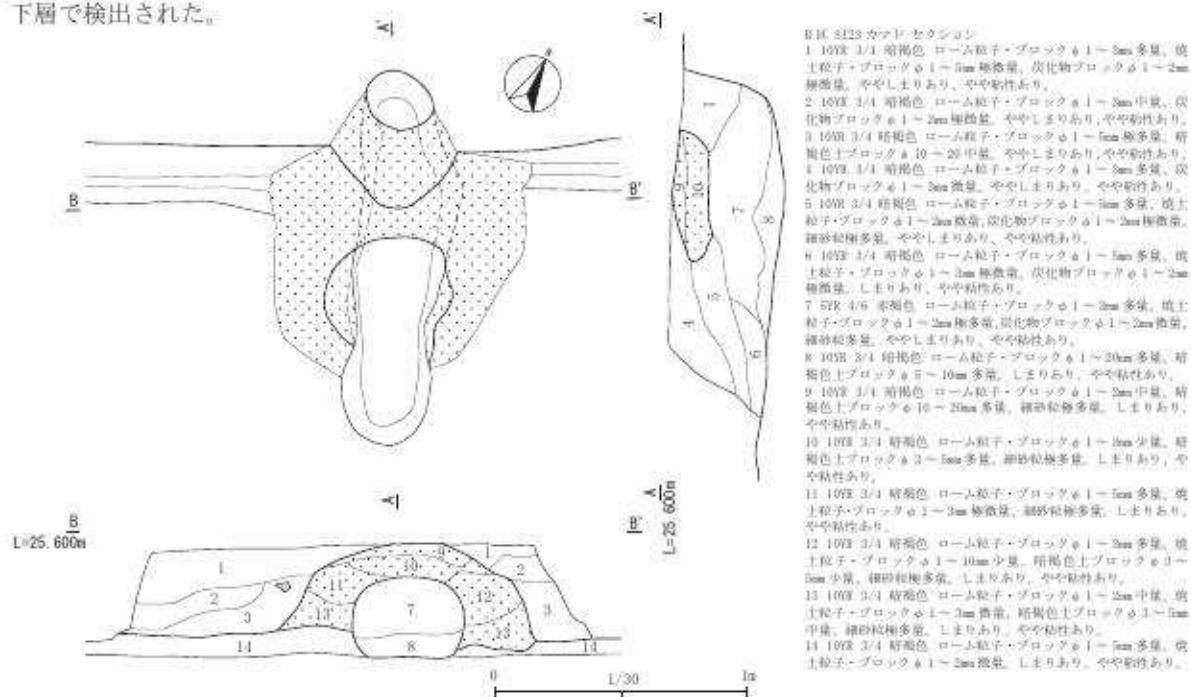
カマドは北側壁の中央部を 31 cm 挖り込んで構築される。規模は全長 122 cm、最大幅 101 cm、床面からの高さ 38 cm を測る。煙道が残存し、上昇角は 70° である。カマドの構築材は第 9～13 層とみられる。構築材は細砂粒を多量含み、しまりがある暗褐色土である。火袋部の最大幅は 38 cm であり、火床面は確認されなかつた。

貯蔵穴はカマドの右脇で確認された。北西隅付近に位置し、北側の壁まで 32 cm、東側の壁まで 87 cm の距離を測る。規模は長軸 100 cm × 短軸 73 cm であり、長方形を呈する。深さは住居跡床より 43 cm を測り、逆台形の断面形を呈する。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土が主体であり、しまりがある。

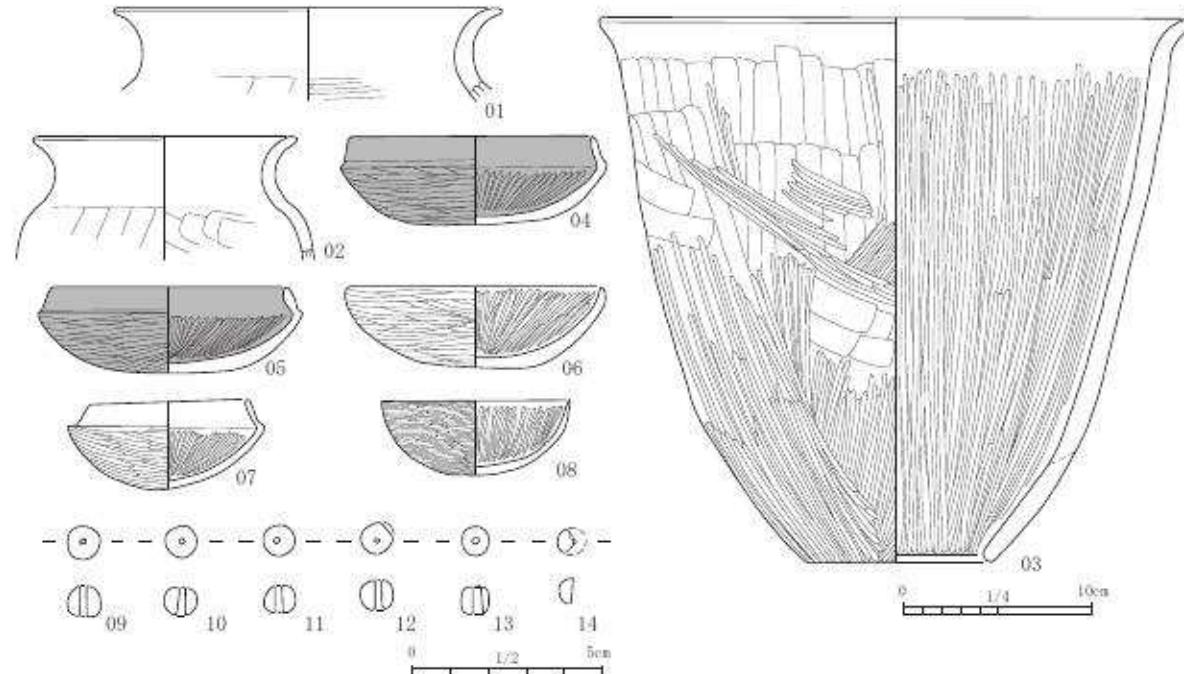
柱穴は主柱穴 4 基 (P1～4)、出入り口に伴うと思われるピット 1 基 (P5) が確認された。北側の P1・4 から北側壁までの距離はそれぞれ 117 cm・93 cm、南側の P2・3 から南側壁までの距離はそれぞれ 50 cm・53 cm であり主柱穴の位置関係は南北で相違がある。P5 は南側壁より 60 cm、東側壁より 198 cm の地点、南北軸の東に位置する。規模は P1 が最大幅 34 cm × 深さ 27 cm、P2 は最大幅 40 cm × 深さ 36 cm、P3 は最大幅 37 cm × 深さ 39 cm、P4 は最大幅 36 cm × 深さ 47 cm、P5 は最大幅 42 cm × 深さ 27 cm を測る。

周溝は壁直下を全周して確認された。幅は 10 cm、深さは床より 6 cm である。覆土は粒径がやや大きいロームブロックを極多量含む褐色土である。

遺物は土師器を中心 13238.9g 出土した。掲載遺物は 14 点である。カマド左側と貯蔵穴埋没後の床面直上レベルに完形の瓶 (03) が半剖された状態で出土した。竪穴南東壁付近の覆土第 3・4 層から壺が 4 点 (05～08) 検出され、貯蔵穴覆土中からも完形の壺 (04) が出土している。土製丸玉は南西壁中央付近の覆土下層で検出された。



第 81 図 B 区 SI23 カマド



第82図 B区SI23出土遺物

第31表 B区SI23出土遺物観察表

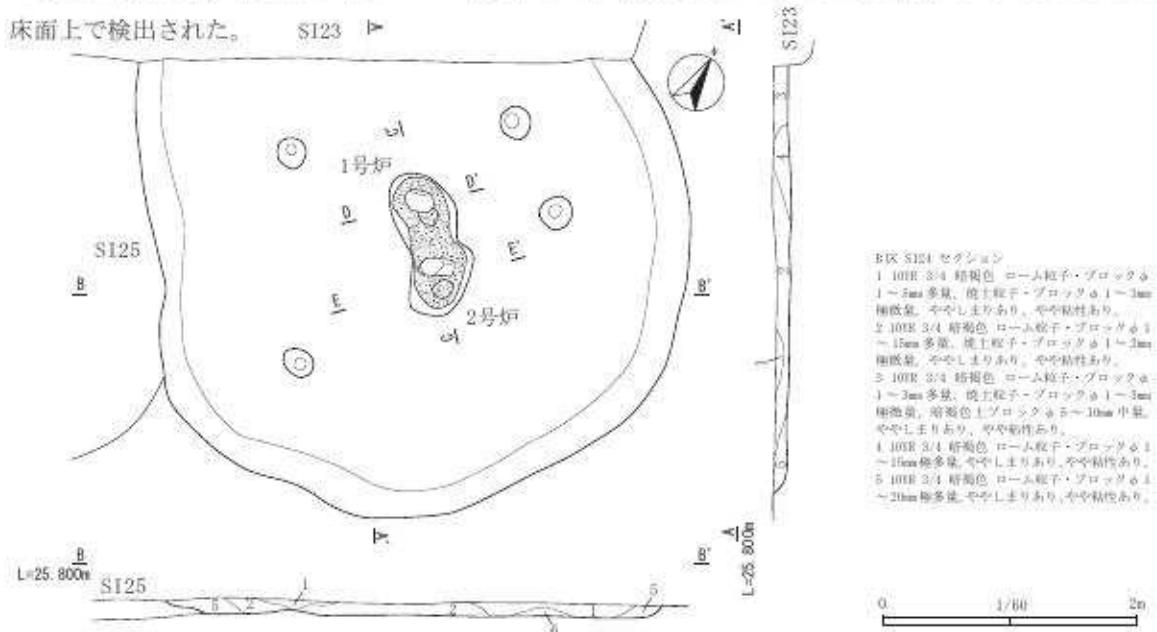
遺物番号	性別	種類	口径	基径	厚さ	残存	表面の特徴	断面の特徴	焼成	色調	胎土	板量(μ)	備考	
01	上層	土製器	男	420.51	—	5.92	口縁証 1/4	口縁は「C」の字に外反する。 側面近外周ナガ。内面ミガが觀察される。	良好 二次焼成 あり	内外青 7.518E-6地	白色粒子・表 地少量、スコ リア微量。	91.4		
02	上層	土製器	男	413.61	—	5.65	口縁一側 側面切破 片	肩部の張りは強く、口縁は「C」 の字に外反する。	良好 内外青 10.03E-1地	表 地少量。	95.7			
03	NBH-NBH	土製器	椭	31.0	—	38.7	ほぼ完形	底部下端で破壊かに内削した後、 底部軸的に削き、口縁で外接する。	良好 内外青 5.916E-4地	長石・石英等 小種多量、白 色粒子・スコ リア・表地少 量。	952.0			
04	内 SK1501	土製器	杯	32.8	—	36.7	完形	底部は半球底味の丸底、体部 は底を削いて内削した後、口縁で 軽微な擦れを有し内削し肥厚する。	良好 内外青 7.518E-4地	スコリア・表 地少量、白色 粒子・白色 粘物質微量。	243.6	内外青色 糊跡		
05	N04	土製器	杯	12.3	丸底	4.1	完形	底部は半球底味の丸底、体部 は底やや内削した後、口縁で 軽微な擦れを有し内削し肥厚する。	良好 内外青 7.518E-3地	スコリア・表 地・白色粒子 少量、白色粘 物質微量。	261.3	内外青色 糊跡		
06	N06・カ マドー柄	土製器	杯	33.4	丸底	4.2	底面及び 口縁剥欠 損	底部は半球底味の丸底、体部 は底やや内削した後、口縁で 軽微な擦れを有し口縁に寄る。 口唇は想く直立する。	良好 二次焼成 あり	内外青 7.518E-3地	スコリア少 量、黄母・白 色粒子・白色 粘物質微量。	172.7	内面黑色 糊跡	
07	N04	土製器	杯	8.3	丸底	4.9	口縁1/5 大根	底部は丸底、体部は底やや内 削した後、口縁で明瞭な擦 れを有し擦かに内削架構に内削 する。小根である。	良好 内外青 7.518E-3地	表 地・白色粒子 微量、白色粘 物質微量。	96.7			
08	N02	土製器	杯	9.9	丸底	3.9	口縁一側 上部削 1/4大根	底部は丸底、体部は底やや内 削した後口縁に削る。小根 である。	良好 内外青 10.03E-4地 1/4黄糊	表 地・白色粒子 微量、白色粘 物質微量。	47.9			
09	N011	土製器	上製丸 五	範	横 0.8	孔径 0.9	孔径 0.2	完形	やや口玉状の形状で上下両端 部が平坦になる。孔は細く中央 に穿たれる。	良好 表面は磨かれて。漆塗付の可 能性あり。	7.518E-1黑 褐色	白色 4.201	漆塗付丸	
10	N07	土製器	上製丸 三	範	横 0.9	孔径 0.9	孔径 0.2	完形	やや口玉状の形状で上下両端 部が平坦になる。孔は細く中央 に穿たれる。	良好 表面は磨かれて。漆塗付の可 能性あり。	7.518E-1黑 褐色	精良	0.7	漆塗付丸
11	N07	土製器	上製丸 三	範	横 0.8	孔径 0.8	孔径 0.2	完形	やや口玉状の形状で上下両端 部が平坦になる。孔は細く中央 に穿たれる。	良好 表面は磨かれて。漆塗付の可 能性あり。	7.518E-1黑 褐色	精良	0.6	漆塗付丸
12	T端	土製器	上製丸 三	範	横 0.8	孔径 0.9	孔径 0.2	完形	やや口玉状の形状で上下両端 部が平坦になる。孔は細く中央 に穿たれる。	良好 表面は磨かれて。漆塗付の可 能性あり。	7.518E-1黑 褐色	精良	0.7	漆塗付丸
13	T端	土製器	上製丸 三	範	横 0.7	孔径 0.7	孔径 0.2	完形	やや口玉状の形状で上下両端 部が平坦になる。孔は細く中央 に穿たれる。	良好 表面は磨かれて。漆塗付の可 能性あり。	7.518E-1黑 褐色	精良	0.6	漆塗付丸
14	N07	土製器	上製丸 三	範	横 0.7	孔径 0.4	—	2/3	やや口玉状の形状で上下両端 部が平坦になる。孔は細く中央 に穿たれる。	良好 表面は磨かれて。漆塗付の可 能性あり。	7.518E-1黑 褐色	精良	0.6	漆塗付丸

## SI24 (第83～85図、第32表、遺構図版31・32、遺物図版9)

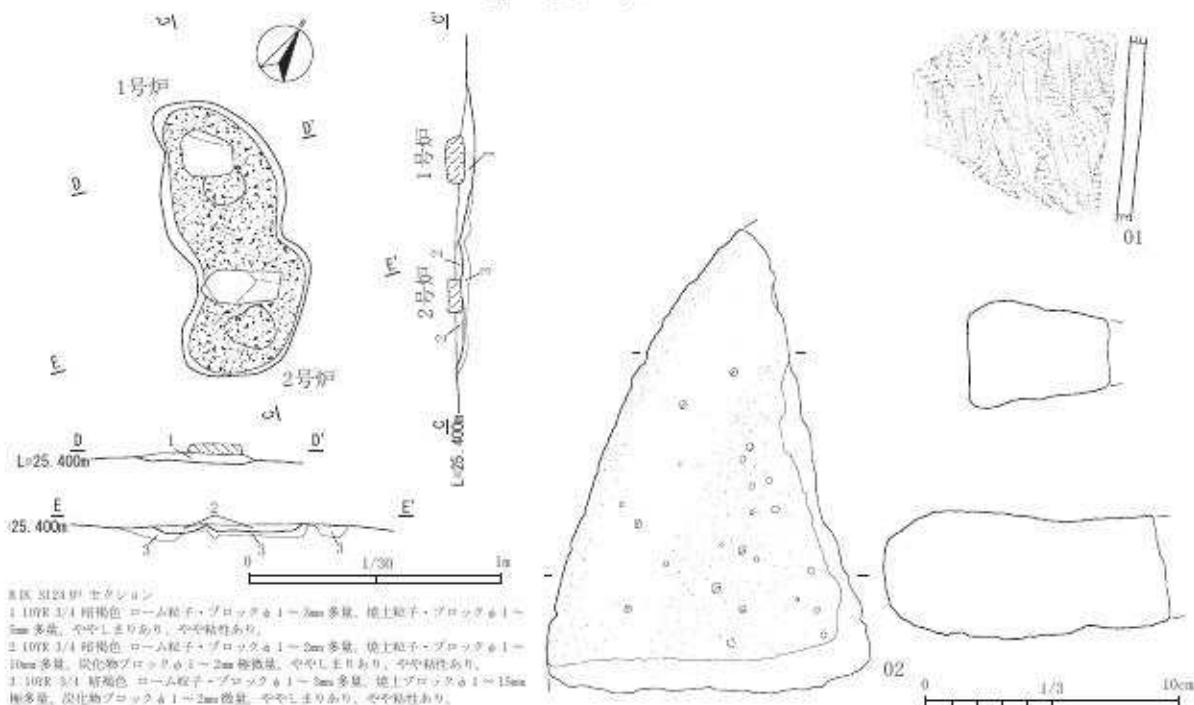
H4・5グリッドに位置する。SI23に北西側を切られ、SI25を切って構築される。規模は不明であり、残存部の最大径は4.82mを測る。平面形は不整円形を呈する。深さは確認面より15cmを測る。覆土は暗褐色土を基調とした6層に分層され、第1～3層には焼土ブロックが微量含まれる。

住居跡中央付近では炉跡2基が検出された。それぞれの炉跡の範囲は明瞭ではなく、同時に使用していたと思われる、規模は長軸112cmを測り、平面形は不整双円形である。深さは住居跡床より4cmと浅く、覆土は焼土ブロックを多く含む暗褐色土であり、3層に分層される。第3層は掘方である。火床面は炉跡範囲のほぼ全体で確認された。それぞれの炉跡のやや北西寄りには扁平な石が置かれていた。

遺物は縄文土器、石製品を中心に855.8g出土した。掲載遺物は2点である。深鉢(01)と石皿(02)は床面上で検出された。



第83図 B区 SI24



第84図 B区 SI24炉

第85図 B区 SI24 出土遺物

第32表 B区SI24出土遺物観察表

遺物番号	目記	種類	基材	日深	底深	測面	表面・変形・裏面	型式	残存	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考	
H5	ユガ-紙	縹文土器	漆塗	—	—	—	動脈が明顯な糞便痕跡が網状に多所に延びられる。	浮高円窓	側面破片	良好	内面 10986/4に赤い黄褐色 外面 7.5096/4に赤い褐色	白色粘子・又ヨリ アシ替。雲母混入	57.8		
H2	ユガ	石製品	石器	縦 18.7	横 12.70	厚さ 5.0	円形を有するものであらうか。破損して形状は不明である。上面は浅い風状に凹凸。裏面は明瞭ではない。機械的分離している。瓦は壊されていない。材質は安山岩。							670.4	

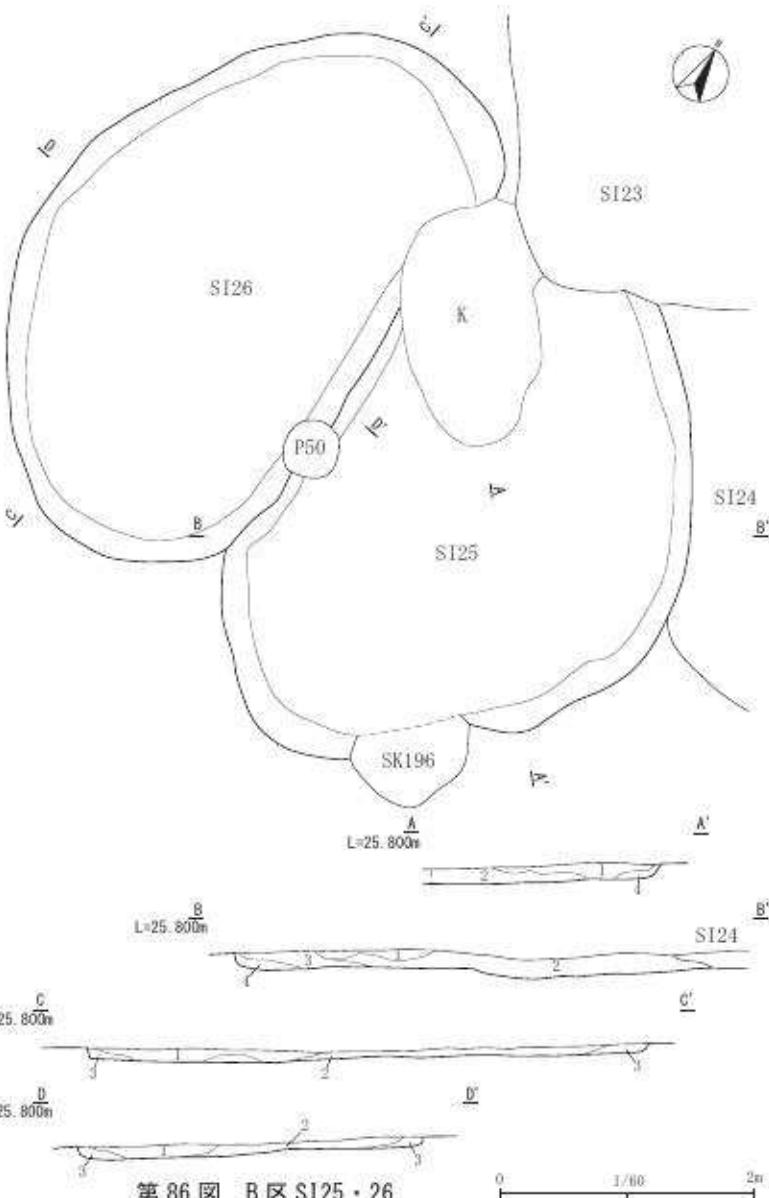
## SI25・26(第86図、遺構図版31~33)

G・H5グリッドに位置する。SI23・24に切られる。隣接した住居跡であり、新旧関係は不明である。ともに柱穴は確認されなかった。

SI25 規模は不明であり、残存部の最大径は4.50mを測る。不整梢円形の平面形を呈する。深さは確認面より23cmを測り、床はほぼ平坦である。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、全層にロームブロックを多く含み、第1~3層からは極微量の焼土ブロックが検出された。堆積状況は自然堆積を示す。

SI26 規模は長軸4.73cm×短軸2.86cmを測り、不整梢円形を呈する。深さは確認面より13cmを測る。床はほぼ平坦であり、壁は60~80°の勾配で立ち上がる。覆土は褐色土を基調とした3層に分層され、粒径の大きいロームブロックを多量含む。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は検出されなかった。



## SI27(第87~89図、第33表、遺構図版33・34、遺物図版9)

H3・4グリッドに位置する。SI28に北西の壁を壊される。SX01(集石遺構)が重複し、本遺構に伴うものであるかは不明である。本住居跡の規模は長軸5.63cm×短軸4.42cmを測り梢円形を呈する。深さは確認面より16cmを測る。床はほぼ平坦であり、壁は約80°で外傾する。覆土は暗褐色土を基調とした4層に分層

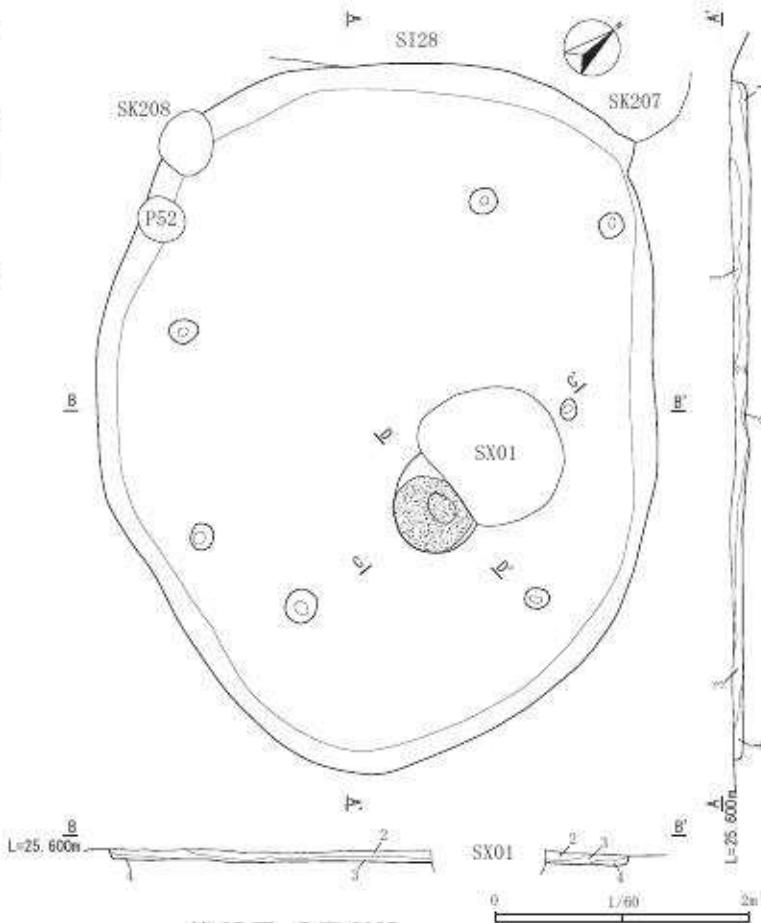
される。ロームブロックを多く含み、第1・2・4層に炭化物ブロックを含む。堆積状況は自然堆積を示す。付帯施設は炉跡、柱穴が確認された。

炉跡は住居跡中央からやや東よりで確認された。SX01に北側を切られる。規模は長軸79cmを測り、円形を呈する。床を掘って構築され、深さは住居跡床より43cmを測る。覆土はロームブロックを多量含む暗褐色土であり、3層に分層される。中層から下層には焼土ブロックが含まれ、下層は粒径・割合が大きい。覆土除去後にローム土の赤化が確認された。

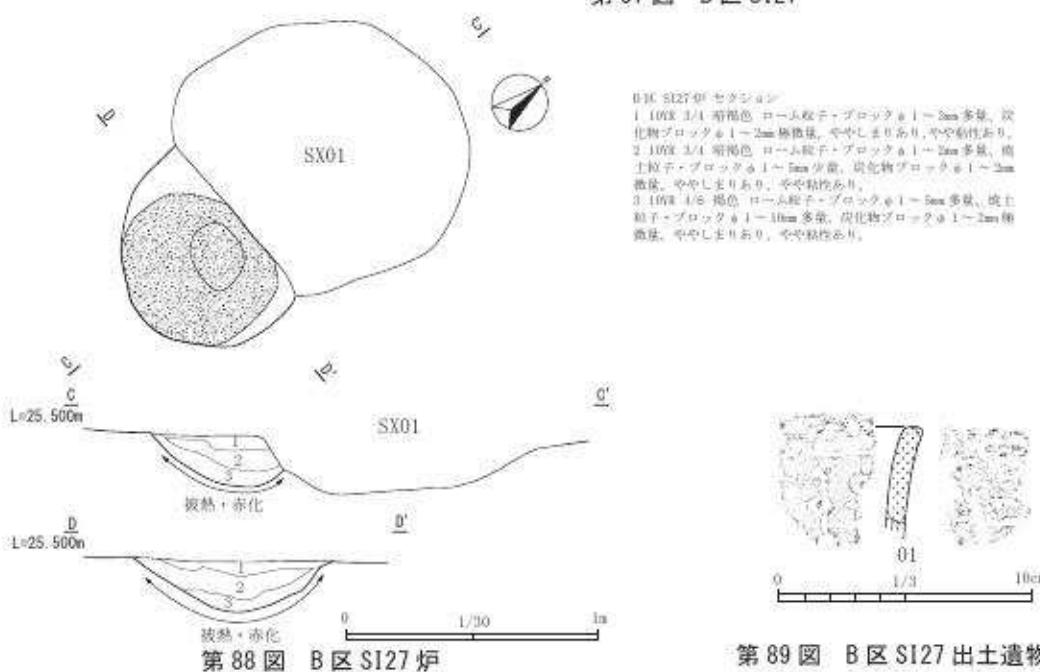
柱穴は7基確認され、いずれも壁付近に位置する。最大幅は27~35cmである。

遺物は縄文土器を中心に77.1g出土した。掲載遺物は1点である。

- 3IK-SI27セクション  
 1 10K 3/4 暗褐色 コーム粒子・ブロックφ1~3mm 多量、燒土粒子・ブロックφ1~1mm 多量、炭化物ブロックφ1~2mm 少量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
 2 10K 5/4 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量、炭化物ブロックφ1~3mm 多量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
 3 10K 5/4 暗褐色 コーム粒子・ブロックφ1~15mm 多量、ややしまりあり、やや粘性あり。  
 4 10K 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm 多量、炭化物ブロックφ1~2mm 少量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 少量、ややしまりあり、やや粘性あり。



第87図 B区 SI27



第88図 B区 SI27 炉

第89図 B区 SI27 出土遺物

第33表 B区SI27出土遺物観察表

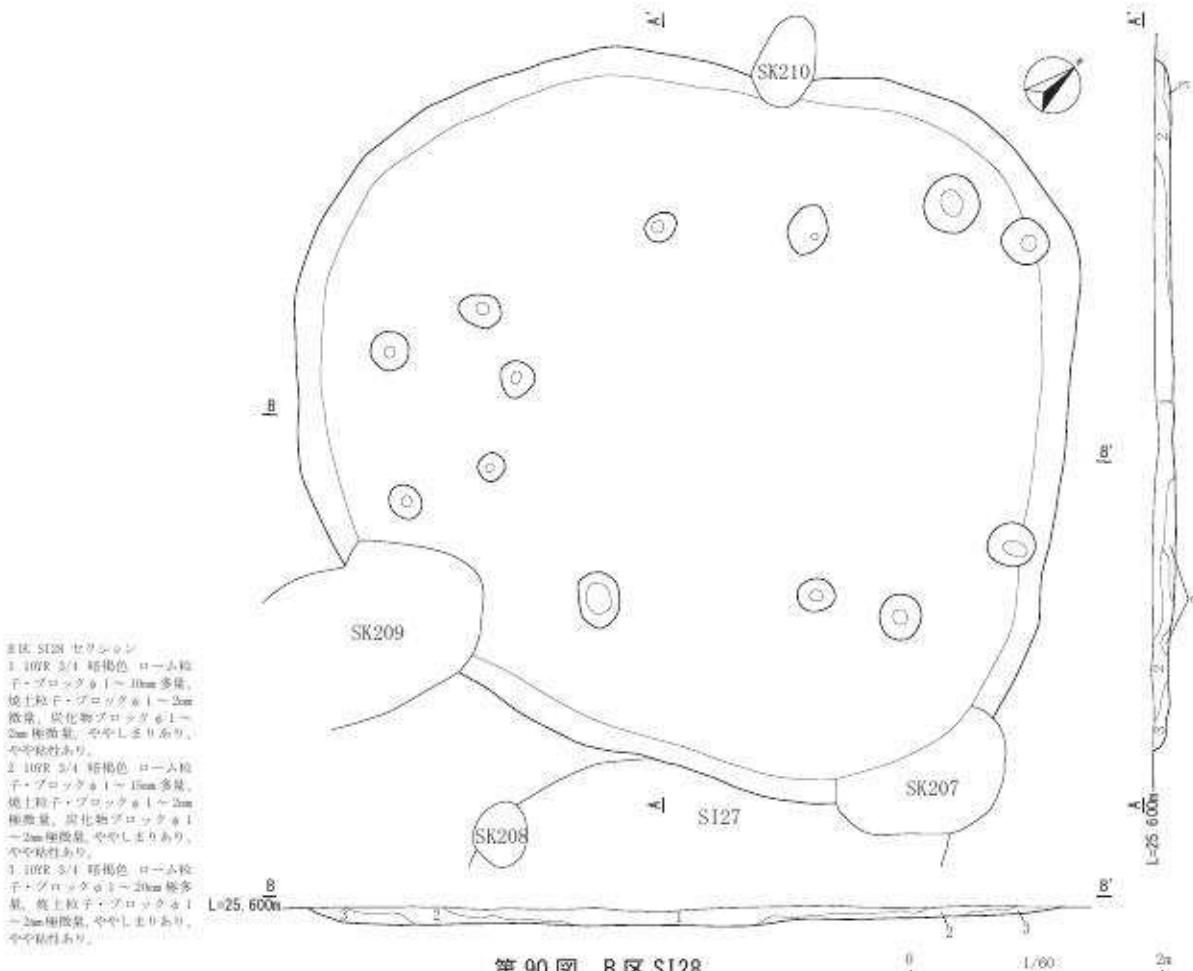
遺物番号	目記	種類	器種	口径	底径	高さ	基部・支脚・蓋形	型式	現存	焼成	色調	断土	重積(g)	備考
08	一括	縄文土器	棒錐	—	—	—	口部内に刻みを有し、円管の側面を裏方に配置し、円管の側面は火刷で磨かれる。内面は無釉。	筒・器合式	口縁剥片	良好	内外面 10FR/1に赤い黄褐色	織物残渣、白色和子多々	26.1	

SI28(第90・91図、第34表、遺構図版33・34、遺物図版9)

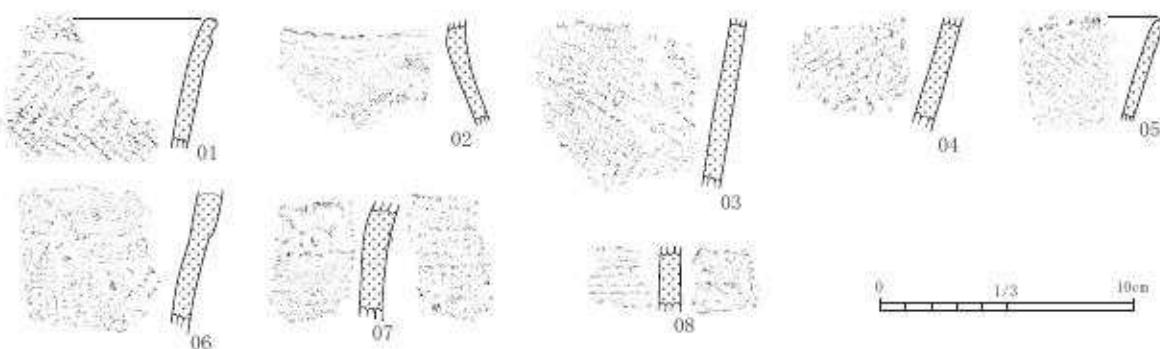
G・H3グリッドに位置する。SK207・209・210に壁を壊され、SI27を切って構築される。規模は長軸6.09cm×短軸5.75cmを測り不整円形を呈する。深さは確認面より16cmを測る。床は住居跡の中央部がやや低い。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層された。全層に微量の焼土ブロックを含む。堆積状況は自然堆積を示す。

柱穴は13基確認された。最大幅は24～55cmであり、中央部を避けるような配列を示す。

遺物は縄文土器を中心に1060.5g出土した。掲載遺物は8点である。



第90図 B区SI28



第91図 B区SI28出土遺物

第34表 B区SI28出土遺物観察表

遺物番号	日付	種類	器種	日付	底層	表面	断面・実様・露骨	形式	現存	焼成	色調	断土	重量(g)	備考
01	一様	陶土上部	深鉢	—	—	—	口部直下に鋸状工具による押引文が1条認定。地文は0段多量の粗・LRの縦文に土名・村田の刻文が確認される。	黒漆式	口縁破片	良好	内面 10R8/4に赤い黄褐色 外面 T.5R8/4に赤い褐色	鐵錫多量、白色粒子多量、黑色粒子微量	26.4	
02	0F	陶土上部	深鉢	—	—	—	肩面部の破片、精緻な工具による押引文が1条認定。	黒漆式	頸部破片	良好	内面 10R8/4に赤い黄褐色 外面 T.5R8/4に赤い褐色	鐵錫多量、黃褐色・白色粒子微量	23.5	
03	一様	陶土上部	深鉢	—	—	—	中腹 RLの縦文に土名村田の刻文が確認される。	黒漆式	胴部破片	良好	内面 10R8/4に赤い黄褐色 外面 T.5R8/4に赤い褐色	鐵錫多量、白色粒子少量、雲母微量	32.0	
04	上層	陶土上部	深鉢	—	—	—	中腹 LR焼文。	黒漆式	胴部破片	不良	外面 10R8/4に赤い褐色	鐵錫多量、白色粒子少量	36.1	
05	一様	陶土上部	深鉢	—	—	—	中腹 RL焼文。	黒漆式	胴部破片	不良	内外面 10R8/4に赤い黄褐色	鐵錫多量、白色粒子少量、雲母微量	12.9	
06	一様	陶土上部	深鉢	—	—	—	中腹 RL焼文。	黒漆式	胴部破片	良好	内面 10R8/3に赤い黄褐色 外面 T.5R8/4に赤い褐色	鐵錫やベニヤ少量、白色粒子少量、雲母微量	33.3	
07	上層	陶土上部	深鉢	—	—	—	内管に上る刺突、兩翼突出は加熱後で崩れかた。	黒漆式	胴部破片	良好	前面 10R8/2灰黄褐色 背面 T.5R8/3に赤い褐色	鐵錫無し、黃褐色・白色粒子多量、黑色粒子微量	24.5	
08	一様	陶土上部	深鉢	—	—	—	内面赤紅、外青綠文。	黒漆式	底盤	良好	内面 10R8/4に赤い黄褐色 外面 10R8/1褐色	鐵錫無し、黃褐色・白色粒子少量、黑色粒子微量	9.2	

SI29 (第92～94図、第35表、遺構図版35、遺物図版9)

F2グリッドに位置する。SI30を切って構築される。東側は調査区外であり、東西の規模は不明であるが、南北4.73m×東西4.32mが確認され、主柱穴の配置を考えると、平面形は東西方向に長い長方形を呈するものと見られる。主軸方向はN-45°-Wである。深さは確認面より35cmを測る。本遺構が接する調査区境界の壁面セクションからは53cmの掘り込みが確認された。覆土は上層から中層が黒褐色土、下層が褐色土である。

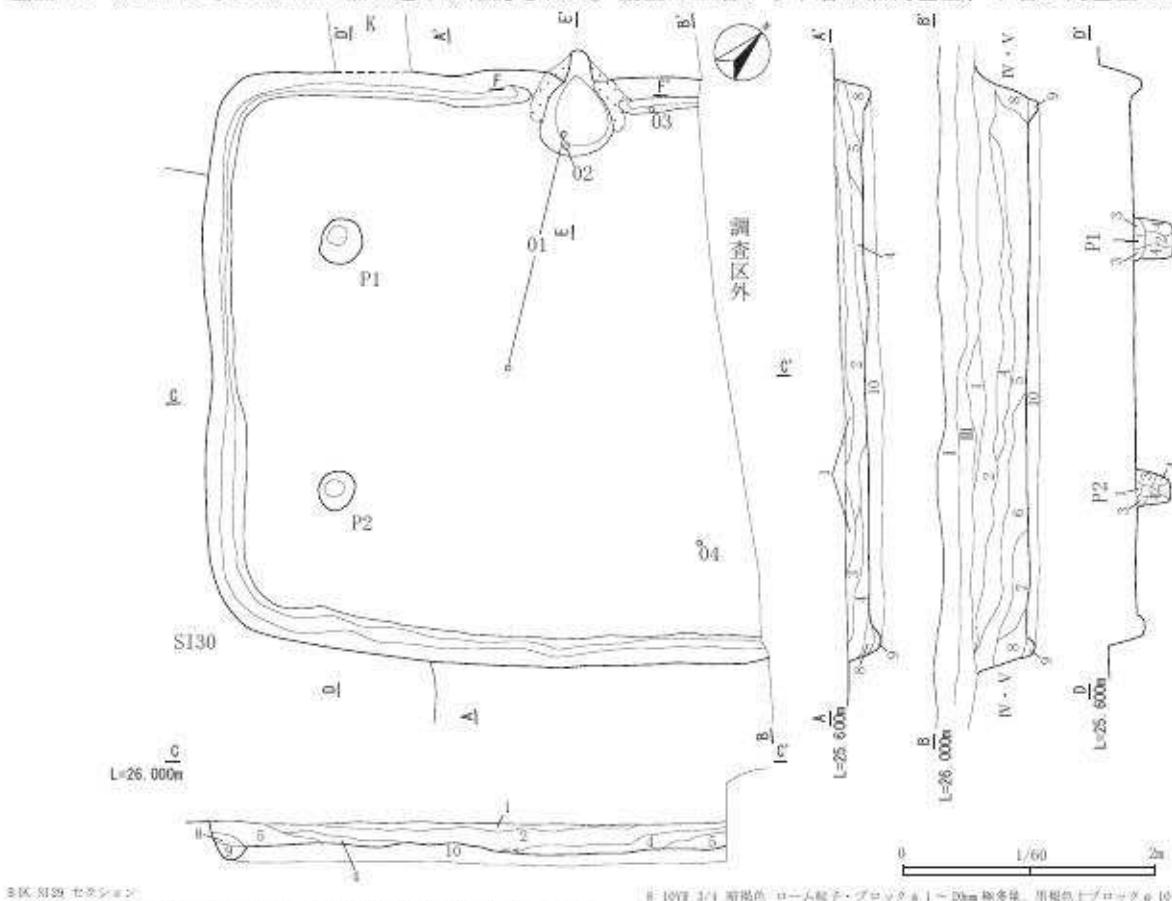


図92 SI29 セクション

1. 10R 2/3 黒褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm中量、燒土粒子・ブロックφ1～2mm微量、炭化物ブロックφ1～2mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。

2. 10R 2/3 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm中量、炭化物ブロックφ1～3mm極微量、黒褐色ブロックφ5～10mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。

3. 10R 2/3 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～10mm多量、炭化物ブロックφ1～2mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。

4. 10R 2/3 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm多量、黒褐色土ブロックφ1～2mm微量、黒褐色土ブロックφ5～10mm多量、ややしまりあり。

5. 10R 3/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm多量、燒土粒子・ブロックφ1～2mm極微量、黒褐色土ブロックφ5～25mm少量、ややしまりあり、やや粘性あり。

6. 10R 3/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm多量、黒褐色土ブロックφ10～30mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。

7. 10R 3/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm多量、黒褐色土ブロックφ10～30mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。

8. 10R 3/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。

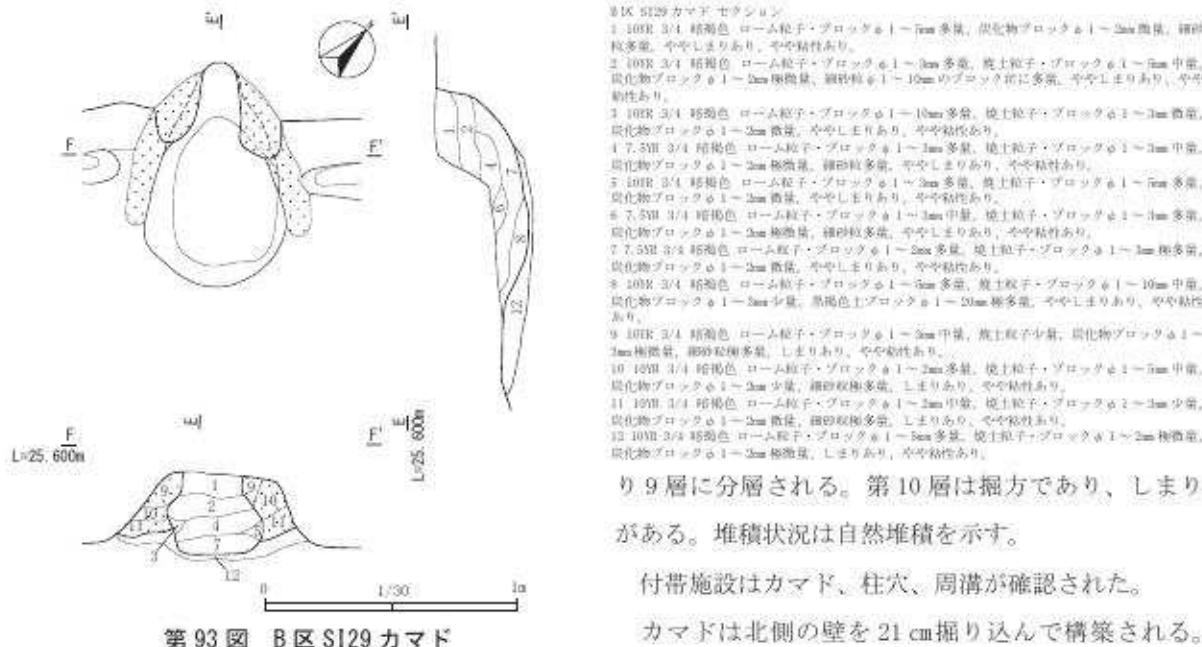
9. 10R 3/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～30mm多量、黒褐色土ブロックφ5～10mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。

10. 10R 3/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～30mm多量、黒褐色土ブロックφ10～30mm少量、ややしまりあり、やや粘性あり。

11. 10R 3/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～15mm中量、燒土粒子・ブロックφ1～10mm微量、黒褐色土ブロックφ10～30mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。

12. 10R 4/6 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1～15mm中量、燒土粒子・ブロックφ10～30mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。

第92図 B区SI29

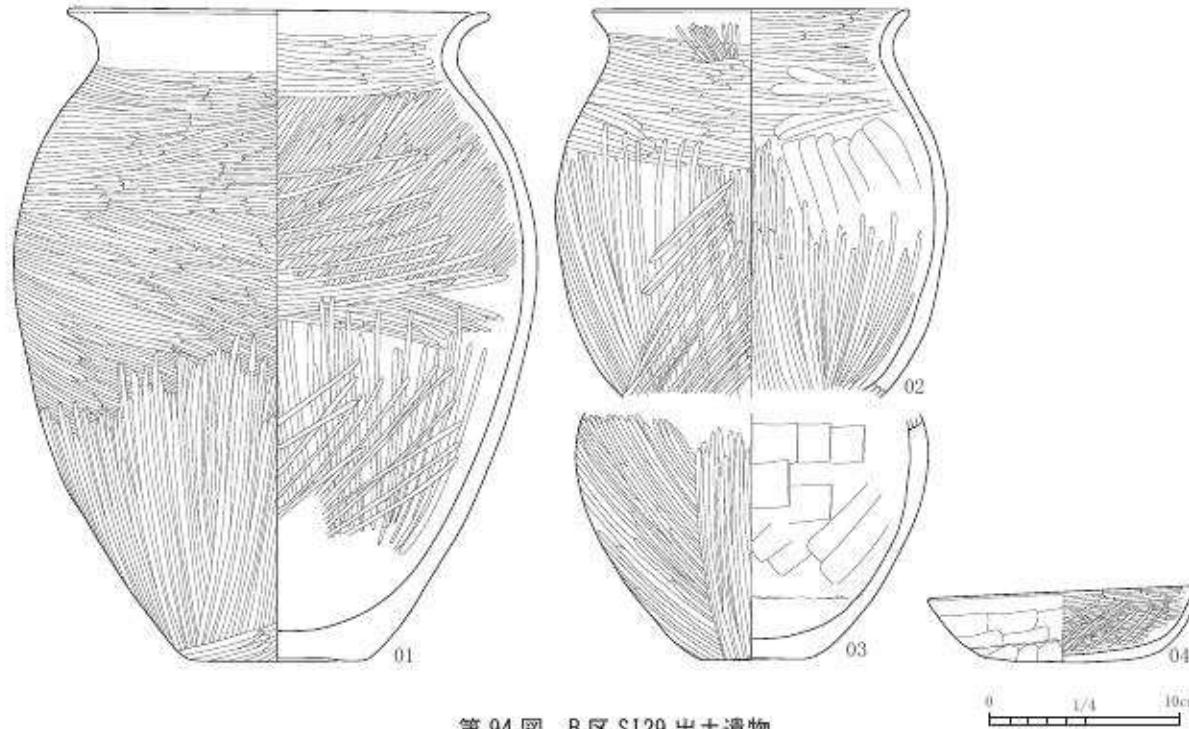


規模は全長 67 cm、最大幅 73 cm、床面からの高さ 29 cm を測る。天井部は崩落しており、第 9 ~ 11 層が構築材であると判断される。袖部は細砂粒を極多量含む暗褐色土を積み上げ構築される。住居跡壁面より外傾して走向し、左袖は基部で最大幅 12 cm、奥行き 47 cm、右袖は基部で最大幅 9 cm、奥行き 46 cm を測る。

柱穴は 2 基確認された。P1 から北側壁、P2 から南側壁までの距離は約 110 cm、それぞれの柱穴から西側の壁までの距離は約 90 cm であり、柱穴は規則性がある配置を示す。規模は P1 が最大幅 37 cm × 深さ 32 cm、P2 は最大幅 32 cm × 深さ 29 cm を測る。

周溝は壁直下を全周して確認された。幅は 10 ~ 20 cm ほど、深さは床より 8 cm ほどである。覆土は粒径の大きいロームブロックを多量含む暗褐色土である。

遺物は土師器を中心に 2392.7g 出土した。掲載遺物は 4 点である。覆土下層（第 7 層）からほぼ完形の壺（04）が検出された。甕（01）は覆土中に散在する。



第35表 B区 SI29出土遺物観察表

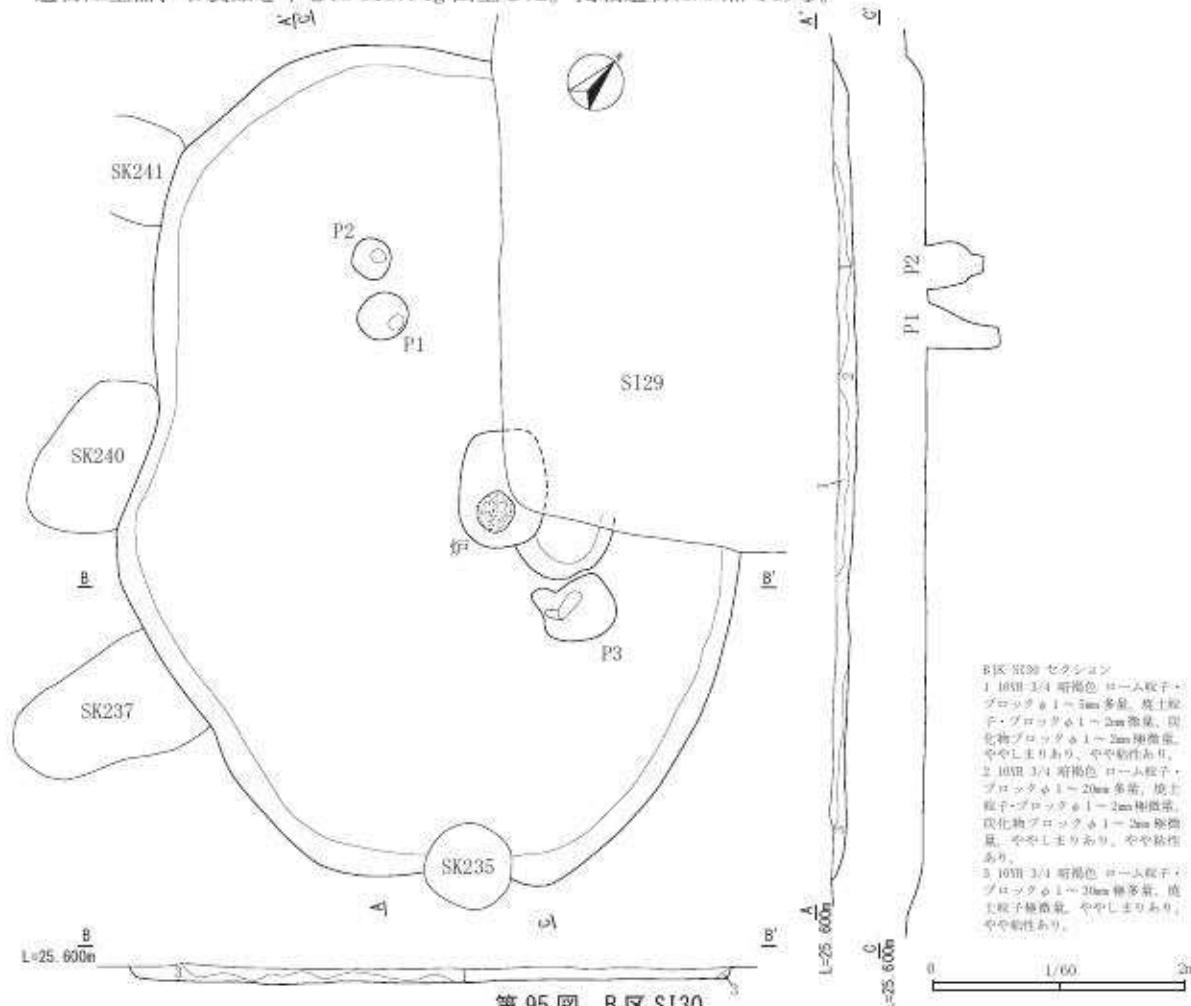
遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	高さ	残存	断面の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考	
SI29-N02 ・N03 J10	P2・N02 ・N03 J10	土器跡	甕	21.4	9.3	84.3	13.2	直縁はやや上底弧度の平底。胴部下端は緩やかに内湾し、最大幅は上辺に牽するやや長楕円形の型。口縁は「く」の字に細めし外反する。	口縁内外共に積ナゲ。胴部内外共にミガキ。内面はナラ後ミガキ。口縁は「く」の字に外反する。	良好 二次焼成 あり	内面 10H3/3にぶ い黄褐色 外側 10H4/6にぶ い黄褐色	小標・白色粒子・黒色粒子・質母やや多い、スコリア少量	3650.0		
N05	—	土器跡	甕	16.0	—	—	95.4	口縁一側 第1/4	側縁の張りは弱くはやや長楕円形の断形を。口縁は「く」の字に外反する。	口縁内外共に積ナゲ。胴部内外はミガキ。内面はナラ後ミガキ。口縁は「く」の字に外反する。	良好	内面 7.5H3/3にぶ い褐色 外側 5H3/8 明赤褐色	白色粒子・質母やや多い、黒色粒子・スコリア少量、白色斜井状物質微量	404.3	
N01	—	土器跡	甕	—	—	5.7	12.0	胴上半 一部部	直縁は平底。胴部下端で緩やかに内湾する。	胴部外壁はミガキ。内面はナラ後ミガキ。外壁はナラ後ミガキ。	良好 二次焼成 あり	内面 7.5H3/4にぶ い褐色 外側 5H3/6 明赤褐色	白色粒子やや多い、質母少量、白色斜井状物質微量	651.5	
N04	—	土器跡	甕	14.0	8.0	6.7	—	口縁一側 第一部欠損	直縁は丸底尖底の平底で体高下端で緩やかに内湾した多底錐形の断形を。口縁は「く」の字に外反する。	外面口縁は積ナゲ。体部はナラ。底面はヘラケズリ。内面はミガキ。	良好 二次焼成 あり	内面 7.5H4/5にぶ い褐色	白色粒子・質母・黒色粒子やや多い	171.4	

SI30(第95・96図、第36表、遺構図版36、遺物図版9)

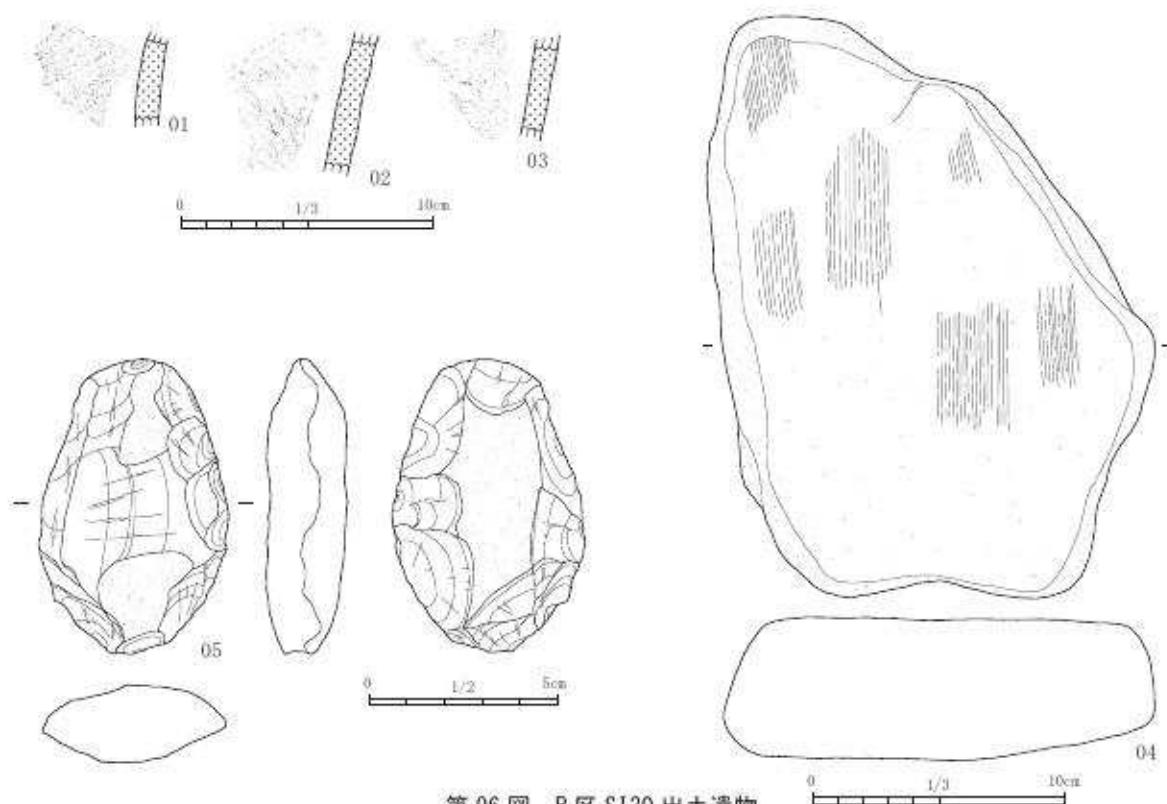
P2グリッドに位置する。SI29に北側を削平され、SK237を切って構築される。規模は長軸6.57m×短軸4.92mを測り、楕円形を呈する。深さは確認面より22cmを測る。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土であり、3層に分層される。全層から微量の焼土ブロックが検出された。堆積状況は自然堆積を示す。

住居跡中央からやや東よりの地点では火床面を持つ土坑が確認された。本住居跡に伴うものであるかは不明である。規模は長軸95cm×短軸69cmを測り、楕円形を呈する。火床面は南東で確認され、最大幅は33cmを測る。

遺物は土器、石製品を中心に6187.4g出土した。掲載遺物は5点である。



第95図 B区 SI30



第96図 B区 SI30 出土遺物

第36表 B区 SI30 出土遺物観察表

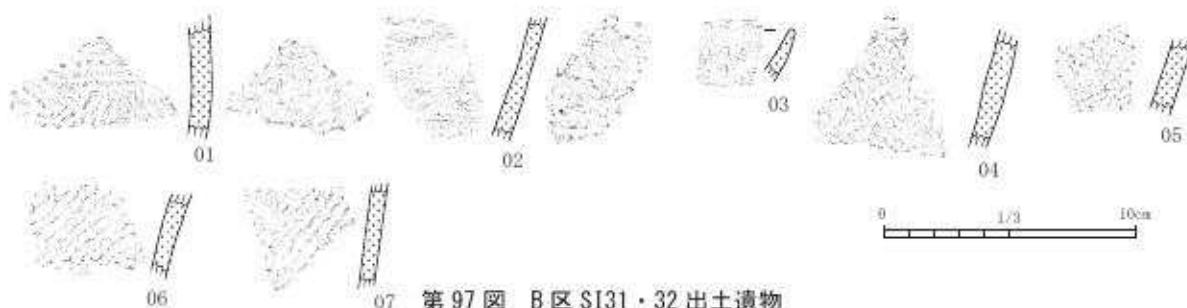
遺物番号	目記	種類	器種	口径	底形	深さ	器形×文様・焼成	形式	残存	焼成	色調	加工	重量(g)	備考
01	一柱	陶瓦上部	保外	—	—	—	単頭丸棒文	单出式	網目破片	良好	内外面 T-5135/1 C-504-18 内面 T-5135/2 男籠 外面 T-5135/4 にぶい赤褐色	鐵斑多量、白色粒子少量、青白淡黄	26.4	
02	一柱	陶瓦上部	保外	—	—	—	単頭丸棒文	单出式	網目破片	良好	内面 T-5135/2 男籠 外面 T-5135/4 にぶい赤褐色	鐵斑微量、白色粒子少量、青白淡黄	24.1	
03	一柱	陶瓦上部	保外	—	—	—	単頭丸棒文	单出式	網目破片	良好	内面 T-5135/1 にぶい黄褐色 外面 T-5135/4 にぶい赤褐色	鐵斑多量、白色粒子少量、男性粒子微量	13.8	
04	一柱	石製品	石	範	横	厚さ 23.1	横	厚さ 5.5	複数な不整齊円筒の自然礫を用いるもので、主子面間に擦痕が観察される。全体に経路を受けしており、半透明である。	—	—	—	3602.0	
05	一柱	石製品	打製石斧	範	横	厚さ 7.8	横	厚さ 2.0	複数の円筒を基材にすりもどして表面両面方に表皮を残す。側縁の剥離は粗雑で、側部はやや削っている。材質は酸灰岩。	—	—	—	91.2	

SI31・32 (第97・98図、第37表、遺構図版36・37、遺物図版10)

D・E2グリッドに位置する。重複する住居跡であり、SI32がSI31を切って構築される。

**SI31** 規模は長軸4.17m×短軸2.63mを測り、楕円形を呈する。深さは最深部で確認面より17cmを測り、床はほぼ平坦であるが、北側がやや高い。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、自然堆積を示す。柱穴は2基確認され、いずれも規模は長軸約30cmである。

**SI32** 規模は長3.38軸m×短軸3.20mを測り、不整円形を呈する。深さは確認面より14cmを測り、床はほぼ平坦である。覆土は暗褐色土を基調とした4層に分層される。第1・2・4層に微量の焼土ブロックを

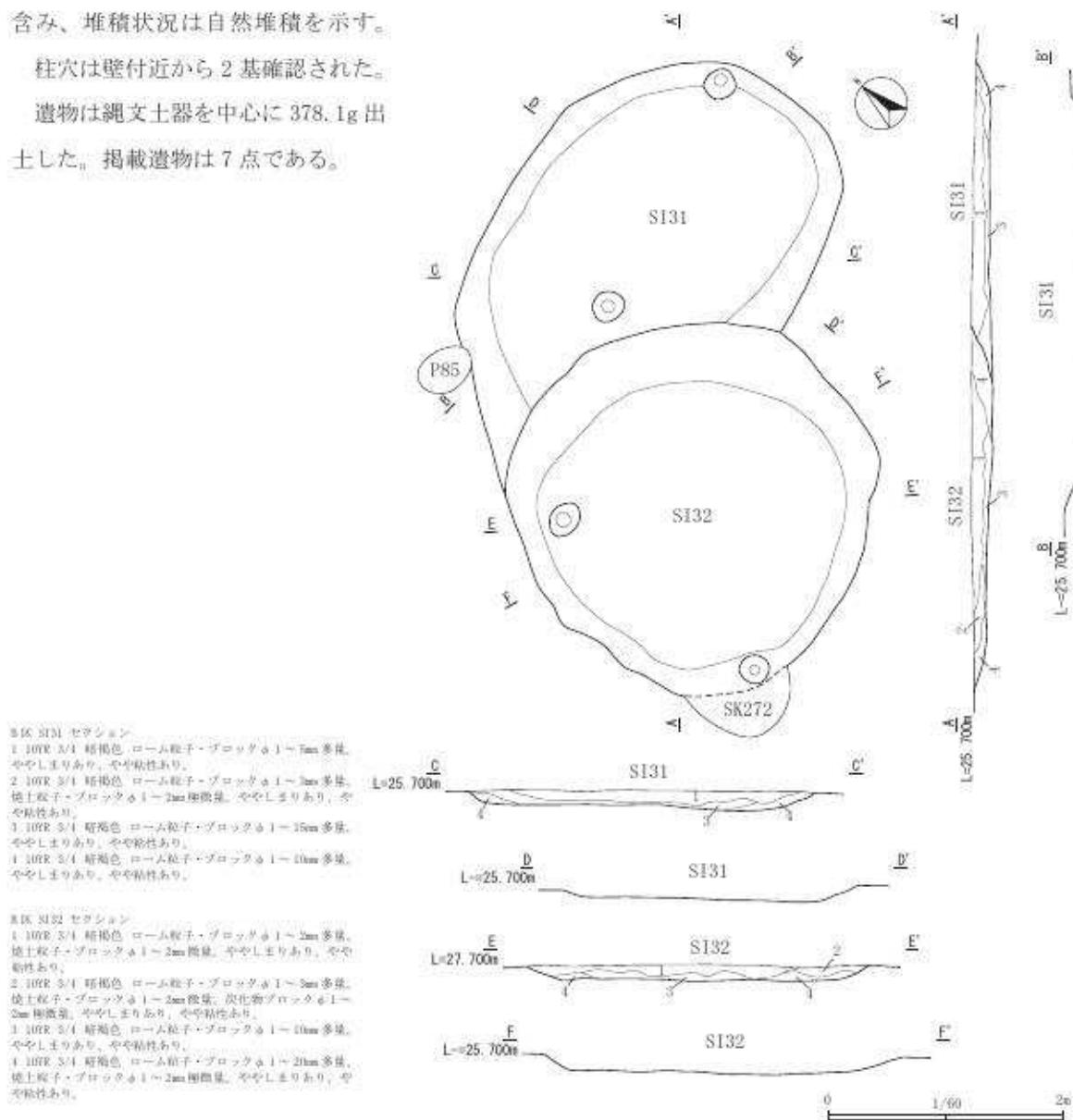


第97図 B区 SI31・32 出土遺物

含み、堆積状況は自然堆積を示す。

柱穴は壁付近から2基確認された。

遺物は縄文土器を中心に378点出土した。掲載遺物は7点である。



第98図 B区 SI31・32

第37表 B区 SI31・32出土遺物観察表

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底地	深さ	断面・文様・施用	型式	残存	焼成	色調	底上	重量(g)	備考
01	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	内外面条痕有	江義芋山式	10HR破片	良好	内外面 10HR/1に並ぶ黄褐色多量、白色粒子多量	褐色微帶、白色粒子多量	21.9	
02	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	外面条痕、内部剥落	江義芋山式	10HR破片	良好	内外面 10HR/1に並ぶ黄褐色多量、白色粒子多量	褐色多量、白色粒子多量	16.1	
03	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	印加LR漢文	黒浜式	10HR破片	良好	内外面 10HR/2灰褐色	褐色多量、白色粒子微量	4.6	
04	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	印加LR漢文	黒浜式	10HR破片	良好	内外面 10HR/3灰褐色	褐色多量、白色粒子微量	23.5	
05	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	印加LR・B1・H1砂粒文	黒浜式	10HR破片	良好	内面 10HR/1褐色	褐色多量、白色粒子微量	31.7	
06	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	無筋土縄文	黒浜式	10HR破片	良好	内面 10HR/3灰褐色	褐色多量、白色粒子少量	36.5	
07	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	無筋土縄文	黒浜式	10HR破片	良好	内面 10HR/4灰褐色	褐色多量、白色粒子少量	15.2	

SI34・35(第99・100図、第38表、遺構図版38・39、遺物図版10)

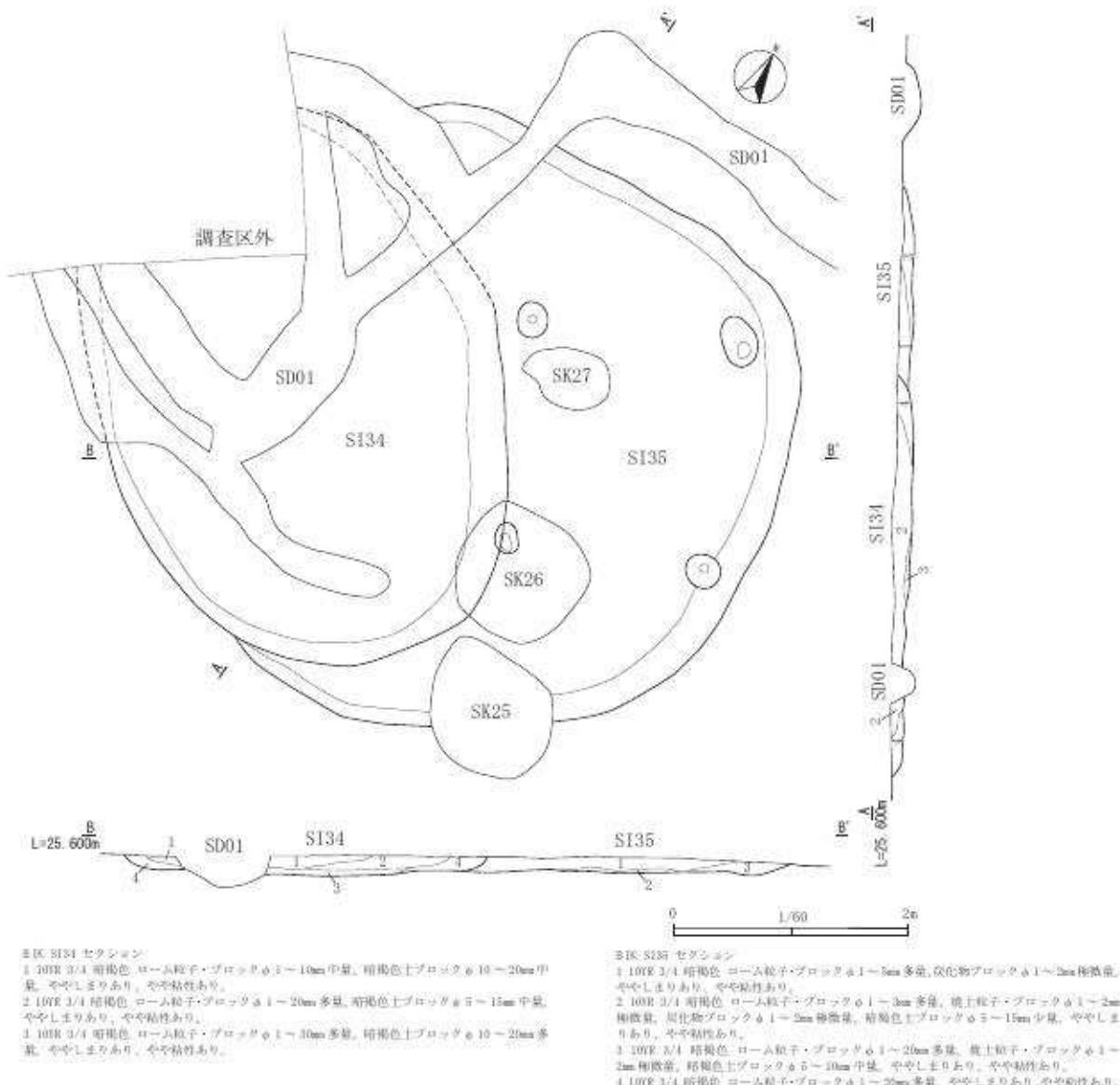
G・H1グリッドに位置する。重複する住居跡であり、SI34はSI35を切って構築される。それぞれSK26・SD01に切られ、SI35はSK25・27に切られる。

**SI34** 北西は調査区外であり、規模は不明である。長軸は5.26mが確認され、短軸は3.44mを測る。平面形は橿円形を呈する。深さは確認面より18cmを測り、床は平坦である。覆土は暗褐色土を基調として4

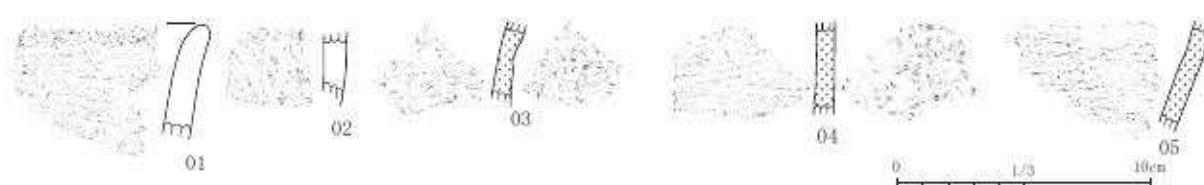
層に分層され、ロームブロックを多く含む。下層ではロームブロックの粒径が大きくなる。堆積状況は自然堆積を示す。柱穴は確認されなかった。

SI35 規模は前述の切りあいのため不明であり、残存部の最大径は5.28mを測る。平面形は不整円形を呈すると想定される。深さは確認面より17cmを測る。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層される。全層に粒径のやや大きい暗褐色土ブロックが含まれる。堆積状況は自然堆積を示す。柱穴は4基確認され、うち2基は東側の壁付近に位置する。

遺物は縄文土器を中心に1508.8g出土した。掲載遺物は5点である。



第99図 B区 SI34・35



第100図 B区 SI34・35出土遺物

第38表 B区 SI34・35出土遺物観察表

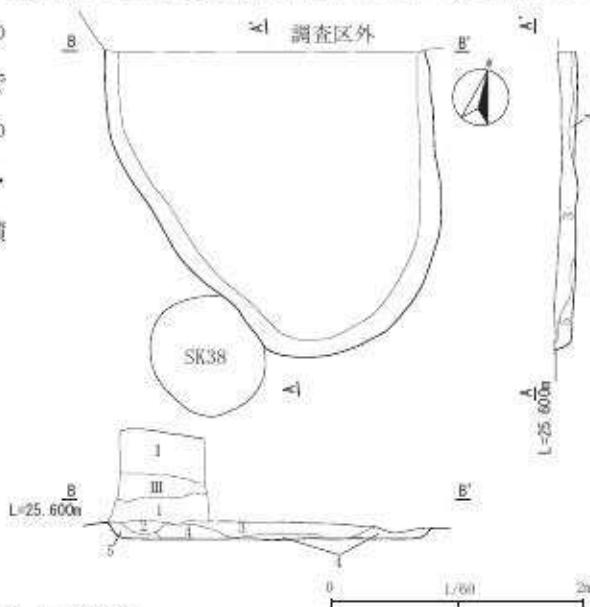
遺物番号	形質	樹種	断面	口径	底径	高さ	表面・裏様・常形	型式	現存	焼成	色調	断面	重量(g)	備考
02	一様	圓筒土器	深鉢	—	—	—	底をかに外反して開く口縁。外周はへき裂あり。内面ナゲ。	天火燒式 口縁錐破片	良好	内外面 2.5mm/3 没頭	白色粒子多々、雲母微量	39.5		
02	一様	圓筒土器	深鉢	—	—	—	外周へき裂あり、内面剥落。	天火燒式 側部破片	良好	内外面 2.5mm/3 没頭	白色粒子少々、雲母微量	33.8		
03	一様	圓筒土器	深鉢	—	—	—	外周剥落。内面剥落。	正義茅山 側部破片	良好	内面 10mm/4 に多い黄褐色 外周 10mm/2 に多い黄褐色	鐵錫無量、雲母・白色粒子少々	41.4		
03	一様	圓筒土器	深鉢	—	—	—	外周剥落。内面剥落。	正義茅山 側部破片	良好	内面 10mm/4 に多い黄褐色 外周 10mm/1 に多い黄褐色	鐵錫無量、白色粒子少々、雲母・スコリア微量	38.4		
05	一様	圓筒土器	深鉢	—	—	—	格子目状の燃肴灰。	鬼市式 大木錐破片	良好	内外面 10mm/6 明顯褐	鐵錫多量、白色粒子微量	24.9		

SI36(第101図、遺構図版39)

F・G11グリッドに位置する。北側は調査区外であり、規模・平面形は不明である。長軸は2.42mまでが確認され、短軸は2.53mを測る。深さは確認面より最深部で18cmを測る。床は平坦であり、壁は約70°の傾斜で外傾する。調査区境界の壁面には本住居跡の覆土がIII層の直下に確認され、III層直下から床までは37cmを測る。覆土は5層に分層され、壁直下の第5層以外は暗褐色土である。大部分を占める第3・4層から微量の炭化物ブロックが検出された。堆積状況は自然堆積とみられる。

遺物は検出されなかった。

- B区 SI36 セクション
- 10W 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~10mm 多量。暗褐色土ブロック 1~10mm 中量。ややしまりあり。やや粘性あり。
  - 2 10W 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~20mm 中量。暗褐色土ブロック 10~20mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。
  - 3 10W 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック 5~10mm 多量。炭化物ブロック 1~2mm 微量。暗褐色土ブロック 20~30mm 中量。ややしまりあり。やや粘性あり。
  - 4 10W 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~10mm 多量。炭化物ブロック 1~3mm 微量。暗褐色土ブロック 5~10mm 中量。ややしまりあり。やや粘性あり。
  - 5 10W 4/6 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~15mm 多量。暗褐色土ブロック 5~10mm 少量。ややしまりあり。やや粘性あり。

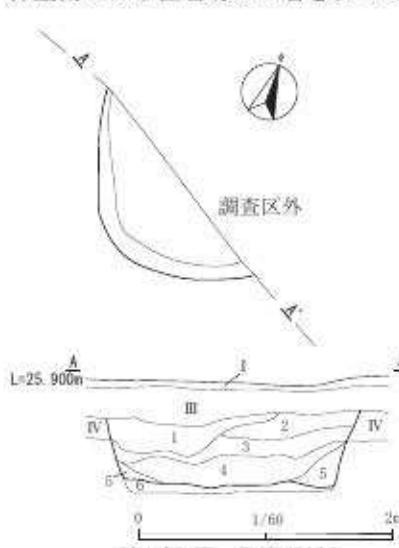


第101図 B区 SI36

SI38(第102・103図、第39表、遺構図版40、遺物図版10)

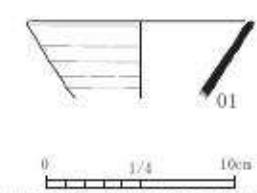
B3グリッドに位置する。隅のみが確認され規模は不明である。深さは確認面より43cmを測る。調査区境界壁面では本住居跡がIV層を切ってIII層の直下に覆土があることが確認され、III層直下から床までは64cmを測る。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土が主体であり、計5層に分層され、最下層は掘方である。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は土師器、須恵器の小片計32.0gが検出された。掲載遺物は1点である。



第102図 B区 SI38

- B区 SI38 セクション
- 1 10W 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~5mm 多量。暗褐色土ブロック 5~20~30mm 中量。ややしまりあり。やや粘性あり。
  - 2 10W 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~5mm 多量。暗褐色土ブロック 5~10mm 少量。ややしまりあり。やや粘性あり。
  - 3 10W 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~5mm 多量。暗褐色土ブロック 10~20mm 中量。ややしまりあり。やや粘性あり。
  - 4 10W 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~10mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。
  - 5 10W 3/1 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~10mm 多量。ややしまりあり。やや粘性あり。
  - 6 10W 4/6 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~15mm 多量。暗褐色土ブロック 5~10mm 少量。ややしまりあり。やや粘性あり。



第103図 B区 SI38 出土遺物

第39表 B区SI38出土遺物観察表

遺物番号	性質	種類	目格	地層	地層	埋葬	特徴	特徴の特徴	形状	色調	粒土	重量(g)	備考	
02	一般	羽根飾	坪	(12,6)	—	(L6)	日縁を主体とする。	多頭は直線的に開き口縫に沿う。	ロクロ彫刻。	良好	内外青 7,500g/1kg	白色粒子少 量、既分の噴 出し微量	18.1	

SI39(第104図、遺構図版40)

J・K6グリッドに位置する。SI18・19・20を切って構築される。西側壁と隅のみが確認され規模は不明である。南北の規模は5.22mが確認された。主軸方向はN-35°-Wである。深さは確認面より最深部で23cmを測る。調査区境界壁面では本住居跡がIV・V層を切ってI層の直下に覆土があることが確認され、1層直下から床までは64cmを測る。覆土は暗褐色土が主体であり、中層のみが黒褐色土である。5層に分層され、最下層である第6層は掘方である。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は検出されなかった。

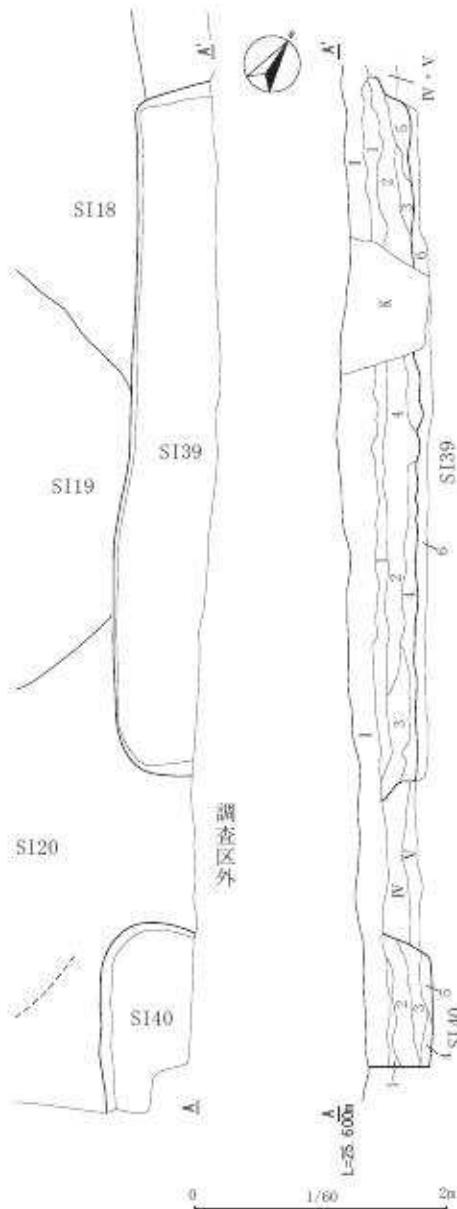
SI40(第104図、遺構図版40)

K6グリッドに位置する。隅のみが確認され規模は不明である。深さは確認面より12cmを測る。調査区境界壁面では本住居跡がIII層を切ってI層の直下に覆土があることが確認され、1層直下から床までは42cmを測る。覆土は上層から中層までが黒褐色土、下層が暗褐色土であり、計5層に分層される。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は検出されなかった。

SI39 SI39セクション  
1.10H 3/4 研磨色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm多量。炭化物ブロックφ1~3mm多量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
2.10H 2/3 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm多量。炭化物ブロックφ1~3mm多量。炭化色土ブロックφ1~10mm中量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
3.10H 3/4 研磨色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm多量。炭化物ブロックφ1~3mm多量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
4.10H 3/4 研磨色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm中量。研磨色土ブロックφ3~10mm中量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
5.10H 3/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量。研磨色土ブロックφ3~10mm多量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
6.10H 3/4 研磨色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm極多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm多量。炭化色土ブロックφ3~20mm多量。しまりあり。やや粘性あり。

SI40 SI40セクション  
1.10H 2/3 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm多量。研磨色土ブロックφ3~10mm多量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
2.10H 2/3 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量。研磨色土ブロックφ3~10mm中量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
3.10H 3/4 研磨色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm極多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm多量。研磨色土ブロックφ3~15mm多量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
4.10H 3/4 黑褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm極多量。燒土粒子・ブロックφ1~2mm多量。研磨色土ブロックφ3~15mm多量。ややしまりあり。やや粘性あり。  
5.10H 3/4 研磨色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm極多量。研磨色土ブロックφ3~15mm多量。ややしまりあり。やや粘性あり。



第104図 B区SI39・40

## 第2項 土坑

B区では土坑245基、ピット90基が確認された。うちI類(炉穴)は21基、II類(陥穴)は9基、III類(墓壙)は25基、IV類(袋状土坑)は28基検出された。

### 1 I類(炉穴)

#### SK02(第105図、遺構図版41)

K10グリッドにおいて検出された。主軸方向はS-3°-Wである。規模は長軸152cm、短軸91cm、深さは最深部で確認面より7cmを測り、楕円形の平面形、浅い皿状の断面形を呈する。底面は火床面がある南側が高い。火床面は長軸34cm、短軸31cmが確認された。覆土は3層に分層され、自然堆積を示す。1・3層は焼土ブロックを多量に含む。

遺物は検出されなかった。

#### SK09(第105図、遺構図版41)

I11グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-11°-Eである。規模は長軸202cm、短軸109cm、深さは最深部で確認面より12cmを測り、楕円形の平面形、浅い皿状の断面形を呈する。底面はほぼ水平である。火床面は北側にあり、長軸36cm、短軸34cmの不整形な平面形で確認された。覆土は6層に分層され、自然堆積を示す。焼土ブロックは火床面の直上の第4層から極多量検出された。

遺物は検出されなかった。

#### SK15(第106図、遺構図版41)

I12グリッドにおいて検出された。規模は長軸128cm、短軸116cmを測り、不整円形を呈し、深さは最深部で確認面より20cmを測る。断面形は崩落のためか部位により異なるが浅い鍋底状である。火床面は北側を中心とし長軸71cm、短軸60cmの不整形な平面形で確認された。覆土は3層に分層され、自然堆積を示す。第2層からは粒径の大きい焼土ブロックが極多量検出された。第3層は掘方であり、使用面の断面形は擂鉢状となる。

遺物は検出されなかった。

#### SK24(第106図、遺構図版41)

H11グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-28°-Wである。規模は長軸159cm、短軸111cmを測り楕円形を呈する。底部はほぼ平坦で浅い皿状の断面形であるが、北西側がやや低くなる。火床部は低くなつた北西側に位置し、長軸54cm、短軸49cmの円形の平面形で確認された。覆土は4層に分層され、自然堆積を示す。火床面の直上にあたる第4層からは焼土ブロックが極多量検出された。

遺物は検出されなかった。

#### SK79(第106図、遺構図版42)

F8グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-58°-Wである。規模は長軸112cm、短軸86cmを測り楕円形を呈し、深さは最深部で確認面より17cmを測る。底部には火床面があるため凹凸があるが、おおむね浅い皿状の断面形態を呈している。火床面は北西寄りで確認された。長軸44cm、短軸41cmの規模を測る。覆土は4層に分層され、自然堆積を示す。火床面直上の第4層は赤褐色土であり、粒径の小さい焼土ブロックが極多量検出された。

遺物は礫が343.7g出土した。掲載遺物はない。

**SK153 (第106図、遺構図版41)**

F5グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸135cm、短軸85cmを測り楕円形を呈し、深さは最深部で確認面より21cmを測る。底部は北側がやや高くなり、この部分に火床面が位置する。火床面は不整形な平面形であり、最大径は51cmである。土坑の断面形は、おおむね鍋底状を呈している。覆土は5層に分層され自然堆積を示す。第2・3・4・5層からはロームブロックが極多量検出され、下層からは焼土が検出されなかった。

遺物は検出されなかった。

**SK155 (第106図、遺構図版42)**

F5グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-75°-Eである。規模は長軸193cm、短軸104cmを測り楕円形を呈し、深さは最深部で確認面より34cmを測る。底部は東側が擂鉢状に低くなり、この部分に火床面が位置する。火床面の規模は長軸68cm、短軸52cmを測り、不整楕円形を呈する。覆土は3層に分層され自然堆積を示す。覆土の全層から焼土ブロックが検出され、その割合は下層へ行くにつれて大きくなる。

遺物は縄文土器が3.9g出土した。掲載遺物はない。

**SK160 (第107・110図、第40表、遺構図版42、遺物図版10)**

E5グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-58°-Eである。規模は長軸142cm、短軸94cmを測り楕円形を呈し、深さは最深部で確認面より17cmを測る。浅い皿状の断面形であり、火床面が位置する北東側の床がやや低くなる。火床面の規模は長軸56cm、短軸44cmを測り楕円形を呈する。覆土は4層に分層され、第4層は焼土ブロックを極多量に含む赤褐色土である。

遺物は縄文土器を中心に129.6g出土した。掲載遺物は1点である。

**SK171 (第107図、遺構図版42)**

E4グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-29°-Eである。規模は長軸107cm、短軸65cmを測り不整楕円を呈する。床は北東側が擂鉢状に低くなり深さは最深部で19cmを測る。この部分に火床面が位置し、平面形は不整形であり、最大径は50cmを測る。覆土は4層に分層され、全層にわたり焼土ブロックが確認され、第4層からは極多量検出された。

遺物は検出されなかった。

**SK175 (第107図、遺構図版42)**

F5グリッドにおいて検出された。規模は長軸223cm、短軸193cmを測る。平面形は隅丸三角形であり、南側に段を持つ。深さは最深部で確認面より45cmを測り、段の部分は13cmを測る。火床面は段の南側の壁付近で僅かに確認された。楕円形の平面形であり、規模は長軸37cm、短軸16cmを測る。覆土は6層に分層され、第2・5層からは粒径の大きいロームブロックが極多量検出されたほか、その他の層からもロームブロックが多量検出された。覆土とその堆積状況から人為堆積と判断される。

遺物は検出されなかった。

**SK221 (第107図、遺構図版43)**

G3グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-24°-Wである。規模は長軸105cm、短軸84cmを測り、楕円形を呈する。壁は外傾し、底部は平坦である。深さは最深部で確認面より13cmを測る。火床面は北西側に位置し規模は長軸39cm、短軸31cmである。覆土は3層に分層され、自然堆積を示す。全層にわたりロームブロックを多量含み、火床面直上にあたる第3層からは焼土ブロックが微量検出された。

遺物は検出されなかった。

**SK222・223（第108図、遺構図版43）**

G3グリッドにおいて検出された。SK222がSK223の北西を切って構築される。

**SK222** 規模は長軸111cm、短軸107cmを測り、不整円を呈する。浅い皿状の断面形であり、底部には火床面があるため凹凸がみられる。深さは最深部で9cmを測る。火床面は土坑の北側で確認され、規模は長軸78cm、短軸49cmを測り、平面形は不整形である。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、第3層には焼土ブロックが極多量含まれる。

**SK223** 規模は先述の切り合いのため不明であるが、長軸87cm以上、短軸86cmの楕円形の平面形が想定される。主軸方向はN-50°-Wである。深さは最深部で12cmを測り、底部は平坦であるが、火床面部には凹凸がみられる。火床面は土坑のほぼ中央に位置し、規模は長軸37cm、短軸29cmを測り、楕円形を呈する。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、火床面直上にあたる第6層からは焼土ブロックが極多量検出された。自然堆積と判断される。

遺物は検出されなかった。

**SK234（第108図、遺構図版43）**

F3グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-43°-Eである。規模は長軸147cm、短軸123cmを測り、平面形はやや楕円形である。床は平坦であるが、火床面が位置する北東側はやや低くなる。深さは最深部で確認面より18cmを測る。火床面の規模は長軸45cm、短軸39cmを測り、楕円形を呈する。覆土は6層に分層され自然堆積を示す。第6層は火床面の被熱範囲である。

遺物は検出されなかった。

**SK237（第108・110図、第40表、遺構図版44、遺物図版10）**

F2グリッドにおいて検出された。主軸方向はS-28°-Wである。SI30と重複し、これに北東側の壁上部を切られる。当初、2基の土坑の重複として調査を進めたが、覆土とその堆積状況の観察の結果、長軸209cm、短軸91cmの楕円形の土坑であると判断された。深さは最深部で確認面より60cmを測り、火床面のある南側が低くなる。火床面の規模は長軸90cm、短軸59cmを測り、楕円形を呈する。覆土の堆積状況の全容を把握することはできなかつたが、8層が確認された。各層はロームブロックを多く含み、焼土は火床面がある南側の覆土で多く検出される傾向がみられた。

遺物は縄文土器と礫350.6gが出土した。掲載遺物は3点である。

**SK238（第108図、遺構図版44）**

F2グリッドにおいて検出された。規模は長軸74cm、短軸72cmを測り、平面形は不整円形である。皿状の断面形であり、深さは確認面より12cmを測る。火床面は土坑の東側で確認された。東西方向に伸びる長楕円形を呈し、規模は長軸33cm、短軸19cmである。覆土は暗褐色土を基調とした2層に分層され、自然堆積を示す。焼土ブロックは全層に含まれるが、下層では粒径・割合とも大きくなる。

遺物は検出されなかった。

**SK239（第108図、遺構図版44）**

F2グリッドにおいて検出された。規模は長軸82cm、短軸77cmを測り不整円形を呈する。底部には凹凸があり、深さは最深部で確認面より32cmを測る。火床面は土坑の中央よりやや北側よりで確認された。円形の平面形であり、規模は長軸34cm、短軸31cmである。覆土は3層に分層され、自然堆積を示す。火床面に接する第3層は赤褐色土であり、全層に焼土ブロックを含み、極多量が検出された。

遺物は検出されなかった。

## SK240 (第109図、遺構図版44)

E2グリッドにおいて検出された。主軸方向はS-1°-Wである。規模は長軸147cm、短軸96cmを測り楕円形を呈する。浅い皿状の断面形であり、北側の床がやや低くなる。深さは最深部で確認面より13cmを測る。火床面は土坑のやや南寄りで確認された。不整形であり、最大径は89cmを測る。覆土は4層に分層され自然堆積を示す。第3層は赤褐色土であり、焼土ブロックが極多量検出された。

遺物は検出されなかった。

## SK251 (第109図、遺構図版45)

E1グリッドにおいて検出された。SK252に西側を削平される。規模は残存部の最大径で69cm、深さは確認面より17cmを測る。火床面は土坑の北側で確認された。長楕円形の平面形であり、規模は長軸28cm、短軸14cmである。覆土は3層に分層され自然堆積とみられる。第3層は赤褐色土であり、粒径の大きい焼土ブロックを極多量含む。

遺物は検出されなかった。

## SK253 (第109図、遺構図版45)

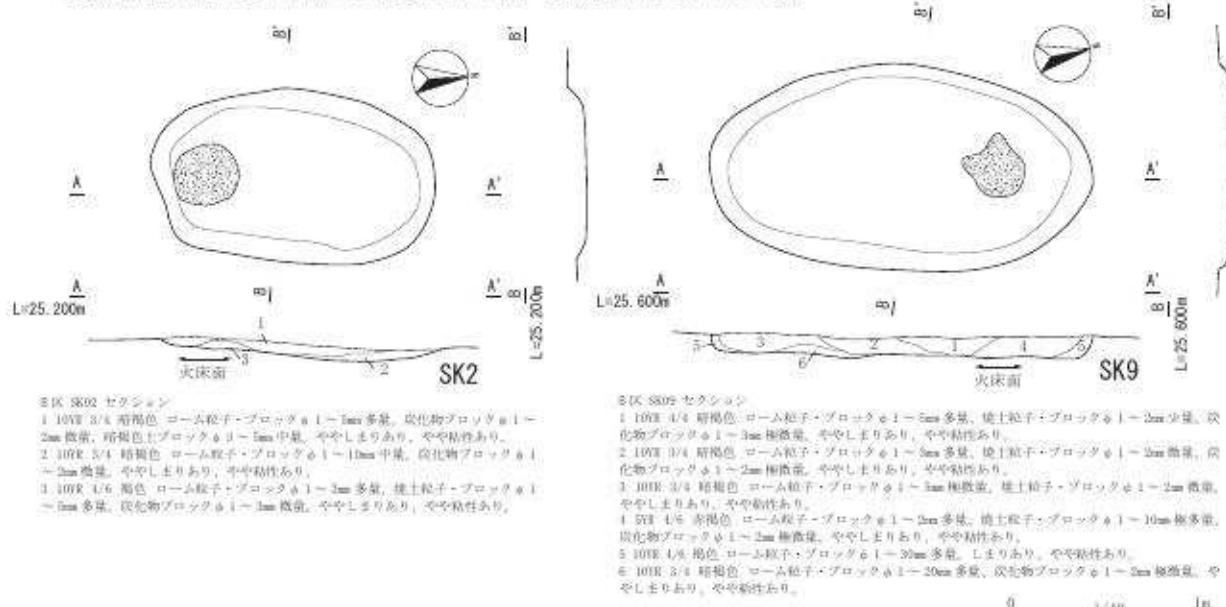
E1グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-76°-Wである。規模は長軸105cm、短軸69cmを測り、不整楕円形を呈する。火床面は土坑のほぼ中央で確認され、規模は長軸39cm、短軸33cmを測り、不整円形を示す。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、自然堆積とみられる。全層で焼土ブロックが多く検出された。

遺物は検出されなかった。

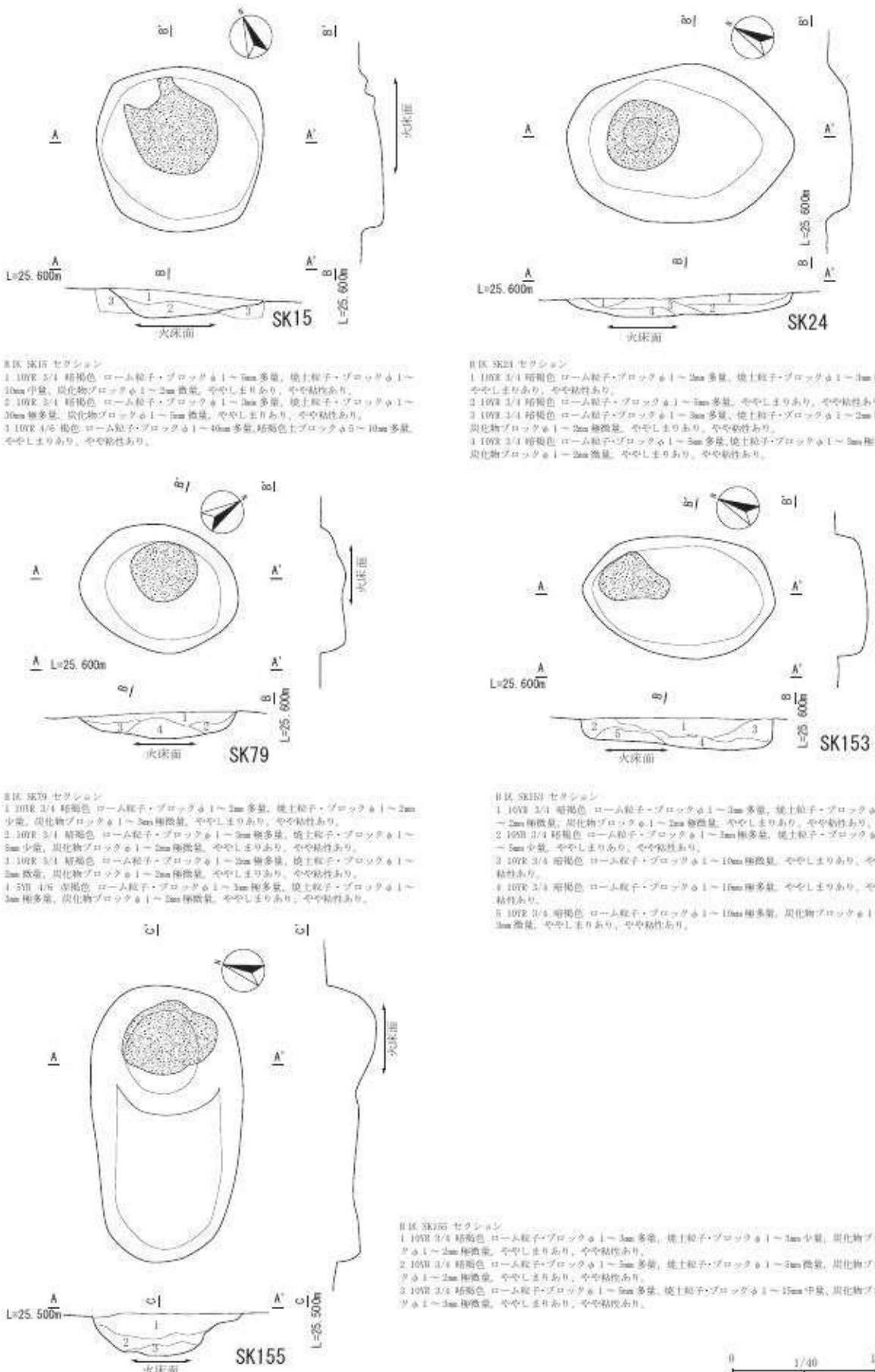
## SK256 (第109・110図、第40表、遺構図版45、遺物図版10)

E1・2グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-37°-Wである。規模は長軸239cm、短軸87cmを測り、長楕円形を呈する。断面形はおおむね逆台形であるが、火床部が位置する北西の底部がやや低くなる。深さは確認面より最深部で34cmを測る。火床面は北西側の壁にまで及んでおり、残存の状況が良好である。規模は長軸90cm、短軸71cmを測り不整円形を呈する。覆土は4層に分層され、自然堆積を示す。火床面直上である第4層は赤褐色土である。

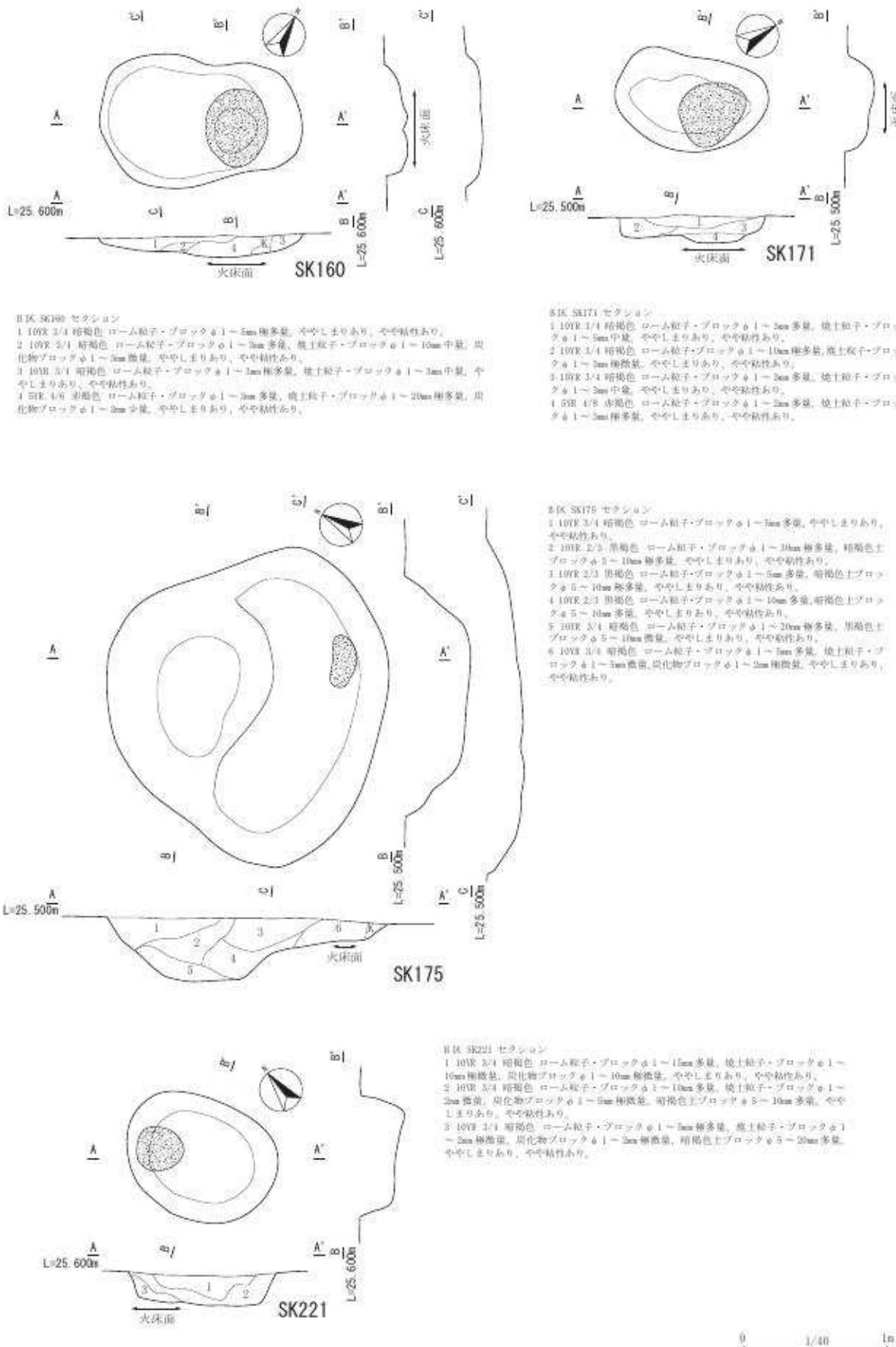
遺物は縄文土器を中心に195.2g出土した。掲載遺物は2点である。



第105図 B区土坑I類(炉穴)(1)



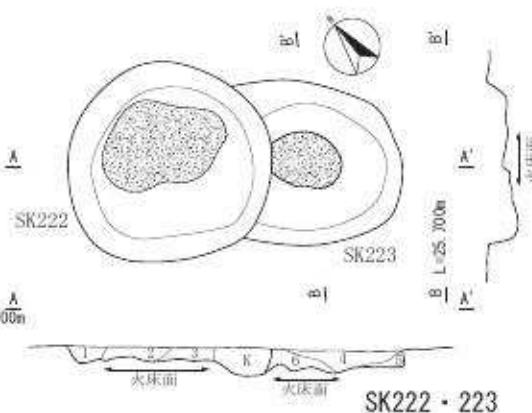
第106図 B区土坑I類(炉穴)(2)



第107図 B区土坑I類(炉穴)(3)

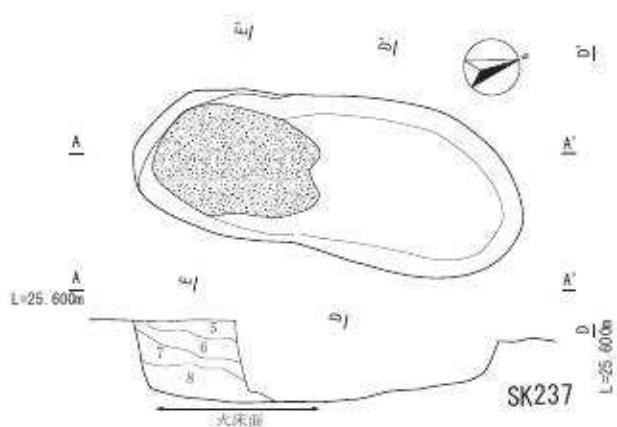
## B区 SK222・223 セクション

1. 10F 3/3 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
2. 10F 3/3 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～10mm 少量。炭化物ブロックφ1～10mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
3. 10F 3/3 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～10mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～3mm 少量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
4. 10F 3/3 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～10mm 少量。炭化物ブロックφ1～3mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
5. 10F 3/3 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～10mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～2mm 少量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
6. 10F 3/3 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～5mm 少量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。



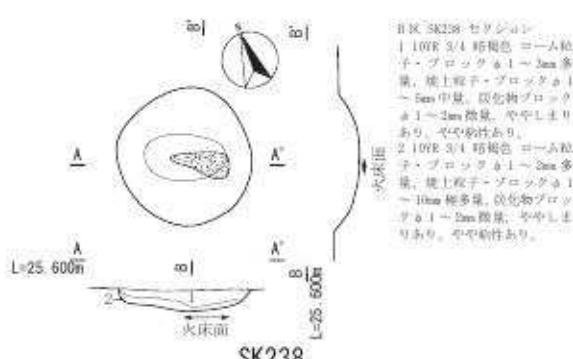
## B区 SK234 セクション

1. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
2. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
3. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～3mm 中量。粘褐色土ブロックφ3～5mm 中量。ややしまりあり、やや粘性あり。
4. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～3mm 多量。ややしまりあり、やや粘性あり。
5. 10F 4/8 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～10mm 多量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
6. 10F 4/8 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm 中量。焼土粒子・ブロックφ1～3mm 多量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。

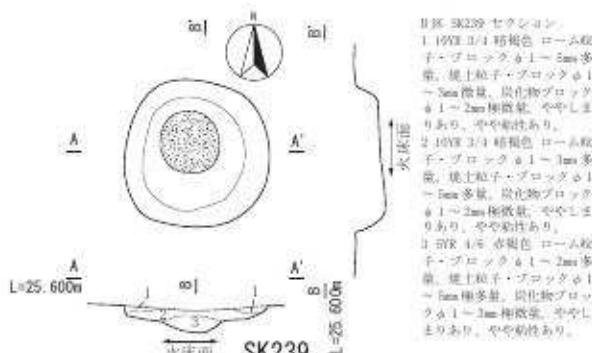


## B区 SK237 セクション

1. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～2mm 少量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
2. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～5mm 中量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
3. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～10mm 多量。炭化物ブロックφ1～3mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
4. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～10mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～3mm 少量。炭化物ブロックφ1～3mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
5. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～10mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～2mm 少量。炭化物ブロックφ1～3mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。
6. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～10mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～5mm 中量。炭化物ブロックφ1～3mm 少量。粘褐色土ブロックφ5～10mm 中量。ややしまりあり、やや粘性あり。
7. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm 多量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。希褐色土ブロックφ1～10mm 中量。ややしまりあり、やや粘性あり。
8. 10F 3/1 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～20mm 多量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。希褐色土ブロックφ1～10mm 中量。ややしまりあり、やや粘性あり。

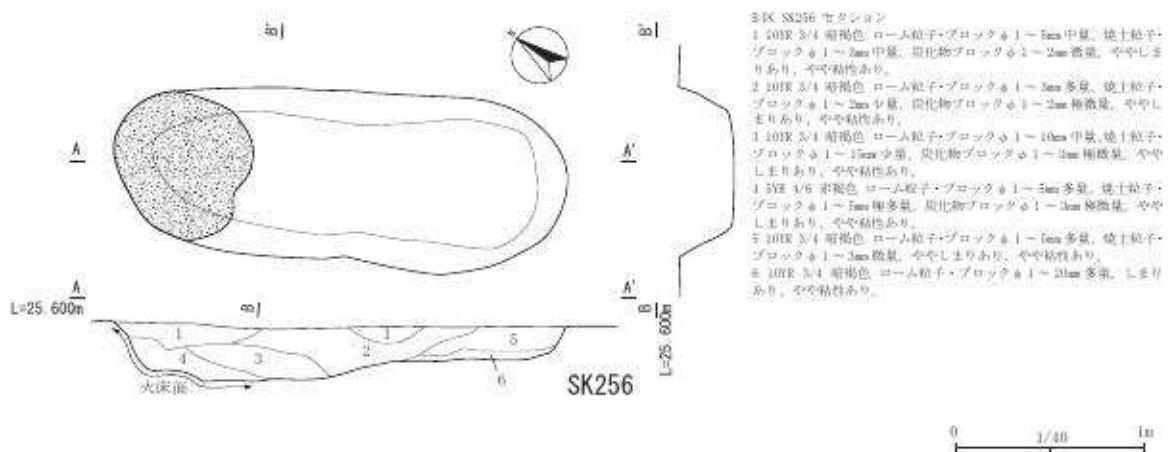
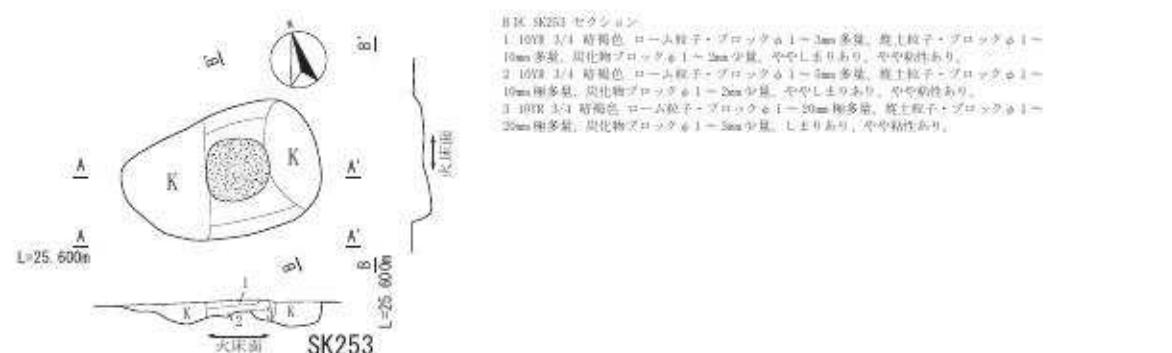
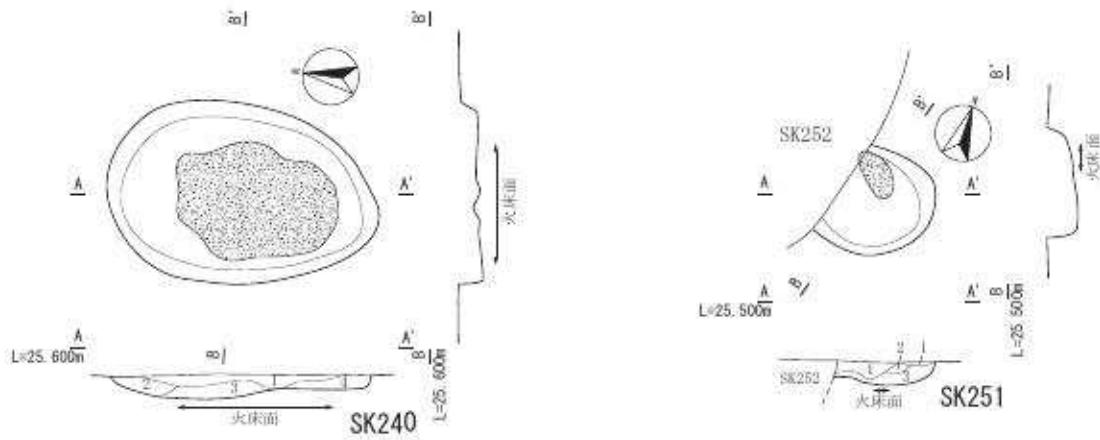


B区 SK238 セクション  
1. 10F 3/4 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～5mm 中量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。  
2. 10F 3/4 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～10mm 多量。炭化物ブロックφ1～10mm 多量。ややしまりあり、やや粘性あり。

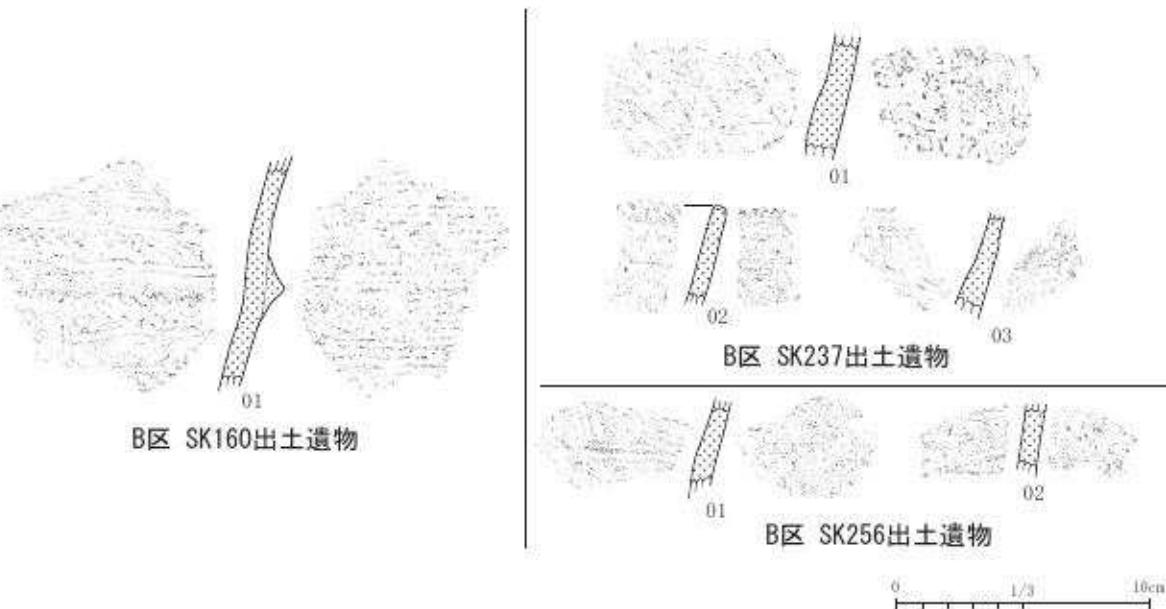


B区 SK239 セクション  
1. 10F 3/4 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～5mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～3mm 多量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。  
2. 10F 3/4 希褐色 ローム粒子・ブロックφ1～3mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～5mm 多量。炭化物ブロックφ1～2mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。  
3. 10F 4/8 水褐色 ローム粒子・ブロックφ1～2mm 多量。焼土粒子・ブロックφ1～5mm 多量。炭化物ブロックφ1～3mm 少量。ややしまりあり、やや粘性あり。

第108図 B区土坑I類(炉穴)(4)



第109図 B区土坑I類(炉穴)(5)



第110図 B区土坑I類（炉穴）出土遺物

第40表 B区土坑I類（炉穴）出土遺物観察表

遺物名	遺物 番号	状記	種類	断面	直径	底深	断面	断面・文様・盤形	型式	保存	壺底	色調	粘土	重量(g)	備考
SK160	01	一括	縞文土器	四脚	—	—	—	残部分の鏡片である。段の上半周側には内管の斜窓及び底部にによる凹痕が設けられ、内部には舟押文跡の文様が充填される。前面は横方向の条底文。	圓錐台 式	脚部破片	良好	内外面 に斜窓及び 凹痕	褐色微量、 白色粒子多い。 要付微量	83.7	
	01	一括	縞文土器	四脚	—	—	—	外側は浅い条底文が施文。	広義茅山 式	脚部破片	良好	内面 10.96/3に 沿い黄褐 外面 7.5587/4 に沿い帶	褐色微量、 白色粒子少 量	49.3	
SK237	02	一括	縞文土器	四脚	—	—	—	内外面共に浅い条底文が施文。	広義茅山 式	脚部破片	良好	内面 10.96/3に 沿い黄褐 外面 10.96/3に 沿い黄褐	褐色微量、 黒斑多く、 黑色粒子、 白色粒子多 い	10.4	
	03	一括	縞文土器	四脚	—	—	—	口部部に凹みを有す。外面は浅い条底文が 施文。	広義茅山 式	口縁部破 片	良好	内面 10.96/3に 沿い黄褐 外面 7.5584/3 に沿い帶	褐色微量、 白色粒子空 や多い。要 付微量	11.1	
SK256	01	一括	縞文土器	四脚	—	—	—	外周浅い条底、内側は十字。	広義茅山 式	脚部破片	良好	内外面 10.96/3に 沿い黄褐	褐色微量、 白色粒子空 や多い。要 付微量	26.7	
	02	一括	縞文土器	四脚	—	—	—	内外対共に浅い条底。	広義茅山 式	脚部破片	良好	内面 10.96/4に 沿い黄褐 外面 7.5586/6 に沿い帶	褐色微量、 黑色粒子空 や多い。白 色粒子少量	10.3	

## 2 II類（陥穴）

### SK62 (第111図、遺構図版45)

H10グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-56°-Eである。西側は調査区外であるため規模は不明であるが、長軸239cm、短軸134cm、確認面よりの深さ81cmを測り、平面形は隅丸長方形である。調査区壁面セクションでは108cmの掘り込みが確認され、本土坑がIV・V層を切ることを示す。短軸断面は逆台形であり、底部は平坦で長軸178cm以上、短軸56cmの隅丸長方形である。覆土は暗褐色土を主体とした5層に分層され、自然堆積を示す。

遺物は検出されなかった。

**SK77** (第112・116図、第41表、遺構図版45、遺物図版10)

G8グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-69°-Eである。長軸247cm、短軸209cmの楕円形を呈し、確認面よりの深さは97cmを測る。壁は外傾し、断面形は逆台形、底部は平坦で、長軸157cm、短軸75cmの隅丸方形を呈する。覆土は暗褐色土を基調とした6層に分層され、全層に粒径の多きいロームブロックが多量含まれる。堆積状況と覆土の状況から人為堆積と判断される。

遺物は縄文土器を中心に61.1g出土した。掲載遺物は1点である。

**SK98** (第111・116図、第41表、遺構図版45、遺物図版10)

G7グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-41°-Eである。長軸176cm、短軸155cmの長楕円形を呈し、確認面よりの深さは82cmを測る。底部は平坦であり、長軸104cm、短軸43cmの楕円形を呈する。壁は全て外傾し、逆台形の断面形であり、南東のみ緩やかな勾配である。覆土は暗褐色土を基調とし、全層にわたりロームブロックを多く含み、堆積状況は人為堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に57.8g出土した。掲載遺物は1点である。

**SK135** (第112、遺構図版46)

I4グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-66°-Wである。長軸128cm、短軸93cmの不整楕円形を呈し、確認面よりの深さは90cmを測る。壁は外傾し、南北の壁は直線的で断面形は逆台形を呈し、東西の壁は外傾が認められるものの、崩落のためか不整形である。覆土は7層に分層され自然堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に72.1g出土した。掲載遺物はない。

**SK149** (第113・116図、第41表、遺構図版46、遺物図版10)

F6グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-33°-Wである。長軸276cm、短軸229cmの不整楕円形を呈し、確認面よりの深さは88cmを測る。壁は下部はほぼ垂直であり、上部は傾斜が緩やかである。底部は平坦であり、長軸193cm、短軸71cmの隅丸方形を呈する。覆土は8層に分層され、第3層以降はロームブロックを多く含み、堆積状況は人為堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に65.8g出土した。掲載遺物は2点である。

**SK194** (第113・116図、第41表、遺構図版46、遺物図版10)

H5グリッドにおいて検出された。南西をSK91に削平される。主軸方向はN-1°-Wである。長軸214cm、短軸127cmの不整楕円形を呈し、確認面よりの深さは101cmを測る。底部は南側に段を持ち、壁は外傾する。長軸の断面形はほぼ逆台形であり、短軸の断面形はY字である。覆土はロームブロックを多く含み、8層に分層される。

遺物は縄文土器を中心に79.2g出土した。掲載遺物は2点である。

**SK219** (第114・116図、第41表、遺構図版46、遺物図版10)

F・G4グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-63°-Eである。長軸291cm、短軸173cmの不整楕円形を呈し、確認面よりの深さは99cmを測る。底部は平坦であり、長軸104cm、短軸46cmの隅丸方形を呈する。壁はいずれも屈曲して外傾している。覆土は暗褐色を基調とした9層に分層され、自然堆積を示す。第3層は崩落土と思われる。

遺物は縄文土器を中心に141.5g出土した。掲載遺物は4点である。

**SK230** (第114・116図、第41・42表、遺構図版47、遺物図版10)

G2・3グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-77°-Wである。長軸339cm、短軸246cmの不整楕円形を呈し、確認面よりの深さは84cmを測る。底部は平坦であり、長軸168cm、短軸49cmの隅丸方形を呈する。壁は屈曲して外傾し、逆台形の断面形である。覆土は暗褐色土を基調とし8層に分層され、自然堆積を

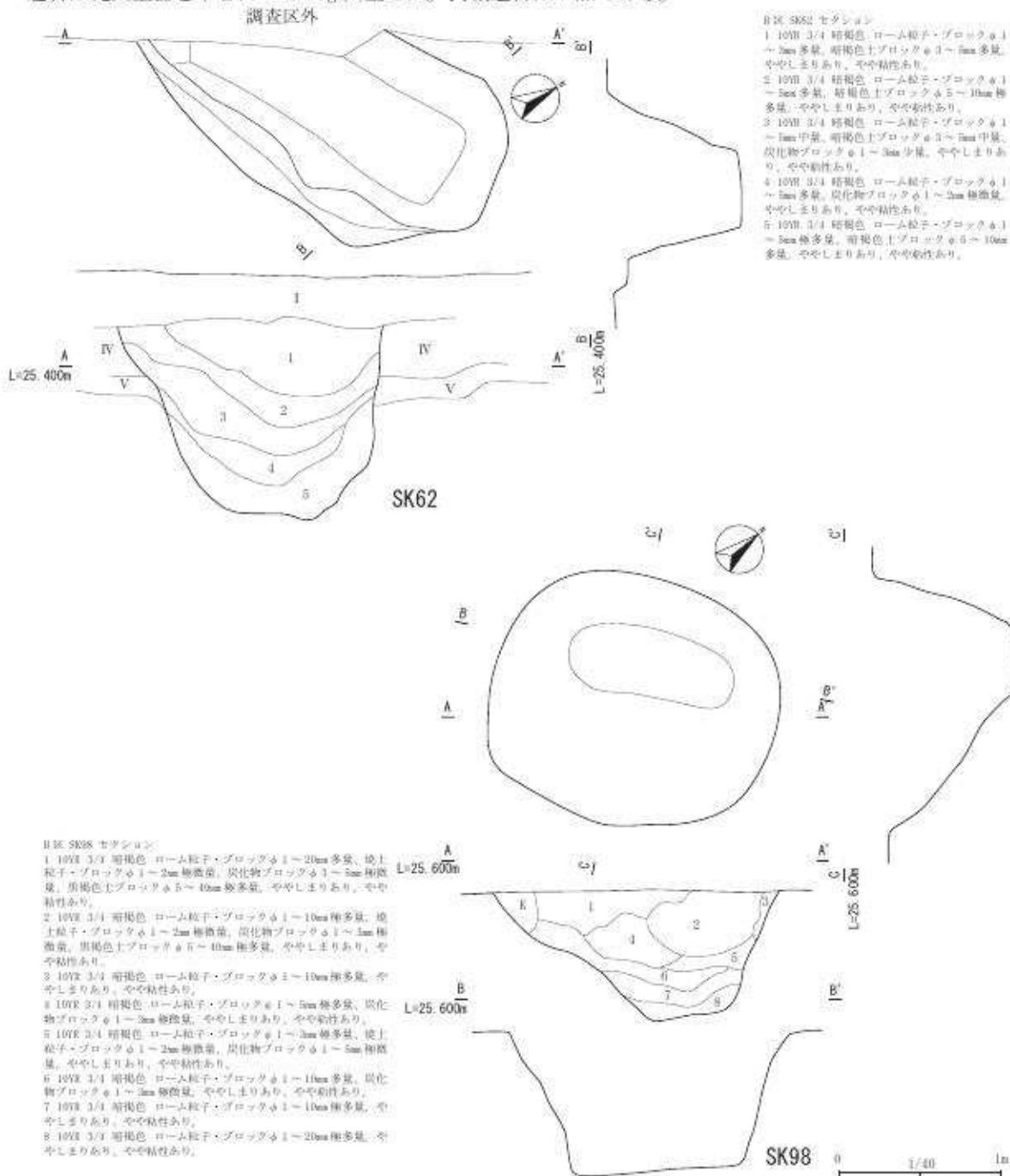
示す。第8層は崩落土と思われる。

遺物は縄文土器を中心に1417.6g出土した。掲載遺物は8点である。

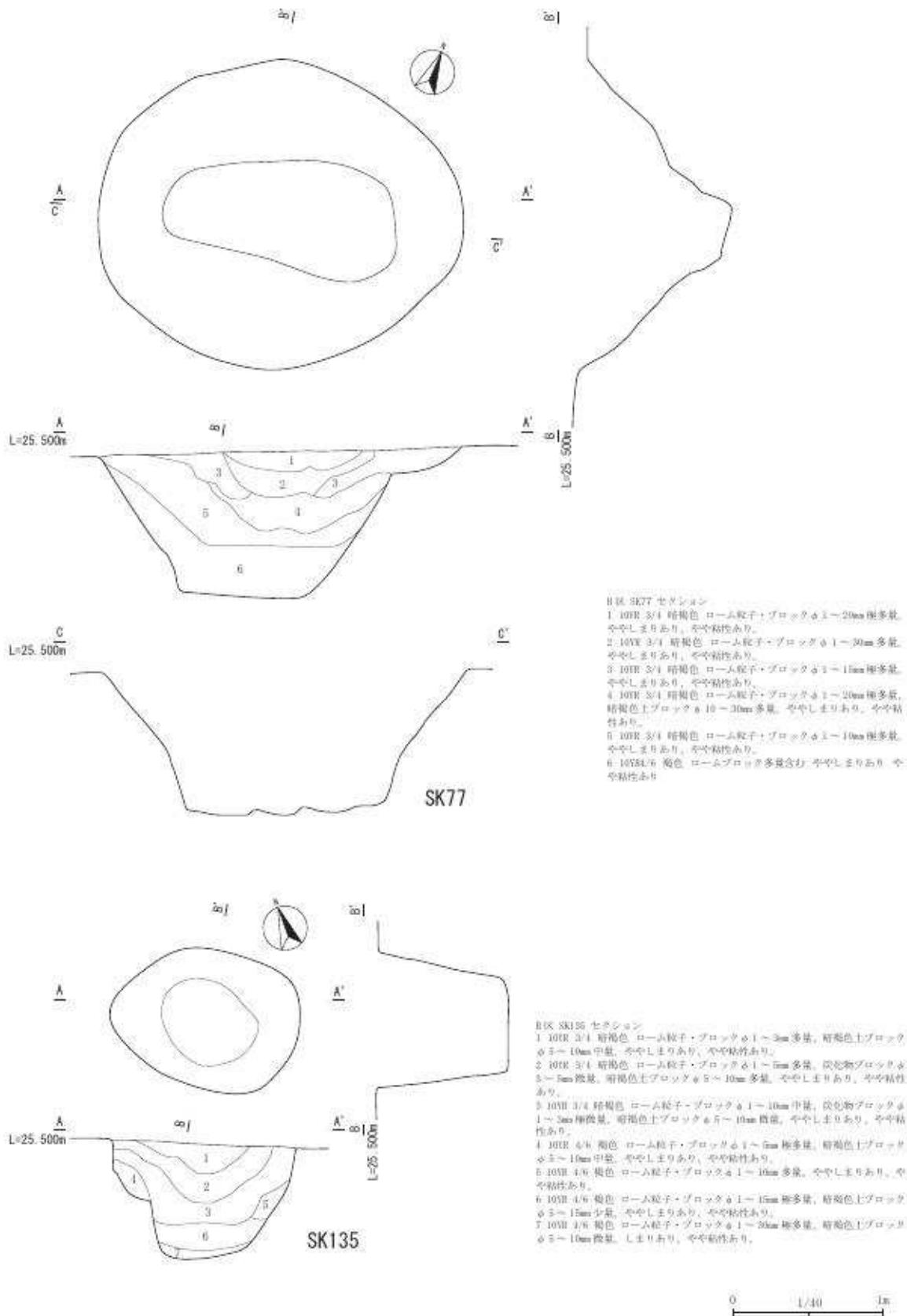
#### SK252（第115・117図、第42表、遺構図版47、遺物図版10）

E1グリッドにおいて検出された。主軸方向はN-12°-Eである。長軸206cm、短軸126cmの楕円形を呈し、確認面よりの深さは88cmを測る。底部は平坦であり、長軸121cm、短軸47cmの隅丸長方形を呈する。当初、本遺構は調査区境界に接していたため、壁面セクションが確保され、III層の直下より117cmの掘り込みが確認された。覆土は7層に分層され、下層にはロームブロックが多く含まれる。本遺構の北東の壁が屈曲しており、崩落土が下層に堆積したと思われる。断面形は崩落部を除き概ね逆台形であるが、下部の壁は垂直に近い。

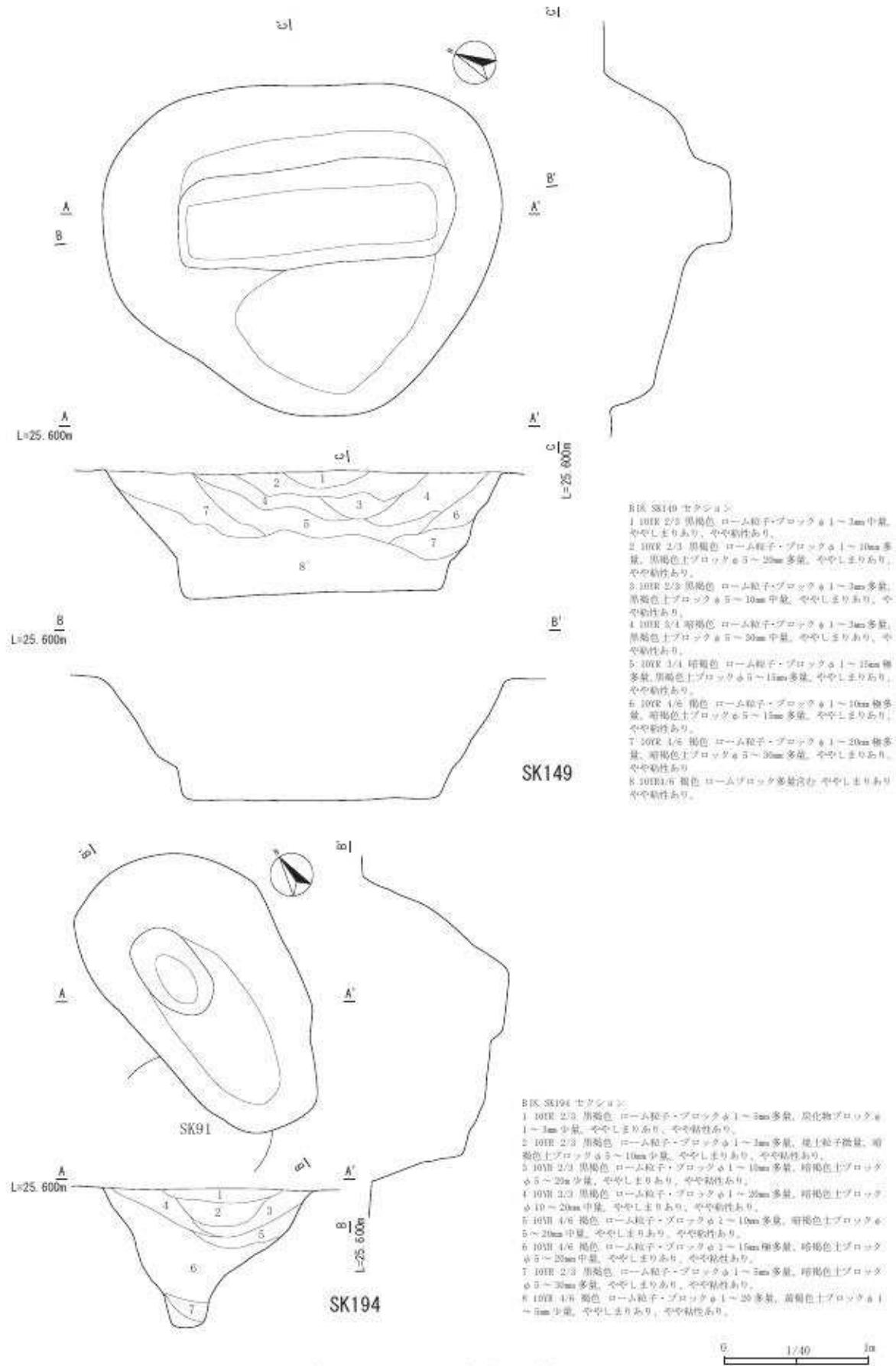
遺物は縄文土器を中心に1095.5g出土した。掲載遺物は7点である。



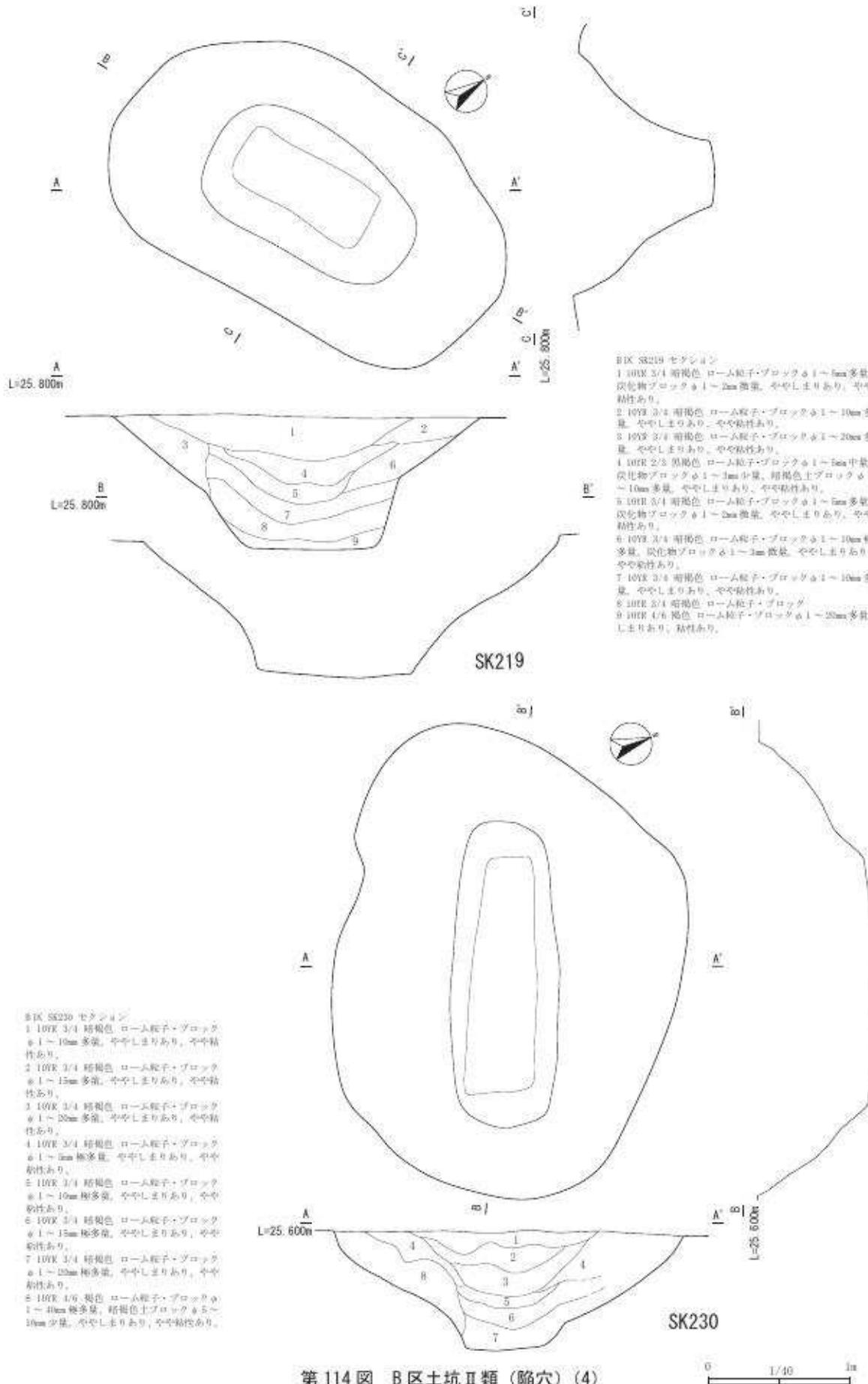
第111図 B区土坑II類（陥穴）(1)



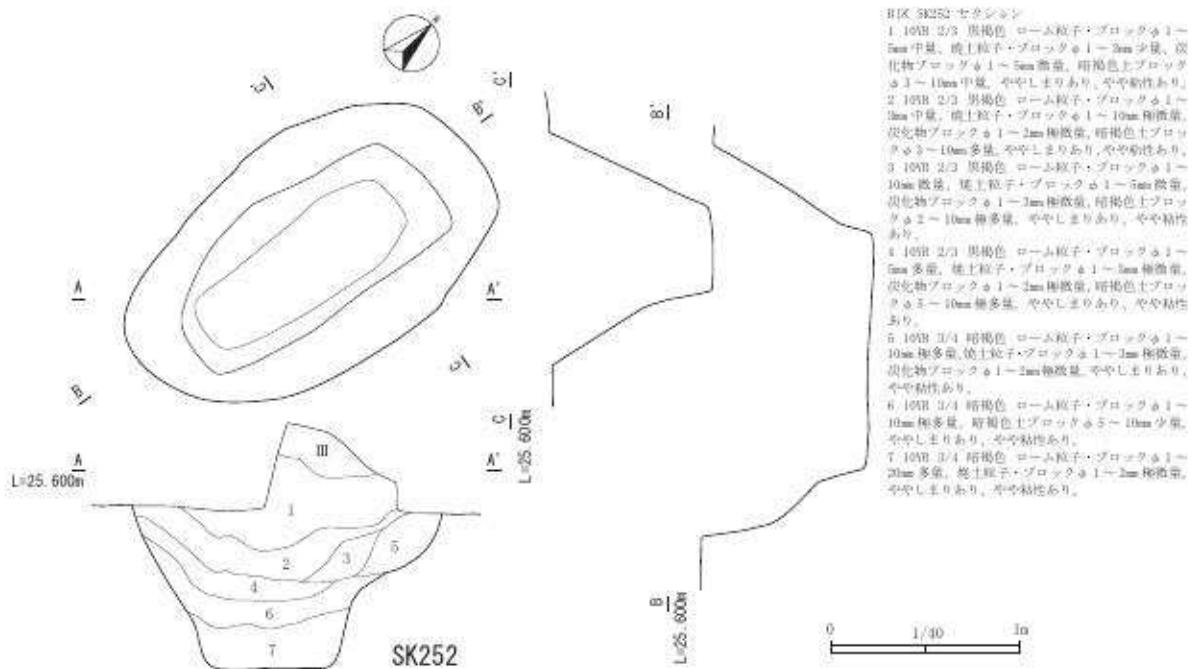
第112図 B区土坑II類(陥穴)(2)



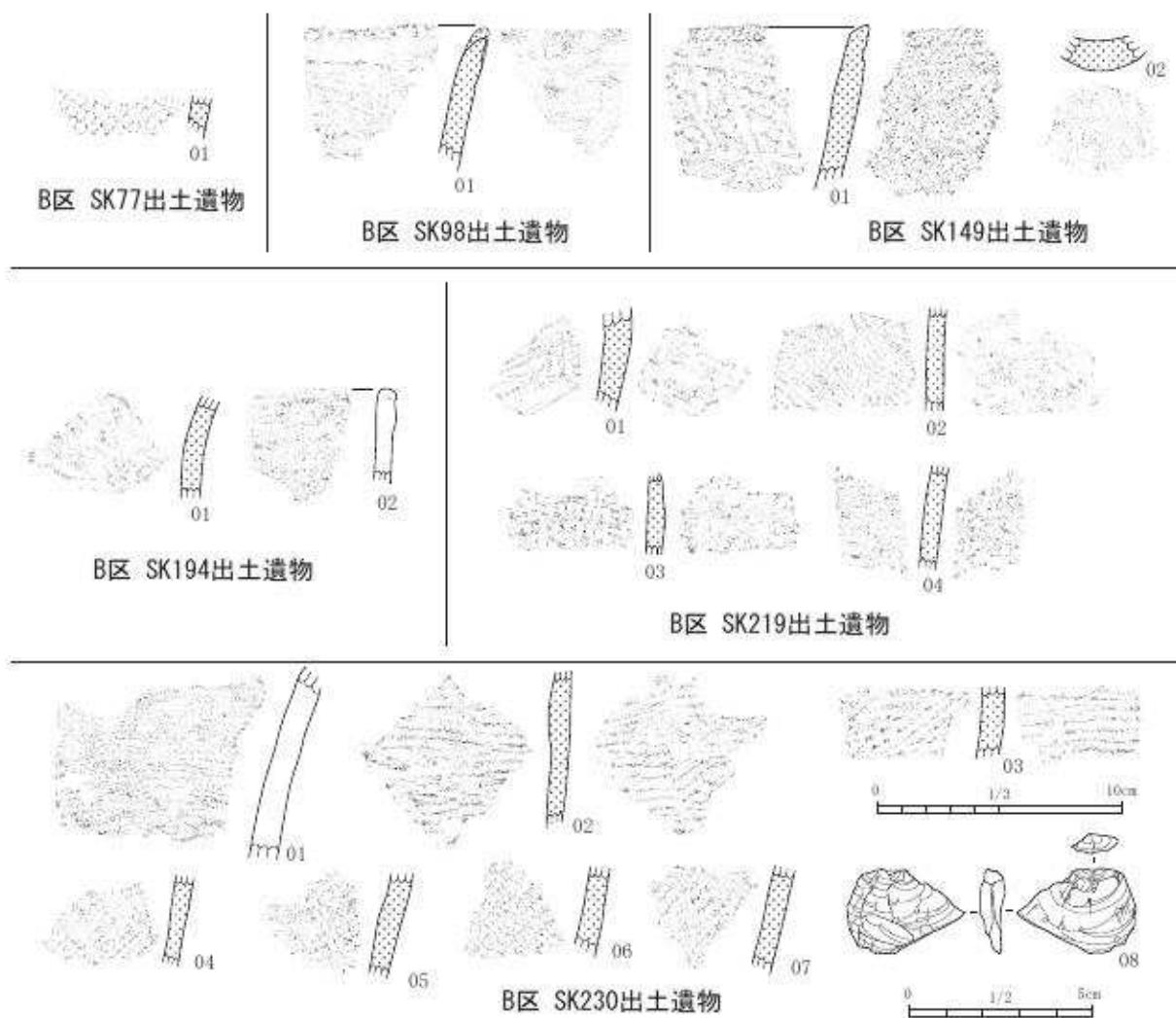
第113図 B区土坑II類（陥穴）(3)



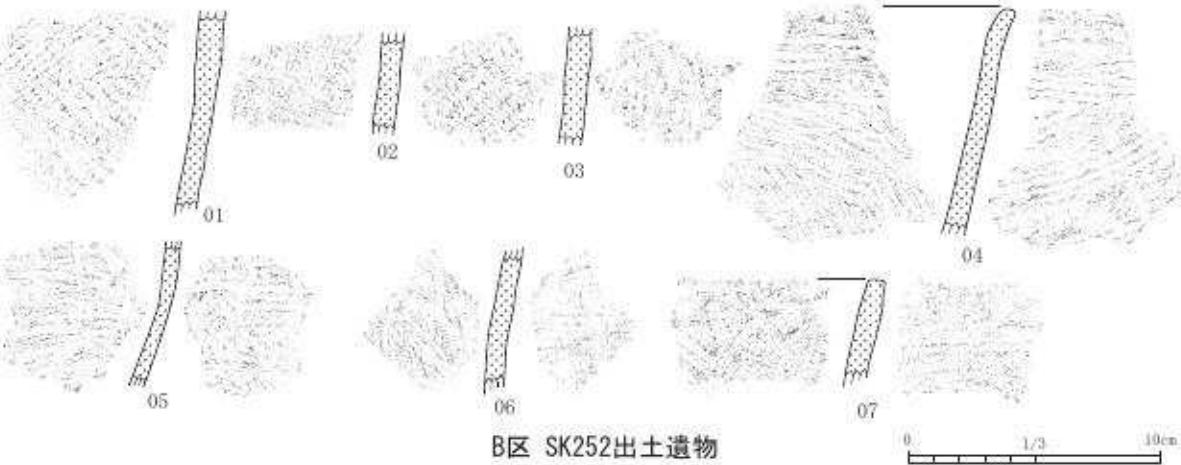
第114図 B区土坑II類(陥穴)(4)



第115図 B区土坑II類（陥穴）(5)



第116図 B区土坑II類（陥穴）出土遺物 (1)



第117図 B区土坑II類（陥穴）出土遺物（2）

第41表 B区土坑II類（陥穴）出土遺物観察表（1）

遺物名	遺物 番号	状記	種類	形態	口径	底径	高さ	断面・文様・整形	型式	保存状 態	構成	色調	粘土	重量(g)	備考
SK252	01	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	横笛 H1 縄文	馬蹄式	剥離破片	良好	内面 7.5mm×5.5mm 外側 10mm×6mm 青い黄緑	織維多量、 白色粒子多い。	9.5	
SK252	01	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	波状口縁、口唇部に刻みを有し、以下に刻みを有する地陰部が逐次。以下は斜格子の波紋文様が描かれ。区画内縁に角押文が充填される。	鶴ヶ島台 口縫接破 片式	良好	内外面 7.5mm×5.5mm 青い黄緑	織維微量、 白色粒子多い。表面微 量	29.5		
SK252	01	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	口縁は不規則削ぎ、外縁は円管の押紋を複数で結び区画内に角押文が充填される。内側横十字。	広義茅山 口縫接破 片式	良好	内面 10mm×7.5mm 青い黄緑 外縁 10mm×6mm	織維微量、 白色粒子多い。表面空 多め。	41.7		
SK252	02	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	底部の資料、先端は縦やかに丸みを有する。外縁はナゲ。内面はナゲ。内面は無いナゲ。	広義茅山 底盤式	良好	内面 10mm×6mm 青い黄緑 外縁 10mm×6mm 青い黄緑	織維微量、 白色粒子・ 黒色粒子・ 黄緑少量	15.2		
SK252	01	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	円管の削痕の後、円管と円管の間は注凝に上り格子目文様が描かれる。	鶴ヶ島台 剥離破片	良好	内外面 10mm×6mm 青い黄緑 青い黄緑 粒子少量	織維微量、 表面・白色 粒子少量	22.9		
SK252	02	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	口縁部は平坦で端部で筋状の輪積痕が観察される。外縁粗い筋ナゲ。内面丁寧なナゲ。	中割切 頭式	良好	内外面 10mm×7.5mm 青い黄緑	白色粒子多 い。	47.9		
SK252	01	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	円管の削痕及び底盤による凹痕が設けられ、内部には角押文状の文様が充填される。内外底共に浅い条痕。	鶴ヶ島台 剥離破片	良好	内面 10mm×7.5mm 青い黄緑 外縁 7.5mm×6mm 青い黄緑	織維微量、 表面・白色 粒子微量	19.6		
SK252	02	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	外縁斜め方向の条痕。内面浅い傾方向の条痕文。	広義茅山 剥離破片	良好	内面 10mm×7.5mm 青い黄緑 外縁 7.5mm×6mm 青い黄緑	織維微量、 白色粒子少 量。表面微 量	27.7		
SK252	03	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	角押文状の側突刻。内面条痕。	広義茅山 剥離破片	良好	内面 10mm×7.5mm 5mm×5mm 外縁 10mm×6mm 青い黄緑	白色粒子少 量。表面微 量	15.0		
SK252	04	一括	縄文土器	四脚	—	—	—	内外系縄文。	広義茅山 剥離破片	良好	内外面 10mm×6mm 青い黄緑	織維微量、 白色粒子多 い。表面微 量	13.8		
SK252	01	上層	縄文土器	四脚	—	—	—	外縁へき削り。内面剥落。	天井湯式 剥離破片	良好	内面 10mm×7.5mm 青い黄緑 外縁 10mm×6mm 青い黄緑	白色粒子多 い。表面微 量	93.7		
SK252	02	上層	縄文土器	四脚	—	—	—	内外系縄文。	広義茅山 剥離破片	良好	内面 10mm×7.5mm 青い黄緑 外縁 10mm×6mm 青い黄緑	織維微量、 白色粒子少 量。白色斜状物 有微量	44.8		

第42表 B区土坑Ⅱ類（陥穴）出土遺物観察表（2）

遺物名	遺物 番号	性別	種類	地層	口徑	底径	深さ	断面・文様・形状	型式	残存	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
SK230	03	上層	陶文土器	深鉢	—	—	—	外底鉄方向、内側積方向の条痕文。	広義茅山 式	脚部破片	良好	内面 10786/3 12 55-黄褐 外面 10977/3 12 55-黄褐	褐色多い、 白色粒子少量、 菱母微量	22.1	
	04	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	单脚R・脚L	单脚式	脚部破片	良好	内面 7.5XR4/4 黄 外面 5W6/6 黄	褐色多い、 白色粒子少量、 菱母微量	12.7	
	05	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	单脚R・脚L	单脚式	脚部破片	良好	内外面 10786/3 12 55-黄褐	褐色多い、 白色粒子少量	16.1	
	06	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	付加条第1種 LR	单脚式	脚部破片	良好	内外面 7.3R14.5Y4 黄褐	褐色多い、 白色粒子少量	15.8	
	07	上層	陶文土器	深鉢	—	—	—	付加条第1種 LR	单脚式	脚部破片	良好	内面 10786/3 12 55-黄褐 外面 10787/4 12 55-黄褐	褐色多い、 白色粒子少量	16.3	
	08	一括	石製品	剥片	横 2.2	横 1.2	厚さ 0.7	横長の剥片。表面は粗粒な剥離が施されており右横から左側は色方向から見える。材質は爆巣石。						3.4	
SK232	01	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	单脚R・Lの幾文による羽伏文様を施造する。	单脚式	脚部破片	良好	内外面 10786/2 黄 白褐	褐色少量、 白色粒子多量	54.6	
	02	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	单脚R・脚L	单脚式	脚部破片	良好	内外面 10786/2 黄 白褐	褐色少量、 白色粒子微量	21.4	
	03	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	单脚 R・L の幾文による羽伏文様を施造する。	单脚式	脚部破片	良好	内面 10786/2 黄 白褐 外面 10784/5 12 55-黄褐	褐色少量白色粒子少量	26.2	
	04	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	甚少口縁。内外面に浅い条痕文。	広義茅山 式	口縁部破 片	良好	内外面 10786/4 12 55-黄褐	褐色多量、 白色粒子微量	46.6	
	05	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	内外面共に浅い条痕文。	広義茅山 式	脚部破片	良好	内面 10786/4 12 外面 7.5ER5/6 黄褐	褐色少量、 白色粒子少量	24.8	
	06	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	内外面共に浅い条痕文。	広義茅山 式	脚部破片	良好	内面 10785/6 黄 白褐 外面 9W5/8 黄 白褐	褐色微量、 白色粒子多量、 菱母微量	32.0	
	07	一括	陶文土器	深鉢	—	—	—	外接する口縁部。底部は平坦。	広義茅山 式	口縁部破 片	良好	内面 10786/3 12 55-黄褐 外面 10786/4 12 55-黄褐	褐色微量、 白色粒子多量、 菱母微量	33.4	

### 3 III類（墓壙）

以下に示す13基のほかに、残存深度が浅く覆土の堆積状況が明瞭でないものの、確認できた覆土の状況・規模から本類に属すると判断される土坑は12基確認された。これらについては、規模と形態を卷末の土坑、ピット一覧表に記載した。

#### SK05（第118図、遺構図版47）

K11グリッドにおいて検出された。長軸109cm、短軸101cmの不整円形を呈する。壁は外傾し、底部が平坦な逆台形の断面形である。深さは確認面より22cmを測り、覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層される。ロームブロックを全層に多く含み、覆土の状態とその堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は礫が225.9g出土した。掲載遺物はない。

#### SK66（第118図、第43表、遺構図版47、遺物図版10）

H9グリッドにおいて検出された。長軸76cm、短軸71cmの円形を呈し、深さは確認面より45cmを測る。U字状の断面形であり、覆土は5層に分層される。覆土の堆積状況は人為堆積を示す。

遺物は第4層下部から石匙1点（01、24.9g）のみが出土した。

**SK68 (第118図、遺構図版47)**

19グリッドにおいて検出された。長軸100cm、短軸91cmの楕円形を呈する。逆台形の断面形であり、深さは確認面より61cmを測る。覆土は暗褐色土を基調として6層に分層される。第2・4・6層ではロームブロックの粒径が大きく、下層ではロームブロックが多く含まれる。覆土の堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は縄文土器が29.4g出土した。掲載遺物はない。

**SK86 (第119図、遺構図版48)**

15グリッドにおいて検出された。長軸109cm、短軸102cmの不整円形を呈する。壁は外傾し、南西側の底部はわずかに低くなる。深さは最深部で確認面より57cmを測る。覆土は暗褐色土を基調に5層に分層され、全層にロームブロックが多く含まれる。本土坑は覆土の状態と堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は礫を中心に38.1g出土した。掲載遺物はない。

**SK99 (第119図、遺構図版48)**

G6グリッドにおいて検出された。長軸97cm、短軸94cmの円形を呈する。深さは確認面より40cmを測る。壁は約70°で外傾し、床は平坦である。覆土は暗褐色土を基調として3層に分類される。全層にロームブロックを多く含み、中層から下層には極微量の炭化物ブロックが含まれる。覆土の状態と堆積状況から人為堆積と判断される。

遺物は流れ込みと思われる土師器細片23.0gが検出された。掲載遺物はない。

**SK100 (第119図、遺構図版48)**

G6・7グリッドにおいて検出された。長軸93cm、短軸72cmの楕円形を呈する。断面形は逆台形であり、深さは確認面より45cmを測る。覆土は暗褐色土を基調に3層に分層され、全層にロームブロックが多く含まれる。本土坑は覆土の状態と堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は検出されなかった。

**SK101 (第119図、遺構図版49)**

G6グリッドにおいて検出された。長軸107cm、短軸88cmの楕円形を呈する。断面形は逆台形であり、深さは確認面より35cmを測る。覆土は暗褐色土を基調に4層に分層され、全層にロームブロックが多く含まれる。本土坑は覆土の状態と堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は検出されなかった。

**SK118 (第119図、遺構図版49)**

I8グリッドにおいて検出された。長軸80cm、短軸69cmの楕円形を呈する。深さは確認面より62cmを測り、断面形はU字状である。覆土は暗褐色土を基調に6層に分層され、全層にロームブロックが多く含まれる。本土坑は覆土の状態と堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は検出されなかった。

**SK241 (第119・121図、第43表、遺構図版49、遺物図版10)**

F2グリッドにおいて検出された。SI30、SK242と重複し本土坑がこれらの遺構を切って構築される。規模は長軸86cm、短軸68cmの楕円形を呈する。断面形は逆台形であり、深さは確認面より36cmを測る。覆土上層は3層に分層された。上層は粒径の小さいロームブロックを多く含む。人為堆積と判断される。

遺物は縄文土器を中心に322.5g出土した。掲載遺物は1点である。

## SK267 (第120図、遺構図版49)

D3グリッドにおいて検出された。長軸103cmの不整円形を呈する。深さは確認面より63cmを測る。床は北側がやや高く、壁は約70°で外傾する。覆土は上層が暗褐色土、中層から下層は褐色土であり計3層に分層される。全層にロームブロックを多く含み、中層から下層は粒径がやや大きい。覆土の堆積状況から人為堆積と判断される。

遺物は検出されなかった。

## SK287 (第120・121図、第43表、遺構図版50、遺物図版10)

B6グリッドにおいて検出された。SK120と重複し、これに東側の壁を切られる。長軸99cm、短軸87cmの楕円形を呈する。深さは確認面より33cmを測り、断面形は逆台形である。覆土は暗褐色土を基調に4層に分層され、全層にロームブロックが多く含まれる。本土坑は覆土の状況から人為堆積であると判断される。

遺物は縄文土器を中心に673.9g出土した。掲載遺物は1点である。

## SK290 (第120図、遺構図版27・49)

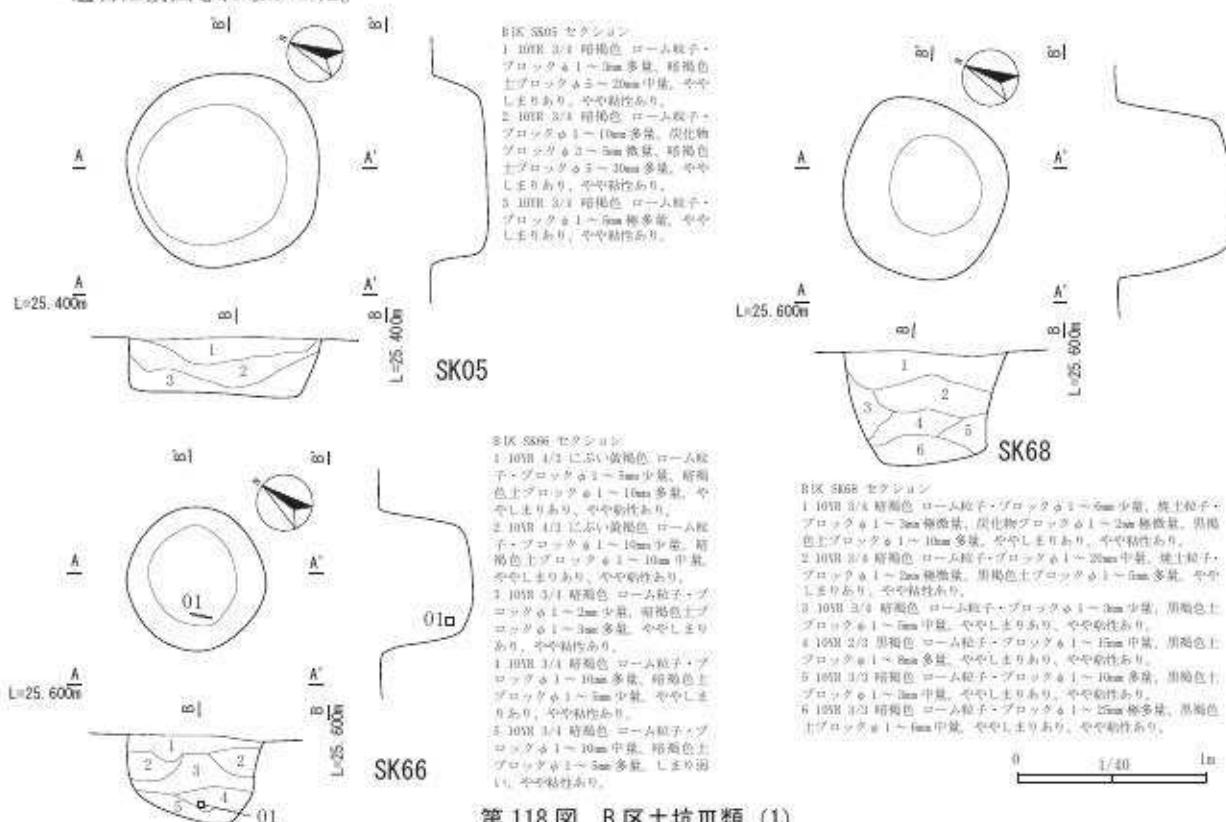
H9グリッドにおいて検出された。SI17と重複し、同住居跡に上部を切られる。規模は長軸65cm、短軸61cmを測り、円形を呈する。断面形は鍋底状であり、残存深度は47cmを測る。覆土は暗褐色土を基調とした4層に分層され、全層にロームブロックが多く含まれる。本土坑は覆土の状況とその堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は検出されなかった。

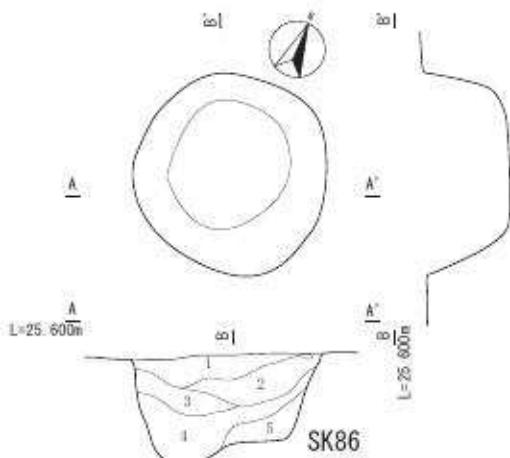
## SK291 (第120図、遺構図版50)

D5グリッドにおいて検出された。長軸95cm、短軸80cmの楕円形を呈する。浅い逆台形の断面形であり、深さは確認面より25cmを測る。覆土は暗褐色土を基調とした4層に分層され、全層にロームブロックが多量含まれる。本土坑は覆土の状況とその堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は検出されなかった。

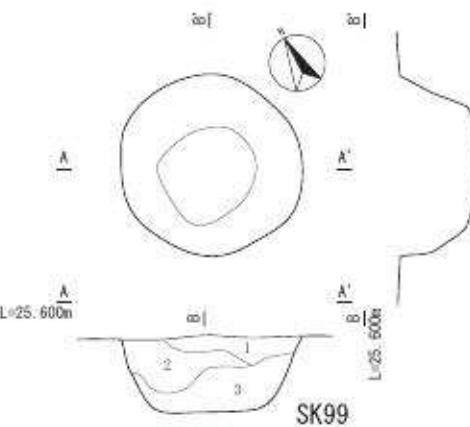


第118図 B区土坑III類 (1)



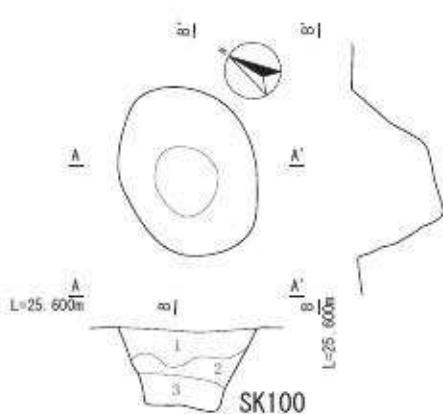
B区 SK86 セクション

- 1 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、炭化物ブロックφ1~2mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 2 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 3 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm極多量、炭化物ブロックφ1~2mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 4 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 5 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。



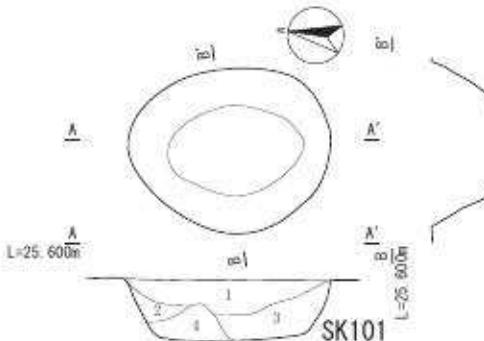
B区 SK99 セクション

- 1 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 2 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、炭化物ブロックφ1~3mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 3 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm多量、炭化物ブロックφ1~2mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。



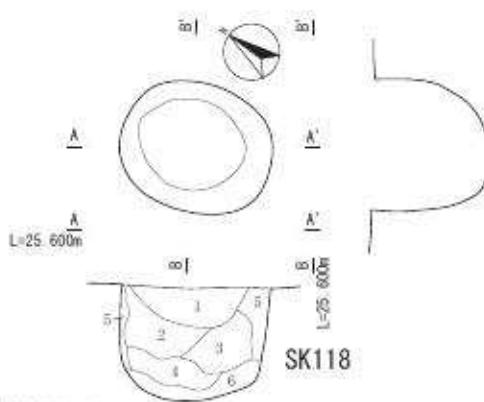
B区 SK100 セクション

- 1 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 2 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 3 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~25mm極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。



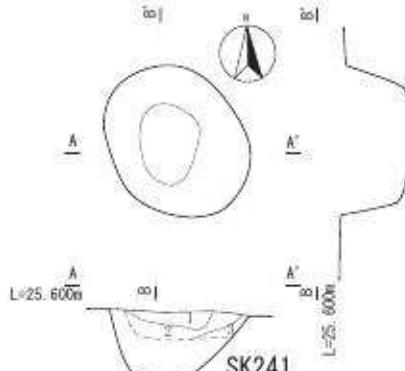
B区 SK101 セクション

- 1 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 2 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、炭化物ブロックφ1~3mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 3 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 4 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。



B区 SK118 セクション

- 1 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、解離色土ブロックφ20~30mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 2 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、解離色土ブロックφ20~30mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 3 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~5mm多量、解離色土ブロックφ10~20mm極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 4 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm多量、解離色土ブロックφ1~10mm多量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 5 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~10mm多量、炭化物ブロックφ1~3mm極微量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 6 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~20mm極多量、解離色土ブロックφ10~30mm多量、しまりあり、やや粘性あり。

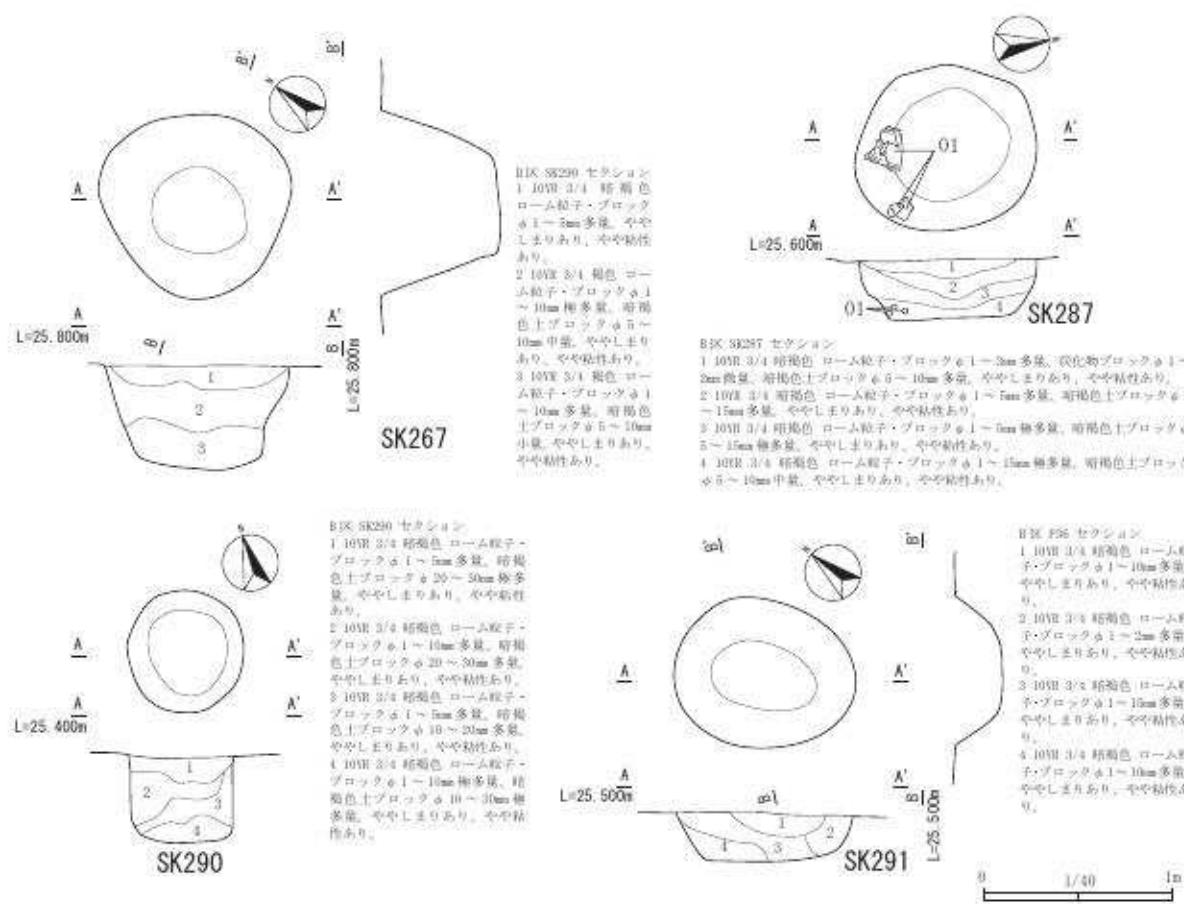


B区 SK241 セクション

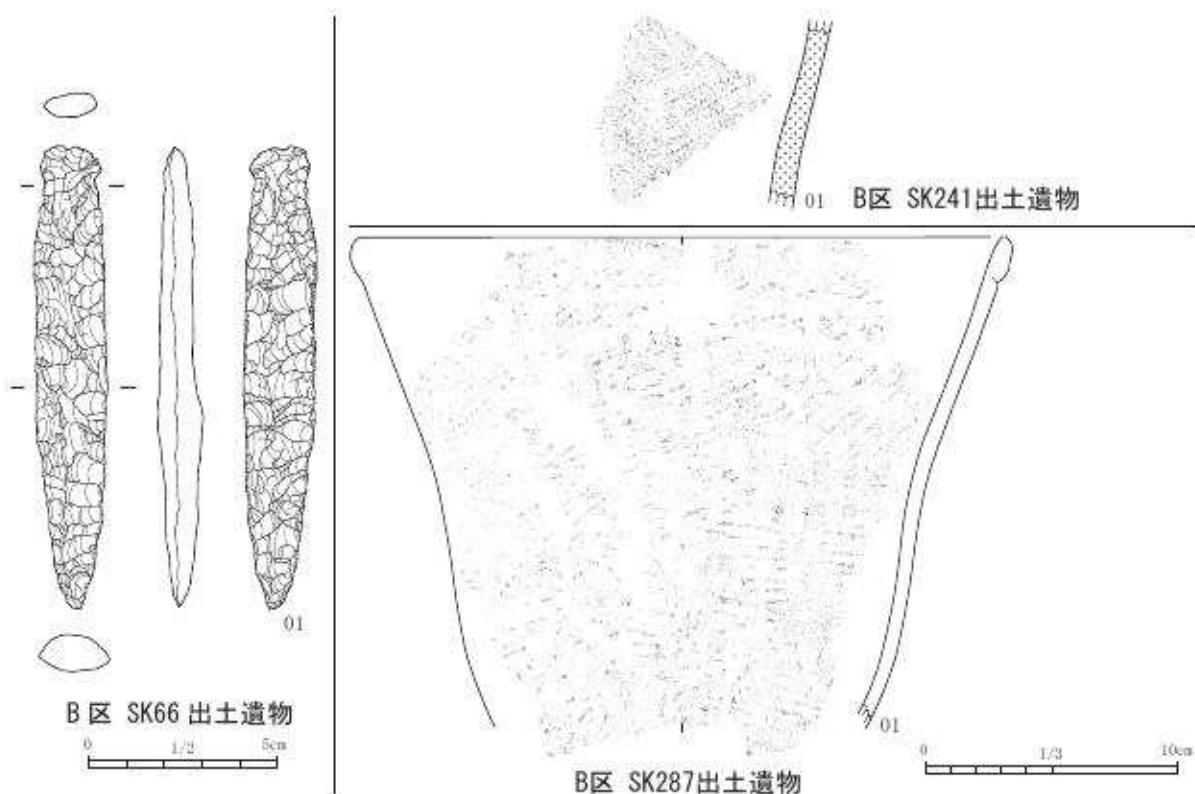
- 1 10R 3/4 男褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm多量、堆土粒子・ブロックφ1~2mm極微量、解離色土ブロックφ5~10mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 2 10R 3/4 男褐色 ローム粒子・ブロックφ1~3mm極多量、解離色土ブロックφ5~10mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 3 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm極微量、解離色土ブロックφ5~10mm中量、ややしまりあり、やや粘性あり。
- 4 10R 3/4 姫褐色 ローム粒子・ブロックφ1~2mm極多量、ややしまりあり、やや粘性あり。

0 1/40 1m

第119図 B区土坑III類 (2)



第120図 B区土坑Ⅲ類(3)



第121図 B区土坑Ⅲ類出土遺物

第43表 B区土坑III類出土遺物観察表

遺物番号	遺物番号	出目	種類	断面	口幅	底幅	高さ	断面・支撑・整形	型式	残存	焼成	色調	粘土	重量(g)	備考
SK86	01	001	石製品	石器	板 12.25	楕 1.95	厚さ 1.2	縦長の割片を素材にするもので、平行削離により表面を丁寧なつくりを行う。形状は槍状を呈する。基部側に向かってノッチを刻みつぶみを作出する。素材は庄賀頁岩。						24.9	材質及び 形状上Ⅲ 大木式の 形態を示す 可能性がある。
SK241	01	一括	埴支土器	筒体	—	—	—	付加系第1種 IRI 塗文施文化系による円錐の凹凸が施されている。	馬頭式	解剖破片	良好	内面 7.5mm/1 に凹い槽 外面 7.5mm/1 に凹い槽	構造多面、 白色粒子少量	42.4	
SK287	01	003 + 002 - 004	埴支土器	筒体	25.7	—	19.0	口縁は大きく直線的に開き、口辺で斜り落す。口辺を含め、全体に單邊刃の施文が施される。施文の施文は全体に粗雑で堅韌付近では無文となる。	下小野 式	口縁鋸一 脚下半 1/2	良好	内面 10mm/1に 凹い黄褐色 外面 10mm/3に 凹い黄褐色	白色粒子多 い、アコリ ア微量	621.7	

#### 4 IV類（袋状土坑）

以下に示す10基のほかに、残存深度が浅く断面形が判断できないものの確認できた形態・覆土の状況から本類に属すると判断される土坑は18基確認された。これらについては規模と形態を土坑一覧表に記載した。

##### SK63（第122図、遺構図版50）

H16グリッドにおいて検出された。SI16を削平して構築される。確認面では長軸126cm、短軸119cmの不整円形を呈する。壁が内傾する袋状の断面形であり、張り出した部分の規模は長軸145cm、短軸138cmである。確認面よりの深さは56cmを測り、覆土は黒褐色土を基調とした5層に分層され、自然堆積を示す。

遺物は土師器が29.9g出土した。掲載遺物はない。

##### SK90（第122図、遺構図版50）

H5グリッドにおいて検出された。確認面では長軸126cm、短軸119cmの円形を呈する。確認面では長軸138cm、短軸131cmの不整円形を呈する。壁がやや内傾し、底部は平坦である。壁の下半部は確認面に比べ最大5cm張り出す。確認面よりの深さは36cmを測り、覆土は黒褐色土を基調とした5層に分層され、自然堆積を示す。

遺物は繭を中心に126.9g出土した。掲載遺物はない。

##### SK91（第122図、遺構図版51）

H5グリッドにおいて検出された。確認面では長軸109cm、短軸101cmの円形を呈する。残存する壁の中程は3cm外側に張り出し、底部は平坦である。確認面よりの深さは38cmを測り、覆土は黒褐色土を基調とした6層に分層され、自然堆積を示す。第3層は崩落土である。

遺物は土師器が27.1g出土した。掲載遺物はない。

##### SK104（第122図、遺構図版51）

H5グリッドにおいて検出された。確認面では長軸119cm、短軸111cmの円形を呈する。壁がやや内傾し、底部は皿状である。確認面よりの深さは44cmを測り、覆土は黒褐色土を基調とした9層に分層され、自然堆積を示す。

遺物は土師器を中心に123.6g出土した。掲載遺物はない。

**SK108 (第122図、遺構図版51)**

H6グリッドにおいて検出された。長軸115cm、短軸108cmの不整円形を呈する。確認面よりの深さは47cmを測り、おおむね鍋底状の断面形であるが、南西の壁がわずかに内傾していることが認められる。覆土は黒褐色土を基調とした4層に分層され、自然堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に27.0g出土した。掲載遺物はない。

**SK143 (第123・125図、第44表、遺構図版51、遺物図版11)**

G6グリッドにおいて検出された。中央をSD02に切られる。本遺構は長軸134cm、短軸118cmの不整円形を呈する。西側の壁は崩落のためか外傾するが、その他の壁は内傾し袋状の断面形である。張り出した部分の最大径は138cmである。確認面よりの深さは47cmを測り、覆土は黒褐色土を基調とした5層に分層され、自然堆積を示す。

遺物は土師器を中心に134.5g出土した。掲載遺物は2点である。

**SK157 (第123図、遺構図版52)**

E5グリッドにおいて検出された。本遺構は長軸129cm、短軸110cmの不整円形を呈する。壁が内傾した袋状の断面形であり、張り出した部分の最大径は137cmである。確認面よりの深さは47cmを測る。覆土は黒褐色土を基調とした5層に分層され、第1層に焼土ブロックを含む。堆積状況は自然堆積とみられる。

遺物は検出されなかった。

**SK165 (第123図、遺構図版52)**

D5グリッドにおいて検出された。長軸88cm、短軸87cmの円形を呈する。壁がやや内傾し、底部は皿状である。確認面よりの深さは45cmを測り、覆土は黒褐色土を基調とした5層に分層され、自然堆積を示す。遺物は繩を中心には85.7g出土した。掲載遺物はない。

**SK174 (第123図、遺構図版52)**

E5グリッドにおいて検出された。長軸123cm、短軸114cmの円形を呈する。壁は全体的にはゆるやかに、内窓し、鍋底状の断面形となる。確認面よりの深さは38cmを測り、覆土は黒褐色土を基調とした5層に分層され、自然堆積を示す。

遺物は検出されなかった。

**SK280 (第123図、遺構図版52)**

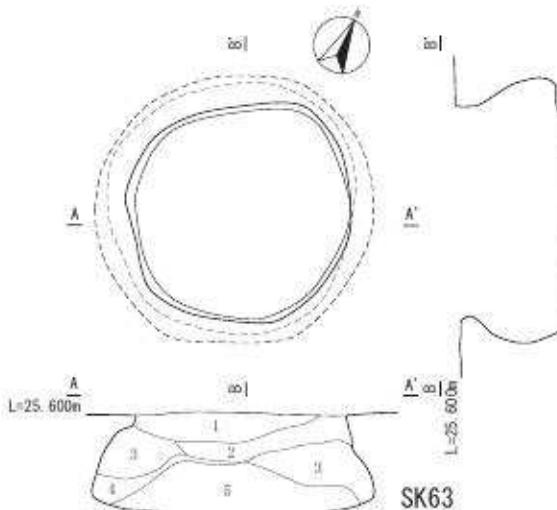
D4グリッドにおいて検出された。南西は調査区外であり、全形は不明であるが、平面は円形とみられる。調査区の壁にはIV・V層を切って本遺構のセクションが現れており、I層の直下から41cmの掘り込みが確認される。袋状の断面形である。セクションから、上部径80cm、張り出し部分の径98cmが確認できる。覆土は黒褐色土を基調とした4層に分層され、自然堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に54.1g出土した。掲載遺物はない。

**SK281 (第124図、遺構図版52)**

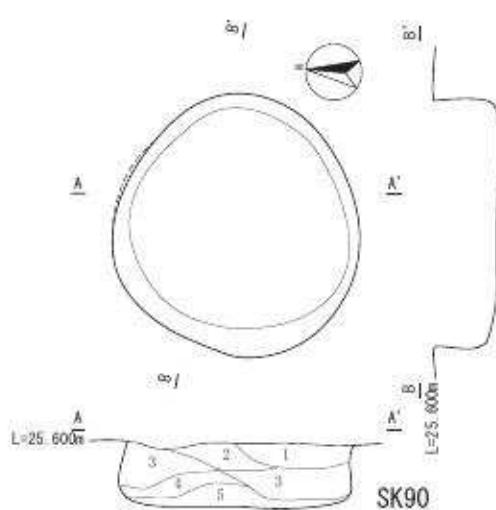
C・D4グリッドにおいて検出された。北東は調査区外であり、全形は不明であるが、平面形は円形とみられる。調査区の壁にはIV層を切って本遺構のセクションが現れており、I層の直下から51cmの掘り込みが確認される。袋状の断面形であり、上部径72cm、張り出した部分の最大径は93cmを測る。覆土は黒褐色土を基調とした5層に分層され、自然堆積を示す。

遺物は検出されなかった。



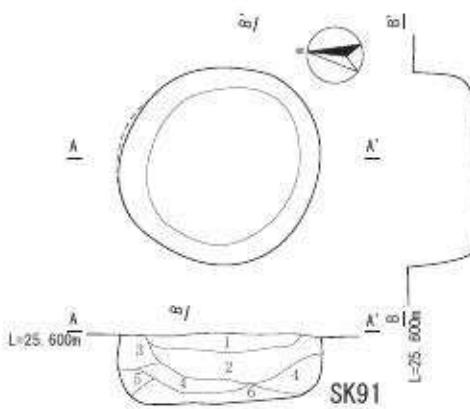
B区 SK63 セクション

- 1 10YR 2/1 黒褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 中量、微細土粘子・ブロックφ1~3mm 多量、やや粘性あり。  
2 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、微細土粘子・ブロックφ1~2mm 多量、やや粘性あり。  
3 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
4 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 中量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 少量、やや土性あり。  
5 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。



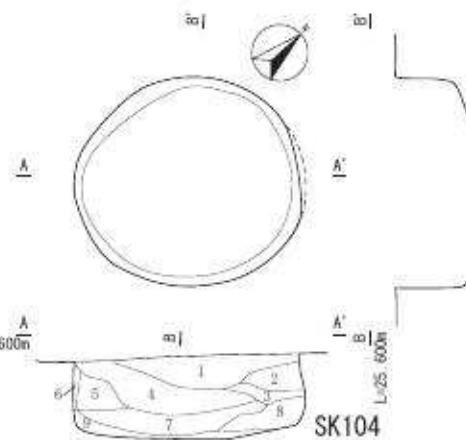
B区 SK90 セクション

- 1 10YR 2/1 黒褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~5mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
2 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~5mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
3 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~10mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
4 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~10mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
5 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~10mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~5mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。



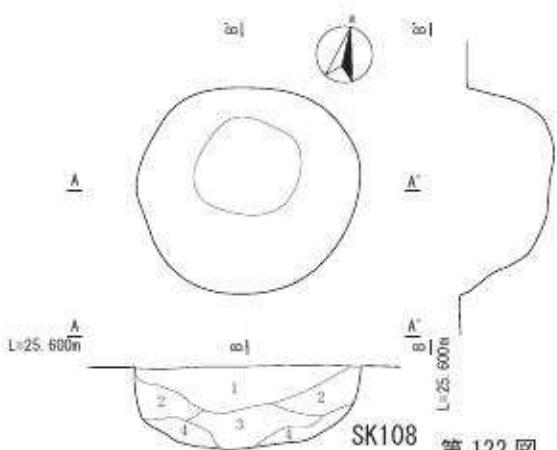
B区 SK91 セクション

- 1 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 中量、暗褐色土ブロックφ3~5mm 中量、やや土性あり、やや粘性あり。  
2 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~5mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
3 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、暗褐色土・褐色土を含む、やや土性あり、やや粘性あり。  
4 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
5 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~10mm 多量、暗褐色土ブロックφ2~3mm 中量、やや土性あり、やや粘性あり。  
6 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~20mm 多量、暗褐色土ブロックφ10~20mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。



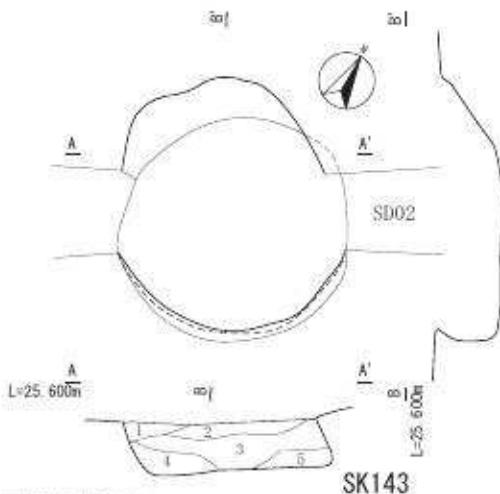
B区 SK104 セクション

- 1 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
2 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
3 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
4 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~20mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
5 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 中量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
6 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~50mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~20mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
7 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 中量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
8 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、暗褐色土ブロックφ10~20mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。  
9 10YR 2/2 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~30mm 多量、やや土性あり、やや粘性あり。

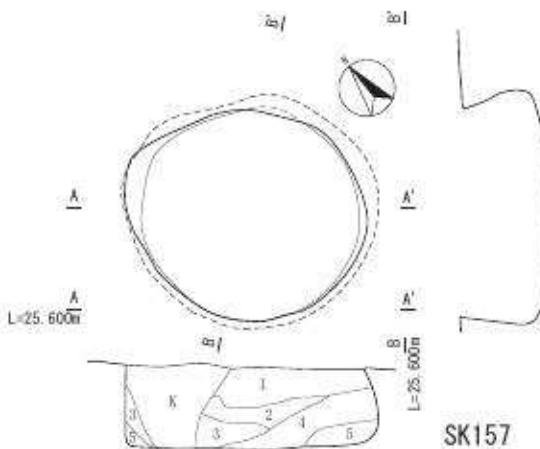


第122図 B区土坑IV類(1)

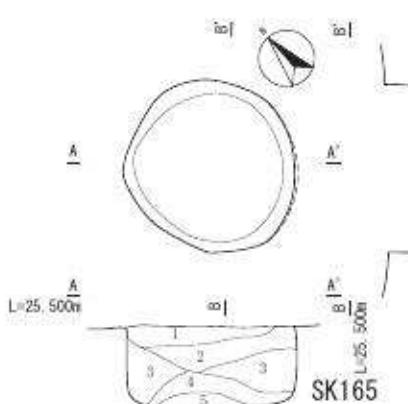
0 1/40 1m



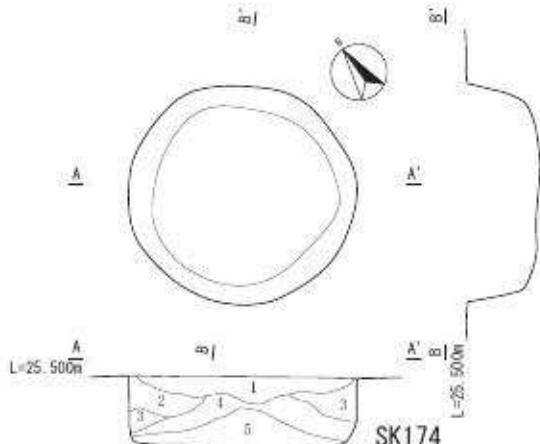
B区 SK143 セクション  
1 10YR 2/3 喀褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 多量、暗褐色土ブロックφ10~20mm 中量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
2 10YR 3/4 喀褐色 ローム粘子・ブロックφ1~10mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
3 10YR 2/3 喀褐色 ローム粘子・ブロックφ1~10mm 多量、暗褐色土ブロックφ10~20mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
4 10YR 2/3 黒褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~20mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
5 10YR 2/3 喀褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 中量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。



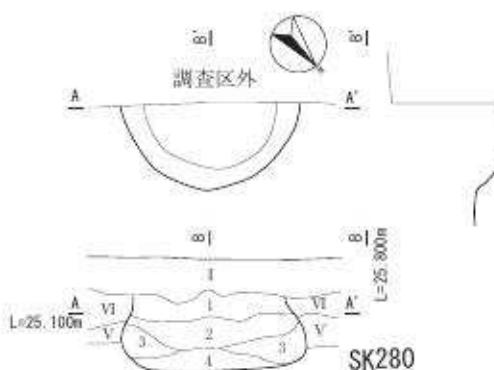
B区 SK157 セクション  
1 10YR 2/3 黒褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 中量、灰土粘子・ブロックφ1~2mm 少量、暗褐色土ブロックφ3~5mm 中量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
2 10YR 2/3 喀褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、暗褐色土ブロックφ2~5mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
3 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~10mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
4 10YR 2/3 喀褐色 ローム粘子・ブロックφ1~10mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~10mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
5 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~20mm 中量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 中量、やや土なりあり。やや粘性あり。



B区 SK165 セクション  
1 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 中量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
2 10YR 2/3 喀褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
3 10YR 2/3 喀褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~5mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
4 10YR 2/3 喀褐色 ローム粘子・ブロックφ1~10mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
5 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~15mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。



B区 SK174 セクション  
1 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 少量、暗褐色土ブロックφ3~5mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
2 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 中量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
3 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 中量、暗褐色土ブロックφ3~10mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
4 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~15mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。  
5 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、やや土なりあり。やや粘性あり。



B区 SK280 セクション  
1 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~1mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~5mm 多量、細砂多量、しまりあり。やや粘性あり。  
2 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、細砂多量、しまりあり。やや粘性あり。  
3 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm 多量、暗褐色土ブロックφ3~1mm 多量、細砂多量、しまりあり。やや粘性あり。  
4 10YR 2/3 黑褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm 中量、暗褐色土ブロックφ5~10mm 多量、細砂多量、しまりあり。やや粘性あり。

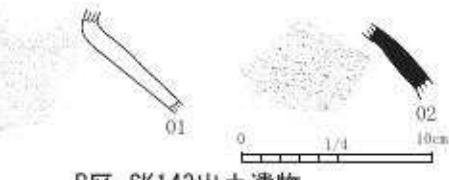
0 1/40 1m

第123図 B区土坑IV類(2)



第124図 B区土坑IV類(3)

B区 SK281: セクション  
 1 10H 2/3 陶器色 ローム粒子・ブロック φ1~2mm 多量、暗褐色土ブロック φ3~5mm 多量、  
 磨砂粒多量、しまりあり、やや粘性あり。  
 2 10H 2/3 黄褐色 ローム粒子・ブロック φ1~2mm 多量、暗褐色土ブロック φ3~5mm 多量、  
 磨砂粒多量、しまりあり、やや粘性あり。  
 3 10H 2/3 黒褐色 ローム粒子・ブロック φ1~2mm 多量、暗褐色土ブロック φ3~5mm 多量、  
 磨砂粒多量、しまりあり、やや粘性あり。  
 4 10H 2/3 黑褐色 ローム粒子・ブロック φ1~2mm 中量、炭化物ブロック φ1~3mm 少量、  
 暗褐色土ブロック φ3~5mm 多量、磨砂粒多量、やや土圧あり、やや粘性あり。  
 5 10H 2/3 黑褐色 ローム粒子・ブロック φ1~10mm 多量、暗褐色土ブロック φ10~20mm  
 多量、磨砂粒多量、しまりあり、やや粘性あり。



第125図 B区土坑IV類出土遺物

第44表 B区土坑IV類出土遺物観察表

遺物名	遺物番号	付記	種類	断面	口径	底径	深さ	構成	層の特徴	断面の特徴	底成	色調	胎土	重積t <sub>st</sub>	備考
SK143	01	一柄	土器	丸	—	—	5.2	第一制限 上位破片	底部の盛りは強いか。	内外斜方にナゲ敷設。	良好	内外面 10H7/3に分 い黄褐色	長石・石英・ 雲母・黒色粒 子少量	32.0	質地堅硬。
	02	一柄	須恵器	丸	—	—	3.8	第四上位 破片	底部の盛りは強いか。	コロコロ形。	良好	内面 2.5H8/1 黄白色 外側 G5/3 灰オーブ	鉄分の噴出が多い。	26.0	自然釉

## 5 その他の土坑

SK06 (第126・129図、第45表、遺構図版53、遺物図版11)

K11 グリッドにおいて検出された。南側は調査区外であるため、規模は不明である。最大径は146cmまでが確認された。調査区境界壁面のセクションからはIII・IV層を切って、I層の直下より67cmの掘り込みが確認される。断面形は播鉢状である。覆土は暗褐色土を基調とし3層に分層される。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は縄文土器が71g出土した。掲載遺物は1点である。

SK39 (第126・129図、第45表、遺構図版53、遺物図版11)

G11 グリッドにおいて検出された。規模は長軸112cm、短軸86cmを測り楕円形を呈する。深さは確認面より7cmを測り、浅い皿状の断面形を示す。覆土はロームブロックを多量含む暗褐色土である。

遺物は縄文土器を中心に50.3g出土した。掲載遺物は1点である。

SK59 (第126・129図、第45表、遺構図版53、遺物図版11)

J9 グリッドにおいて検出された。規模は長軸136cm、短軸104cmを測り楕円形を呈する。深さは確認面より18cmを測る。底部は平坦であり、壁は約80°の傾斜で外傾する。覆土は3層に分層され、暗褐色土が主である。堆積状況から人為堆積と判断される。

遺物は縄文土器を中心に52.8g出土した。掲載遺物は2点である。

SK65 (第126図、遺構図版53)

H10 グリッドにおいて検出された。規模は長軸136cm、短軸126cmを測り不整円形を呈する。深さは確認面より44cmを測る。底部は平坦であり、壁は約80°の傾斜で外傾する。覆土はにぶい黄褐色土を基調とし3層に分層される。第2層はしまりが弱く、炭化物ブロックを含む。覆土の状態と堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は検出されなかった。

**SK88 (第126・129図、第46表、遺構図版54、遺物図版11)**

F5グリッドにおいて検出された。規模は長軸161cm、短軸111cmを測り不正楕円形を呈する。深さは確認面より24cmを測る。床は皿状であり、北東側の壁はほぼ垂直、その他の部分は外傾する。覆土は黒褐色を基調とした4層に分層される。擾乱のため本土坑の形態、覆土の堆積状況は明確ではないが、自然堆積と判断された。

遺物は縄文土器を中心に41.7g出土した。掲載遺物は1点である。

**SK96 (第126・129図、第46表、遺構図版54、遺物図版11)**

F7グリッドにおいて検出された。規模は長軸147cm、短軸129cmを測り楕円形を呈する。深さは確認面より19cmを測る。底部は平坦であり、壁は約70°の傾斜で外傾する。覆土は暗褐色土を基調とした2層に分層され、全層にロームブロックを多く含む。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に197.3g出土した。掲載遺物は1点である。

**SK97 (第127図、遺構図版54)**

G6グリッドにおいて検出された。規模は長軸139cm、短軸128cmを測り不正円形を呈する。深さは確認面より95cmを測る。おおむねU字状の断面形であるが、確認面付近は崩落のためか大きく外傾する。覆土は暗褐色土を基調とした6層に分層され、第4層のみが褐色土である。全層にロームブロックを多く含む。覆土の堆積状況から人為堆積であると判断される。

遺物は検出されなかった。

**SK110 (第127・129図、第46表、遺構図版54、遺物図版11)**

I5グリッドにおいて検出された。規模は長軸136cm、短軸86cmを測り隅丸長方形を呈する。深さは確認面より17cmを測る。床は平坦であり、壁は約65°で外傾する。覆土は暗褐色土を基調とした2層に分層され、ロームブロックを多く含む。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に450.4g出土した。掲載遺物は1点である。

**SK117 (第127・129図、第46表、遺構図版54、遺物図版11)**

J8グリッドにおいて検出された。規模は長軸206cm、短軸142cmを測り楕円形を呈する。深さは確認面より17cmを測り、断面形は浅い皿状を示す。覆土は暗褐色土を基調として2層に分層され、ロームブロックを多く含む。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は縄文土器が45.8g出土した。掲載遺物は2点である。

**SK146 (第127・129図、第46表、遺構図版54、遺物図版11)**

F6グリッドにおいて検出された。規模は長軸170cm、短軸117cmを測り不整楕円形を呈する。深さは確認面より19cmを測る。底部は平坦であり、壁は外傾する。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、第1層には焼土ブロック、第1・3層には炭化物ブロックが含まれる。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に87.7g出土した。掲載遺物は1点である。

**SK167 (第127・129図、第46表、遺構図版55、遺物図版11)**

D4・5グリッドにおいて検出された。規模は長軸109cm、短軸106cmを測り不整円形を呈する。深さは最深部で確認面より23cmを測る。底部はほぼ平坦であり、壁は約60°から80°で外傾する。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、全層に焼土ブロックを含む。上層から中層には炭化物ブロックが含まれる。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に240.8g出土した。掲載遺物は2点である。

**SK203 (第128・129図、第46表、遺構図版55、遺物図版11)**

H3グリッドにおいて検出された。規模は長軸71cm、短軸65cmを測り不整円形を呈する。深さは確認面より23cmを測る。断面形は擂鉢状である。覆土は暗褐色土を基調として3層に分層される。全層に多量のロームブロックと微量の炭化物ブロックを含む。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は縄文土器を中心に53.1g出土した。掲載遺物は2点である。

**SK208 (第128・129図、第46表、遺構図版54、遺物図版11)**

H4グリッドにおいて検出された。規模は長軸78cm、短軸61cmを測り不整楕円形を呈する。深さは確認面より17cmを測る。断面形は擂鉢状である。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層される。全層にロームブロックを多く含む。堆積状況は自然堆積を示す。

遺物は縄文土器1点が検出された。

**SK217 (第128・129図、第46表、遺構図版55、遺物図版11)**

F4グリッドにおいて検出された。規模は長軸102cm、短軸91cmを測り不整円形を呈する。深さは確認面より17cmを測る。覆土は暗褐色土を基調として3層に分層される。第1・3層に炭化物ブロック、第1層に焼土ブロックを含み、柱痕状の堆積状況を示す。

遺物は縄文土器を中心に473.1g出土した。掲載遺物は2点である。

**SK231 (第128・130図、第46表、遺構図版55、遺物図版11)**

F・G3グリッドにおいて検出された。SK230・232と重複し、SK230に北東側を削平される。規模は長軸177cm、短軸123cmを測り不整円形を呈する。深さは確認面より47cmを測る。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層される。全層に微量の炭化物ブロックと多量のロームブロックを含み、上層と下層はロームブロックの粒径が大きい。覆土の状態から人為堆積と判断される。

遺物は縄文土器を中心に1,914.2g出土した。掲載遺物は9点である。

**SK235 (第128・130図、第46表、遺構図版56、遺物図版11)**

F2グリッドにおいて検出された。SI30と重複し、これを切って構築される。規模は長軸73cm、短軸68cmを測り不整楕円形を呈する。深さは確認面より24cmを測る。底部は皿状であり、壁は外傾する。覆土は上層が暗褐色土、下層が褐色土であり、3層に分層される。全層に粒径の大きいロームブロックを多く含む。覆土の状態と堆積状況から人為堆積と判断される。

遺物は石製品と流れ込みと判断される縄文土器細片の計406.2gが検出された。掲載遺物は2点である。

**SK244 (第128・130図、第47表、遺構図版56、遺物図版11)**

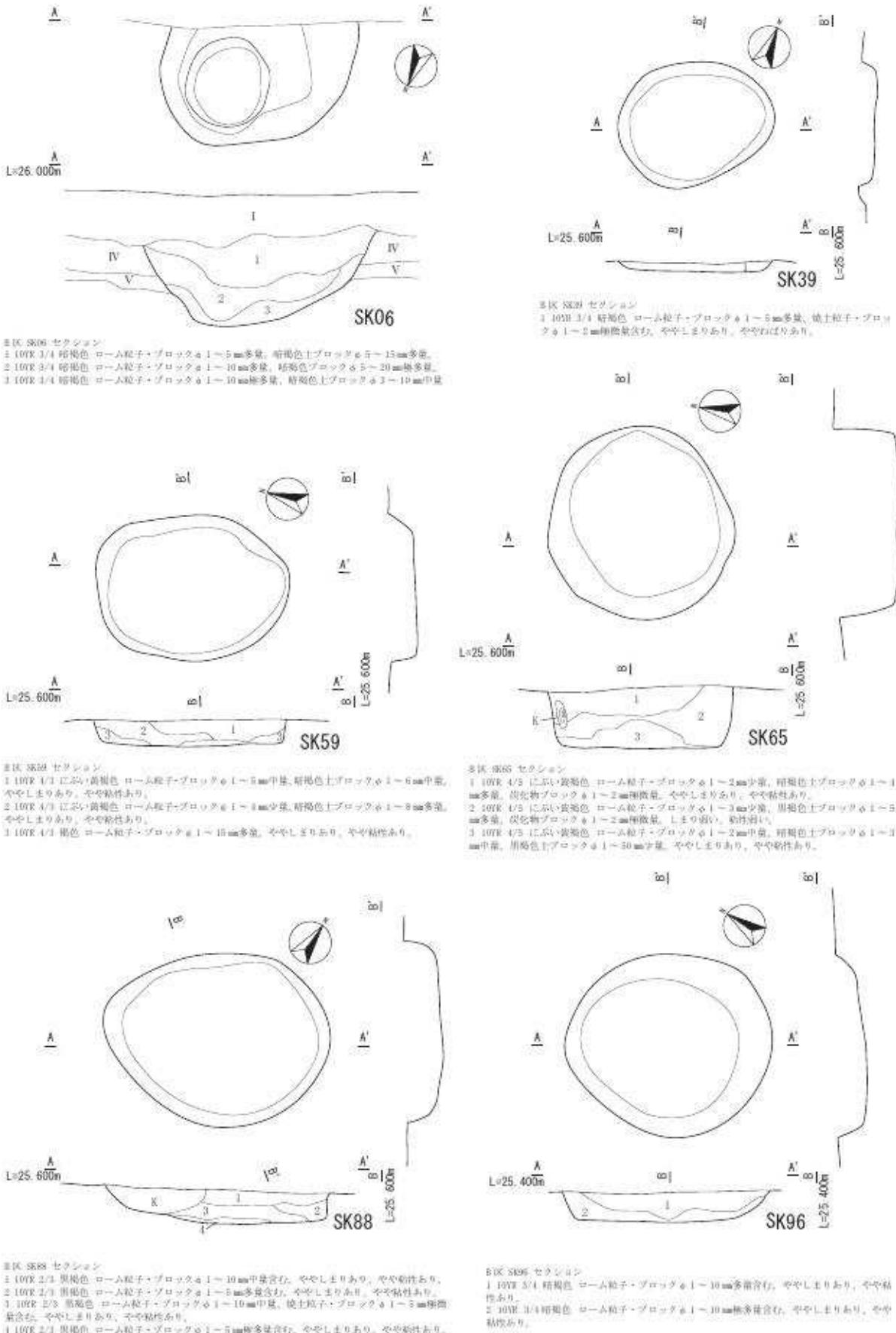
F2グリッドにおいて検出された。規模は長軸106cm、短軸81cmを測り楕円形を呈する。深さは最深部で確認面より23cmを測る。壁は不整形に外傾し、床は中央がやや高くなる。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層され、粒径の大きいロームブロックを多く含む。柱痕状の堆積状況を示す。

遺物は縄文土器1点が出土した。

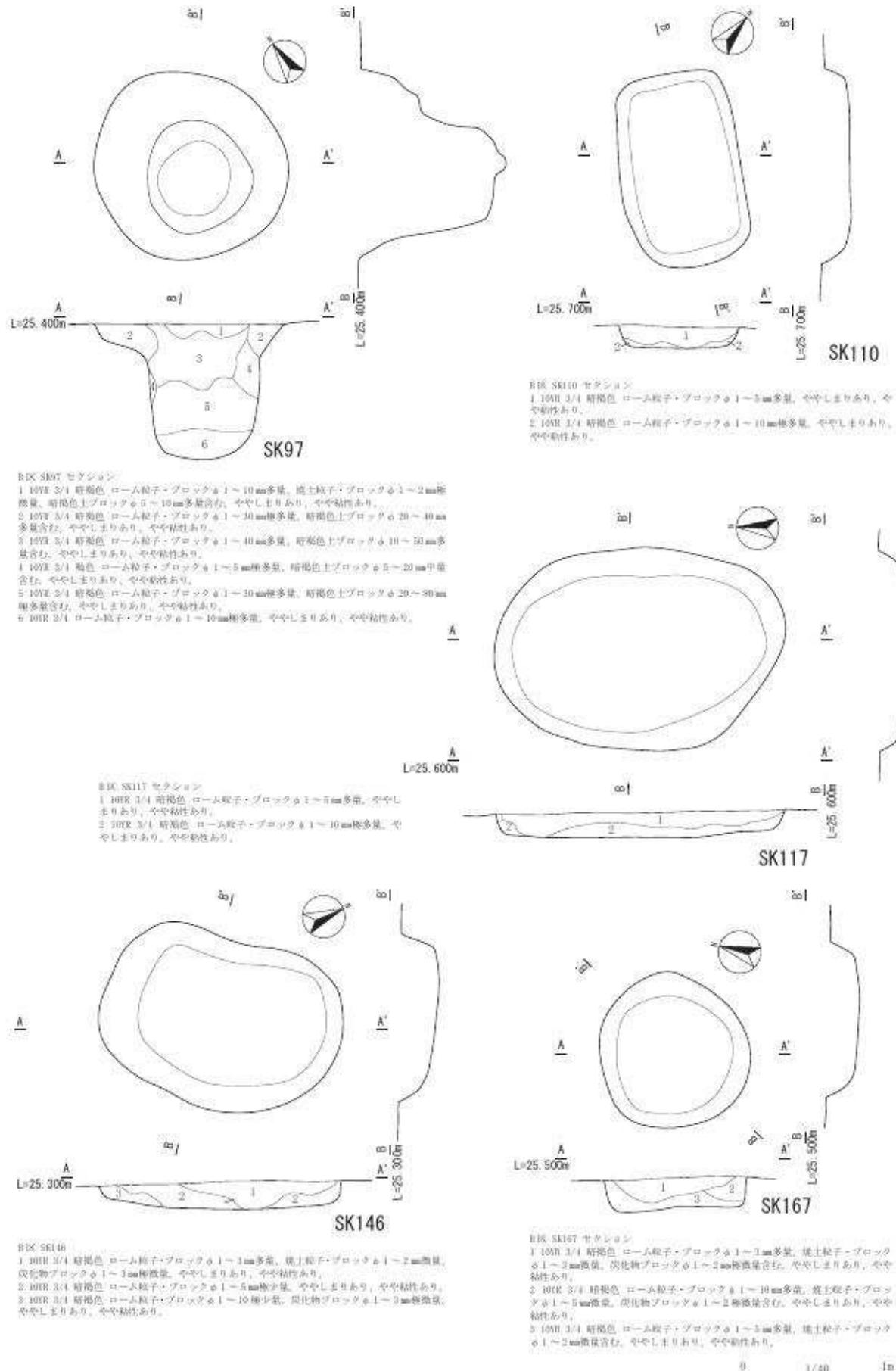
**SK246 (第128・130図、第47表、遺構図版56、遺物図版11)**

E2グリッドにおいて検出された。規模は長軸83cm、短軸67cmを測り楕円形を呈する。深さは最深部で確認面より19cmを測る。おおむね擂鉢状の断面形であり、南東側は底部がやや高い。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層される。ロームブロックを多く含み、下層は粒径が大きい。柱痕状の堆積状況を示す。

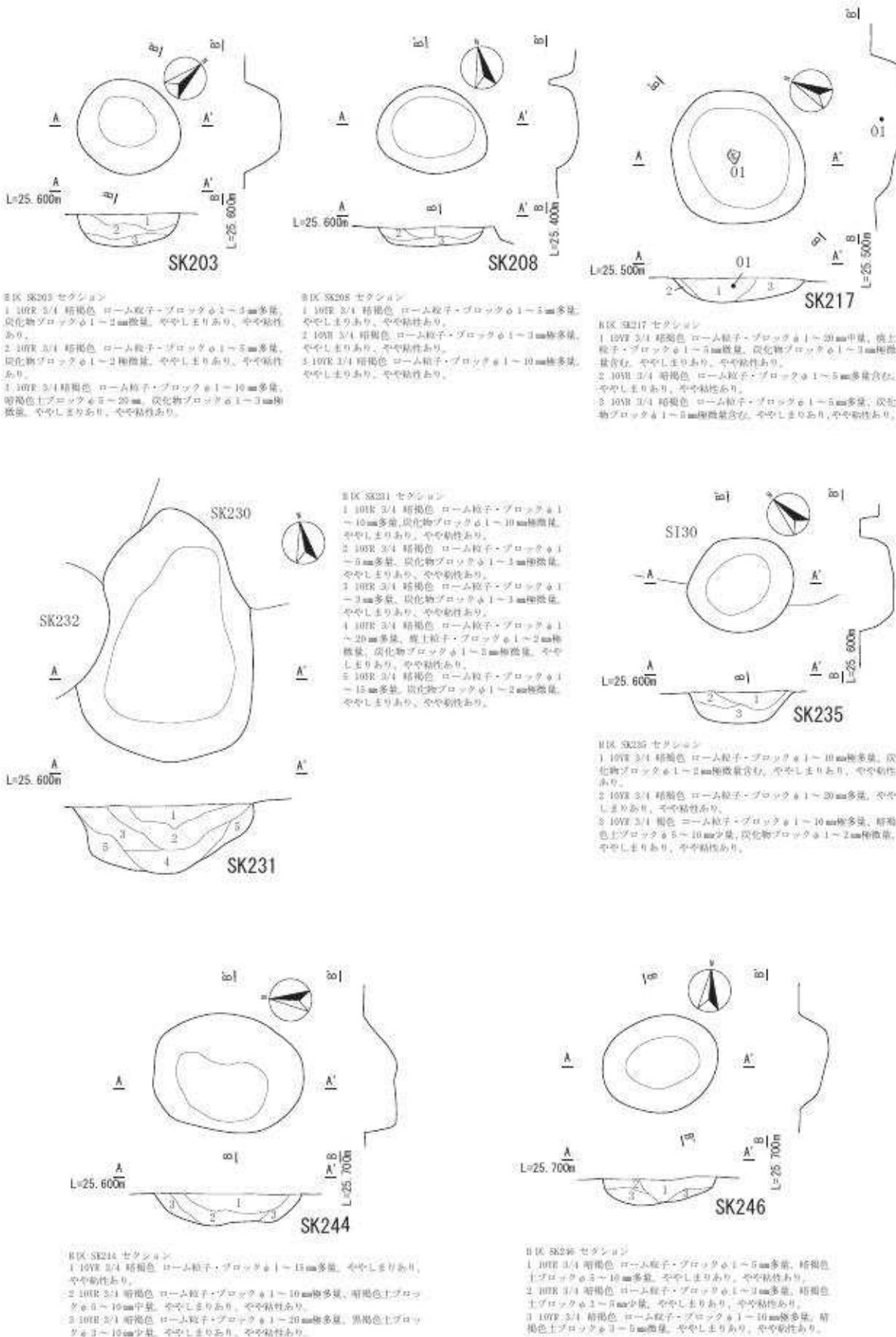
遺物は縄文土器79.4gが出土した。掲載遺物は1点である。



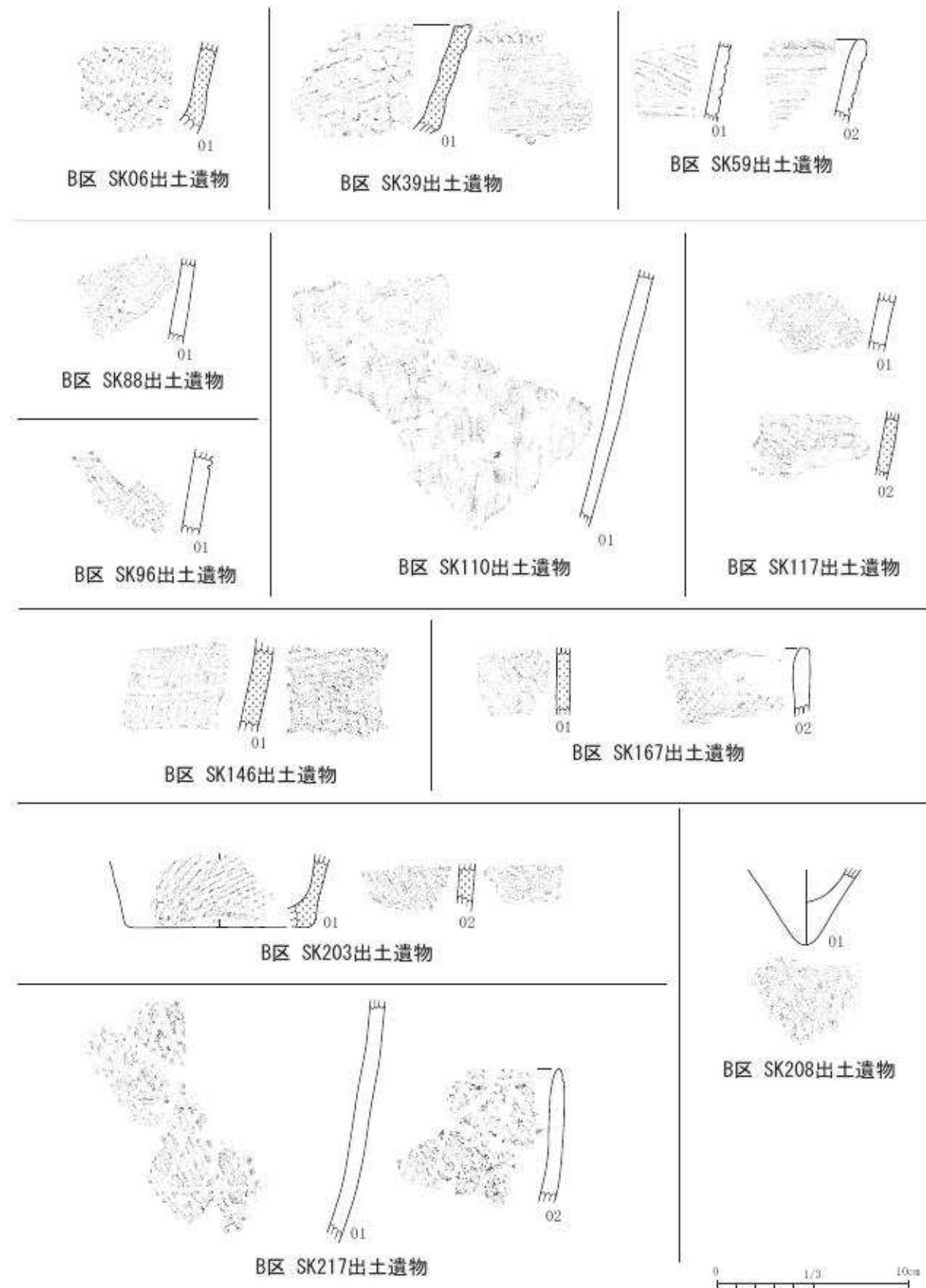
第126図 B区その他の土坑(1)



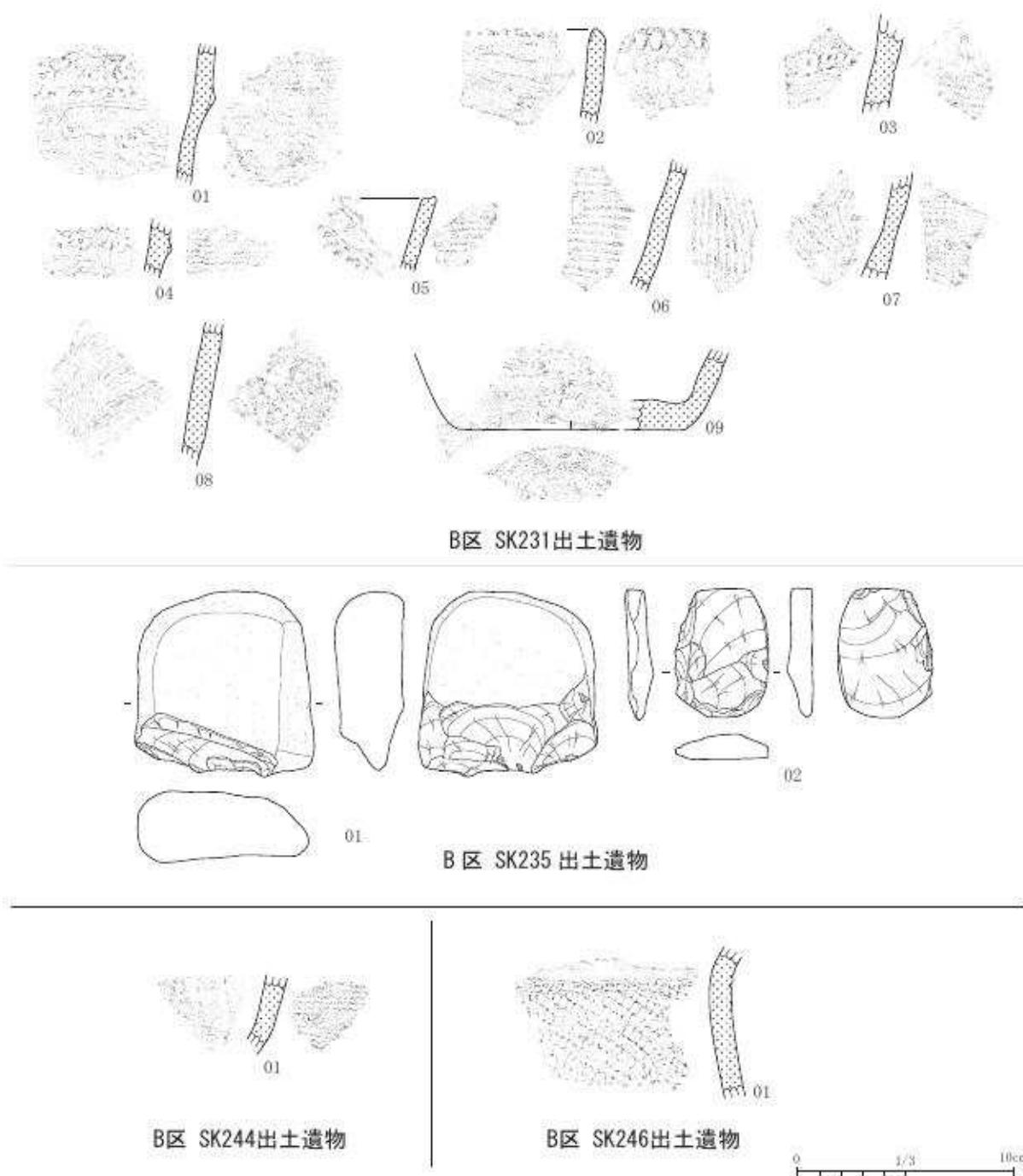
第127図 B区その他の土坑(2)



第128図 B区その他の土坑(3)



第129図 B区その他の土坑出土遺物（1）



第130図 B区その他の土坑出土遺物（2）

第45表 B区その他の土坑出土遺物観察表（1）

遺構名	遺物番号	性質	種類	断面	口径	底径	周長	縁形・文様・難易	型式	現存	焼成	色調	粒度	重量(g)	備考
SK236	01	一括	獨立土器	筒体	—	—	—	鉛錠山・L字の幾文による羽状文様を構成する。	直底式	陶泥破片	良好	内青釉、7.5H6/4に近い様	鐵錐多量、白色粒子少	27.2	
SK239	01	一括	獨立土器	筒体	—	—	—	口縁部は平や平坦になり口唇内側に筋み目を有す。器底には円形の剥落が施され斜窓門の形を施設線で連絡する。底面には角押文が施される。底部には筋み目が施されている。内面は横方向の筋痕文。	靴形身台式	口縁部破片	良好	内青釉、10H5/6 黄褐 外青釉 5H6/4に近い赤褐	鐵錐微量、白色粒子少、青母少	47.0	
SK259	01	一括	獨立土器	筒体	—	—	—	平行波線による文様が構成される。幼骨文。	浮蓋1式	陶泥破片	良好	内青釉、5H5/6 橙	白色粒子少	15.3	
	02	一括	獨立土器	筒体	—	—	—	平行波線による文様が構成される。	浮蓋1式	口縁部破片	良好	内青釉、5H6/6 橙	白色粒子少、鐵錐微量	16.3	

第46表 B区その他の土坑出土遺物観察表(2)

通番号	遺物番号	作紀	種類	埋積	口径	底径	高さ	形状・文様・型式	型式	残存	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
SK288	01	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	外縁鉢内面のへラケヌリ。内部斜子。	尖底壺式	陶部破片	良好	内面 10187/3/12 5A・黄褐色 外側 10185/3/12 5A・黄褐色	白色粒子多い、雲母微量	22.1	
SK296	01	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	輪形容線による三角形の文様が描かれ、三角形の印刷が施される。	十二芯筒式	陶部破片	良好	内面 10186/6/6 5B・黄褐色 外側 10185/3/12 5A・黄褐色	白色粒子多い、雲母微量	20.1	
SK310	01	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	側下部の資料。側部には單語LHの認文が施され底面付近では雙文となる。	中房筒 細き	陶部下半	良好	内面 10181/1 黄褐色 外側 10185/4/12 5A・黄褐色	白色粒子微量	298.3	
SK317	01	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	外面へラケヌリ。内面テテ。	尖底壺式	陶部破片	良好	内面 10187/3/12 5A・黄褐色	白色粒子多い	23.7	
	02	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	内外擦痕。	黑底式	陶部破片	不良	内面 10187/1 黑褐色 外側 10185/4/12 5A・赤褐色	鐵錫多量、白色粒子微量	20.3	
SK309	01	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	外面柔軟又の後、底面が削かれる。内面は浅い条痕文。	広義茅山式	陶部破片	良好	内面 10185/3/12 5A・黄褐色 外側 7.5MB6/6 5B・白褐色	鐵錫微量、白色粒子多い、雲母少量	43.9	
SK287	01	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	内管の剥離及び沈澱による抜筋が施され、内面には角押突状の文様が施される。	鶴ヶ島古式	陶部破片	良好	内面 10186/3/12 5A・黄褐色 外側 7.5MB4/7 5B・白褐色	鐵錫微量、白色粒子・雲母多い	15.5	
	02	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	口唇部及び側面には、単語 LH の認文が施される。	下小野式	陶部破片	良好	内面 10187/4/12 5A・黄褐色 外側 7.5MB6/6 5B・白褐色	黑色粒子・白色粒子少量	26.0	
SK283	01	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	付加部第1回転部。	黑底式	陶部破片	良好	内面 10185/6/12 5A・白褐色 外側 5MB5/4/12 5A・赤褐色	鐵錫多量、白色粒子・雲母微量	27.2	
	02	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	底部は平底で側部はやや直線的に開く。外表面は無筋のL認文。	黑底式	陶部下端 底面	良好	内面 10187/4/12 5A・黄褐色 外側 7.5MB6/6 5B・白褐色	鐵錫多量、白色粒子少量	31.6	
SK208	01	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	底部は尖底で、底面が丸く突る。外表面は粗いへラケヌリ。内面はテテ。	尖底壺式	底部破片	良好	内面 10187/4/12 5A・黄褐色	長石・石英多い	44.6	
SK217	02	N09	縄文土器	陶片	—	—	—	泥棒により受けた傷跡で凹凸した後、区画的に横子目状の決縫を充填する。	三戸式カ	陶部破片	不良	内面 10185/3/12 5A・黄褐色 外側 10184/4 黑褐色	雲母・白色粒子多	78.4	
	02	N09	縄文土器	陶片	—	—	—	泥棒により受けた傷跡で凹凸した後、区画的に横子目状の決縫を充填する。	三戸式カ	陶部破片	不良	内面 10185/3/12 5A・黄褐色 外側 10184/4 黑褐色	雲母・白色粒子多	44.3	
SK231	03	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	底部の上下両側に円管の痕跡及び角押突状の文様が施され、側面には剥離が施される。内面には横子目状の決縫が施される。	鶴ヶ島古式	陶部破片	良好	内面 7.5MB5/4/ 5B・白褐色 外側 7.5MB6/6 5B・白褐色	鐵錫多量、白色粒子やや多い、雲母微量	41.7	
	02	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	口唇はやや小さく、口唇部は外側で内側に組み合が施される。内外表面に無文。	鶴ヶ島古式	口縁部破片	良好	内面 10187/4/12 5A・黄褐色 外側 7.5MB7/4/ 5B・白褐色	鐵錫微量、白色粒子多い、雲母少量	29.2	
SK231	03	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	内管の痕跡及び角押突文の痕跡が施される。	鶴ヶ島古式	陶部破片	良好	内面 10184/3/12 5A・黄褐色 外側 7.5MB5/4/ 5B・白褐色	鐵錫多量、黑色粒子・白色粒子やや多い、雲母微量	18.9	
	04	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	段鉢部分には刻みが施される。一部に内管の剥離があり。内面無文。	鶴ヶ島古式	陶部破片	良好	内面 7.5MB4/4/ 5B・白褐色 外側 10185/4/12 5A・黄褐色	鐵錫微量、白色粒子多い、雲母微量	35.5	
SK231	05	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	外表面沈殿に区画された内部には条痕文が充填される。内面は条痕文。	鶴ヶ島古式	陶部破片	良好	内面 10185/3/12 5A・白褐色 外側 10184/3/12 5A・赤褐色	鐵錫微量、白色粒子少量	9.1	
	06	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	外面横横、内面範囲内の条痕文。	広義茅山式	陶部破片	良好	内面 10185/2 黄褐色 外側 10185/3/12 5A・黄褐色	鐵錫微量、白色粒子やや多い、雲母微量	21.7	
SK235	07	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	外面横横、内面範囲内の条痕文。	広義茅山式	陶部破片	良好	内面 10187/4/12 5A・黄褐色 外側 7.5MB6/6 5B・白褐色	鐵錫少量、白色粒子少量、雲母微量	19.6	
	08	一括	縄文土器	陶片	—	—	—	外表面は斜め方円の浅い条痕文。	広義茅山式	陶部破片	良好	内面 10182/2 黄褐色 外側 10185/4/12 5A・黄褐色	鐵錫多い、雲母多い、白色粒子やや多い	34.8	
SK235	09	N02	縄文土器	陶片	—	—	—	底部は半球で、側面は斜め方円に内面斜傾に立つ。表面は内外共に無文。	広義茅山式	底面 1/4	良好	内面 10185/1 黑褐色 外側 10186/4/12 5A・黄褐色	鐵錫多い、白色粒子やや多い、雲母多い	60.1	
	01	一括	石製品	打製石斧	規 8.4	幅 8.4	厚さ 5.3	長方柱でやや扁平な石器類を用いている。端面に刃部を加え片刃を削り取るもの。石核の可塑性もある。	規 8.4	打製石斧	良好	内面 10182/2 黑褐色 外側 10185/4/12 5A・黄褐色	石核はガラス質な岩。	358.2	
	02	一括	石製品	打製石斧	規 6.9	幅 6.4	厚さ 4.1	自然像の表記部分を打点とし、側面を削り取った後、背面から裏側に打撃を加えて刃部を作出している。尾端の小形打製石斧と重複した。材質は燧灰岩。	規 6.9	打製石斧	良好	内面 10182/2 黑褐色 外側 10185/4/12 5A・黄褐色	燧灰岩	42.1	

第47表 B区その他の土坑出土遺物観察表(3)

遺構名	遺物番号	状況	種類	断面	口径	底径	高さ	形状・文様・整形	型式	現存	焼成	色調	胎土	重積(g)	備考
SX244	01	一括	縄文土器	円錐	—	—	—	外面無文、内面有文、	広葉茅山式	輪郭破片	良好	内面：10KR8/4 暗 面程 外面：7.5YR7/6 暗	鐵錆微量、白色和 子多い	16.2	
SX246	01	一括	縄文土器	円錐	—	—	—	切妻部分には文字の乳頭文が1 周造り以下は単頭乳頭文が胸 文される。	馬鹿丸式	輪郭破片	良好	内面：7.5YR6/6 暗 外面：7.5YR4/1 暗	鐵錆多量、白色和 子・亞母数量	70.3	

## 第3項 ピット

P64・65(第131・132図、第48表、遺構図版56、遺物図版12)

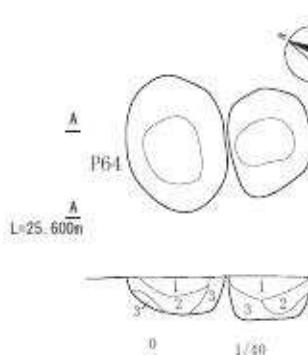
G2グリッドにおいて検出された。隣接する遺構である。

P64 規模は長軸73cm、短軸52cmを測り、平面形は楕円形を呈する。深さは最深部で確認面より19cmを測り、断面形は擂鉢状である。覆土は3層に分層される。第1・2層は炭化物ブロックを含む暗褐色土であり、第3層は褐色土である。柱根状の堆積状況を示す。

遺物は縄文土器79.4gが出土した。掲載遺物は1点である。

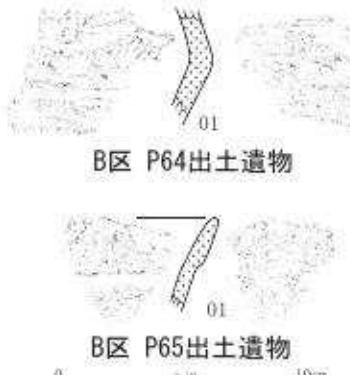
P65 規模は長軸59cm、短軸43cmを測り、平面形は不整形である。深さは確認面より24cmを測り、断面形は鍋底状である。覆土は暗褐色土を基調とした3層に分層された。ロームブロックを極多量含む。

遺物は縄文土器1点(01)が出土した。



第131図 B区P64・65

B区 P64・65  
P64  
1. 10KR 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~10mm多量、炭化物ブロック 1~2mm多量、ややし土あり、やや粘性あり。  
2. 10KR 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~1mm多量、炭化物ブロック 1~2mm多量、ややし土あり、やや粘性あり。  
3. 10KR 3/4 暗色 ローム粒子・ブロック 1~3mm多量、暗褐色土ブロック 5~10mm中量、しまりあり、やや軟性あり。  
P65  
1. 10KR 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~10mm多量、ややし土あり、やや粘性あり。  
2. 10KR 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~1mm多量、暗褐色土ブロック 3~5mm中量、ややし土あり、やや粘性あり。  
3. 10KR 3/4 暗褐色 ローム粒子・ブロック 1~3mm多量、炭化物ブロック 1~2mm多量、ややし土あり、やや粘性あり。



第132図 B区ピット出土遺物

第48表 B区ピット出土遺物観察表

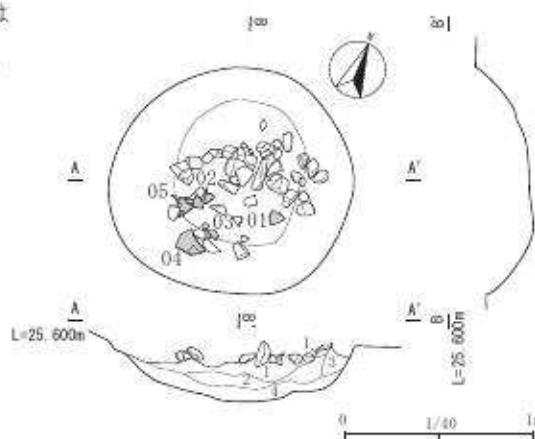
遺構名	遺物番号	状況	種類	断面	口径	底径	高さ	形状・文様・整形	型式	現存	焼成	色調	胎土	重積(g)	備考
P64	01	一括	縄文土器	円錐	—	—	—	切妻部の資料。上面には内管の刻突、角押文の露文、下半は横方向の条文文。内面は土質。	輪郭馬舌式	輪郭破片	良好	内面：10KR8/1 暗 灰 外面：10YR7/3 に ぶい黄褐	鐵錆微量、白色和 子多い	31.9	
P65	01	一括	縄文土器	円錐	—	—	—	口縁12や外汉文軸に開き折 り返す。斜面には捺花文正肩 が斜方向に施されれる。	口唇円式	口唇部破 片	良好	内面：10KR8/1 暗 灰 外面：10YR7/3 に ぶい黄褐	鐵錆微量、白色和 子多い	13.4	

## 第4項 集石遺構

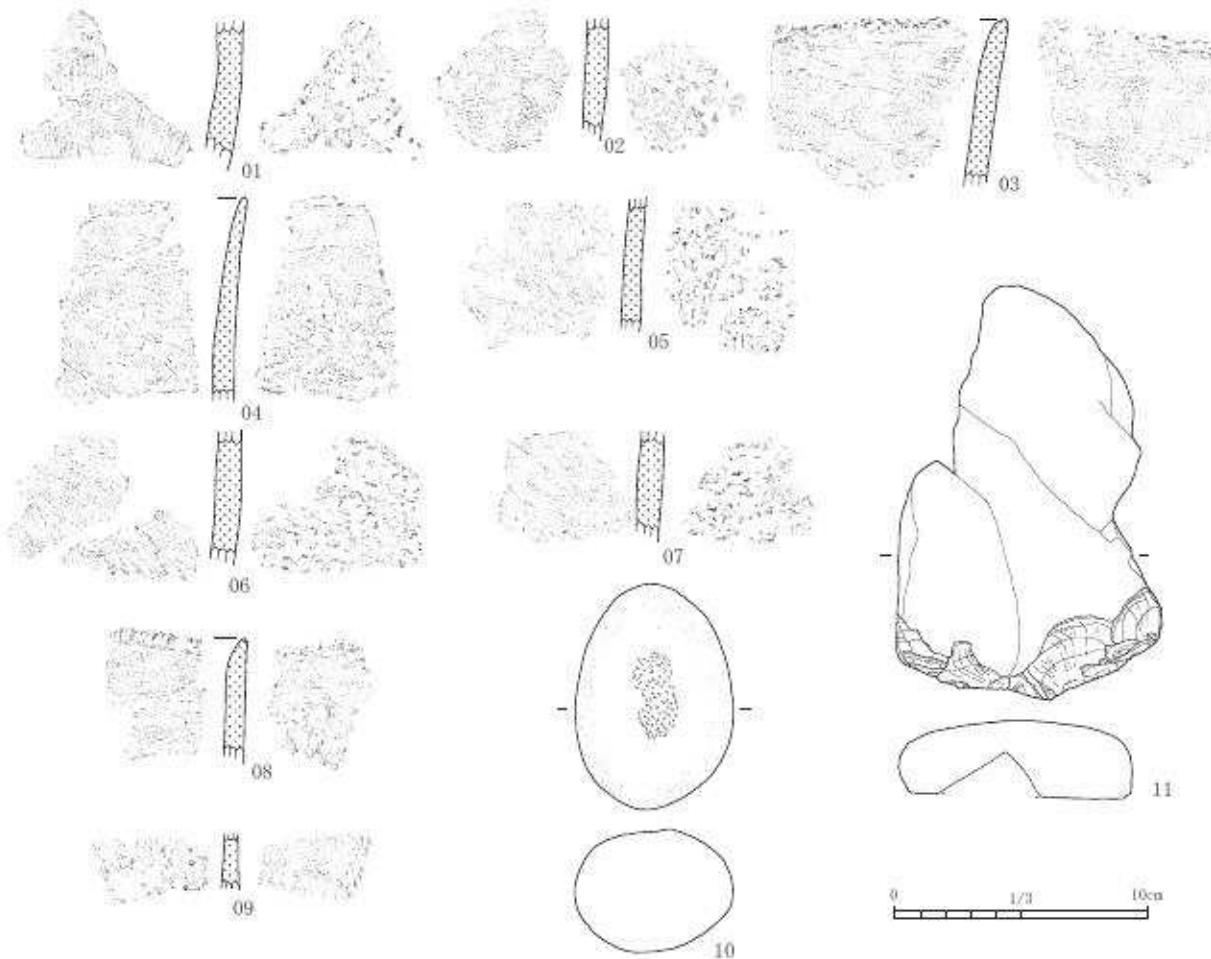
SX01(第133・134図、第49・50表、遺構図版57、遺物図版11)

H4グリッドにおいて検出された。SI27を切っている。規模は長軸129cm、短軸120cmを測り、平面形は不整円形を呈する。深さは確認面より33cmを測り、断面形は擂鉢状である。覆土は第1・2層が黒褐色土、第3・4層が暗褐色土であり、計4層に分層される。全体的にしまりがあり、礫を多く含む第1・2層には焼土ブロックが含まれる。

遺物は縄文土器と礫が検出された。うち縄文土器は1410.4gであり礫が中心となる。掲載遺物は11点である。



第133図 B区 SX01



第134図 B区 SX01 出土遺物

第49表 B区 SX01 出土遺物観察表(1)

遺物番号	目記	種類	器種	口径	底径	厚さ	表面・文様・施色	底式	現存	焼成	色調	質土	重量(g)	備考
01	一株	縄文土器	深鉢	—	—	—	外周輪方向に斜板文、内面削落。	伝義茅山式	脚付平	不良	内面 10W6/1に3.5V黄褐色 外面 1.5W6/1に3.5V褐色	鐵褐色多量混入。白色粒子少量	27.8	
02	一株	縄文土器	深鉢	—	—	—	外周輪方向に斜板文、内面削落。	伝義茅山式	脚付盛片	不良	内面 10W6/1に3.5V黄褐色 外面 1.5W6/1に3.5V褐色	鐵褐色多量、白色粒子少量、雲母微量	24.3	
03	901	縄文土器	深鉢	—	—	—	内外面削文。	伝義茅山式	脚付盛片	不良	内外面 10W4/3に3.5V黄褐色	鐵褐色多量、白色粒子多い、雲母微量	49.7	
04	905	縄文土器	深鉢	—	—	—	内外面削工。	伝義茅山式	脚付盛片	不良	内外面 10W4/3褐色	鐵褐色多量、白色粒子多い、雲母微量	48.7	

第50表 B区 SX01出土遺物観察表(2)

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	深さ	断面・文様・質感	型式	残存	焼成	色調	断土	重量(g)	備考	
05	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	外腹浅い盃形、内直剥落。	広葉芋山式	鋼鋸破片	不残	内面 10V87/4にぶい黄褐 外面 10V87/4にぶい赤褐色	鐵錆多量、白色粒子少見 青色微量 富田鉱量	27.1		
06	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	外前縁かな伏離状の剥離。	広葉芋山式	鋼鋸破片	不残	内面 10V87/4 褐 外面 10V87/6赤褐色	鐵錆多量、白色粒子微量	42.9		
07	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	外周縁かな凹離状の剥離。	広葉芋山式	鋼鋸破片	不残	10V87/1 第 外周 10V87/4にぶい黄褐色	鐵錆多量、白色粒子少見 青色微量	24.5		
08	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	口部附近に斜口を有す。表面には褐色・灰褐色の工具による均一な削痕が認められる。	広葉芋山式	口縁削片	不残	内外面 7.5V85/6 穴	鐵錆多量、白色粒子や少見	18.5		
09	一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	内外剥落。	広葉芋山式	鋼鋸破片	不残	内外面 7.5V85/6 例	鐵錆多量、白色粒子少見 青色微量	9.8		
10	一括	石製品	圓石	縦 4.0	横 6.3	厚さ 4.7	99.8%の自然石を用いるもので、上下両端部に僅かながら凹凸が認たれる。材質は砂岩。	—	—	—	—	—	266.2		
11	一括	石製品	打製石斧	縦 16.5	横 10.5	厚さ 8.0	大型の塊状を打ち出した後、手斧として一方刃から剥離を現している。剥離は表皮側からのみ行われるもので下端部が方頭状に尖ることから鍛石器(打製石斧)と判断した。遺物は比較的上り3個体に被積していくもので結合した結果同遺物と判断された。材質はガラス質貝殻安山岩。	—	—	—	—	—	—	661.0	

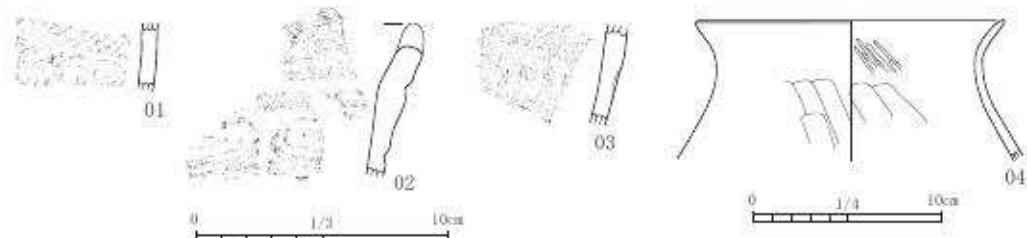
## 第5項 溝

溝は3条確認された。SD01の幅は40~60cm、深さは最大35cmであり生痕と思われる。03は耕作跡。

## SD02(第135・136図、第51表、遺構図版57、遺物図版12)

B区中央部において検出された。SI12・15・21、土坑IV類に帰属するSK133・143・144・145などと重複し、本土坑はこれらの遺構を切って構築される。コの字状の平面形であり、北辺部は調査区西側の壁に接する。南辺部は東辺部より約9mの地点まで掘り込みが残存し、西方の延長線にセクションが確認された。幅は30~70cmほどであり、残存の状況と崩落のためか差が大きい。確認面よりの深さは最深部で30cmを測る。壁面のセクションからはI層に直下から37cmの掘り込みが確認される。覆土は5層に分層される。第1・2層は黒褐色土であり、Hセクションでのみ確認された。第3・4・5層は暗褐色土であり、第5層は北辺部、東辺部の全てのセクションの最下層で確認された。粒径の大きいロームブロックを極多量含む。堆積状況は自然堆積を示す。

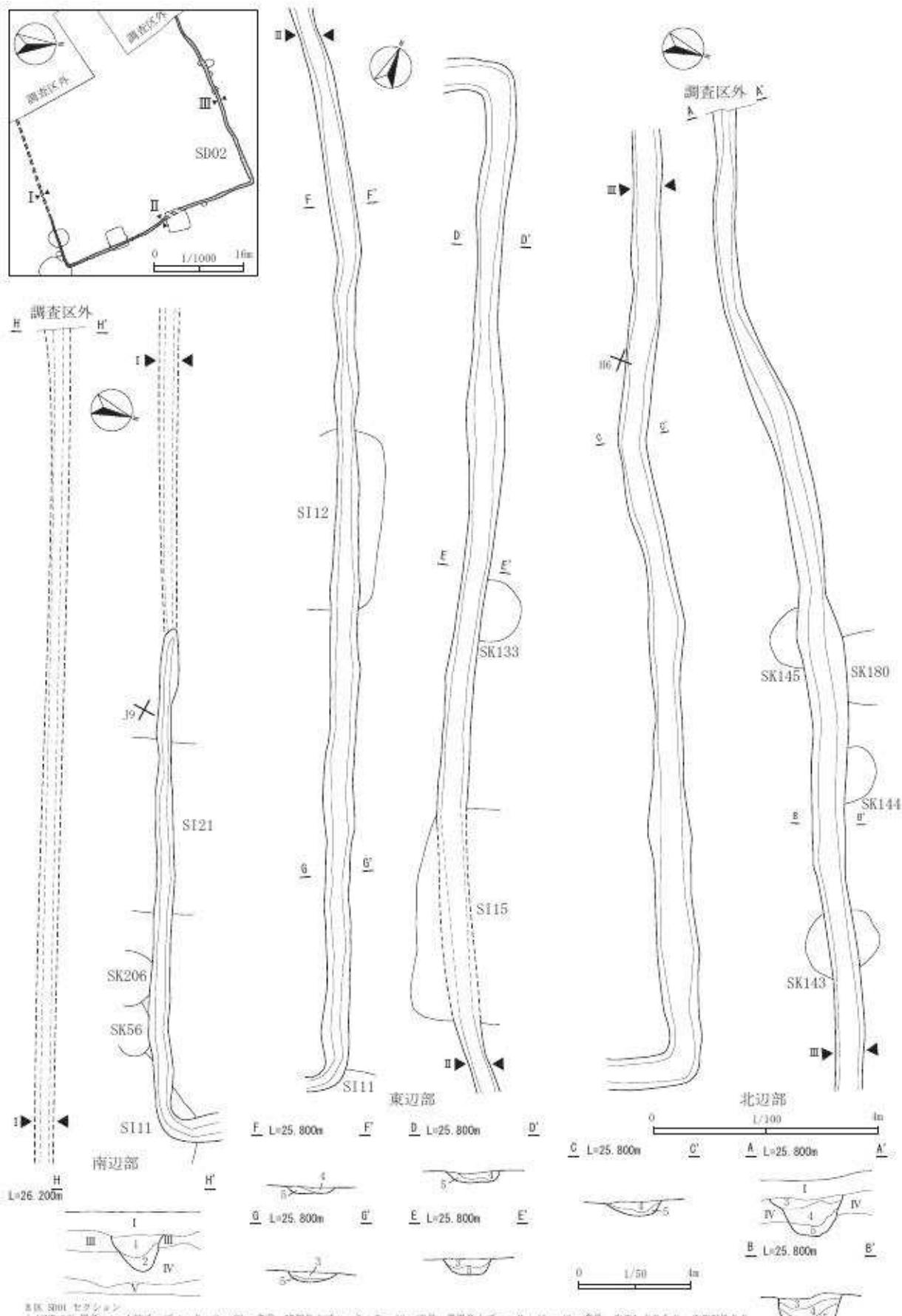
遺物は1074.4gが検出された。構築時もしくは埋没時に流れ込んだとみられる縄文土器、土師器を中心であり、本遺構に伴うと判断されるものはないが、本遺構が切る遺構の時期を示すものとして4点を掲載した。



第135図 B区 SD02出土遺物

第51表 B区 SD02出土遺物観察表

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	深さ	断面・文様・質感	型式	残存	焼成	色調	断土	重量(g)	備考
01	B区 SD02 一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	単筋LH丸文を施し、三字結び文が施す。	下小野六式	鋼鋸破片	良好	内面 10V87/4にぶい黄褐色 外面 10V87/1にぶい黄褐色	白色粒子少見	13.8	
02	B区 SD02 一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁部はやや圓く、突起部分が付され内側には三叉文が刻まれる。外周は直縁及び陰唇等による支脚が施され地文はなし。	五相二合式	口縫削片	良好	内外面 7.5V85/4にぶい褐色	白色粒子多い、青色少見	43.3	
03	B区 SD02 一括	縄文土器	深鉢	—	—	—	側面に直筋復縁による肩口部の内側剥離が施される。	阿玉古式	鋼鋸破片	良好	内面 10V85/1にぶい黄褐色 外面 7.5V85/4にぶい褐色	青色多い、白色粒子少見多い	39.5	
04	B区 SD02 一括	土師器	壺	36.3	—	7.5	張りは薄く頑張て「U」の字に外反し口縁に至る。外周口縁はねつアザ、肩部はアザ。内口縁はねつアザ後ミガキ。鋼鋸はアザ。	毛耳罐	口一側削 上部破片	良好	内面 5V85/6例 外面 6V85/1例	白色粒子やや多い、青色・小礫少見	32.9	



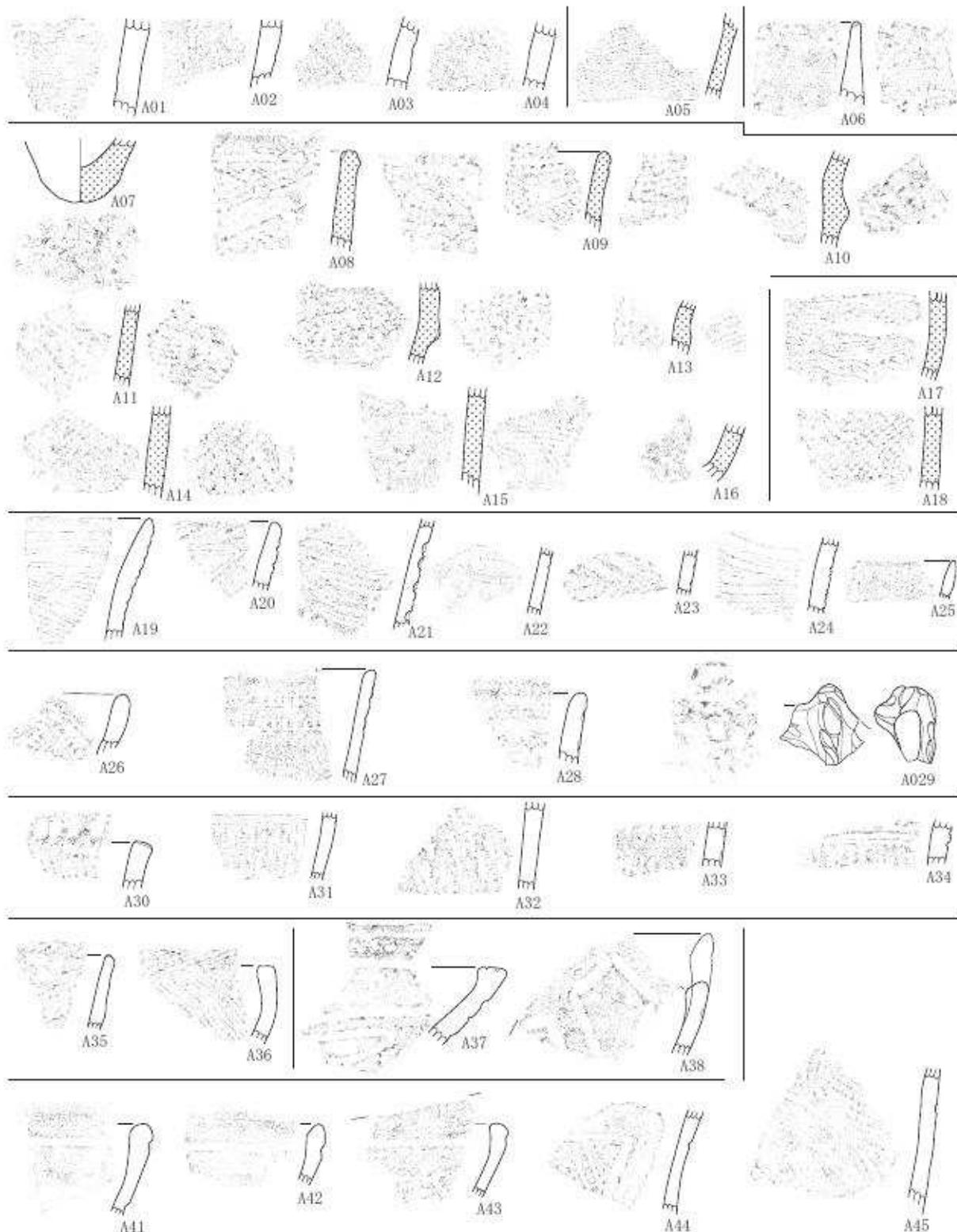
- B区 SD02 セクション
- 1 層 1/4 黄褐色 ローム粘子・ブロックφ3~20mm多量、粘褐色土ブロックφ5~10mm中量、暗褐色土ブロックφ10~40mm多量、少々しよりあり、やや粘性あり。
  - 2 層 2/2 黄褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm少量、暗褐色土ブロックφ2~4mm中量、しより弱い、粘性弱い。
  - 3 層 4/1 1/4 黄褐色 ローム粘子・ブロックφ1~2mm微量、粘褐色土ブロックφ1~2mm微量、少々しよりあり、やや粘性あり。
  - 4 層 4/4 黄褐色 ローム粘子・ブロックφ1~3mm中量、粘褐色土ブロックφ1~2mm微量、少々しよりあり、やや粘性あり。
  - 5 层 3/2 黄褐色 ローム粘子・ブロックφ10mm多量、粘褐色土ブロックφ2~5mm少量、少々しよりあり、やや粘性あり。
  - 6 层 4/4 黄褐色 ローム粘子・ブロックφ2~4mm多量、暗褐色土ブロックφ3~5mm中量、少々しよりあり、やや粘性あり。
  - 7 层 4/1 黄褐色 ローム粘子・ブロックφ1~5mm中量、粘褐色土ブロックφ1~2mm多量、しより弱い、粘性弱い。
  - 8 层 4/4 黄褐色 ローム粘子・ブロックφ4~15mm極多量、粘褐色土ブロックφ2~3mm中量、しより弱い、粘性弱い。

第136図 B区 SD02

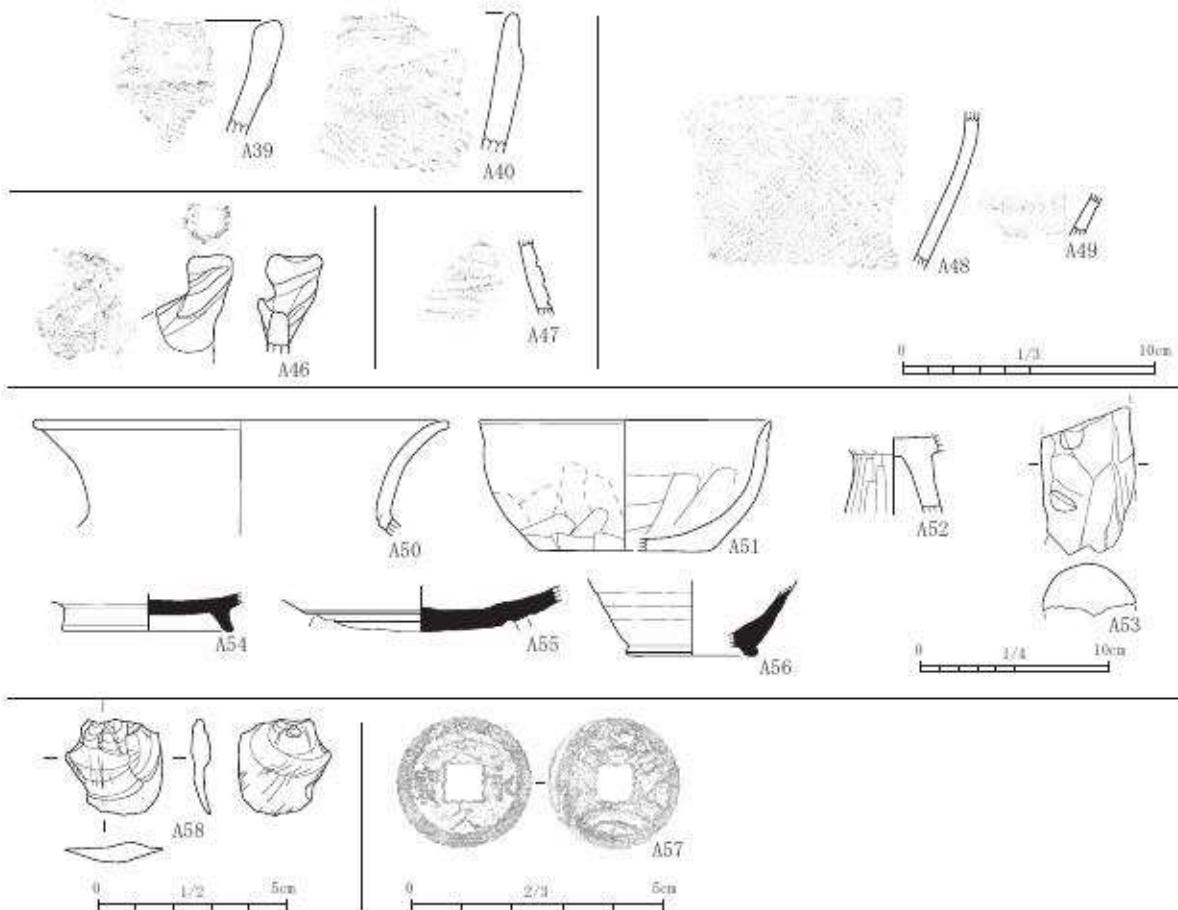
## 第3節 遺構外出土遺物

本節で取り上げる遺物は、確認面出土遺物及び遺構内から出土した遺物でも、明らかに遺構の時期と異なる遺物について掲載した。なお、A・B区それぞれに区分けして掲げた。詳細は観察表にまとめて記載した。

## 1 A区（第137・138図、第52～58表、遺物図版12）



第137図 A区遺構外出土遺物（1）



第138図 A区遺構外出土遺物(2)

第52表 A区遺構外出土縄文土器観察表(1)

遺物番号	性別	輪幅	器種	口径	底形	表面	基部・支脚・茎部	型式	現存	焼成	色調	断土	重量(g)	備考
A01 A区S101 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	外反する胴部上方の破片。内外面頸方角に粗いハラ削り。	天火場式	胴部破片	良好	内外面 T.5M6/4に赤い黄相	白色粒子・雲母多い	32.8		
A02 A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立する胴部破片。内外面先に横方向の粗いハラ削り。	天火場式	胴部破片	良好	内面 10M6/1に赤い黄相 外面 10M7/1に赤い黄相	白色粒子多い・雲母少	20.1		
A03 A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立する胴部破片。内斜面先に横方向の粗いハラ削り。	天火場式	胴部破片	良好	内外面 10M7/3に赤い黄相	白色粒子・雲母多い	38.1		
A04 A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立する胴部破片。内外面先に横方向の粗いハラ削り。	天火場式	胴部破片	良好	内外面 10M7/3に赤い黄相	白色粒子・雲母・ カリシア混在	20.8		
A05 A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	芯底部の残部。先端部は平や 丸みを帯びる。内邊急縮窪。	輪を島古式	底盤破片	良好	内面 T.5M6/4に赤い黄相 外面 10M5/6側赤端	鐵錆魚塾。白色粒 子多い・カリシア・ 黒色粒子。雲母微	41.9		
A06 A区S102 一筋	縄文土器	深鉢	—	—	—	胴部下部の破片。側面・集合(周 囲)に粗い横削痕を設けた 後、間に肩格子の集合沈窓を 充填する。内面は上くぼれか れてる。	三河式	胴部破片	良好	内面 10M7/1灰白 外面 10M8/1浅黄相	白色粒子・雲母多	25.9		
A07 A区S101 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	外反し十筋口縁部の破片。 口縁部二重割が施される。 内外面先に黒斑、腹壁の鐵錆 を混入する。	子母口式	口縁部破 片	良好	内外面 10M6/3に赤い黄相	鐵錆魚塾。白色粒 子・雲母少	35.1		
A08 A区S103 一筋	縄文土器	深鉢	—	—	—	やや外斜する口縁部破片。口 縁底には円窓の崩壊が施され て口縁部これを棒状に連続 する。棒子内には手馬に刺突 剣が施されている。内面は横方 向の急縮。断土中に鐵錆を微 量混入する。	輪を島古式	口縁部破 片	良好	内外面 10M7/4に赤い黄相	鐵錆魚塾。白色粒 子少。雲母微	31.5		
A09 A区S101 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	やや外斜する口縁部破片。口 縁底には円窓の崩壊が施され て口縁部これを棒状に連続 する。棒子内には手馬に刺突 剣が施されている。内面は横方 向の急縮。断土中に鐵錆を微 量混入する。	輪を島古式	口縁部破 片	良好	内面 T.5M6/6櫻 外面 10M5/4に赤い黄相	鐵錆魚塾。白色粒 子多。	36.8		
A10 A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁部下の段部の破片。口 縁部には内側で口縁部に割み 目を有す。口縁底面には内形 の刺突が施され鐵錆跡がこれ を棒子内に連続する。棒子内 には手馬に刺突剣が施されている。内面は横方 向の急縮。断土中に鐵錆を微 量混入する。	輪を島古式	口縁部破 片	良好	内外面 T.5M7/1櫻	鐵錆魚塾。白色粒 子少。雲母微	30.8		

第53表 A区遺構外出土縄文土器観察表(2)

遺物番号	件記	種類	器種	口径	底径	高さ	表面	基部・支脚・窓孔	形式	残存	破成	色調	胎土	重量(g)	備考
A11	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁直下の破片。口辺には円管の刺突。口縁は縦溝内裏。口内面には目録文。	輪ヶ島台式	輪辺破片	良好	内面 10385/1に赤い黄褐色 外面 10385/6 黄褐色	織維微量、白色粒子少量	22.6		
A12	A区S102 —柄	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁直下の破片。口辺には円管の刺突、角柱支脚跡が施される。底部分には窓孔が施される。底の半分には縦溝文が施されている。内面には刺突、子不規。	輪ヶ島台式	輪辺破片	不良	内面 10387/1に赤い黄褐色 外面 57386/6 棕褐色	織維微量、白色粒子少量、黒色粒子・スコリア微量	31.9		
A13	A区S102 —柄	縄文土器	深鉢	—	—	—	外側面と内側面に縦溝底の破片。口縁直下には円管の刺突が施され縦溝がこれを格子状に通す。内面は織維方向の縦溝文。筋上に縫合を微弱見入る。	輪ヶ島台式	輪辺破片	良好	内面 7.5385/6 明褐色 外面 10385/4に赤い黄褐色	織維質量、白色粒子・黒色粒子多い、雲母微量	6.3		
A14	A区S102 —柄	縄文土器	深鉢	—	—	—	外側面は浅い柔軟な縦溝文。内面には刺突。	輪ヶ島台式	輪辺破片	良好	内面 10386/6 明褐色 外面 10385/1に赤い黄褐色	織維やや多い、白色粒子少量、雲母微量	27.7		
A15	A区S104 中筋	縄文土器	深鉢	—	—	—	外側面は黒文。内面には柔軟な縦溝文。窓孔半分の資料であろう。	輪ヶ島台式	輪辺破片	良好	内面 7.5384/1 極端 外面 7.5380/6 棕褐色	織維混入多い。白色粒子少量	29.8		
A16	A区S104 —柄	縄文土器	深鉢	—	—	—	底部付近の縫合、底辺に丸めである。	輪ヶ島台式	輪辺破片	良好	内面 10383/1 黒褐色 外面 57385/6 黄褐色	織維混入多い。白色粒子少量	9.6		
A17	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	外側面は縦溝の集合洗練が施されている。	乳頭式	輪辺破片	不良	内外面 10387/3に赤い黄褐色	織維多量、雲母・白色粒子少量	38.5		
A18	A区表探 A区S104	縄文土器	深鉢	—	—	—	外側面直角L型突起。	乳頭式	輪辺破片	良好	内面 10382/1 黃褐色 外面 10382/1 黑褐色	織維多量、白色粒子多い、雲母微量	34.6		
A19	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	外側面に口縁部破片。洗練による擦方面的の文様が施される。	浮島1式	口縁部破片	良好	内面 7.5380/6 棕褐色 外面 10387/4に赤い黄褐色	白色粒子少量、雲母微量	36.2		
A20	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁部破片。口縁部に刻みを有する。縫合には平行洗練による三色形の文様が施される。	浮島1式	口縁部破片	良好	内面 7.5386/6 棕褐色 外面 7.5385/6 棕褐色	白色粒子多い、雲母微量	10.3		
A21	A区S1042区 —柄	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁直下の破片。縫合方向の刺突から、強烈な洗練が施される。下端には手半の爪痕と骨文。	浮島1式	輪辺土半破片	良好	内面 10387/4に赤い黄褐色 外面 10388/4 深黃褐色	白色粒子多い、雲母微量	26.6		
A22	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	縫合直線による平行板状の文様が施される。筋合方向に施される。筋合直線の形態化。	浮島1式	輪辺土半破片	良好	内外面 10387/6に赤い黄褐色	白色粒子少量、雲母微量	13.6		
A23	A区S1042区 —柄	縄文土器	深鉢	—	—	—	平行直線による平行板状の文様が施される。	浮島1式	輪辺土半破片	良好	内面 7.5386/4に赤い黄褐色 外面 10381/2 深黃褐色	白色粒子多い、雲母微量	12.9		
A24	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁直下の破片。平行洗練により強烈な洗練が施される。	浮島1式	輪辺土半破片	良好	内面 10385/6に赤い黄褐色 外面 7.5386/6 棕褐色	白色粒子微量	21.4		
A25	A区S101 上層	縄文土器	ミニチュ ア土器	—	—	—	やや堅い口縁。済手で口縁が小さく、外側には平行洗練による文様が施される。	浮島1式	口縁部破片	良好	内面 7.5386/4に赤い黄褐色 外面 7.5386/4に赤い黄褐色	黑色粒子多い、雲母・白色粒子少量	9.5		
A26	A区S104 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	三角形に開いた複数筋の破片。口縁部に着つて2列の爪形文が施される。	浮島1式	口縁部破片	良好	内外面 10388/4 深黃褐色	白色粒子多い、黒色粒子少量、雲母・スコリア微量	11.4		
A27	A区S1044区 —柄	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁部に沿つて2列の爪形文が施される。A026と同一個体。	浮島1式	口縁部破片	良好	内外面 10387/3に赤い黄褐色	黑色粒子・スコリア多い	25.9		
A28	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	外接する口縁部2列の爪形文が施されるもの。外側に斜彎が施されている。	浮島1式 又は 輪辺式	口縁部破片	良好	内外面 7.5385/6 棕褐色	黑色粒子・白色粒子多い、雲母微量	18.7		
A29	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	横穴山窓の痕跡部に付された、斜彎の突起。踏模ら式の脚部把手を見せる。	浮島1式	口縁部突起	良好	内外面 10387/4に赤い黄褐色	黑色粒子少重	25.5		
A30	A区S1042区 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	外接する口縁部の破片。口縁部に刻みと有り脚部には目録複線文の施用例が施される。	輪辺式	輪辺破片	良好	内外面 10386/5 黄褐色	白色粒子多く、白色粒子少量	32.9		
A31	A区S1041区 —柄	縄文土器	深鉢	—	—	—	M39と同一個体である。脚部の底で同様の目録複線文が施用される。	輪辺式	輪辺破片	良好	内面 57385/5 黄褐色 外面 57385/6 黄褐色	白色粒子多く、白色粒子少量	17.7		
A32	A区S1041区 —柄	縄文土器	深鉢	—	—	—	M39と同一個体である。脚部の底で同様の目録複線文が施用される。	輪辺式	輪辺破片	良好	内外面 7.5385/4に赤い黄褐色	白色粒子多い、黒色粒子少量、雲母・スコリア微量	29.0		
A33	A区S104 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	M39と同一個体である。脚部の底で同様の目録複線文が2段目に施される。	輪辺式	輪辺破片	良好	内面 10385/4に赤い黄褐色 外面 57385/6 黄褐色	白色粒子少重、雲母微量	16.3		
A34	A区S104 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	脚部と同一脚部である。脚部の破片で平行洗練が施されて内側に同様の目録複線文が施される。	輪辺式	輪辺破片	良好	内面 10386/6 深黃褐色 外面 57385/8 黄褐色	白色粒子多い、黒色粒子少重、雲母微量	19.2		
A35	A区S104 中筋	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁は平で外側に突起。口縁は折り返され、口縁部及び表面部にはLRの縫合が施されている。	五頭ヶ島台式	口縁部破片	良好	内面 10387/1に赤い黄褐色 外面 7.5386/6 棕褐色	雲母・白色粒子微量	18.3		
A36	A区S104 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	内側が平の口縁部の破片。順滑および口唇部にこの洗練文が施されている。	五頭ヶ島台式	口縁部破片	良好	内外面 10387/2に赤い黄褐色	雲母・白色粒子微量	18.7		
A37	A区表探	縄文土器	浅鉢	—	—	—	内側が平の口縁部の破片。順滑および口唇部にこの洗練文が施されている。	中指	口縁部破片	良好	内外面 57385/4に赤い黄褐色	白色粒子多い、白色粒子多い	45.4		

第54表 A区遺構外出土縄文土器観察表(3)

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	厚さ	断面・文様・常形	形式	保存状況	焼成度	色調	断土	重量(g)	備考
A58	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	内側に三脚形に尖る圓錐口縁の姿形破片。太い脚窓により菱形の区画が形成され、口縁部には細かいLE繩文が施されている。口縁内底に土字有。	中開	口縁部破片	良好	内面 10YR7/4に赤・黄相 外面 10YR7/1 黄灰	白色粒子多々、雲母微量	47.8	
A59	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁部破片。口唇部に無文帯を有し、脚窓部が窓ら。側面には細かい繩文が施されている。	加賀利正 P	口縁部破片	良好	内外面 10YR7/3に赤・黄相	白色粒子少々、雲母微量	29.6	
A60	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁部破片。口唇部に無文帯を有し、脚窓部が窓ら。側面には細かい繩文が施されている。	加賀利正 P	口縁部破片	良好	内外面 10YR7/3に赤・黄相	白色粒子少々、雲母微量	37.8	
A61	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	内側内面する口縁部破片。口縁部に無文帯の繩文が施され、以下に凹成部2箇により区画されたやや幅広の無文帯が窓ら。	柳名寺	口縁部破片	良好	内面 10YR7/4に赤・黄相 外面 10YR7/3に赤・黄相	白色粒子少々、雲母微量	26.7	
A62	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	内側内面する口縁部破片。口縁部に無文帯の繩文が施され、以下に凹成部2箇により区画されたやや幅広の無文帯が窓ら。	柳名寺	口縁部破片	良好	内外面 10YR7/4に赤・黄相	白色粒子少々、雲母微量	32.5	
A63	A区表探 中崩	縄文土器	深鉢	—	—	—	内側内面する口縁部破片。口縁部は無文帯で、斜線で区画された内部に単脚LRの繩文が施されている。	柳名寺	口縁部破片	良好	内側面 3YR5/4に赤・黄相	白色粒子少々、雲母微量	20.5	
A64	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	側面に口縁部破片。口縁部下は無文帯で、斜線で区画された内部に単脚LRの繩文が施されている。	柳名寺	側面破片	良好	内外面 7.5YR7/6 橙	白色粒子多々	27.9	
A65	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	側面に口縁部破片。側面に無文帯の繩文が施されている。	柳名寺	側面破片	良好	内外面 7.5YR6/6 橙	白色粒子少々、雲母微量	49.6	
A66	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	内側に口縁部破片。側面の突起部分が窓らのように立つ。	加賀利正	側面破片	良好	内外面 10YR7/3 江ぶく・黄相	雲母・白色粒子微量	17.8	
A67	A区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	内側口縁による土字文を描くもので、表面は半滑。	柳名寺	側面破片	良好	内外面 10YR7/6 明黄相	雲母・白色粒子微量	7.4	

第55表 A区遺構外出土弥生土器観察表

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	厚さ	断面・文様・常形	形式	保存状況	焼成度	色調	断土	重量(g)	備考
A68	A区表探 K57	弥生土器	夷	—	—	—	側面中央に手字手の繩文。付属品第1種の繩文が斜糸を構成して複数点分られる。	弥生後期	側面破片	良好	内面 7.5YR6/6 橙 外面 10YR7/4に赤・黄相	白色粒子少々、雲母微量	61.7	
A69	A区表探 K58	弥生土器	夷	—	—	—	口縁直下端部の破片。輪積帯を意識した山形に文様とする。	弥生後期	側面破片	良好	内面 7.5YR7/3に赤・黄相 外面 7.5YR6/2 橙	雲母・白色粒子微量	4.9	

第56表 A区遺構外出土古代遺物観察表

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	厚さ	断面・文様・常形	形式	保存状況	焼成度	色調	断土	重量(g)	備考	
A70	A区表探	土製器	夷	(22.0)	—	36.0	口縁は「く」の字に削出する。圓弧化使用刃。口縁は内外面共に横ナギ。内部留め縫に輪積模様あり。	土鉢	口縁部 L型	良好	内外面 10YR7/4に赤・黄相	黒色粒子少々多い、雲母・白色粒子少々	133.7		
A71	A区表探	土製器	手盤	(35.0)	(39.0)	36.7	底面は平底。全体は内滑氣泡体に立ち口縁で側から外突出する。円滑な刃で横ナギが行なわれて底面外周にはハラ及び手印による擦痕。内面はナガ。	—	L型	良好	内外面 10YR6/4に赤・黄相	白色粒子少々、雲母・エコニア微量	131.3		
A72	A区表探	土製器	高炉	—	—	41.1	側面は直角的江戸型。鋤耕はミガキ。内面はヘラナナ。上端内面にはミガキ。	—	横合脚付 L型	良好	内外面 7.5YR6/6 橙	雲母・白色粒子微量	101.7		
A73	A区表探	土製器	支脚	縦8.4	横5.0	厚さ2.7	側面牛耳形を呈する。手・脚による擦痕。	—	1/2及非 内縁部灰 根	良好	外面 7.5YR6/6 橙	赤色粒子微量	99.4		
A74	A区表探	土製器	高炉	—	—	9.4	(2.0)	高炉は「ハ」の字に付される。手・脚による擦痕。	高炉	高炉L型 灰根	良好	内外面 3.5YR5/2灰根	黒色粒子やや多い、雲母・白色粒子少々	151.9	
A75	A区表探 K59	土製器	高炉	—	—	(2.3)	高炉は口内底に付する。ロクロ擦痕。	高炉系	高炉L型	良好	内外面 3.5YR5/2灰根	小一火難・白色粒子少々	163.8		
A76	A区表探	土製器	瓶	—	—	(2.3)	高炉は「ハ」の字に付される。側面は丸で側面内底に付する。ロクロ擦痕。	—	溶一側面 手縁部 L型	良好	内外面 2.5YR7/2灰根	黒色粒子やや多い、雲母・白色粒子少々	38.4	丸ぶれあり	

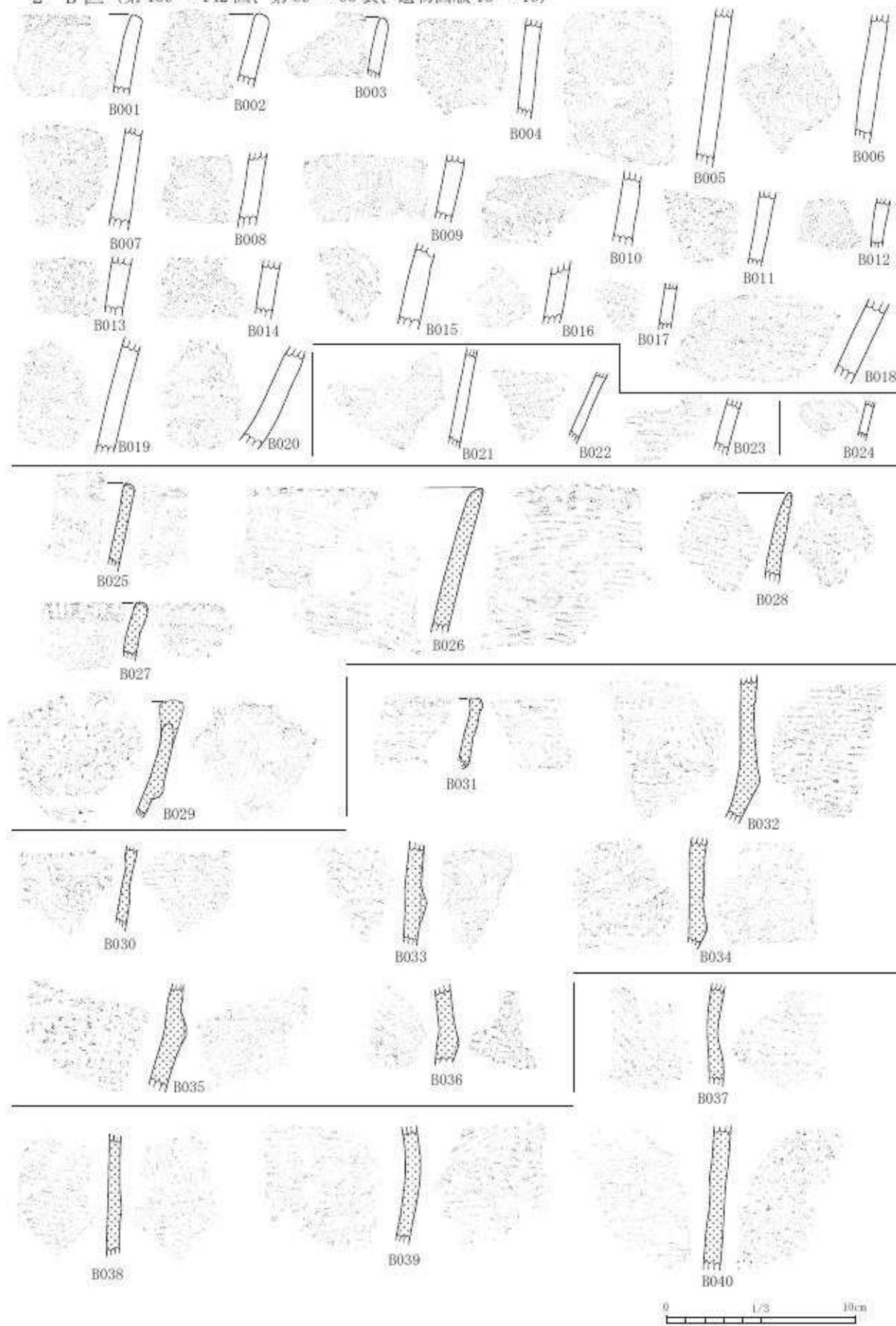
第57表 A区遺構外出土古銭観察表

遺物番号	日記	種類	器種	直径	孔径	重量	断形・穿孔の特長	備考
A77	A区表探 古銭	古銭	平安末 後	2.1	0.8	2.8	通存状況良好。背面には背済荷。初時代 1863年	

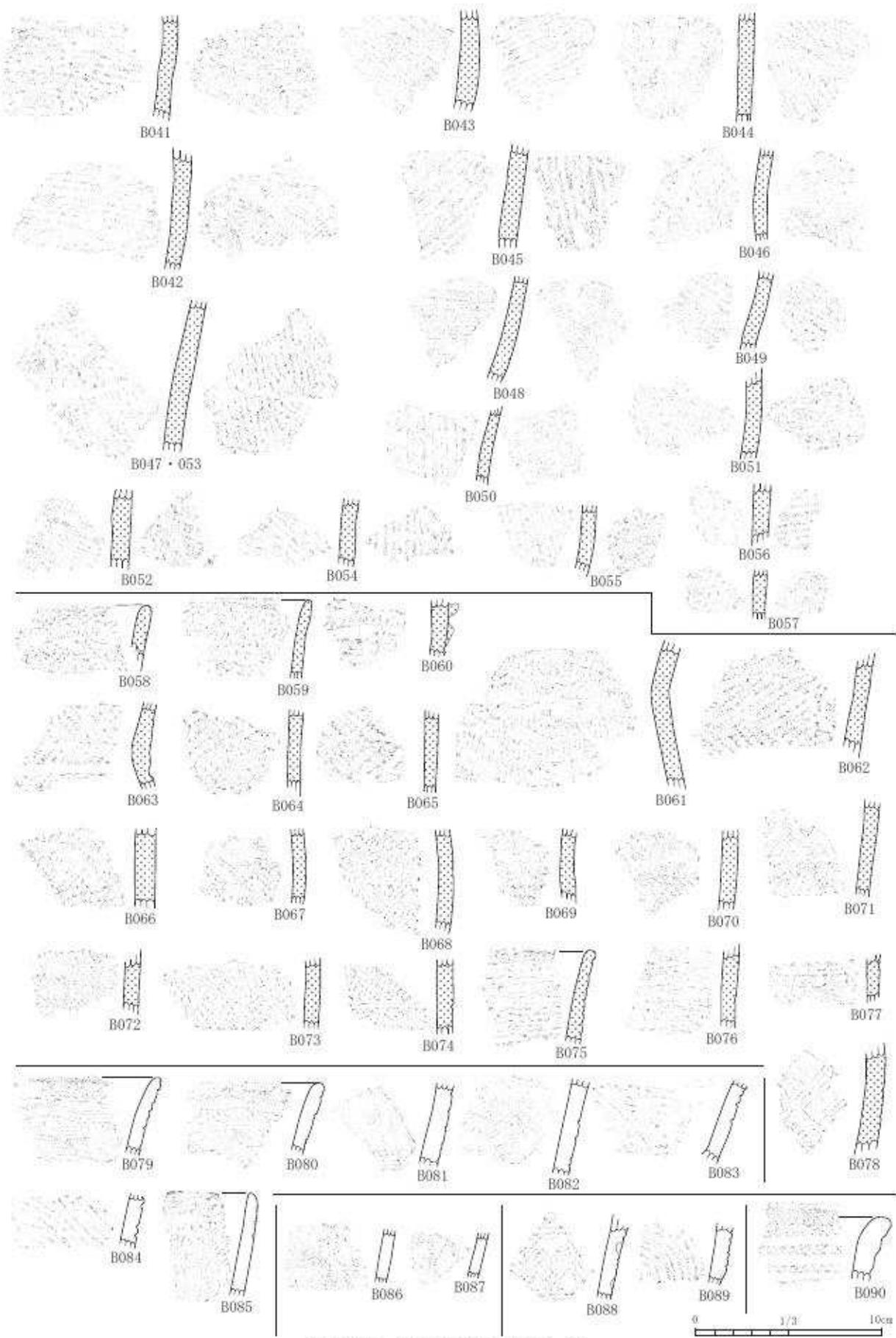
第58表 A区遺構外出土石器観察表

遺物番号	日記	種類	器種	縦	横	厚さ	断形・精神性の特長	重量(g)	備考
A78	A区表探	石製品	刮片	3.8	3.5	0.5	小形の内部に打撃を加え、刮片を剥がすもので、方形に近い刮片。表面には苔生が残る。材質は硅質頁岩。	—	

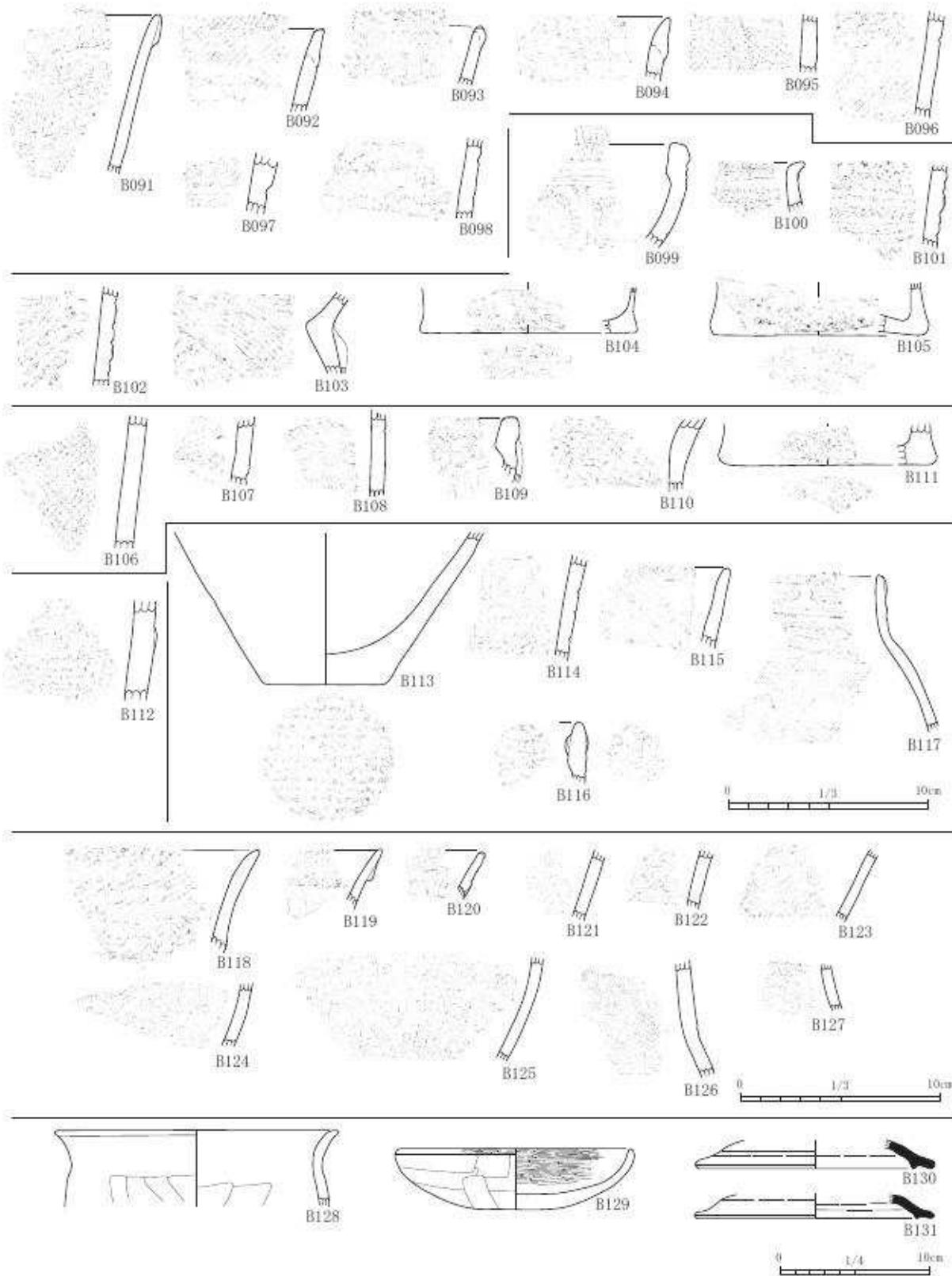
## 2 B区(第139～142図、第59～66表、遺物図版13～15)



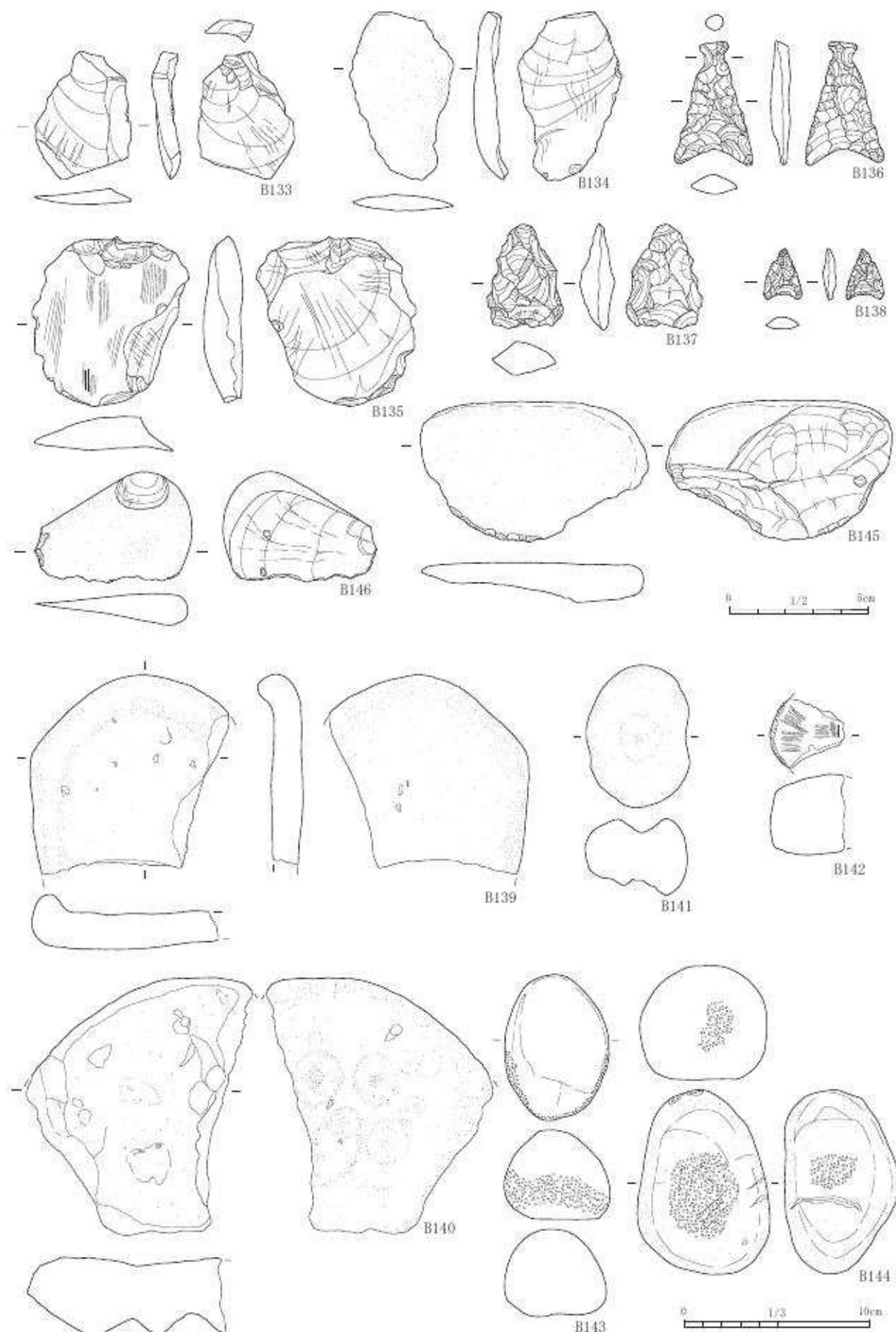
第139図 B区遺構外出土遺物 (1)



第140図 B区遺構外出土遺物（2）



第141図 B区遺構外出土遺物（3）



第142図 B区遺構外出土遺物 (4)

第59表 B区遺構外出土縄文土器観察表(1)

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	高さ	断面・支脚・窓孔	型式	保存状況	焼成	色調	断面上	重量(g)	備考
B001	B区表採 Gr. Jb	縄文土器	深鉢	—	—	—	やや外反する口縁部の破片。 口唇部は平坦になる。外周横 方向に粗いへき削り。後ナギ。 内面ナギ。	天矢場式 口縁部破片	良好	内外面 108R7/1に赤い黄櫻 外面 108R7/3に赤い黄櫻	白色粒子少々。黒 母微量	48.9		
B002	B区S106 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	やや外反する口縁部の破片。 口唇部は平坦になる。外周横 方向に粗いへき削り。後ナギ。 内面ナギ。	天矢場式 口縁部破片	良好	内面 108R5/2灰黄櫻 外面 108R7/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	24.8		
B003	B区 S101 中層	縄文土器	深鉢	—	—	—	やや外反する口縁部の破片。 口唇部はやや外張りになる。 外周横方向に粗いへき削り。 後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 口縁部破片	良好	内面 108R5/2灰黄櫻 外面 108R7/1に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	31.9		
B004	B区 S106 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	やや外反する側上半部の破 片。外周横方向に粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 側部破片	良好	内面 108R4/1捲戻 外面 108R7/1に赤い黄櫻	茶母、スカリア - 白色粒子微量	38.9		
B005	B区 S116 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の側上半部の粗 いへき削り。後ナギ。内 面横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 側部破片	良好	内面 108R7/2に赤い黄櫻 外面 108R7/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	79.3		
B006	B区 S101 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	やや外反する口縁部の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 口縁部破片	良好	内面 108R7/1に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	32.5		
B007	B区 S121 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R7/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	30.2		
B008	B区 S114 中層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R6/3に赤い黄櫻 外面 7.5MR6/6捲	白色粒子多々。黒 母微量	24.5		
B009	B区 S106 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R6/3に赤い黄櫻 外面 108R7/1に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	31.3		
B010	B区表採 Gr. Jb	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R6/3に赤い黄櫻 外面 108R7/1に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	32.3		
B011	B区 S123 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R6/4に赤い黄櫻 外面 108R7/4に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	18.4		
B012	B区 S102 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R5/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	10.4		
B013	B区 S114 中層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R5/2灰黄櫻 外面 7.5MR6/4に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	19.3		
B014	B区表採 Gr. Jb	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R7/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	23.7		
B015	B区 S123 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R6/3に赤い黄櫻 外面 108R7/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	26.8		
B016	B区 S106 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R6/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	12.2		
B017	B区 S102 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R5/2灰黄櫻 外面 108R7/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	12.9		
B018	B区表採 Gr. Jb	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R6/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	61.2		
B019	B区 S114 中層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R5/3に赤い黄櫻 外面 108R6/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	38.1		
B020	B区表採 Gr. Jb	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立気味の胸底下半の破 片。外周横方向の粗いへき削 り。後ナギ。内面ナギ。	天矢場式 胸底破片	良好	内面 108R7/3に赤い黄櫻 外面 108R6/3に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	29.4		
B021	B区表採 Gr. Jb	縄文土器	深鉢	—	—	—	胸下部の資料。頂に上る粗 い骨突がつくなら。外周は 削りの後、修理が剥落して細 かな気泡状の穴が多数見られ る。内面は剥落。	三戸式 側部破片	良好	内面 108R7/1に赤い黄櫻 外面 108R6/1に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母少量	22.8		
B022	B区 S123 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	胸下部の資料。頂に上る粗 い骨突がつくなら。外周は 削りの後、修理が剥落して細 かな気泡状の穴が多数見られ る。内面は剥落。	三戸式 側部破片	良好	内面 108R7/1に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	11.9		
B023	B区 S114 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	胸下部の資料。頂に上る粗 い骨突がつくなら。外周は 削りの後、修理が剥落して細 かな気泡状の穴が多数見られ る。内面は剥落。	三戸式 側部破片	良好	内面 108R7/1に赤い黄櫻	白色粒子多々。黒 母微量	33.8		
B024	B区 S114 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	胸下部の資料。頂に上る粗 い骨突がつくなら。外周は剥 落して底が丸くなる。	田尻式 側部破片	良好	内面 108R6/1に赤い黄櫻	茶母微量	4.2		
B025	B区 S101 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立する口縁部。口唇部に斜 角を有す。内外面剥落。	子母口式 口縁部破片	良好	内面 108R7/1に赤い黄櫻 外面 108R7/4に赤い黄櫻	白色粒子少々。黒 母微量	13.9		
B026	B区表採 Gr. Jb	縄文土器	深鉢	—	—	—	直立する口縁部。やや外側を 口唇部に斜角を有す。内外面 剥落。	子母口式 口縁部破片	良好	内外面 108R7/1に赤い黄櫻	鐵錫銅入微量。黑 色粒子多々。黒母微量	86.9		
B027	B区 S115 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	やや外反する口縁部。口唇部 に斜角を有す。内外面剥落。	子母口式 口縁部破片	良好	内面 108R7/1に赤い黄櫻 外面 108R7/3に赤い黄櫻	鐵錫銅入微量。白 色粒子多々。黒母微量	13.9		
B028	B区 S116 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	やや外反する口縁部。口唇部 に斜角を有す。内外面剥落。	子母口式 口縁部破片	良好	内面 108R7/1に赤い黄櫻 外面 108R6/3に赤い黄櫻	鐵錫銅入微量。白 色粒子多々。黒母微量	18.8		

第60表 B区遺構外出土縄文土器観察表(2)

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	高さ	断面・支撑・置界面	型式	保存状況	焼成	色調	断面上	重量(g)	備考
B029 B区 S101N037	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縦状を有する浅い口縁部。表面は滑り感有る。口辺は刷毛との間に段差有り。口縁部には横溝が複数列に沿って複数箇所に現れる。下縁の段の上には細みが観察される。	子母口式	口縁破片	良好	内外面 101R7/1に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子・雲母少量	44.3	
B030 B区 S101 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁直下の瓶口。外縁には円管の刺突が施され、底端による内縁の凹部が施された内縁に舟形文が刻まれた列が複数列に現れる。底足は舟形。内縁は横方向の柔軟。	舟形底台式	胴部破片	良好	内面 101R7/1に赤い黄褐色 外面 101R8/1に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子・雲母多々	37.2		
B031 B区表探 Gr. J10	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁直下の瓶口。底部分には刻み。下縁には舟形文が刻み、支脚が横走する。内縁は柔軟。	舟形底台式	胴部破片	良好	内外面 7.5YR6/4に赤い燒	鐵斑少々多い、白色粒子・雲母少量、エコニア微量	34.0		
B032 B区 S1143 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	口縁直下の瓶口。底部分には刻み。内縁の凹部を斜め方向に舟形文が刻まれた列が複数列に現れる。底足は舟形。内縁は横方向の柔軟。	舟形底台式	胴部破片	良好	内面 101R7/1に赤い黄褐色 外面 8R5/4に赤い赤褐色	鐵斑微量、白色粒子・黒色粒子少量、雲母微量	33.5		
B033 B区表探 南文土器	深鉢	—	—	—	—	口縁直下の瓶口。底部分には刻み。段の上には舟形文が刻み、支脚が横走する。内縁は柔軟。	舟形底台式	胴部破片	良好	内面 7.5YR6/4 横 外面 101R4/2 黑褐色	鐵斑多量、白色粒子多々、雲母微量	21.8		
B034 B区表探 縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口縁直下舟形底台の瓶口。底部分には刻み。段の上には舟形文が刻まれた列が複数列に現れる。内縁には舟形文が刻まれた列が複数列に現れる。内縁は柔軟。	舟形底台式	胴部破片	良好	内外面 7.5YR6/4に赤い褐	白色粒子多い、黑色粒子少々、雲母微量	41.1		
B035 B区 S106 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	底部の瓶口で器底は剥離が著しく。外縁は不明。底部分には刻みが施される。内縁は僅かに膨らんで横方向の刺突が複数列に現れる。	舟形底台式	胴部破片	不良	内表面 101R7/4に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子少量、雲母微量	46.1	
B036 B区 S106 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	底部の瓶口。段には刻みが施される。底面は内外共に赤い条痕。	舟形底台式	胴部破片	良好	内外面 101R7/3に赤い黄褐色	鐵斑やや多い、白色粒子・白色粒子少々、雲母微量	16.9	
B037 B区 S104M023	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内外表面に舟形文。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内外面 7.5YR6/4に赤い燒	鐵斑微量、白色粒子多々、雲母微量	26.8	
B038 B区表探 南文土器	深鉢	—	—	—	—	—	外縁横方向。内縁横方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 101R6/3に赤い黄褐色 外面 101R7/1に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子・雲母微量	26.5	
B039 B区 S109 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内表面横方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 101R7/4に赤い黄褐色 外面 5YR6/4に赤い黄褐色	鐵斑やや多い、白色粒子多い	47.3	
B040 B区表探 Gr. HD	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	胴下部の瓶口。内外表面に横方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 5YR6/4 黑褐色 外面 5YR5/6 明赤褐色	鐵斑やや多い、白色粒子多い、雲母微量	47.6	
B041 B区表探 Gr. P2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	外縁条痕、内縁ナメ。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内外面 101R7/4に赤い黄褐色	鐵斑多い、白色粒子多々、雲母微量	52.4	
B042 B区表探 Gr. P2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内外表面に斜め方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 101R7/1 横 外面 7.5YR6/6 横	鐵斑やや多い、白色粒子微量	43.4	
B043 B区 S108 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内外表面に横方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 101R7/3に赤い黄褐色 外面 7.5YR6/4に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子多々	42.9	
B044 B区表探 南文土器	深鉢	—	—	—	—	—	内外表面に斜め方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 7.5YR6/6 横 外面 101R5/3に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子多々、雲母微量	44.8	
B045 B区 S109M016	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内外斜め方向。内縁横方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内外面 101R6/4に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子多々、白色斜面質物質微量含む	38.0	
B046 B区 S102 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内外表面に横方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内外面 101R6/3に赤い黄褐色	鐵斑多々、白色粒子多い、雲母微量	31.3	
B047 B区 S104 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	外縁斜め方向、内縁横方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内外面 7.5YR6/4に赤い横	鐵斑微量、白色粒子少々、雲母微量	30.7	347 - 51 上同一個 6
B048 B区 S111 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	外縁に赤い斜め方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 7.5YR6/4 横灰 外面 7.5YR6/6 横	鐵斑微量、白色粒子多々、雲母微量	18.3	
B049 B区 S104 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	外縁に赤い斜め方向の柔軟。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 101R7/4に赤い黄褐色 外面 101R8/2 黑褐色	鐵斑微量、白色粒子多々、白色粒子多々	19.0	
B050 B区 S108M003	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	外縁斜め方向の柔軟。内縁ナメ。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 101R6/4に赤い黄褐色 外面 101R8/2 黑褐色	鐵斑微量、白色粒子多々、雲母微量	27.3	
B051 B区 S104 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	底部に赤い瓶口。外縁斜め方向の柔軟、内縁ナメ。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 5YR6/6 明赤褐色 外面 101R8/1に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子多々、雲母微量	24.2	
B052 B区 S104 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	清潔に赤い瓶口。外縁斜め方向の柔軟。内縁ナメ。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 101R6/4に赤い黄褐色 外面 101R8/4に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子多々、雲母少量	24.2	
B053 B区表探 南文土器	深鉢	—	—	—	—	—	透視に赤い瓶口。外縁斜め方向の柔軟。内縁ナメ。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 5YR6/6 横	鐵斑微量、白色粒子多々、エコニア微量	15.9	
B054 B区 S102 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	底部に赤い瓶口。外縁斜め方向の柔軟。内縁ナメ。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 7.5YR6/4に赤い横 外面 101R5/3に赤い黄褐色	鐵斑微量、白色粒子少々、エコニア微量	15.3	
B055 B区 S114 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内外斜め方向の柔軟。内縁ナメ。	広葉茅山式	胴部破片	良好	内面 101R7/4に赤い黄褐色 外面 7.5YR6/6 横	鐵斑微量、白色粒子少々、雲母微量	8.6	
B056 B区 S122 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	外縁斜め方向の柔軟。内縁ナメ。	里高式	口縁破片	良好	内面 101R7/4に赤い黄褐色 外面 101R8/1 黑褐色	鐵斑微量、白色粒子少々、雲母微量	21.8	
B057 B区 S104 —底	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	外縁斜め方向の柔軟。内縁ナメ。	里高式	口縁破片	良好	内面 101R7/4に赤い黄褐色 外面 7.5YR6/6 横	鐵斑微量、白色粒子少々、雲母微量	20.5	

第61表 B区遺構外出土縄文土器観察表(3)

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	高さ	断面・支脚・窓孔	型式	保存状況	焼成	色調	寸上	重量(g)	備考
B060 Gr.24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口縁部底下の破片であろう。 窓孔には車輪印の跡がある。	黒浜式	口邊破片 下破片	良好	内面 10811/2 塵黄褐 外面 10812/3 に赤い黄褐	鐵錫多量入、白色粒子少量、雲母微量	34.8	
B061 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	側面山筋の破片。單鋸E.周文。	黒浜式	側面破片	良好	内外面 10813/1 オリーブ色	鐵錫多量入、白色粒子少量、雲母微量	95.8	
B062 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	単鋸LRをE.の斜め縄文を模倣する。	黒浜式	側面破片	良好	内外面 10817/3 に赤い黄褐	鐵錫多量、白色粒子多量、雲母微量	47.9	
B063 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	側面山筋の破片で側面斜面には斜めの目神痕が施す。単鋸LRとE.の別物縄文を模倣する。	黒浜式	側面破片	良好	内面 10816/3 に赤い黄褐 外面 10813/1 黒褐色	鐵錫多量、白色粒子多量、雲母微量	30.7	
B064 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	単鋸LRをE.の斜め縄文を模倣する。	黒浜式	側面破片	良好	内面 10816/3 に赤い黄褐 外面 10816/3 に赤い黄褐	鐵錫多量、白色粒子少量、雲母微量	21.3	
B065 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	単鋸LRとE.の斜め縄文を模倣する。	黒浜式	側面破片	良好	内外面 10817/3 に赤い黄褐	鐵錫多量、白色粒子少量、雲母微量	21.0	
B066 B区表探 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	付加突起1種E.周文。	黒浜式	側面破片	良好	内外面 10817/3 に赤い黄褐	鐵錫多量、白色粒子少量、雲母微量	32.9	
B067 B区表探 Gr.64	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	付加突起1種E.周文。	黒浜式	側面破片	良好	内面 10816/3 に赤い黄褐 外面 7.5BB5/4 に赤い黄褐	鐵錫多量、白色粒子多量、雲母微量	16.3	
B068 B区表探 Gr.H12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	単鋸E.周文。	黒浜式	側面破片	良好	内面 10816/3 に赤い黄褐 外面 5BB5/4 に赤い黄褐	鐵錫多量、白色粒子多量	27.8	
B069 B区S106 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	単鋸E.周文。	黒浜式	側面破片	良好	内面 10812/2 黑褐色 外面 7.5BB5/6 明褐色	鐵錫多量、白色粒子少量	12.2	
B070 B区S130 一筋	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	軸節E.周文。	黒浜式	側面破片	良好	内外面 10814/2 黑褐色	鐵錫多量、白色粒子不多	21.0	
B071 B区S105 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	単鋸LR周文。	黒浜式	側面破片	良好	内面 5BB5/8 例半面 外面 7.5BB5/6 明褐色	鐵錫多量、白色粒子多量、雲母微量	23.5	
B072 B区S110 一筋	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	軸節E.周文。	黒浜式	側面破片	良好	内面 10816/4 に赤い黄褐 外面 7.5BB5/4 に赤い黄褐	鐵錫多量、白色粒子少量	17.3	
B073 B区S101 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	直線的反復E.周文。	黒浜式	側面破片	良好	内面 5BB5/4 に赤い黄褐 外面 10812/2 黑褐色	鐵錫多量、白色粒子少量、雲母微量	33.3	
B074 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	付加突起1種E.周文の範囲。 平行波線による筋肋充填。	黒浜式	側面破片	良好	内外面 10816/3 に赤い黄褐	鐵錫多量、白色粒子少量、雲母微量	19.7	
B075 B区S106 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	直線部は横ぞのに外反して傾く。筋肋は横方向に波状の集合状態が描かれている。	黒浜式	側面波状片	良好	内外面 10817/3 に赤い黄褐	鐵錫少量、白色粒子多量	39.9	
B076 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	横方向に波状の集合状態が描かれる。	黒浜式	側面波状片	良好	内外面 10816/4 に赤い黄褐	鐵錫多量、白色粒子多量	24.2	
B077 B区S106 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	横方向に波状の集合状態が描かれる。	黒浜式	側面波状片	良好	内外面 7.5BB5/6 棕褐色	鐵錫少量、白色粒子多量	18.5	
B078 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	表面には不平な凹溝に土砂 等が付着する。	黒浜式	側面破片	良好	内外面 10816/4 に赤い黄褐	鐵錫多量、雲母微量	35.0	
B079 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口縁部に凸出形状が1筋沿 り。以下に平行波線に上右縫 せんの曲線文様が描かれる。 他處には無文系が施されている。	浮島I式	口縁部破片	良好	内外面 7.5BB5/4 に赤い黄褐	雲母少量、スコリア・白色粒子微量	30.4	
B080 B区表探	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	平行波線による凸出文様(肋 骨文)が施される。	浮島I式	側面破片	良好	内外面 7.5BB5/4 に赤い黄褐	雲母・白色粒子多量、黑色粒子微量	20.7	
B081 B区S125 一筋	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	平行波線による凸出文様(肋 骨文)が施される。	浮島I式	側面破片	良好	内面 10816/1 に赤い黄褐 外面 10815/1 に赤い黄褐	白色粒子多量、雲 母少量	21.2	
B082 B区S110 亂方	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	平行波線による凸出文様(肋 骨文)が施される。	浮島I式	側面破片	良好	内面 5BB4/3 に赤い黄褐 外面 10811/1 に赤い黄褐	素地・白色粒子少 量	34.1	
B083 B区表探 Gr.64	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	平行波線による凸出文様(肋 骨文)が施される。	浮島I式	側面破片	良好	内面 5BB4/1 に赤い黄褐 外面 5BB4/1 に赤い黄褐	白色粒子少量、黑色 粒子・雲母微量	28.4	
B084 B区S111 中層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	平行波線による凸出文様(肋 骨文)が施される。	浮島I式	側面破片	良好	内面 5.5BB4/6 棕褐色 外面 5.5BB4/4 に赤い黄褐	黑色粒子多量、白色 粒子少量、雲母微量	33.5	
B085 B区S114 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	竹管の先端に上る網状斜め 筋に沿り施される。地面上 はE.の繩文。	浮島I式	口縁部破片	良好	内面 10812/1 に赤い黄褐 外面 10812/2 黑褐色	白色粒子少量、雲 母微量	22.0	
B086 B区S123 —	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	アダガラ属の凹凸波線による 網状文が施される。	浮島II式	側面破片	良好	内外面 10816/4 に赤い黄褐	白色粒子少量	15.2	
B087 B区S116 下層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	アダガラ属の凹凸波線による 網状文が施される。	浮島II式	側面破片	良好	内面 5.5BB5/6 棕褐色 外面 5.5BB5/4 に赤い黄褐	白色粒子少量、雲 母微量	7.0	
B088 B区表探 Gr.P2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	集合波線により三鈴形の文様 を描き三角形の強筋文が交叉 に並ぶ。	十三音板式	側面破片	良好	内面 10815/3 に赤い黄褐 外面 5.5BB5/6 棕褐色	白色粒子少量、黑色 粒子・雲母微量	18.3	
B089 B区表探 Gr.P2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	集合波線により円形の文様が 描かれている。	十三音板式	側面破片	良好	内面 7.5BB5/1 棕褐色 外面 10817/2 に赤い黄褐	白色粒子多い、ス コリア微量	14.9	
B090 B区S106 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	外反する口縁部。口部底面に 車輪印の跡を施した後、中擦切 痕が施されている。	中擦切痕式	口縁部破片	良好	内外面 10816/3 に赤い黄褐	白色粒子少量、雲 母微量	29.2	
B091 B区 SS120602	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	直立気味の口縁部。口部底面に 車輪印が施される。界面には網状 文が施される。	下小野式	口縁部破片	良好	内外面 10815/3 に赤い黄褐	白色粒子多い、雲 母微量	35.2	
B092 B区S104 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	中擦切痕部より折り返し部分も 含め外縁にはE.の繩文が施 される。	下小野式	口縁部破片	良好	内外面 10817/3 に赤い黄褐	白色粒子少量	28.9	
B093 B区S123 上層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内湾気味に立つ口縁。口部底面に 車輪印が施される。界面には網状 文が施されるが取扱は不規則。	下小野式	口縁部破片	良好	内外面 10817/3 に赤い黄褐	白色粒子多い、雲 母微量	17.7	

第62表 B区遺構外出土縄文土器観察表(4)

遺物番号	性質	樹脂	漆種	口径	底径	厚面	表面・文様・常形	型式	保存	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
B034 B区表探 石-F2	縄文土器	漆付	—	—	—	—	外斜内反丸形の口縁部破片。 胎面に網文は施されておらず。 縦方向の車輪跡が施文される。	下小野式 片	口縁288E 片	良好	内面 10BS5/2 灰黄褐 外面 10BS1/2 灰黄褐	白色粒子少量、漆 母微量	21.8	
B035 B区 S103066	縄文土器	漆付	—	—	—	側縁にはIRの縫文が施文され、 S字結節縫文が横方向に 施文される。	下小野式 片	口縁部破 片	良好	内面 10BS5/2 灰黄褐 外面 10BS1/2 灰黄褐	白色粒子少量	22.3		
B036 B区 S104 上層	縄文土器	漆付	—	—	—	側縁にはIRの縫文が施文され、 S字結節縫文が横方向に 施文される。	下小野式 片	口縁部破 片	良好	内外面 10BS7/4 に赤い黄褐	白色粒子微量	24.6		
B037 B区 S121 上層	縄文土器	漆付	—	—	—	地文はない。IR頂点付近が 焼成文される。	下小野式 片	胸部破片	良好	内外面 10BS5/2 に赤い黄褐	白色粒子微量	16.0		
B038 B区 S116 上層	縄文土器	漆付	—	—	—	地文はない。S字結節縫文が S段施文される。	下小野式 片	胸部破片	良好	内面 7.5VS3/4 に赤い黄褐 外面 5VS3/6 未焼	白色粒子多い	30.8		
B039 B区 S118 上層	縄文土器	漆付	—	—	—	口縁は斜やかに内凹する。口 縁部は横方向の窓孔。口縁部 にはIR縫文が施文される。 口縁部は縫合部には細かな舟押 文になり円形の圧痕が施され 区別と区別との間に土三角形の 沈割が施される。	五瓣ヶ古 末一 阿玉台1 式	口縁部破 片	良好	内面 5VS3/4 未焼 外面 5VS3/6 未焼	白色粒子多い。白色 母微量	38.6		
B040 B区表探	縄文土器	漆付	—	—	—	側面で開く口縁部の縫合。 口縁部にはC字の舟押文が施 文される。	五瓣ヶ古 末一 阿玉台1 式	口縁部破 片	良好	内面 2.5VS3/2 灰灰黄 外面 10BS6/1 に赤い黄褐	白色粒子少々、漆 母微量	7.5		
B041 B区 S115 —階	縄文土器	漆付	—	—	—	側縁に沿って舟押文に近い 平行沈割が施文される。地文は 単頭IR縫文。	玉蜀黍 白 阿玉台1 式	胸部破片	良好	内面 10BS5/1 に赤い黄褐 外面 5VS3/6 未焼	白色粒子多い	21.8		
B042 B区表探	縄文土器	漆付	—	—	—	舟押文に近い平行沈割が施文 される。	玉蜀黍 白 阿玉台1 式	胸部破片	良好	内面 10BS5/4 に赤い黄褐 外面 10BS2/1 未焼	白色粒子多い。漆 母微量	21.0		
B043 B区 S120— 粘	縄文土器	漆付	—	—	—	舟頭部の横口縁部下であろ うか。漆付文の跡跡が見られ る。地文は剪鉢文。	玉蜀黍 白 阿玉台1 式	胸部破片	良好	内面 10BS5/6 黄褐 外面 10BS5/4 に赤い黄褐	白色粒子少々	44.8		
B044 B区 S115 —階	縄文土器	漆付	—	—	—	手底。薄手で舟文。	十三者提 一 玉蜀黍 白	胸部破片	良好	内外面 10BS6/4 に赤い黄褐	白色粒子、紫斑微 量	14.1		
B045 B区 S125 — 43	縄文土器	漆付	—	—	—	手底。側面は不均で削して並 つもので、無文。	十三者提 一 玉蜀黍 白	胸部破片	良好	内外面 10BS6/3 に赤い黄褐	白色粒子少々	30.1		
B046 B区 S105 上層	縄文土器	漆付	—	—	—	胸部破片。太い沈割による 横状の文様が施される。地文 は剪鉢文。	加賀利玉	胸部破片	良好	内面 2.5VS3/3 黄褐	白色粒子多い。漆 母微量	31.1		
B047 B区 S105 下層	縄文土器	漆付	—	—	—	胸部破片。太い沈割による 横状の文様が施される。地文 は剪鉢文。	加賀利玉	胸部破片	良好	内面 10VS2/1 未焼 外面 10VS6/3 に赤い黄褐	白色粒子多い。漆 母微量	11.1		
B048 B区 S114 —階	縄文土器	漆付	—	—	—	胸部破片。太い沈割による 横状の文様が施される。地文 は剪鉢文。	加賀利玉	胸部破片	良好	内面 5VS5/6 未焼 外面 7.5VS3/4 に赤い黄褐	紫斑多い。白色 粒子少々	14.5		
B049 B区 S116 下層	縄文土器	漆付	—	—	—	溝呂みの後縁に沿って平行沈 割が施されている。手干は單頭 IR縫文。	加賀利玉	胸部破片	良好	内外面 7.5VS5/4 に赤い黄褐	白色粒子多い。白色 母微量	14.4		
B050 B区 S106 上層	縄文土器	漆付	—	—	—	手干リバーサイドの横縫合模 型。地文は単頭IR縫文。	加賀利玉	胸部破片	良好	内外面 5VS5/4 に赤い黄褐	白色粒子少々、漆 母微量	27.8		
B051 B区 S116 上層	縄文土器	漆付	—	—	—	地文は手干で胸部は内傾後縁 に立つ。胸前には單頭IR縫文 記。	加賀利玉	胸部破片	良好	内外面 5VS5/4 に赤い黄褐	白色粒子少々。漆 母微量	18.8		
B052 B区 S105 下層	縄文土器	漆付	—	—	—	口縫部文様後縁下から胸部上 手干記。太い沈割による横 状の文様が施される。地文は無文。	加賀利玉	胸部破片	良好	内面 5VS5/4 に赤い黄褐 外面 7.5VS5/4 に赤い黄褐	白色粒子多い	47.3		
B053 B区表探	縄文土器	漆付	—	—	—	地文は手干で胸部は直線的に 斜く、底面には2箇所背腹が付 される。器頭は無文。	加賀利玉	底部	良好	内面 5VS5/6 横 外面 7.5VS6/4 に赤い黄褐	白ヨリアリ。紫斑 微量	39.6.8		
B054 B区 S120— 粘	縄文土器	漆付	—	—	—	地文地文に平行沈割が施され る。	加賀利玉	胸部破片	良好	内面 7.5VS4/1 横 外面 7.5VS6/4 に赤い黄褐	白色粒子少々、漆 母微量	23.8		
B055 B区 S107 — 粘	縄文土器	漆付	—	—	—	手干直線的に開く口縫。 無文。	加賀利玉	胸部破片	良好	内面 10VS6/1 に赤い黄褐 外面 7.5VS6/4 に赤い黄褐	白色粒子少々。紫 斑微量	20.1		
B056 B区 S114	縄文土器	漆付	—	—	—	胸部直線的に開く口縫。 無文。	加賀利玉	胸部破片	良好	内面 10VS6/1 に赤い黄褐 外面 7.5VS6/4 に赤い黄褐	白色粒子多い	8.4		
B057 B区 S102 下層	縄文土器	漆	—	—	—	口縫部は外反して開く。胸部 は手干で漆が剥がれるものと思 われる。口縫には工字状の跡 みが施され、胸部には練密陶 質が施文される。胎土中の砂 粒は見つからない。	吉海3次	口縫上り 胸部上半 の破片	良好	内面 7.5VS6/6 横 外面 10VS1/2 未焼	白色粒子少々	30.3	2月保合	

第63表 B区遺構外出土弥生土器観察表(1)

遺物番号	性質	樹脂	漆種	口径	底径	厚面	表面・文様・常形	型式	保存	焼成	色調	胎土	重量(g)	備考
B118 B区 S120 — 粘	弥生土器	漆	—	—	—	—	口縫は大きめ外反して開き、 折り返される。口近部には付 加条第1筋の網文が施文され る。	上野南2 式	口縫288E 片	良好	内面 10VS6/2 灰黄褐 外面 10VS7/1 に赤い黄褐	白色粒子少々、漆 母微量	36.0	
B119 B区 S106 上層	弥生土器	漆	—	—	—	—	外反する口縫部で折り返され る。折り返し部分は単頭IR が施文される。	臼井南 式	口縫288E 片	良好	内面 10VS6/4 に赤い黄褐 外面 7.5VS6/6 横	白色粒子少々	6.5	
B120 B区 S121 上層	弥生土器	漆	—	—	—	—	外反する口縫部で折り返され る。折り返し部分には刻みが 施文される。口近には単頭IRが 施文される。	臼井南 式	口縫部破 片	良好	内外面 5VS6/6 横 外面 7.5VS6/4 に赤い黄褐	白色粒子少々	3.7	

第64表 B区遺構外出土弥生土器観察表(2)

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	高さ	表面	基部・支脚・窓孔	形式	残存	焼成	色調	胎土	重積(g)	備考
B121	B区 S104 下層	弥生土器	甕	—	—	—	縦縫の破片。幾文筋の下に二字結文が造り以下はの縫、縫文が造文される。	臼井窯 式キ	口縫跡破片	良好	内外面 10186/4 に赤い黄褐色	白色粒子少量、表面・現色粒子微量	6.5		
B122	B区 S104N02	弥生土器	甕	—	—	—	縦縫の破片。幾文筋の下に二字結文が造り以下はの縫、縫文が造文される。	臼井窯 式キ	口縫跡破片	良好	内面 10186/4 に赤い黄褐色 外側 10186/6 暗赤	白色粒子少量、表面微量	9.0		
B123	B区表探 弥生土器	甕	—	—	—	付加条文と縫文を交叉する。	上横吉	胴部破片	良好	内外面 10187/4 に赤い黄褐色	白色粒子多め	14.4			
B124	B区 S105 下層	弥生土器	甕	—	—	—	縫や内側に内溝がある。表面には付加条文1種の幾文が縫に施文される。	上横吉	胴部破片	良好	内面 T-3136/6 暗赤 外側 10187/1 に赤い黄褐色	白色粒子多め、青斑少々	10.5		
B125	B区 S105N01	弥生土器	甕	—	—	—	縫縫の下に縫や内溝がある。表面には付加条文1種の幾文が縫に施文される。	上横吉	胴部破片	良好	内面 10187/4 に赤い黄褐色 外側 10187/1 褐灰	白色粒子・青斑微量	47.6		
B126	B区 S106 中層	弥生土器	甕	—	—	—	縫縫の下に縫や内溝がある。表面には付加条文1種の幾文が縫に施文される。	上横吉	胴部破片	良好	内面 10187/4 に赤い黄褐色 外側 10187/1 褐灰	白色粒子・青斑微量	26.3		
B127	B区 S107 下層	弥生土器	甕	—	—	—	縫文張底の破片。縫文が縫に施文される。	十王台	頭部破片	良好	内外面 10186/6 稀黄褐色	白色粒子少々多い、青斑微量	5.9		

第65表 B区遺構外出土古代遺物観察表

遺物番号	日記	種類	器種	口径	底径	高さ	表面	基部・支脚・窓孔	形式	残存	焼成	色調	胎土	重積(g)	備考
B128	B区表探 Gr. J10	土師器	甕	(18.7)	(15.0)	—	縫縫の下に縫や内溝がある。縫縫は内外表面に施され縫縫は内側にナメが施文される。	8世紀	口縫跡 1/2	良好 二次焼成 なし	内面 10185/3 に赤い褐色 外側 T-3136/6 暗赤	白色粒子・黒色粒子・淡母・白色粘物質微量	118.9		
B129	B区表探 Gr. J10	土師器	杯	(16.0)	(11.0)	水注	縫縫は丸底、底部は縫や内溝で内側に目字がある。縫縫は内外表面にミガキ、底部はヘラケタリ、内側もヘラケタリ。	T世紀	1/2	良好 二次焼成 なし	内外面 10185/3 に赤い黄褐色	小一中等多め、黑色・スコリア小量	100.3		
B130	B区表探	羽毛器	蓋	(18.0)	—	(1.8)	縫を有する。クロロ滑脱。天井付近切欠く(クヌギ)。	新治尾 世紀	瓶部破片	良好 二次焼成 なし	内面 上-5197/1 黄褐色	黃石・石英・雲母 等多め	16.3	酸化赤褐色	
B131	B区表探	羽毛器	蓋	(15.7)	—	(1.5)	縫を有する。ロカヨ整削。	新治尾 世紀	瓶部破片	良好 二次焼成 なし	内面 805/3 土成オリーブ 外側 805/3 土成オリーブ	長石・石英・雲母 等多め	8.1		

第66表 B区遺構外出土石器観察表

遺物番号	日記	種類	器種	幅	横	厚さ	特徴・形態の説明					重積(g)	備考
B132	B区 S102 極方一時	右製品	剥片	4.6	3.4	1.0	やや鋸歯の剥片。表皮剥を有するもので、本剥片の剥き取り以前に複数枚の剥片が剥がされていることが判る。材質は柱質白泥。					9.8	
B133	B区 S103 下層	右製品	剥片	6.0	3.6	1.2	内側に有茎を有し、アラットホールを作出した後に縫縫を有している。表面は表皮で、内外表面に一次加工の痕跡は認められない。材質はガラス質白色安山岩。					37.3	
B134	B区 S102N01	右製品	客製石斧	6.1	5.7	1.4	右製石斧の標記品を剥縫より打削を加え、二次利用するものである。剥離は周縫全周に丸削に行なわれており、材質は柱質白泥。					50.2	
B135	B区 S102 封瓦	右製品	石器	4.4	2.8	0.75	右製石斧の標記品を剥縫より打削を加え、二次利用するものである。剥離は周縫全周に丸削を行なわれてあるが、先端部分はスクリーパーとして再利用されたものと考えられる。材質は柱質白泥。					6.7	
B136	B区 S102 封瓦	右製品	石器	3.9	2.7	1.0	形狀は平底三脚形であるが、大きさが石器とした。手で握り手の剥片を用いるもので、剥離は中央部分に多く斜面していらない。ヨウツバクを起こし中央部分が旋状に磨かれる。材質はイマノ。					31.1	
B137	B区 S101N00	右製品	石器	1.9	1.4	0.4	形狀は平底三脚形であるが、大きさが石器とした。手で握り手の剥片を用いるもので、剥離は中央部分に多く斜面していらない。ヨウツバクを起こし中央部分が旋状に磨かれる。表面は平坦で、粗粒な剥離が行なわれている。材質は柱質白泥。					1.8	
B138	B区 S101N00	右製品	石器	1.9	1.4	0.4	圓底三脚形。剥離は緩やかに内溝するもので丸みを帯びた形狀。柄は浅い。材質は柱質白泥。					222.8	
B139	B区表探	右製品	石器	10.8	10.7	1.8	五角形を有するもので、全体に刃部は切断できない。複数に削った後に内側を剥り取って右端としている。刃部は円滑に呈すを呈すを呈し、横様は中央に平行間隔の直江平切にて上げられている。裏面も整列痕が認められることの無い剥離などの作り出しは行なれていない。圓底部側面が欠損しているために全周は剥離できかない。材質は柱質白泥。					606.3	
B140	B区表探	右製品	石器	11.8	12.2	1.9	下下面剥片に欠損するが、ほぼ円形を呈するものと判断される。上面は剥離に因る過度は多く、周縫は円形に整列されている。上面には五角形の曳引跡みみ、裏面には4個の深い圓錐形の孔が穿かれている。材質は安山岩。					151.5	
B141	B区表探	右製品	圓底	7.9	6.6	4.0	指の跡の自然跡を剥離するもので、上下面に凹み、側面も剥離される。周縫に使用痕は認められない。材質は柱質白泥。					68.5	
B142	B区 S102 上層	右製品	磨石	3.8	4.0	4.0	被削により破損しておる。全体の大きさは不明。円錐を用いるもので剥離は直角に作成されるが主となる。先端部分は磨石として用いられる。材質は花崗岩。					297.9	
B143	B区 S102N01	右製品	磨石	7.9	5.6	4.7	底盤が直角と斜形を有する直角底盤で、下端の縫合部に研磨跡を有する。円錐を刃頭にして用いている。刃部には使用による刃二重が確認される。ヨウツバクは付着していない。材質は花崗岩。					606.3	
B144	B区 S102N01	右製品	磨石	9.9	7.2	6.3	自然底を利用するもので、先端が不規則な、下端部を利用して敲打を行なっている。上下両面にも擦かながら底盤が見られる。底盤が直角と斜形を有する直角底盤で、下端の縫合部に研磨跡を有する。材質は花崗岩。					55.1	側面
B145	B区 S102 上層	右製品	石包丁	6.1	8.2	1.4	底盤が円錐に打撃を加え、剥片を笠状剥ぎ抜いた後、底盤を刃頭として用いている。刃部には使用による刃二重が確認される。ヨウツバクは付着していない。材質は花崗岩。					21.9	側面
B146	B区 S102 上層	右製品	石包丁	4.0	5.7	1.1	底盤が円錐に打撃を加え、剥片を笠状剥ぎ抜いた後、底盤を刃頭として用いている。ヨウツバクは付着できない。表面には表面を複数回の加工により二重が確認される。材質は花崗岩。						

## 第6章 まとめ

### 第1節 縄文～弥生時代・古墳時代前期の遺構と遺物について

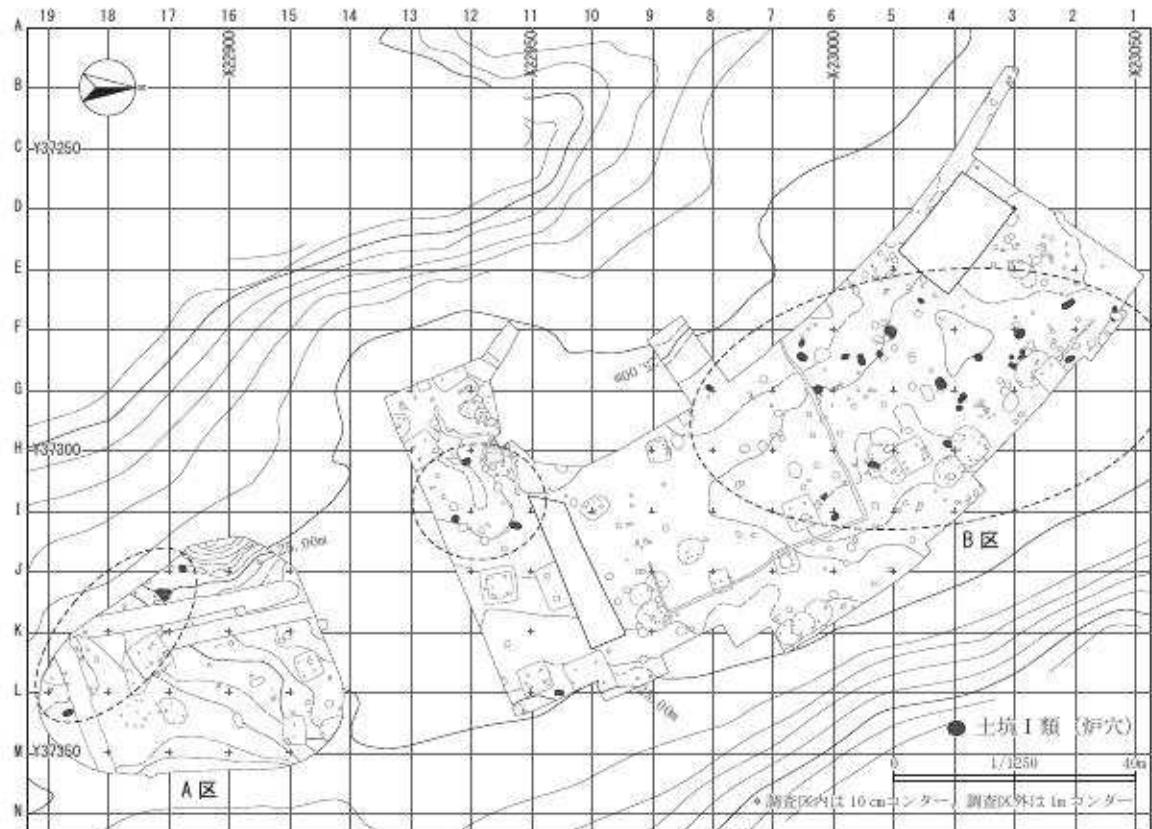
#### 1 縄文時代

##### (1) 早期

本遺跡で出土した縄文時代の遺物のうち土器345点、石器類29点について掲載した。遺物を時期別に見ると、早期では無文土器の平坂式併行天矢場式が33点出土しており、該期の資料がこれだけまとまった出土を示す遺跡は県内でも希有といえる。遺物は厚手で、全体に白色の礫を多量に混入し、外面は粗い斜または横方向のヘラ削りが施され白色砂粒がヘラにより荒く動き、ナデ整形などは見られない。一方、内面がナデで丁寧に整形される資料も見られ、破片から想定される器形は直立気味でやや外反気味に開く口縁で、胴部はやや膨らみをもって斜方向に開く。底部は鋭く尖る尖底で、砲弾形になる。三戸式に近く田戸下層式のように天狗の鼻状に長くはない。

検出された遺構で天矢場式に伴うと判断されるものは明瞭ではない。出土地点はA区よりもB区に集中が見られ、台地の縁辺よりも基部側に多く出土する傾向がある。各遺構の覆土中からの出土が主体であり、土坑中に尖底部のみを出土した遺構SK208があるものの、SI27との重複関係より不合理であり、遺構内に混入した遺物と判断した。

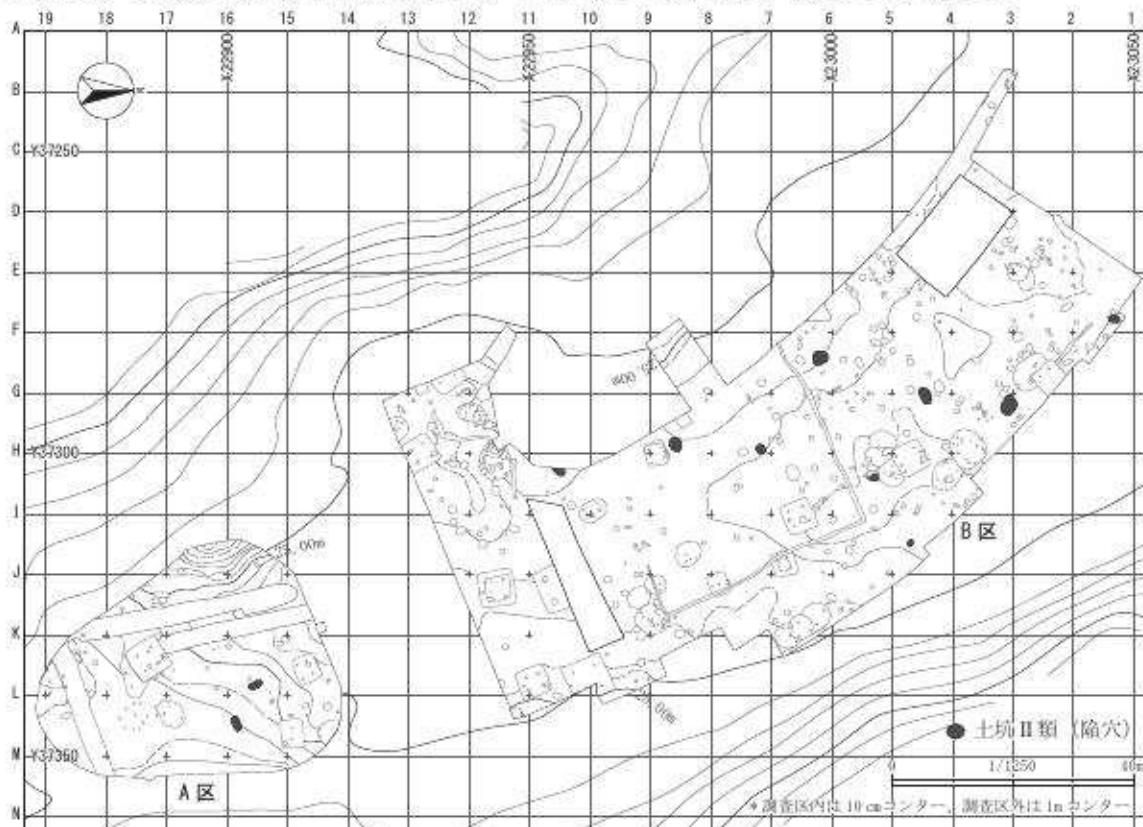
続く沈線文系土器では少量ながら、三戸式・田戸下層式の出土がある。やはり天矢場式同様、明確に遺構に伴うと判断されるものはない。田戸下層式とした遺物は、胴部下半の破片資料であり、指による太いナデ状の沈線が施されるもので、明瞭な沈線を施文する遺物は出土していない。1点のみではあるが肋脈が明瞭



第143図 縄文時代土坑I類（炉穴）分布図

な貝殻腹縁を刺突施文する資料が出土している。

早期後半より末にかけての遺物としては広義の茅山式土器がある。口縁部および胎土中の纖維混入量などから判断して、子母口式から鶴ヶ島台式土器と判断される。これらの遺物は、文様部または条痕の深さで、時期区分をある程度おこなったものの、胴部以下の条痕部分では判然としないものが多い。また、混入される纖維が比較的少量または微量のものが多く、B区P65出土の絡条体圧痕を有する子母口式の存在などから、茅山式でもやや古い段階から中葉と判断される。茅山式中葉の資料では口縁および胴部上反に段を有し、文様部分には円管の刺突を施し、円管と円管の間を微粒線や沈線で斜格子に連結する典型的な鶴ヶ島台式土器が多数見られる。遺構として検出された炉穴(FP)24基もこの時期に伴うと判断される。該期の遺構はA区の南側、B区の南側端部付近並びに北側の3か所に集中が見られる。遺構に伴い出土した条痕文系の土器の量は僅かであるが、遺構外出土遺物を含め、土坑I類とした炉穴と伴う遺物と判断される。

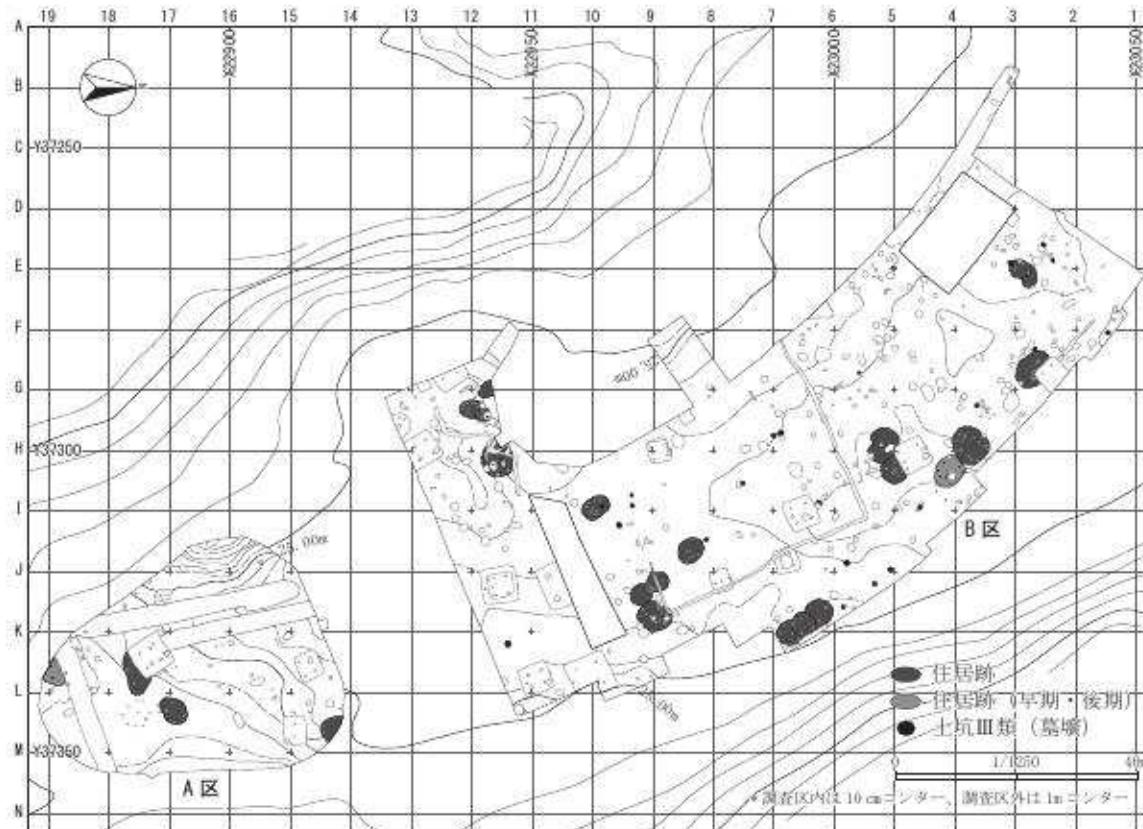


第144図 繩文時代土坑II類（陷穴）分布図

## (2) 前期

繩文前期の資料では黒浜式土器が出土している。直前段反撲、羽状を構成する繩文が施文されるもので、胎土中には多量の纖維が混入される。また、櫛歯状の工具により波状の文様を多段に描く植房式と判断される遺物も僅かながら出土している。霞ヶ浦西岸域においては黒浜式土器にこれらの遺物が混入することが知られている。さらに、網目状の撚糸文を施文する東北の大木2b式も出土している。

黒浜式土器を出土している遺構ではA区S102・SK42、B区S111・22・28・28・30・31・32、SK06・77・117・203・230・241・246・252がある。これらの遺構はB区でみれば西側の谷津部に向かい、弧状に展開する傾向を示し、同期に伴うと判断した土坑III類の墓壙も同様な分布を示している。繩文時代の遺構としては前期黒浜式期が本遺跡の中心的な時期といえるが、全体に遺物量は少ない。細片が主体で、器形が判別できる資料は出土していない。また、全体に石器の出土もないものの、墓壙としたSK66からは石槍状の石匙



第145図 縄文時代住居跡・土坑Ⅲ類（墓壙）分布図

が検出されており、大木系の影響を受ける資料である。

諸磯式土器は浮島式と共に少量出土している。爪形を用いて肋骨文を描くもので、地文に撚糸文が施文されるものは浮島式、縄文が施文されるものは諸磯式と識別した。前期末葉の遺物としてはこの他に、貝殻腹縁文による鋸歯状文が描かれる浮島Ⅲ式～興津式、三角形の沈刻文を描く十三菩提式土器が少量出土している。浮島式と判断した遺物の中で浮島Ⅰ式土器はA区に偏在傾向が認められ、B区には浮島Ⅱ式以降が僅かに出土したのみである。

### (3) 中・後期

中期では下小野式（栗島台式）土器が出土している。五領ヶ台式土器、竹ノ下段階、阿玉台Ia式なども少量ながら出土する。

加曾利E式土器は細片が少量見られるのみで少ない。B区に偏在する傾向がある。一方で比較的まとまって出土した遺物に後期初頭の称名寺式土器がある。SK22からは良好な資料が出土している。その他称名寺式土器を出土した遺構はA区 SI03・SK04・18・22・32でA区に集中している。

その他、後期では綱取式、堀之内式、加曾利B式が微量確認されている。

### (4) 晩期

晩期の遺物はA区で荒海2式の細密条痕、B区で荒海3式の工字文土器も各1点ずつ出土している。荒海3式は殿内式併行で弥生前期とするべきか、ここでは縄文土器に含めている。石岡市内でのこの時期の遺物の出土はきわめて稀で重要な資料の発見といえる。

### (5) 石器

石器ではA区では珪質頁岩の剥片が1点出土しているのみで、他の出土はない。B区では打製石斧・石匙・石槍・石鏃・石皿・凹石・敲石・磨石が出土している。用いられる石材には石皿には安山岩、石匙・石槍・

石器にはチャート・珪質頁岩・安山岩・ガラス質黒色安山岩・メノウなどが用いられ、磨製石斧・敲石・磨石には砂岩や凝灰岩が用いられる。黒曜石は遺跡全体で剥片1点の出土に留まっている。

## 2 弥生時代・古墳時代前期

本遺跡で検出された弥生時代の遺物で、中期と判断される資料は検出されていない。後期の遺構で弥生期のものはB区のSI08のみである。器形から上稲吉式と判断した。十王台式と判断される土器もB区の出土であるが遺構外の遺物である。弥生土器は、いわゆる口縁部にスリットを有する部分の資料が無く、明確に時期を判断することはできなかったが、上稲吉段階から十王台式に平行する時期と判断される。十王台式と判断したB区SI16からは古式土師器が伴っており、十王台式でも最も新しい段階と判断される。一方で、印旛沼周辺域に見られる白井南式に酷似する遺物の出土も僅かながらある。

石器としてはB区SI15上層で出土した2点の扁平な礫に打撃を加えて刃部を設けた、いわゆる石包丁形の石器が出土しているものの時期は明確ではない。

## 第2節 古墳時代中期～奈良時代の遺構と遺物について

今回の調査において、本遺跡集落跡の主体の一つとなる古墳時代中期から奈良時代に至る住居跡は20軒が確認された。内訳は5世紀後葉が1軒、5世紀末葉～6世紀前半が1軒、6世紀後半が11軒、7世紀前半が1軒、8世紀前半が1軒、同後半が2軒、不明3軒であり、6世紀後半がほとんどを占めている。ここでは、主に標記の時期の住居跡と出土遺物、注意すべき調査事例となった袋状土坑（土坑IV類）についてのまとめをしておく。個々の詳細については前章を参照されたい。

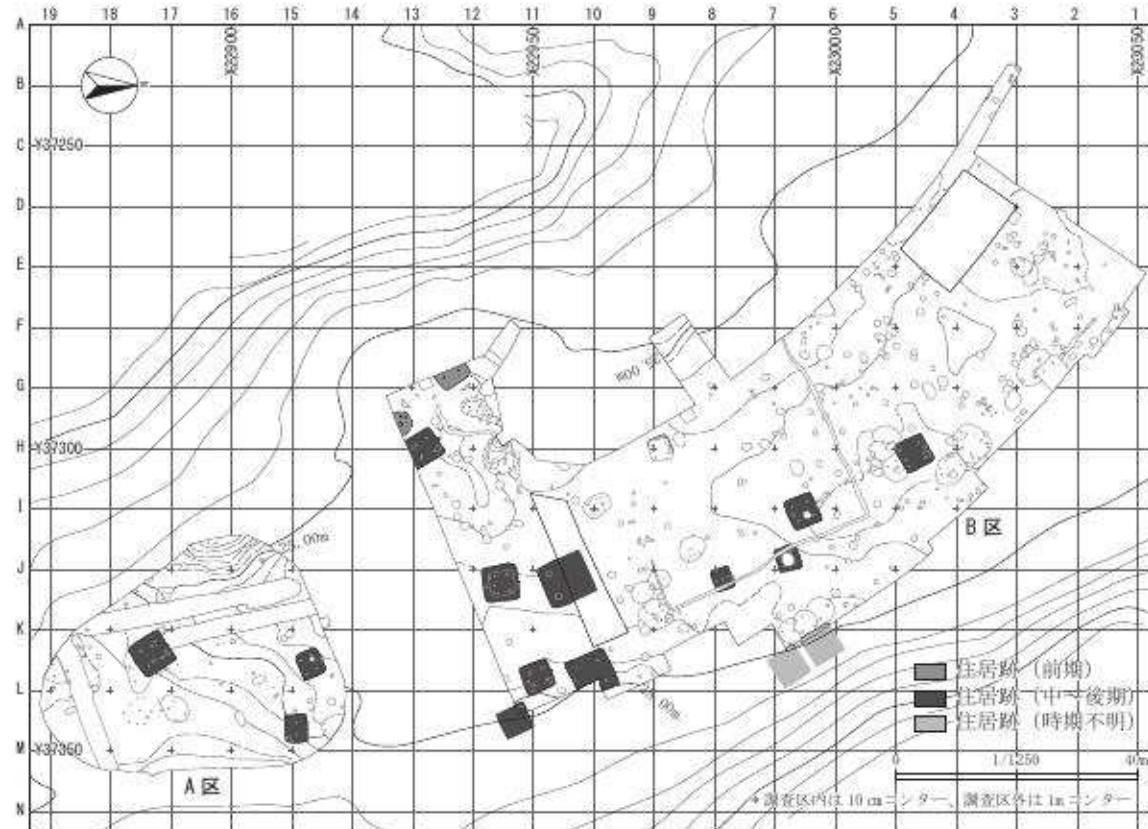
### 1 住居跡

堅穴の平面形態はすべて方形基調で、A区SI01（5世紀後葉）とB区SI29（8世紀前半）の横長方形、B区SI05（6世紀後半）の縦長方形以外は、全形が確認・推定できるものでは、ほぼ正方形を示している。

平面積規模（遺構確認面レベル）では、B区SI03の推定 $57\text{ m}^2$ （3.87m以上×7.58m）を最大とし、同SI14の $12.85\text{ m}^2$ （3.63m×3.54m）を最小とする。規模の分布を見ると、B区SI02（ $46.28\text{ m}^2$ ）と同SI03が飛び抜けて大きく、A区SI01（ $37.25\text{ m}^2$ ）とB区SI04（ $35.94\text{ m}^2$ ）を「大規模」、（28.31）～24.25m<sup>2</sup>の（または想定される）B区SI01・05・16・23・29・39を「中規模」、18.26～12.85m<sup>2</sup>のA区SI04・05、B区SI12・14・15・33・37を「小規模」としてまとめることができる。資料数の少なさもあるが、時期的な規模の傾向を見出すことはできない。

深さについては、一部、調査区壁セクションによって確認面より上位の状況が判明しているものもあるが、遺構間の比較の観点から、確認面（基本層序第V層上面レベル）からの深度を検討する。また、床面の標高値を用いる方法もあるが、遺跡の立地が舌状台地上で緩斜面を含むことを考えると適当ではない。B区SI14（1.23m）が飛び抜けて深く、ついでA区SI05（0.75m）が深い。最も浅いのはB区SI40（0.12m）で、その他は0.22～0.58mの間に散在する。

主軸方向はN-3°～45°-Wの範囲に收まり、概ね南北を指向している。なお、B区SI15（6世紀後半）のみは東カマドで、カマド方向はN-73°-Eとなるが、住居建築軸はN-17°-Wと見なすことができる。時期別に見ると、5世紀後半:N-3°-W、5世紀後葉～6世紀前半:N-23°-W、6世紀後半:N-11°～36°-W、7世紀前半:N-22°-W、8世紀前半:N-45°-W、同後半:N-10°～30°-Wである。6世紀後半の資料が分布範囲全体に広がり、



第146図 古墳時代住居跡分布図

また他の時期の資料数が少なく、時期別に弁別できる状況はない。

付帯施設については、カマドと貯蔵穴、出入口ピットがある。カマドは5世紀後葉のA区SI05と5世紀末葉～6世紀前半のB区SI02には存在せず、後者には地床炉が伴っている。一方、6世紀後半以降の全体が確認できた住居跡にはカマドが備えられている。本遺跡集落におけるカマドの導入時期については、資料数の少なさもあり、6世紀前半の様相については不透明であると言わざるを得ない。貯蔵穴については5世紀後半のA区SI05が南東隅部にあり、6世紀後半のA区SI01・B区SI05・23と7世紀前半のB区SI01がカマド右脇にあるほか、6世紀後半のA区SI04・B区SI03・04・12・14～16・37には伴わない。出入口ピットについては、6世紀後半のB区SI02・04・12・14・16・23・37と7世紀前半のSI01で南壁付近に確認され、5世紀後半のA区SI01と6世紀後半の同SI04・05・B区SI03・15では確認されなかった。また、A区SI01

第67表 古墳時代中期～奈良時代の住居跡属性表

区	遺構名	時期	面積	規模	南北長	東西長	直積	面積	主軸方向	術藏元	人口施設
A	SI03	6世紀後半	正方形	大	6.25	5.96	37.25	0.58	N-36°-W	カマド右脇	-
A	SI04	6世紀後半	やや横長方形	小	4.00	4.72	18.24	0.38	N-27°-W	-	-
A	SI05	6世紀後半	横長方形	中	3.78	4.72	17.81	0.75	N-33°-W	南東隅	-
B	SI01	7世紀前半	正方形	中	5.00	4.85	24.25	0.48	N-22°-W	カマド右脇	南ピット+窓
B	SI02	5世紀末葉～6世紀前半	正方形	大	6.07	6.64	46.28	0.38	N-23°-W	-	南ピット
B	SI03	6世紀後半	方形	大	33.07	7.59	239.33	0.43	N-22°-W	-	-
B	SI04	6世紀後半	正方形	大	6.05	5.94	36.91	0.26	N-8°-E	-	南ピット
B	SI05	6世紀後半	横長方形	中	15.03	8.12	128.91	0.32	N-35°-W	カマド右脇	不明
B	SI07	6世紀後半	方形	-	-	-	-	0.32	N-25°-W	不明	不明
B	SI12	6世紀後半	やや横長方形	小	3.50	3.72	13.02	0.37	N-21°-W	-	南ピット
B	SI14	8世紀後半	正方形	中	3.43	3.54	12.87	1.23	N-10°-W	-	南ピット
B	SI15	6世紀後半	やや横長方形	中	1.86	4.07	15.79	0.28	N-23°-E	-	-
B	SI16	6世紀後半	正方形	中	5.04	5.16	26.01	0.48	N-21°-W	-	南ピット
B	SI25	6世紀後半	正方形	中	5.12	5.08	26.01	0.41	N-28°-W	カマド右脇	南ピット
B	SI29	8世紀前半	横長方形	中	4.73	(4.32)	(20.43)	0.35	N-45°-W	不明	不明
B	SI33	古墳・墓具	横丸正方形	小	3.53	3.68	12.99	0.22	N-23°-W	不明	不明
B	SI37	8世紀後半	正方形	中	4.21	4.07	17.11	0.46	N-31°-W	-	南ピット
B	SI38	8世紀後半	方形	-	-	-	-	0.43	N-30°-W	不明	不明
B	SI39	古墳・墓具	方形	中	5.22	-	-	0.23	N-35°-W	不明	不明
B	SI40	古墳・墓具	方形	-	-	-	-	0.12	N-37°-W	不明	不明

\* 単位：「南北・東西長」は「深さ」m、「面積」m<sup>2</sup>

とB区SI01の床面ではいわゆる間仕切り溝が4本主柱に対応する形で出土している。

住居跡の重複は、縄文時代のものとの切り合い関係はいくつかあるものの、古墳時代中期以降ではグリッド杭H9の周辺に位置するSI33→SI14の一件しかない。SI14は伴出土器から奈良時代・8世紀後半に帰属することが判るが、SI33には出土遺物がなく、特定できない。前述の各属性も時期を判断する基準にはしがたく、また、カマドの有無に関しても、東壁がSI14によって壊されて確認できることから、カマドが設置されていなかった、もしくはカマド導入以前の住居跡であると断じることには慎重でなければならない。したがって、方形基調の平面形態から、古墳時代から奈良時代（8世紀代）としておく他はない。

分布については、全体的に疎らな印象が強い。また調査区の北側には、より広い平坦地が広がっており、試掘調査で奈良・平安時代の住居跡が2軒確認され、8・9世紀代の遺物が目につく。こうした状況から、見かけ上、南側に古墳時代集落が、北側に奈良・平安時代の集落が分布する傾向が指摘できるであろうか。また、調査範囲北側（グリッドライン8以北）では西側に住居跡の空閑地が存在することには注意したい。ただ、限られた調査範囲に加えて資料数が少ないので、詳細を述べることは控えなければならない。さらに、台地の続き、西方には縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の包蔵地である堂久保遺跡が広がっている。

## 2 住居跡出土遺物

出土遺物のほとんどは土師器（甕・瓶・塊・高坏・坏）である。ここでは、特徴的なものについて列挙しておく。須恵器では、6世紀後半（中葉）の甕口縁部破片がA区SI01で1点のみ確認され、口縁部形状から陶邑系と推察される。8世紀後半のB区SI14では供膳具の主体は須恵器である。遺構外出土遺物も合わせ、生産地は新治産が主体となるようで、東海（猿投・湖西窯）産も確認できる。

土師器では、粘土紐積み上げ痕や指頭圧痕、指ナデ痕が残されたままの粗製品が散見される。B区SI04の小型鉢10と坏14、同SI05の坏08、同SI12の坏17、同SI14の手捏ね小坏12、同SI16の坏06が挙げられる。いずれも、各住居跡1点ずつの検出であり、出土状況も他の通常品と区別されるものではなかった。

土製品では、B区SI23の丸玉6点（09～14）が注意される。直径0.7～0.9cmのやや白玉状を呈している。精良な胎土は土製勾玉や土製模造鏡などの、いわゆる祭祀用具とされる土製模造品に通じている。出土状況は西壁中央付近の覆土下層でまとまっていたが、連結状態を示すようなものではなかった。伴出遺物や堅穴覆土など、変わった点はなく、使用状況を推定するには至っていない。

## 3 土坑IV類 - 袋状土坑について

該期の遺構の中で、土坑IV類とした袋状土坑がある。B区においてのみ確認され、28基を数えた。詳細は前章に譲るが、「平面円形、確認面径72～134cm、最大径93～145cm、底部付近はやや広く袋状を呈する、覆土は黒褐色土あるいは黑色土」を属性とする土坑である。深さはSK63で遺構確認面下に56cmを確認している。各土坑の属性は極めて近似し、まとまりをもっている。出土遺物には縄文土器・土師器・須恵器・礫が見られるが、いずれも遺構の帰属時期を明確にし得ない。切り合い関係は古墳時代後期・6世紀後半の住居跡を切り（SI16→SK63・120）、中・近世以降と思われる溝SD02に切られる（SK133・143・144・145）。したがって、厳密な時期比定は難しいが、古墳時代後期～古代の遺構と思われる。

次に、この土坑群の分布を見てみると、前述した住居跡の空閑地（B区北西側）にはまつてくる。ちょうどその分布範囲の北・東・南に8世紀代の住居跡3軒（SI38・29・14）が位置している。軒数が少ないので有機的なつながりを見出しにくいが、遺跡の変遷を考慮すると9世紀以降の所産とは考えにくく、土坑群の



第147図 奈良時代住居跡・土坑IV（袋状土坑）分布図

帰属時期をここ、8世紀代に求めることができるのではないだろうか。

ところで、管見に掛かった類例として、ひたちなか市武田西塙遺跡（稲田2010）の事例がある（注）。ここでは「円筒形土坑」と呼称され、「円形の平面形を呈し、壁は垂直またはやや内傾するものが多」く、径90～230cm、深さ25～120cmの法量を有している。帰属時期は「遺構に伴うものが少ないため確実とはいえないが」、古墳時代前期末～後期に比定されている。また、類例は茨城県の他に、栃木県・福島県等にも認められるようである。土坑の用途としては白石真理氏の「食料や種穀等の保管に用いられた野外貯蔵施設」とする見解を紹介し、内山敏行氏の意見を踏まえて「中核的な集落」に伴う性格の遺構群であろうとの考察を示している。

本遺跡で見られた、集落の空閑地に群集する分布は、集約的な使用を想定させるもので、「食料等の野外貯蔵施設」とする評価は興味深いものの、何分、状況証拠が十分ではない。また、「中核的な集落に伴う遺構群」とする評価は、本遺跡の状況からは肯綮しづらいものがある。検討が十分ではなく、ここで結論を得ることはできないが、今回の調査成果を一つの事例として提示しておきたいと思う。

## 小 結

本遺跡の古墳時代中期～奈良時代の集落は、7世紀後半の遺構が確認できないが、5世紀後葉に始まって8世紀後半まで、概ね継続するようである。その立地は平坦面幅およそ40～80mの舌状台地上で、さらに北側への集落展開の解明を待たねばならないが、今回の調査で判明した集落規模（建物件数・密度）は大きなものとは言えないであろう。台地下の恋瀬川支流の谷水田を耕作地とした集落経営が想像される。

今回、本遺跡における初めての発掘調査で、明らかとなった古墳時代以降の集落の主体は6世紀後半にあつた。特筆すべき事項は乏しいが、当地域における古墳時代後期の集落形態についての知見を得ることができ

た。また、本遺跡の谷を挟んで西方の台地には、6～7世紀の染谷古墳群が分布している。今回の成果は、こうした墓域と居住域の関係を解明していく糸口として期待される。

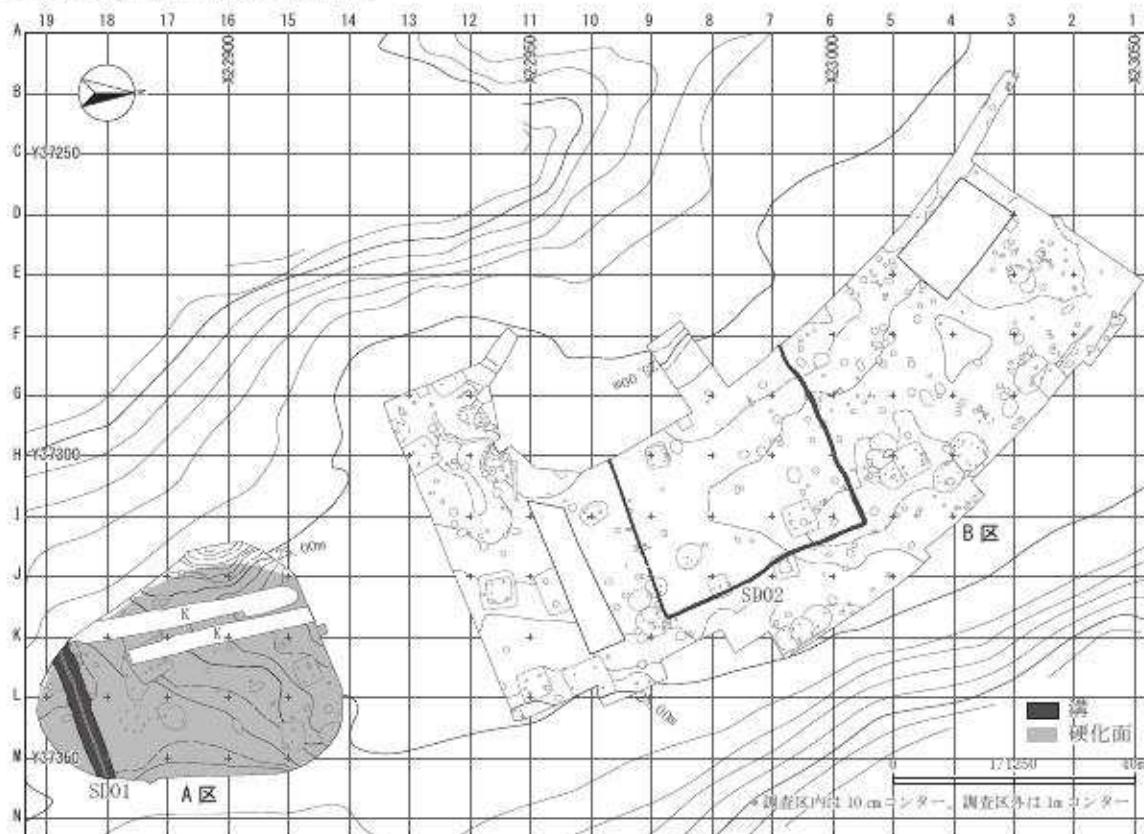
さらに、奈良・平安時代には、東方の台地に「官営工房」を含む大集落・鹿の子遺跡群が展開し、常陸国府が成立する。本遺跡からは、いわゆる官・公的な性格をうかがわせる遺構・遺物や先進的な文物は確認されなかった。当時の地方官庁所在地の“郊外”における集落の史料を追加することができたと考えている。

### 第3節 中・近世の遺構について

本調査の中・近世の遺構の検出は少なく、A区 SD01、B区 SD02のみが確認された。各遺構の詳細は第5章で述べたとおりである。遺跡が所在する台地の南端部はA区 SD01に連なる屈曲した堀と並走する土塁に囲まれ、城館の様相を呈する。これに伴う遺物は確認されなかったため、構築・使用された時期を見出すことはできないが、遺構の形態から城館は中世以降のものと判断される。B区 SD02は中世以降の堆積土である第III層を切る遺構であり、中島土塁として周知されてきた方形土塁に伴うものとみられる。遺構の性格やA区 SD01との関連性については調査では言及するに足る資料を得ることはできなかった。聞き取りによると中島山と呼ばれる当地は明治時代前期においては官地であったと伝えられ、それ以前は石岡に陣屋を置く府中藩が所有していた可能性が考えられる。近世、近代の遺物は確認されていないが、B区 SD02、方形土塁との関連を検討する余地がある。また、第3章第1節で述べたA区のほぼ全域で確認された第IIa・b層（盛土層）上面の硬化面はいずれの時期に伴うものであるかは不明であるが、中世以降に当地が整地されて使用してきたことを示すものである。

本報告では発掘調査で得られた資料からの考察を述べるに留まるが、中世以降の本遺跡の全容を知るには文献資料と考え併せての分析が不可欠である。

注：類例については、曾根俊雄氏にご教授賜った。



第148図 中・近世溝分布図





